

ユーザアプリケーション：ユーザガイド

Novell® Identity Manager Roles Based Provisioning Module

3.6.1

2008 年 7 月 23 日

www.novell.com



保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、この文書の内容または使用について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また文書の商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認して、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容を改訂または変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような改訂または変更を個人または事業体に通知する義務を負いません。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。またノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認して、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の締結に基づいて提供されるすべての製品または技術情報には、米国の輸出管理規定およびその他の国の貿易関連法規が適用されます。お客様は、すべての輸出規制を遵守して、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出については、「[Novell International Trade Services \(http://www.novell.com/info/exports/\)](http://www.novell.com/info/exports/)」の Web ページをご参照ください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 1997-2007 Novell, Inc. All rights reserved. 本書の一部または全体を無断で複製、写真複写、検索システムへの登録、転載することは、その形態を問わず禁止します。

米国 Novell, Inc. は、本文書に記載されている製品に統合されている技術に関する知的所有権を保有します。これらの知的所有権は、「[Novell Legal Patents \(http://www.novell.com/company/legal/patents/\)](http://www.novell.com/company/legal/patents/)」の Web ページに記載されている 1 つ以上の米国特許、および米国ならびにその他の国における 1 つ以上の特許または出願中の特許を含む場合があります。

Novell, Inc.
404 Wyman Street, Suite 500
Waltham, MA 02451
U.S.A.
www.novell.com

オンラインヘルプ: 本製品とその他の Novell 製品の最新のオンラインヘルプにアクセスする場合は、「[Novell Documentation \(http://www.novell.com/documentation/\)](http://www.novell.com/documentation/)」の Web ページをご覧ください。

Novell の商標

Novell の商標一覧については、「[商標とサービスの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

サードパーティ資料

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に属します。

目次

このガイドについて	11
ページのパート I Identity Manager の紹介	15
1 はじめに	17
1.1 Identity Manager の概要	17
1.1.1 Identity Manager ユーザアプリケーションの概要	17
1.1.2 概要図	19
1.1.3 一般的な使用方法	19
1.2 Identity Manager ユーザアプリケーションへのアクセス	22
1.2.1 ユーザアプリケーションの外観が異なる可能性	22
1.3 ログイン	23
1.3.1 パスワードを忘れた場合	23
1.3.2 ログイン処理で問題が発生した場合	24
1.3.3 追加情報の入力を求められた場合	25
1.4 ユーザアプリケーションの使用	25
1.4.1 ヘルプの表示	26
1.4.2 優先ロケール	26
1.4.3 ログアウト	27
1.4.4 一般的なユーザアクション	27
1.5 次に行う作業	31
ページのパート II [Identity セルフサービス] タブの使用	33
2 [Identity セルフサービス] タブの概要	35
2.1 [Identity セルフサービス] タブについて	35
2.2 [Identity セルフサービス] タブへのアクセス	35
2.3 [Identity セルフサービス] タブの機能	36
2.4 [Identity セルフサービス] タブで実行できるアクション	37
3 組織図の使用	41
3.1 組織図について	41
3.2 図の中の移動	44
3.2.1 1つ上のレベルへ移動	44
3.2.2 関係のルートのリセット	45
3.2.3 デフォルトの関係の切り替え	46
3.2.4 デフォルト図の展開または縮小	47
3.2.5 展開または縮小する関係の選択	47
3.2.6 組織図のユーザの検索	49
3.3 詳細情報の表示	50
3.4 関係図からの電子メールの送信	51
3.4.1 図のユーザに関する情報の電子メール送信	51
3.4.2 組織図内のユーザへの新しい電子メールの送信	52
3.4.3 マネージャのチームへの電子メールの送信	53

4	関連付けレポートの使用	55
4.1	関連付けレポートについて	55
4.2	関連付けの表示	56
5	[マイプロフィール] ページの使用	59
5.1	[マイプロフィール] ページの概要	59
5.2	自分の情報の編集	60
5.2.1	情報の非表示	61
5.2.2	編集用ボタンの使用	61
5.3	電子メールによる情報の送信	65
5.4	自分に関する組織図の表示	66
5.5	他のユーザまたはグループへのリンク	67
5.6	優先言語の選択	70
5.6.1	ブラウザ内の優先言語の定義	70
6	ディレクトリ検索の使用	71
6.1	[ディレクトリ検索] ページの概要	71
6.2	基本検索の実行	74
6.3	高度な検索の実行	74
6.3.1	式の選択	77
6.3.2	比較する値の指定	79
6.4	検索結果の使用	84
6.4.1	検索結果の概要	84
6.4.2	検索リストの使用	85
6.4.3	他に実行できるアクション	87
6.5	保存済み検索条件の使用	89
6.5.1	保存済み検索条件を一覧表示する	89
6.5.2	保存済み検索条件を使って検索を実行する	90
6.5.3	保存済み検索条件を編集するには	90
6.5.4	保存済み検索条件を削除するには	90
7	パスワードの管理	91
7.1	パスワード管理の概要	91
7.2	パスワード確認の回答	92
7.3	パスワードヒントの変更	93
7.4	パスワード変更	94
7.5	パスワードポリシーステータス	95
7.6	パスワード同期ステータス	96
8	ユーザまたはグループの作成	97
8.1	ユーザまたはグループの作成の概要	97
8.2	ユーザの作成	97
8.3	グループの作成	100
8.4	編集用ボタンの使用	101
8.4.1	コンテナを検索するには	101
8.4.2	ユーザを検索するには	103
8.4.3	履歴リストを使用するには	104

ページのパート III [要求と承認] タブの使用	107
9 [要求と承認] タブの概要	109
9.1 [要求と承認] タブの目的	109
9.2 [要求と承認] タブの使用	110
9.3 [Identity セルフサービス] タブの機能	110
9.4 [要求と承認] タブで実行できるアクション	112
9.5 [要求と承認] ページの凡例	114
10 自分の作業の管理	119
10.1 [マイ作業] アクションカテゴリの概要	119
10.2 自分のタスクの管理	119
10.2.1 自分のタスクの表示	120
10.2.2 タスクの選択	121
10.2.3 タスクの引き受け	126
10.3 リソースの要求	130
10.4 リソース要求の処理状況の確認	135
11 プロビジョニング情報の設定	141
11.1 [マイ設定] アクションカテゴリの概要	141
11.1.1 代理と委任の概要	141
11.1.2 使用例	142
11.2 代理ユーザとしての作業	142
11.3 自分の作業不能条件の指定	143
11.3.1 自分の作業不能条件ステータスの設定	144
11.3.2 作業不能条件の作成と編集	146
11.3.3 自分の作業不能条件の削除	149
11.4 自分に関する代理割り当ての表示と編集	149
11.4.1 自分に関する代理割り当て情報の表示	149
11.4.2 代理割り当ての作成または編集	150
11.4.3 代理割り当ての削除	151
11.5 自分に関する委任割り当ての表示と編集	151
11.5.1 自分に関する委任割り当ての表示	151
11.5.2 委任割り当ての作成と編集	152
11.5.3 委任割り当ての削除	154
12 自チームの作業の管理	155
12.1 [マイチームの作業] アクションカテゴリの概要	155
12.1.1 チームの概要	155
12.1.2 チーム要求権限の概要	156
12.2 自チームのタスクの管理	156
12.2.1 タスクの表示 (チームメンバー別)	156
12.2.2 ユーザまたはグループごとのタスクの表示	158
12.2.3 タスク表示の使用	160
12.2.4 タスクの選択	164
12.2.5 タスクの引き受け	168
12.2.6 タスクの再割り当て	171
12.2.7 タスクの解放	171
12.3 チームリクエストの作成	172
12.4 自チームの要求の管理	176

13	自チームのプロビジョニング情報の設定	181
13.1	[マイチームの設定] アクションカテゴリの概要	181
13.2	自チームに関する代理割り当ての表示と編集	181
13.3	自チームに関する委任割り当ての表示と編集	185
13.4	自チームの作業不能条件の指定	190
	ページのパート IV [役割] タブの使用	195
14	[役割] タブの概要	197
14.1	[役割] タブについて	197
14.1.1	役割について	198
14.2	[役割] タブへのアクセス	203
14.3	タブの機能の詳細	203
14.4	実行できる役割のアクション	204
14.5	役割の凡例の理解	206
15	役割の表示	209
15.1	[マイ役割] アクションについて	209
15.2	承認済みの役割要求の表示	209
16	役割の割り当て実行	211
16.1	役割の割り当てのアクションについて	211
16.2	役割の割り当て	211
16.2.1	ユーザ、グループ、コンテナの役割への割り当て	211
16.2.2	単一ユーザへの役割の割り当て	214
16.2.3	単一グループへの役割の割り当て	217
16.2.4	単一コンテナへの役割の割り当て	219
16.3	リソース要求のステータスの確認	221
17	役割の管理	231
17.1	役割カタログの参照	231
17.2	役割の管理	232
17.2.1	新規役割の作成	233
17.2.2	既存の役割の変更または削除	234
17.2.3	役割のプロパティ	235
17.3	役割関係の管理	237
17.3.1	役割関係の作成および削除	237
17.3.2	役割関係プロパティの管理	239
17.4	役割分担制約の管理	239
17.4.1	新規役割分担制約の作成	240
17.4.2	既存の SoD 制約の変更	240
17.4.3	SoD 制約プロパティリファレンス	241
17.5	役割サブシステムの環境設定	243
18	役割レポートの作成および表示	245
18.1	役割の報告のアクションについて	245
18.2	役割レポート	245
18.2.1	役割リストレポート	245

18.2.2	役割割り当てレポート	247
18.3	SoD レポート	249
18.3.1	SoD 制約レポート	249
18.3.2	SoD 違反および例外レポート	250
18.4	ユーザレポート	251
18.4.1	ユーザ役割レポート	251
18.4.2	ユーザエンタイトルメントレポート	253
 ページのパート V [整合性] タブの使用		255
 19 [整合性] タブの概要		257
19.1	[整合性] タブについて	257
19.1.1	整合性および検証について	257
19.2	タブへのアクセス	260
19.3	[Identity セルフサービス] タブの機能	260
19.4	実行できる整合性のアクション	261
19.5	検証要求ページの凡例の理解	262
19.6	一般的な整合性のアクション	263
19.6.1	要求のラベルおよび説明の指定	264
19.6.2	検証者の定義	264
19.6.3	締切の指定	265
19.6.4	検証フォームの定義	266
19.6.5	検証要求の送信	267
19.6.6	要求の詳細の保存	268
19.6.7	保存された要求の使用	269
 20 検証要求の発行		271
20.1	検証要求アクションについて	271
20.2	ユーザプロフィール検証プロセスの要求	271
20.3	SoD 違反検証プロセスの要求	273
20.4	役割割り当て検証プロセスの要求	275
20.5	ユーザ割り当て検証プロセスの要求	277
20.6	検証要求のステータスの確認	279

このガイドについて

本書では、Novell® Identity Manager ユーザアプリケーションのユーザインタフェース、および以下の内容を含む Identity Manager によって提供されている機能を使用する方法について説明します。

- ◆ Identity セルフサービス (ユーザ情報、パスワード、およびディレクトリ用)
- ◆ 要求および承認 (ワークフローベースプロビジョニング用)
- ◆ 役割 (役割ベースプロビジョニングアクション用)
- ◆ 整合性 (規定に対する整合性と検証用)

対象読者

本書の情報は、Identity Manager ユーザインタフェースを使用するエンドユーザの方を対象として提供されています。

前提条件

このガイドでは、Identity Manager ユーザインタフェースのデフォルト環境設定を使用していることを前提として説明しています。ご使用のユーザインタフェースをカスタマイズしている場合は、外観や操作が異なる可能性があります。

作業を開始する前に、カスタマイズの詳細についてシステム管理者に確認する必要があります。

このマニュアルの内容

このマニュアルで説明する内容を次に示します。

パート	説明
15 ページのパート I 「Identity Manager の紹介」	Identity Manager ユーザインタフェースの概要と基本的な使用方法
33 ページのパート II 「[Identity セルフサービス] タブの使用」	Identity Manager ユーザインタフェースの [Identity セルフサービス] タブで、次の識別情報を表示および操作する方法 <ul style="list-style-type: none">◆ 組織図◆ プロファイル (識別詳細情報)◆ ディレクトリ検索◆ パスワード◆ ユーザアカウントなど

パート	説明
107 ページのパート III 「[要求と承認] タブの使用」	Identity Manager ユーザインタフェースの [要求と承認] タブを使用して以下の作業を行う方法 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 自分自身または自分のチームに関するプロビジョニング作業 (タスクとリソース要求) の管理 ◆ 自分自身または自分のチームに関するプロビジョニング情報の設定
195 ページのパート IV 「[役割] タブの使用」	Identity Manager ユーザインタフェースの [役割] タブを使用して次の作業を行う方法 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 自分自身または組織内のその他のユーザに対して役割要求を行う ◆ 役割階層内で役割および役割関係を作成する ◆ 役割の割り当て間で発生する可能性のある衝突を管理するための役割分担 (SoD) の制約を作成する ◆ 役割カタログおよび現在ユーザ、グループ、およびコンテナに割り当てられている役割に関する詳細を提供するレポートを確認する
255 ページのパート V 「[整合性] タブの使用」	Identity Manager ユーザインタフェースの [整合性] タブを使用して次の作業を行う方法 <ul style="list-style-type: none"> ◆ ユーザプロフィール検証プロセスを要求する ◆ 役割分担 (SoD) 検証プロセスを要求する ◆ 役割割り当て検証プロセスを要求する ◆ ユーザ割り当て検証プロセスを要求する

フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインマニュアルの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用するか www.novell.com/documentation/feedback.html にアクセスしてコメントを記入してください。

マニュアルの更新

IDM ユーザアプリケーション: ユーザガイドの最新版については、[Identity Manager Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/idmrbpm361/\)](http://www.novell.com/documentation/idmrbpm361/) にアクセスしてください。

マニュアルの表記規則

Novell のマニュアルでは、手順に含まれる複数の操作および相互参照パス内の項目を区別するために、大なり記号 (>) を使用しています。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を表します。アスタリスク (*) は、サードパーティの商標を示します。

パス名の表記に円記号 (/) を使用するプラットフォームとスラッシュ (/) を使用するプラットフォームがありますが、このマニュアルでは円記号を使用します。Linux* または UNIX* など、スラッシュを使う必要があるプラットフォームを使用しているユーザは、必要に応じてスラッシュを使用してください。

Identity Manager の紹介

Identity Manager ユーザアプリケーションと基本的な使用方法を学習するために、このパートを最初にお読みください。

- ◆ [17 ページの第 1 章「はじめに」](#)

はじめに

この項では、Identity Manager ユーザアプリケーションの基本的な使用方法について説明します。この節の内容は次のとおりです。

- ◆ 17 ページのセクション 1.1 「Identity Manager の概要」
- ◆ 22 ページのセクション 1.2 「Identity Manager ユーザアプリケーションへのアクセス」
- ◆ 23 ページのセクション 1.3 「ログイン」
- ◆ 25 ページのセクション 1.4 「ユーザアプリケーションの使用」
- ◆ 31 ページのセクション 1.5 「次に行う作業」

1.1 Identity Manager の概要

Novell® Identity Manager は、ユーザコミュニティのアクセスニーズを安全に管理するために組織によって使用されるシステムソフトウェア製品です。ユーザコミュニティの所属メンバーは、Identity Manager の導入メリットをさまざまな形で享受できます。たとえば、Identity Manager を使って次のことを実行できます。

- ◆ 使い始めたその日から、情報 (グループ組織図、部署別電話帳、従業員検索) およびリソース (社内システムの機器とアカウント) に対するアクセス権をユーザに付与する
- ◆ 複数のパスワードを同期して、すべてのシステムに対してシングルログインできるようにする
- ◆ 必要に応じて (誰かが別のグループに異動するときや組織を離れる場合など)、すぐにアクセス権を変更したり、無効にしたりする
- ◆ 政府関連規制への準拠をサポートする

ユーザおよびチームがこれらの機能を直接使用できるように、Identity Manager ユーザアプリケーションには、Web ブラウザで使用できるユーザインタフェースが提供されています。

1.1.1 Identity Manager ユーザアプリケーションの概要

Identity Manager ユーザアプリケーションでは、Identity Manager の情報、リソース、および機能にアクセスできます。システム管理者が Identity Manager ユーザアプリケーションで表示する内容および実行できる操作を決定します。一般的に、以下の内容が含まれます。

- ◆ Identity セルフサービスで実行できる操作
 - ◆ 組織図を表示する
 - ◆ ユーザに関連付けられたアプリケーションを報告する (管理者の場合) (Identity Manager 用役割ベースプロビジョニングモジュールが必要)
 - ◆ 自分のプロフィールの情報を編集する
 - ◆ ディレクトリを検索する
 - ◆ パスワード、パスワード確認の回答、パスワードヒントを変更する

- ◆ パスワードポリシーステータスおよびパスワード同期ステータスを確認する
- ◆ 新規ユーザまたはグループのアカウントを作成する (権限がある場合)
- ◆ 要求と承認で実行できる操作
 - ◆ リソースの要求
 - ◆ リソース要求の承認について確認する
 - ◆ 他のユーザのリソース要求を承認するための割り当てられたタスクを実行する
 - ◆ 他のユーザの代理または委任先として要求および承認を実行する
 - ◆ 他のユーザを自分の代理または委任先として割り当てる (その権限が付与されている場合)
 - ◆ 自分のチームに関するすべての要求処理と承認処理を管理する (その権限が付与されている場合)
 - ◆ 要求または承認ごとにデジタル署名をオプションで提供する

注: 要求および承認を実行するには、Identity Manager 用役割ベースプロビジョニングモジュールが必要です。

- ◆ 役割で実行できる操作
 - ◆ 役割割り当てを要求し、役割割り当て要求の承認プロセスを管理する
 - ◆ 役割要求のステータスを確認する
 - ◆ 役割および役割関係を定義する
 - ◆ ユーザが制約の上書きを要求した場合に、役割分担 (SoD) の制約を定義し、承認プロセスを管理する
 - ◆ 役割カタログを参照する
 - ◆ カタログで定義されている役割および役割分担の制約に加え、役割割り当ての現在のステータス、役割分担の例外、およびユーザエンタイトルメントを一覧にした詳細レポートを確認する

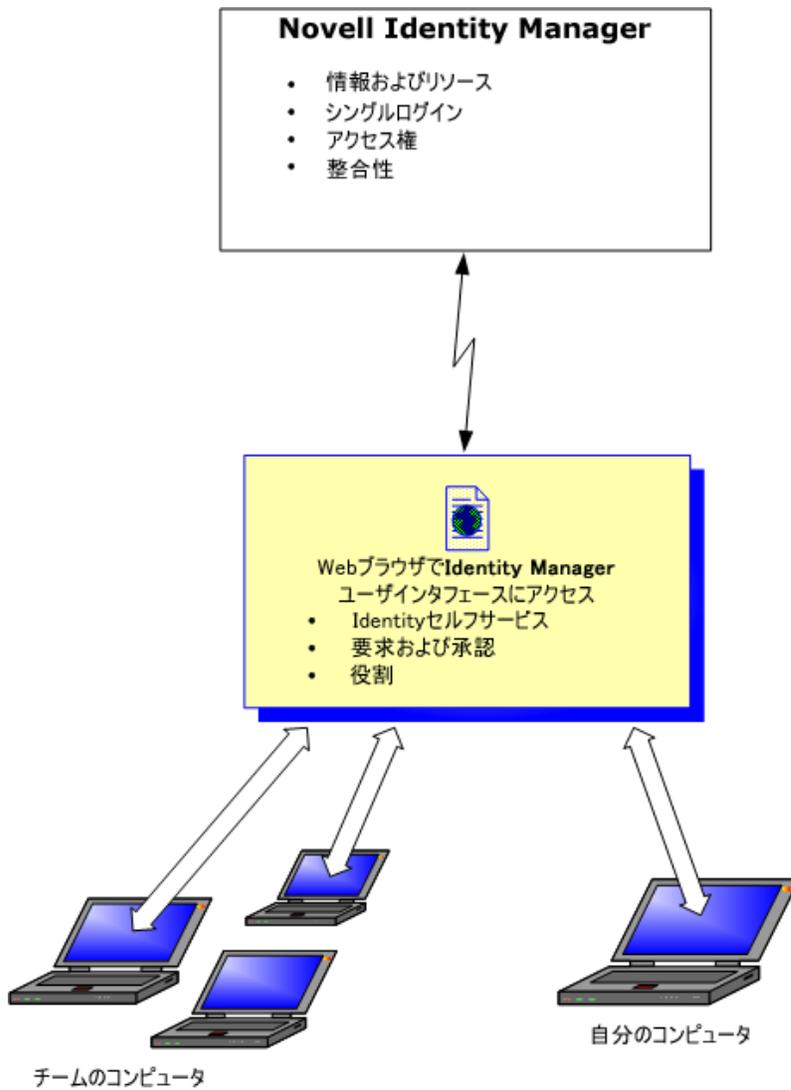
注: 役割には、Identity Manager 用役割ベースプロビジョニングモジュールが必要です。

- ◆ 整合性で実行できる操作
 - ◆ ユーザプロフィール検証プロセスの要求
 - ◆ 役割分担 (SoD) 検証プロセスの要求
 - ◆ 役割割り当て検証プロセスの要求
 - ◆ ユーザ割り当て検証プロセスの要求

注: 準拠するには、Identity Manager Roles Based Provisioning Module が必要です。

1.1.2 概要図

図 1-1 IDM ユーザアプリケーションは Identity Manager へのユーザインタフェースを提供



1.1.3 一般的な使用方法

組織内での Identity Manager ユーザアプリケーションの一般的な使用例をいくつか示します。

Identity セルフサービスの操作

- Ella (エンドユーザ) がログイン時に Identity セルフサービスを使用して、忘れたパスワードを回復する
- Erik (エンドユーザ) が、彼の所在地においてドイツ語を話す従業員すべてを検索する
- Eduardo (エンドユーザ) が組織図を参照して、ella を検索し、電子メールアイコンをクリックして Ella にメッセージを送信する

要求と承認の操作

- ◆ Ernie (エンドユーザ) が、使用できるリソースの一覧を参照し、Siebel* システムにアクセスできるように要求する。
- ◆ Amy (承認者) が電子メール (URL が記載されている) で承認要求「通知」を受信する。Amy が URL のリンクをクリックすると承認フォームが表示され、Amy は要求を承認する。
- ◆ Ernie が、以前発行した Siebel システムへのアクセス要求の「ステータス」を確認する (このアクセス要求は、承認を受けるため 2 人目の承認者に転送されている)。その要求がまだ処理中であることがわかる。
- ◆ Amy はこれから休暇に入るので、休暇中は「稼働できなくなる」旨を設定する。彼女が不在の間、追加の承認タスクは割り当てられない。
- ◆ Amy が自分の承認タスクリストを開く。承認タスクの数が多すぎて、迅速に対応できないことがわかる。そのため Amy は、一部の承認タスクを同僚に再割り当てする。
- ◆ Pat (Amy の「代理」ユーザである管理アシスタント) が Amy のタスクリストを開き、Amy の代わりに承認タスクを実行する。
- ◆ Max (マネージャ) が「自部署の従業員のタスクリスト」を表示する。Amy が休暇中であることを知っているため、Max は Amy のタスクを部署の他の従業員に再割り当てする。
- ◆ Max が部署内の直属の部下に対するデータベースアカウントの要求を開始する
- ◆ Max が Dan を Amy の正式な委任先として割り当てる
- ◆ Dan (委任された承認者) は Amy の休暇中、Amy のタスクを受け持つ
- ◆ Max が無給のインターンを雇う。このインターンは人事システムに登録すべきでない。システム管理者がこのインターンのユーザレコードを作成し、Notes、Active Directory、および Oracle へのアクセスをこのインターンに許可するよう要求する。

役割の使用

- ◆ Maxine (役割マネージャ) が、Nurse と Doctor というビジネス役割、および Administer Drugs および Write Prescriptions という IT 役割を作成する。
- ◆ Maxine (役割マネージャ) が、Nurse および Administer Drugs の役割間の関係を定義して、Nurse の役割に Administer Drugs の役割が含まれるように指定する。さらに Max が、Doctor の役割に Write Prescriptions および Doctor の役割間の関係を定義して、Write Prescriptions の役割が含まれるように指定する。
- ◆ Chester (セキュリティ責任者) が Doctor と Nurse の役割が競合する可能性があることを示す役割分担の制約を定義する。これは、通常同じユーザに対して両方の役割を同時に割り当てるべきではないことを意味します。状況によっては、役割割り当てを要求する個人がこの制約を上書きすることもできます。役割分担の例外を定義するには、割り当てを要求する個人が正当な理由を提供する必要があります。
- ◆ Ernie (エンドユーザ) が使用できる役割のリストを参照し、Nurse の役割への割り当てを要求する。
- ◆ Amelia (承認者) が電子メール (URL が記載されている) で承認要求の通知を受信する。Amy が URL のリンクをクリックすると承認フォームが表示され、Amy は要求を承認します。

- ◆ Arnold (役割マネージャ) が、Ernest に Doctor の役割を割り当てるように要求する。Ernest にすでに割り当てられている Doctor の役割と Nurse の役割が競合する可能性があることが Arnold に通知されます。Arnold は、役割分担の制約の例外を許可してもらうための正当な理由を提供します。
- ◆ Edward (役割分担の承認者) が電子メール経由で役割分担の競合についての通知を受信する。Edward は、Arnold の役割分担の制約を上書きする要求を承認します。
- ◆ Amelia (承認者) が電子メール経由で Doctor の役割に対する承認要求の通知を受信する。Amelia は、Ernest を Doctor の役割に割り当てるという Arnold の要求を承認します。
- ◆ Bill (役割監査員) が SoD 違反および例外レポートをチェックし、Ernest が Doctor と Nurse の両方の役割に割り当てられていることを確認する。

整合性について

- ◆ Maxine (役割マネージャ) が、Nurse と Doctor というビジネス役割、および Administer Drugs および Write Prescriptions という IT 役割を作成する。
- ◆ Maxine (役割マネージャ) が、Nurse および Administer Drugs の役割間の関係を定義して、Nurse の役割に Administer Drugs の役割が含まれるように指定する。さらに Max が、Doctor の役割に Write Prescriptions および Doctor の役割間の関係を定義して、Write Prescriptions の役割が含まれるように指定する。
- ◆ Chester (セキュリティ責任者) が Doctor と Nurse の役割が競合する可能性があることを示す役割分担の制約を定義する。これは、通常同じユーザに対して両方の役割を同時に割り当てべきではないことを意味します。状況によっては、役割割り当てを要求する個人がこの制約を上書きすることもできます。役割分担の例外を定義するには、割り当てを要求する個人が正当な理由を提供する必要があります。
- ◆ Arnold (役割マネージャ) が、Ernest に Doctor の役割を割り当てるように要求する。Ernest にすでに割り当てられている Doctor の役割と Nurse の役割が競合する可能性があることが Arnold に通知されます。Arnold は、役割分担の制約の例外を許可してもらうための正当な理由を提供します。
- ◆ Philip (整合性モジュール管理者) は、Nurse 役割に対する役割割り当て検証プロセスを開始します。
- ◆ Fiona (証明者) は、電子メール (URL を含む) で検証タスクの通知を受け取ります。電子メール内のリンクをクリックすると検証フォームが表示されます。検証フォームの質問に肯定の回答をして、情報が正しいことに同意します。
- ◆ Philip (整合性モジュール管理者) は、人事グループ内のユーザ用のユーザプロフィール検証プロセスに対する新しい要求を開始します。
- ◆ 人事グループ内の各ユーザは、電子メール (URL を含む) で検証タスクの通知を受け取ります。ユーザが電子メール内のリンクをクリックすると検証フォームが表示されます。フォームは様々なユーザプロフィール属性の値を確認するために使用されます。記載されている情報を確認した後で、各ユーザは検証の質問に回答します。

1.2 Identity Manager ユーザアプリケーションへのアクセス

Identity Manager ユーザアプリケーションの使用を開始する準備ができたなら、コンピュータに必要なものは Web ブラウザのみです。Identity Manager は人気のあるほとんどの Web ブラウザをサポートしています。サポートされているブラウザの一覧またはそのインストール方法の不明点は、システム管理者にお問い合わせください。

Identity Manager ユーザアプリケーションは Web ブラウザ上で動作するため、Web ページにアクセスするのと同じように簡単にアクセスできます。

注： Identity Manager ユーザアプリケーションを使用するには、Web ブラウザで Cookie (Internet Explorer で少なくとも [中] のプライバシーレベル) および JavaScript* を有効にする必要があります。

Identity Manager ユーザアプリケーションにアクセスするには、Web ブラウザを開き、Identity Manager ユーザアプリケーションのアドレス (URL) を入力します (システム管理者によって提供)。たとえば、`http://myappserver:8080/IDM` などを入力します。

デフォルトでは、ユーザアプリケーションの [ようこそゲストさん] ページが開きます。

図 1-2 ユーザアプリケーションの [ようこそゲストさん] ページ



このページから、ユーザアプリケーションにログインして、機能を利用できます。

1.2.1 ユーザアプリケーションの外観が異なる可能性

Identity Manager ユーザアプリケーションにアクセスするときに表示される最初のページが異なる場合、そのアプリケーションが組織用にカスタマイズされていることが考えられます。また、作業を進めるにつれて、ユーザアプリケーションの他の機能もカスタマイズされている場合があります。

この場合、システム管理者に連絡して、カスタマイズされているユーザアプリケーションとこのマニュアルで説明されているデフォルトの設定が異なっているかを確認してください。

1.3 ログイン

[ようこそゲストさん] ページから Identity Manager ユーザアプリケーションにログインするには、認可されたユーザである必要があります。ログインに必要なユーザ名とパスワードを取得する必要がある場合は、システム管理者に連絡してください。

Identity Manager ユーザアプリケーションにログインする

- 1 [ようこそゲストさん] ページで、[ログイン] リンク (ページの右上隅) をクリックします。

ユーザアプリケーションによって、ユーザ名とパスワードを入力するよう求めるメッセージが表示されます。



- 2 ユーザ名とパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

1.3.1 パスワードを忘れた場合

パスワードを忘れた場合は、[パスワードを忘れた場合] リンクを使用できます。ログインページには、このリンクがデフォルトで表示されます。システム管理者によって適切なパスワードポリシーが設定されている場合は、そのパスワードポリシーを活用できます。

[パスワードを忘れた場合] リンクを使用する

- 1 ログインするよう求めるメッセージが表示されたら、[パスワードを忘れた場合] リンクをクリックします。

ユーザ名を入力するよう要求されます。

IDMパスワードを忘れた場合

ログインするにはユーザ名を指定してください。

ユーザ名:

- 2 ユーザ名を入力し、[送信] をクリックします。

Identity Manager から、自分のパスワードポリシーが見つからないという応答があった場合は、システム管理者にサポートを依頼してください。

- 3 表示される「本人確認の質問」に回答し、[送信] をクリックします。たとえば、次のような指定内容です。

NMAASLoginPortlet

本人確認の回答
表示されている本人確認の質問にすべて回答してください。

質問: 何色が好きですか?
回答:

質問: 母親の旧姓は何ですか?
回答:

質問: 子供時代のペットの名前は何ですか?
回答:

本人確認の質問に回答して、パスワードのヘルプを利用します。システム管理者がパスワードポリシーをどのように設定しているかに応じて、次の処理が実行されます。

- ◆ パスワードに関するヒントがページに表示される
- ◆ パスワードまたはパスワードに関するヒントが記載された電子メールを受け取る
- ◆ パスワードをリセットするようプロンプトが表示される

1.3.2 ログイン処理で問題が発生した場合

Identity Manager ユーザアプリケーションにログインできない場合、ユーザ名とパスワードを正しく入力していることを確認してください (スペル、大文字または小文字など)。それでも問題が解決しない場合は、システム管理者にお問い合わせください。その場合、直面している問題に関する詳細情報 (エラーメッセージなど) を提供すると問題の解決に役立ちます。

1.3.3 追加情報の入力を求められた場合

Identity Manager ユーザアプリケーションにログインするとすぐに、その他の情報の入力を求められることがあります。追加情報の種類は、自分に関するパスワードポリシーがシステム管理者によってどのように設定されているかによって異なります。たとえば、次のような指定内容です。

- ◆ 初めてログインする場合、本人確認の質問とその回答、またはパスワードヒントを定義するように求められる可能性があります。
- ◆ パスワードの有効期限が切れた場合、パスワードをリセットするよう求められることがあります。

1.4 ユーザアプリケーションの使用

Identity Manager ユーザアプリケーションにログインすると、操作を行うタブページが表示されます。

図 1-3 ログイン時に表示されるタブと組織図



ユーザアプリケーションの上部には、次の主要なタブが並んでいます。

- ◆ **[Identity セルフサービス]** タブ (デフォルトで開く)
このタブの内容と使用方法については、[33 ページのパート II 「\[Identity セルフサービス\] タブの使用」](#)を参照してください。
- ◆ **[要求と承認]** タブ
このタブの内容と使用方法については、[107 ページのパート III 「\[要求と承認\] タブの使用」](#)を参照してください。

注: **[要求と承認]** タブを有効にするには、組織に Identity Manager 用役割ベースプロビジョニングモジュールがインストールされている必要があります。

- ◆ **役割**
このタブの内容と使用方法については、[195 ページのパート IV 「\[役割\] タブの使用」](#)を参照してください。

注: [役割] タブを有効にするには、組織に Identity Manager 用 Roles Based Provisioning Module がインストールされている必要があります。

◆ **整合性**

このタブの内容と使用方法については、255 ページのパート V 「[整合性] タブの使用」を参照してください。

注: [整合性] タブを有効にするには、組織に Identity Manager 用 Roles Based Provisioning Module がインストールされている必要があります。[整合性] タブは、整合性モジュール管理者または検証マネージャでない限り利用できません。

他のタブに切り替えるには、使用するタブをクリックします。

1.4.1 ヘルプの表示

Identity Manager ユーザアプリケーションの使用で、オンラインヘルプを表示すると、現在使用しているタブに関するマニュアルを取得できます。

- 1 機能について学習するタブに移動します ([役割]、[整合性] など)。
- 2 [ヘルプ] リンク (ページの右上隅) をクリックします。
現在開いているタブに関するヘルプページが表示されます。

1.4.2 優先ロケール

管理者がユーザアプリケーションに対して優先ロケール (言語) を設定していない場合、最初にログインした際に自分の優先ロケールを選択するよう求められます。

- 1 要求されたら、[使用可能なロケール] リストを開き、ロケールを選択して、[追加] をクリックすることによってロケールを追加します。

詳細については、70 ページのセクション 5.6 「優先言語の選択」を参照してください。

優先ロケールの編集

ユーザ: Nano Chip
現在のアプリケーションのユーザに対してロケール初期設定を設定します。

初期設定順のロケール

上へ移動
下へ移動
削除

使用可能なロケール

追加するロケールの選択... 追加

変更を保存 閉じる

1.4.3 ログアウト

Identity Manager ユーザアプリケーションでの作業が終了した後で、セッションを終了するには、ログアウトできます。

- 1 [ログアウト] リンク (ページの右上隅) をクリックします。

デフォルトで、ユーザアプリケーションで Novell Identity Manager の使用についてお礼を述べる旨のメッセージが表示されます。[Novell Identity Manager ログインに戻る] というタイトルの赤いリンクをクリックし、ログインプロンプトに戻ります。

1.4.4 一般的なユーザアクション

ユーザアプリケーションは、データにアクセスする、データを表示するといったユーザによる一般的な操作に対して、一貫したユーザインタフェースを備えています。この項では、一般的なユーザインタフェースの要素と、次の項目について説明します。

- ◆ 28 ページの「[オブジェクトセレクタ] ボタンを使用した検索」
- ◆ 30 ページの「データのフィルタ」

表 1-1 一般的なボタン

ボタン	説明
	<p>オブジェクトセレクタ [検索] ダイアログボックスまたはポップインへのアクセスを提供します。ユーザアプリケーション内の場所に基づいて、さまざまな種類のオブジェクトに対して検索条件を入力できます。たとえば、[Identity セルフサービス] タブではユーザおよびグループを検索でき、[役割] タブでは、ユーザ、グループ、および役割を検索できます。</p> 
	<p>詳細については、28 ページの「[オブジェクトセレクタ] ボタンを使用した検索」を参照してください。</p>

ボタン**説明**



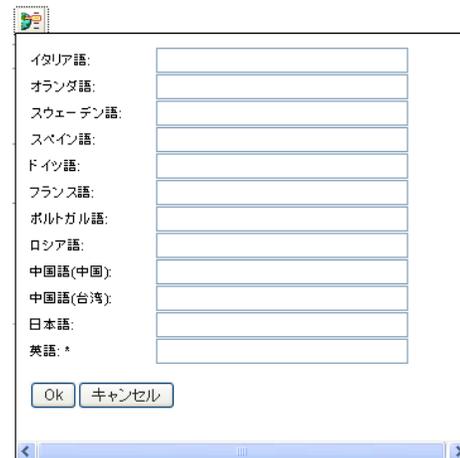
履歴の表示 以前にアクセスしたデータへのリンクを提供します。リンクを選択すると、以前に選択した部分のデータを表示できます。最近ある項目を使用したことがわかっている場合は、[履歴の表示] をクリックした方が検索を実行するよりも時間がかかりません。



リセット 現在の選択内容をクリアします。



ローカライズ ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスで、ユーザアプリケーションが現在サポートしているロケールにおいてフィールド名や説明に通常使用するテキストを入力できます。



追加 新しい項目またはオブジェクトを追加します。追加するオブジェクトのタイプに固有の追加情報を入力するようプロンプトが表示されます。



削除 現在選択されている項目を削除します。



上下矢印 現在選択されているオブジェクトをリストの上または下へ移動します。



凡例 [要求と承認] または [役割] タブで使用されている記号の説明を提供します。

[オブジェクトセレクト] ボタンを使用した検索

[オブジェクトセレクト] ボタンを使用する

- 1 をクリックします。[検索] ダイアログボックスが表示されます。

検索オブジェクトリスト: (例: A*, Lar*, *)

説明 検索

キャンセル

2 次のように検索条件を指定します。

2a ドロップダウンリストを使用して、検索対象にするフィールドを選択します。ドロップダウンリストのフィールドは、検索を起動した場所に応じて変わります。この例では、[名前] または [説明] を指定できます。

2b ドロップダウンリストの横にあるテキストボックスに、検索条件 (名前または説明など) の全体または一部を入力します。検索を実行すると、検索対象オブジェクトのタイプのうち、入力したテキストで始まるものすべてが検索されます。テキストの中でワイルドカードとしてアスタリスク (*) を使うこともできます。このワイルドカードは、0 個以上の任意の文字を表します。たとえば、次のいずれの検索テキストを入力した場合でも、「Nurse」という役割が検索されます。

nurse

n

n*

*u

*r

*e

3 [検索] をクリックします。

検索結果が表示されます。カラムの見出しをクリックすると、検索結果を昇順または降順でソートできます。次の例は、役割のリストを示しています。

検索オブジェクトリスト: (例: A*, Lar*, *)

名前 検索

ページあたりの最大行数 10

説明	名前
消耗品の注文	消耗品の注文
医療検査の実施	医療検査の実施
薬の投与	薬の投与
薬剤師	薬剤師
看護師	看護師
役割モジュール管理者	役割モジュール管理者
セキュリティ責任者	セキュリティ責任者
役割マネージャ	役割マネージャ
検査担当者	検査担当者
test1	test1

1 - 10/11

次へ 最後

キャンセル

結果リストに目的のものが含まれている場合は、**ステップ 4**に進んでください。含まれていない場合は、**ステップ 2**に戻ります。

- 4 リストから目的の項目を選択します。ルックアップページが閉じ、選択内容に関連するデータがページに入力されます。

データのフィルタ

ユーザアプリケーションの [役割] タブには、表示したいデータのみを表示するためのフィルタが備わっています。さらに、[ページ当たりの最大行数] 設定を使用して、1 ページに表示するデータ量を制限することもできます。次にフィルタの例をいくつか示します。

- ◆ 役割割り当ておよびソースによるフィルタ (マイ役割アクションで利用可能)

割り当て	ソース	有効開始日	有効期限	ページ当たりの最大行数
役割モジュール管理者	▶直接割り当て	2008/01/07		25

- ◆ 役割の名前、ユーザ、ステータスによるフィルタ (要求ステータスの表示アクションで利用可能)

- ◆ 役割レベルおよびカテゴリによるフィルタ (役割カタログの参照アクションで利用可能)

フィルタを使用する

- 1 次のように、[フィルタ基準] テキストフィールドに値を指定します。

- 1a 特定の文字列で始まる項目のみに制限するため、[フィルタ基準] ボックスに文字列の全部または一部を入力します。テキストの中でワイルドカードとしてアスタリスク (*) を使うこともできます。このワイルドカードは、0 個以上の任意の文字を表します。たとえば、次のいずれの検索テキストを入力した場合でも、「Nurse」という役割割り当てが検索されます。

nurse

n

n*

*u

*r

*e

注: 役割名にフィルタを設定しても、識別ボールドから返されるオブジェクトの数は制限されません。単に、フィルタ基準に基づいてページに表示されるオブジェクトが制限されるだけです。その他のフィルタ(ステータスなど)では、識別ボールドから返されるオブジェクトの数が制限されます。

- 1b** 表示された項目をさらにフィルタする場合は、追加のフィルタ基準を指定できます。ユーザアプリケーションでは、データに応じてさまざまな方法で基準を選択できます。チェックボックスを選択するか、リストボックスから1つ以上の項目を選択します(ご使用のプラットフォームで複数の項目を選択するためのキー操作を使用します)。基準はAND条件になり、すべての基準に一致する項目のみが表示されます。
 - 1c** 表示するよう指定したフィルタ基準を適用するには、[フィルタ] をクリックします。
 - 1d** 現在指定しているフィルタ基準をクリアするには、[リセット] をクリックします。
- 2** フィルタ基準に一致する項目に、1ページに表示する最大数を設定するには、[ページ当たりの最大行数] ドロップダウンリストから数値を選択します。

1.5 次にを行う作業

Identity Manager ユーザアプリケーションの基本について学習しました。これからは、タブの使用を開始して必要な作業を完了できます。

学習対象	参照先
Identity セルフサービス機能の使用	33 ページのパート II 「[Identity セルフサービス] タブの使用」
要求 / 承認機能の使用	107 ページのパート III 「[要求と承認] タブの使用」
役割機能の使用	195 ページのパート IV 「[役割] タブの使用」
整合性機能の使用	255 ページのパート V 「[整合性] タブの使用」

[Identity セルフサービス] タブの 使用



これらの項では、Identity Manager ユーザアプリケーションの [Identity セルフサービス] タブで、識別情報を表示および操作する方法について説明します。

- ◆ 35 ページの第 2 章「[Identity セルフサービス] タブの概要」
- ◆ 41 ページの第 3 章「組織図の使用」
- ◆ 55 ページの第 4 章「関連付けレポートの使用」
- ◆ 59 ページの第 5 章「[マイプロフィール] ページの使用」
- ◆ 71 ページの第 6 章「ディレクトリ検索の使用」
- ◆ 91 ページの第 7 章「パスワードの管理」
- ◆ 97 ページの第 8 章「ユーザまたはグループの作成」

[Identity セルフサービス] タブの概要

この項では、Identity Manager ユーザアプリケーションの [Identity セルフサービス] タブの基本的な使用方法について説明します。この節の内容は次のとおりです。

- ◆ 35 ページのセクション 2.1 「[Identity セルフサービス] タブについて」
- ◆ 35 ページのセクション 2.2 「[Identity セルフサービス] タブへのアクセス」
- ◆ 36 ページのセクション 2.3 「[Identity セルフサービス] タブの機能」
- ◆ 37 ページのセクション 2.4 「[Identity セルフサービス] タブで実行できるアクション」

Identity Manager ユーザアプリケーションへのアクセスおよび操作に関する一般的な説明については、17 ページの第 1 章「はじめに」を参照してください。

2.1 [Identity セルフサービス] タブについて

[Identity セルフサービス] タブでは、識別情報をユーザ自身で表示し、操作を行うための便利な方法が提供されます。このタブでは、あるユーザが必要とする情報へのアクセス権を、必要となった時点でそのユーザに付与できるので、運用の機動性が向上します。たとえば、[Identity セルフサービス] タブを使用すると、以下の操作を実行できます。

- ◆ 自分自身のユーザアカウントを直接管理する
- ◆ 必要に応じて組織内の他のユーザやグループを検索する
- ◆ ユーザやグループの関係を図でわかりやすく表示する
- ◆ 関連付けられているアプリケーションを表示する

システム管理者は、組織内のユーザのために [Identity セルフサービス] タブの内容を設定する責任があります。一般に、各ユーザが表示できる情報および実行できる操作は、ユーザのジョブ要件と権限レベルによって決まります。

2.2 [Identity セルフサービス] タブへのアクセス

デフォルトでは、Identity Manager ユーザアプリケーションにログインすると、[Identity セルフサービス] タブが開き、[組織図] ページが表示されます。

図 2-1 [Identity セルフサービス] タブの [組織図] ページ



Identity Manager ユーザアプリケーションで別のタブに移動した場合、このタブに戻るには、[Identity セルフサービス] タブをクリックして再び開きます。

2.3 [Identity セルフサービス] タブの機能

この項では、[Identity セルフサービス] タブのデフォルトの機能について説明します (組織向けにカスタマイズされている場合、タブの外観が異なって見える可能性があります。システム管理者に相談してください)。

[Identity セルフサービス] タブの左側には、実行できるアクションのメニューが表示されます。アクションはカテゴリ別に表示されます。カテゴリには、[情報管理]、[パスワードの管理]、[ディレクトリ管理] (権限を持つ場合) の 3 種類があります。

図 2-2 アクションの [Identity セルフサービス] メニュー



アクションをクリックすると、対応するページが右部に表示されます。通常、ページには「ポートレット」という特別なウィンドウがあります。このポートレットには、そのアクションに関する詳細情報が表示されます。たとえば、[組織図] ページのポートレットの外観は次のようになっています。

図 2-3 [組織図] ページのポートレット



通常、ポートレットのタイトルバーには一連のボタンがあります。これらのボタンをクリックすると、標準的な操作を実行できます。たとえば、次のような指定内容です。



表 2-1 はボタンの働きを示しています。

表 2-1 ポートレットタイトルバーのボタンとその機能

ボタン	動作内容
	ポートレットのヘルプを表示する
	ポートレットの内容を印刷する
	ポートレットを最小化する
	ポートレットを最大化する

これ以外のボタンが表示されていて、その機能が不明な場合は、そのボタンにマウスポインタを重ねると説明が表示されます。

2.4 [Identity セルフサービス] タブで実行できるアクション

表 2-2 [Identity セルフサービス] タブのデフォルト設定で使用できるアクションを次の表で説明します。

表 2-2 [Identity セルフサービス] タブで使用できるアクション

カテゴリ	アクション	説明
情報管理	組織図	<p>ユーザとグループの関係を、対話的な組織図の形式で表示します。</p> <p>詳細については、41 ページの第 3 章「組織図の使用」を参照してください。</p>
	関連付けレポート	<p>管理者が使用できます。ユーザが関連付けられているアプリケーションを表示します。</p> <p>詳細については、55 ページの第 4 章「関連付けレポートの使用」を参照してください。</p>
	マイプロフィール	<p>ユーザアカウントの詳細を表示して、その情報を操作できるようにします。</p> <p>詳細については、59 ページの第 5 章「[マイプロフィール] ページの使用」を参照してください。</p>
	ディレクトリ検索	<p>検索条件を入力するか、以前保存した検索条件を使用することによって、ユーザまたはグループを検索できます。</p> <p>詳細については、71 ページの第 6 章「ディレクトリ検索の使用」を参照してください。</p>

カテゴリ	アクション	説明
パスワードの管理	パスワード確認の回答	<p>管理者が定義した本人確認の質問に対する有効な回答を設定または変更したり、ユーザが定義した本人確認の質問や回答を設定または変更したりできます。</p> <p>詳細については、91 ページの第 7 章「パスワードの管理」を参照してください。</p>
	パスワードヒント定義	<p>パスワードヒントを設定または変更できます。</p> <p>詳細については、91 ページの第 7 章「パスワードの管理」を参照してください。</p>
	パスワード変更	<p>システム管理者によって確立されたルールに従って、パスワードを変更 (リセット) できます。</p> <p>詳細については、91 ページの第 7 章「パスワードの管理」を参照してください。</p>
	パスワードポリシーステータス	<p>パスワード管理の有効性に関する情報を表示します。</p> <p>詳細については、91 ページの第 7 章「パスワードの管理」を参照してください。</p>
	パスワード同期ステータス	<p>識別ボールドと同期する関連付けられたアプリケーション用のパスワード同期ステータスを表示します。</p> <p>詳細については、91 ページの第 7 章「パスワードの管理」を参照してください。</p>
ディレクトリ管理	ユーザまたはグループの作成	<p>管理者および認証ユーザが使用できます。新規ユーザまたはグループを作成できます。</p> <p>詳細については、97 ページの第 8 章「ユーザまたはグループの作成」を参照してください。</p>

組織図の使用

この項では、Identity Manager ユーザアプリケーションの [Identity セルフサービス] タブにある [組織図] ページを使用する方法について説明します。この節の内容は次のとおりです。

- ◆ 41 ページのセクション 3.1 「組織図について」
- ◆ 44 ページのセクション 3.2 「図の中の移動」
- ◆ 50 ページのセクション 3.3 「詳細情報の表示」
- ◆ 51 ページのセクション 3.4 「関係図からの電子メールの送信」

注：この項では、[組織図] ページのデフォルトの機能について説明します。ジョブの役割、権限レベル、および組織内でのカスタマイズのために、ご使用の Identity Manager ユーザアプリケーションと異なっている可能性があります。詳細については、システム管理者に相談してください。

[Identity セルフサービス] タブの使用に関する全般的な説明については、[35 ページの第 2 章「\[Identity セルフサービス\] タブの概要」](#)を参照してください。

3.1 組織図について

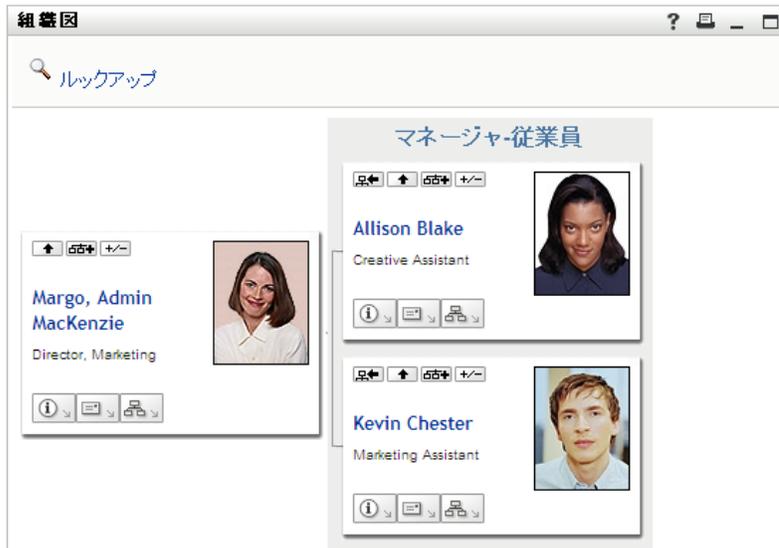
[組織図] ページには、関係が表示されています。ビジネスにおけるマネージャ、従業員、およびユーザグループ間の関係や管理者が定義するその他の種類の関係を表示できます。表示は組織図の形式となっています。組織図では、各人物、グループ、または他のエンティティはビジネスカードに似た形式で表示されています。組織図の開始点または導入点となるこのビジネスカードは、ルートカードと呼ばれます。

組織図は対話的です。以下の操作を行えます。

- ◆ 関係の種類を選択および表示する
- ◆ マネージャ - 従業員、ユーザグループ、または管理者が提供する他のエンティティなどの関係について優先する種類をデフォルトで設定する
- ◆ ルートカードの左側または右側に関係図をデフォルトで配置する
- ◆ 図の表示用にルートカードの上に最大 2 レベルを追加する
- ◆ 他のユーザを図のルートにする
- ◆ カードの下の図を閉じる (縮小) または開く (展開)
- ◆ 組織図に表示するユーザを検索する
- ◆ 選択したユーザの詳細情報 (プロフィールページ) を表示する
- ◆ ユーザ詳細 (リンク形式) を電子メールで送信する
- ◆ 選択したユーザまたは特定のマネージャチームに新しい電子メールを送信する

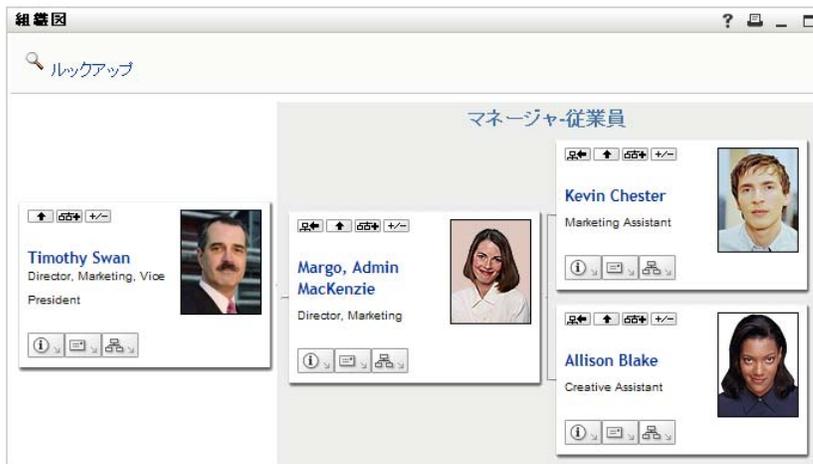
以下の例では、組織図の使用方法を紹介します。[組織図] ページを初めて開いたとき、自分自身の「マネージャ - 従業員」の関係が表示されます。たとえば、Margo MacKenzie (マーケティング責任者) がログインすると、以下の組織図ページがデフォルトで表示されます。

図 3-1 ログイン時のデフォルト表示



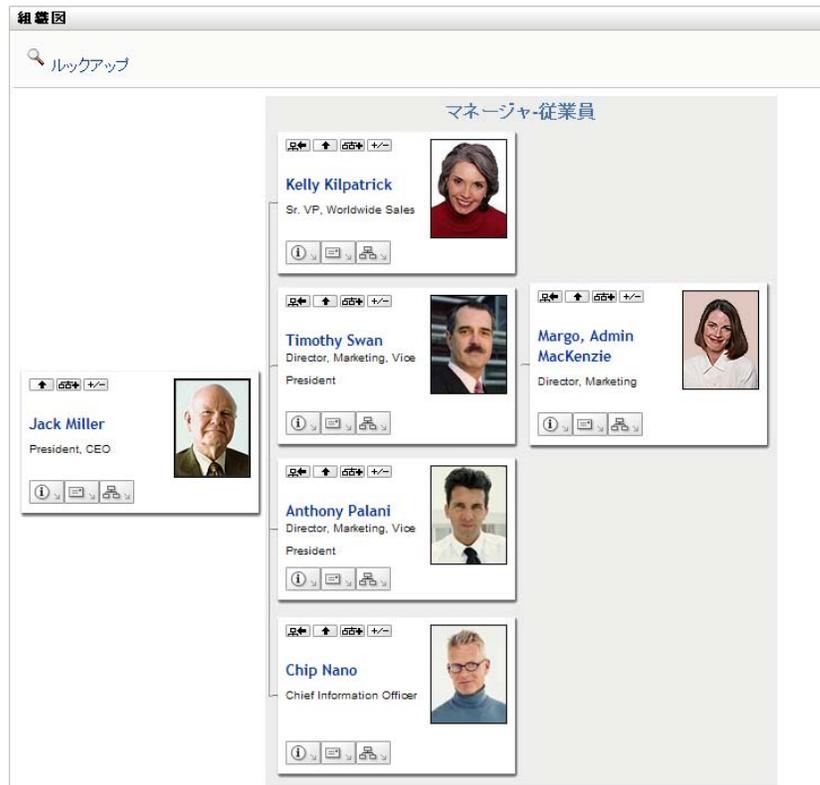
Margo MacKenzie は、自分のビジネスカードの中で [1 つ上に移動します]  をクリックし、図を展開して自分のマネージャを表示します。

図 3-2 Margo が [1 つ上に移動します] をクリックしてマネージャを表示



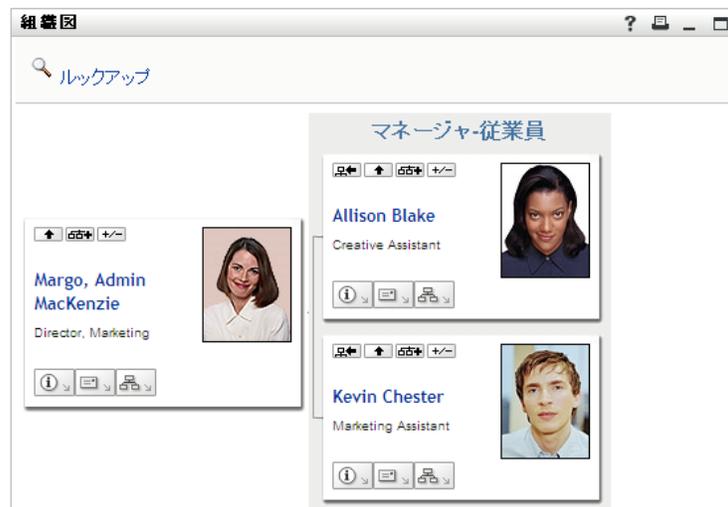
Margo は、その後、自分のマネージャのカードにある [1 つ上に移動します]  をクリックし、マネージャのさらに上のマネージャを表示します。

図 3-3 Margo が [1 つ上に移動します] を再度クリックして、マネージャのマネージャを表示



Margo は、ここで自分のカードにある [このエンティティを新しいルートにします] をクリックします。これで再び、彼女のカードが表示のルートに設定されます。

図 3-4 Margo が自分のカードにある [このエンティティを新しいルートにします] をクリック



3.2 図の中の移動

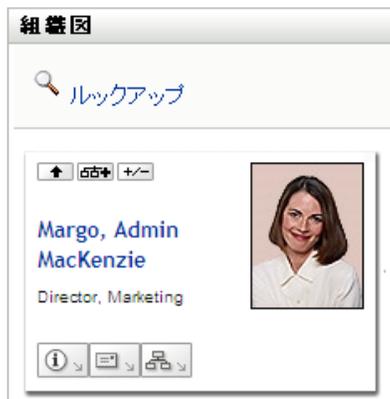
この項では、関係図の中を移動する方法について次のように説明します。

- ◆ 44 ページのセクション 3.2.1 「1 つ上のレベルへ移動」
- ◆ 45 ページのセクション 3.2.2 「関係のルートのリセット」
- ◆ 46 ページのセクション 3.2.3 「デフォルトの関係の切り替え」
- ◆ 47 ページのセクション 3.2.4 「デフォルト図の展開または縮小」
- ◆ 47 ページのセクション 3.2.5 「展開または縮小する関係の選択」
- ◆ 49 ページのセクション 3.2.6 「組織図のユーザの検索」

3.2.1 1 つ上のレベルへ移動

関係ツリーの中で1つ上のレベルに移動する

- 1 現在のトップレベルのカードで、[1 つ上に移動します]  をクリックします。
たとえば、Margo がこのビューで [1 つ上に移動します] をクリックすると仮定します。



彼女のビューは自分の上のレベルを含むように展開されます。



[1 つ上に移動します] は、カード内のユーザにマネージャが割り当てられている場合のみ利用できます。この機能が利用できない場合は、管理者と確認してください。1 枚のカードに対して、2 回レベルを移動できます。

3.2.2 関係のルートのリセット

関係図のビューのルートのリセットする

- 1 新しいルートにするユーザのカードを検索します。
- 2 カード上の [このエンティティを新しいルートにします]  をクリックするか、ユーザ名 (名前はリンク) をクリックします。選択したカードが組織図のルートになります。

たとえば、Margo Mackenzie がこのビューの自分のカードで [このエンティティを新しいルートにします] をクリックすると仮定します。



彼女のカードが新しいルートとなり、彼女の組織図の一番上に表示されます。



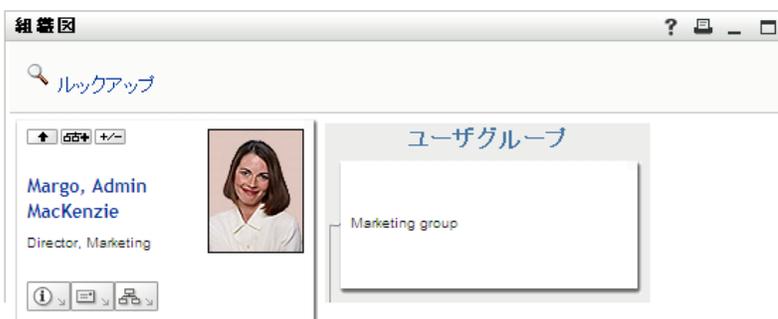
3.2.3 デフォルトの関係の切り替え

- 1 デフォルトの関係を変更するには、[組織チャートに切り替える]  をクリックします。
- 2 表示する関係のタイプを選択します。管理者は Novell が提供する関係を使用することも (表 3-1 を参照)、カスタマイズされた関係を使用することもできます。

表 3-1 Novell が提供する組織図の関係のタイプ

組織図のタイプ	説明
マネージャ - 従業員	マネージャとその部下のレポート構造が表示されます。
ユーザグループ	ユーザ、およびユーザの所属グループが表示されます。

Margo Mackenzie は、デフォルトの関係表示をユーザグループに変更します。

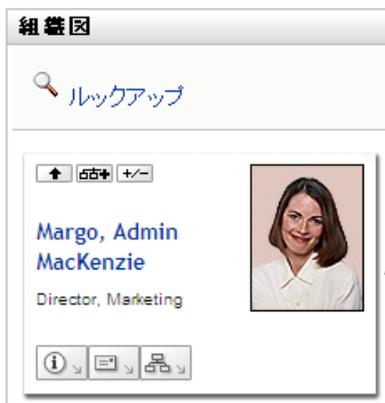


3.2.4 デフォルト図の展開または縮小

デフォルトの関係図は、ユーザ自身または管理者が他のタイプに設定していない限り、マネージャ - 従業員となります。デフォルトの図を展開または縮小する

- 1 デフォルトの関係表示を展開または縮小するカードを検索します。
- 2 [現在の関係の展開 / 縮小] トグルボタン [+/-] をクリックします。

図が展開 / 縮小されて、選択したカードに関連する補助カードが表示 / 非表示になります。たとえば、次の2つのビューは、展開ビューと縮小ビューを示しています。



3.2.5 展開または縮小する関係の選択

- 1 関係を表示するカードを識別します。

- 2 そのカードにある [展開/縮小する関係の選択]  をクリックします。ドロップダウンリストが開きます。
- 3 ドロップダウンリストから関係とアクションを選択します。

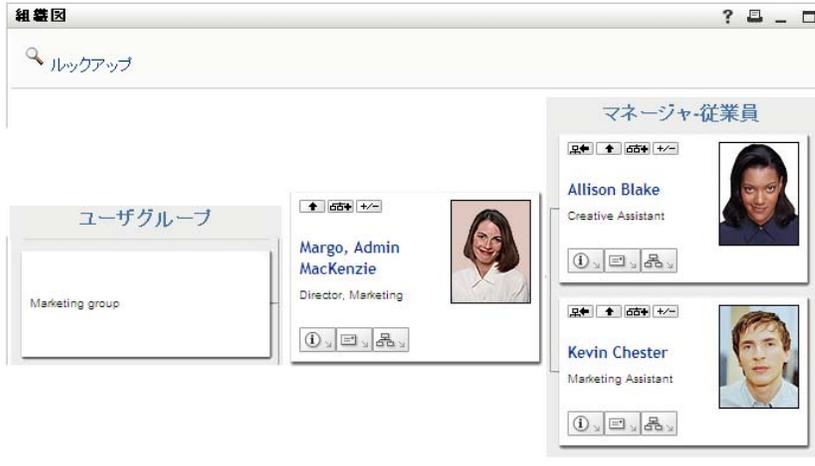
アクション	説明
マネージャ - 従業員の展開	このオプションは、マネージャ - 従業員の図を開くために選択します。図が閉じられている場合に使用できます。
ユーザグループの展開	このオプションは、ユーザグループを開くために選択します。ユーザグループが閉じられている場合に使用できます。
マネージャ - 従業員の縮小	このオプションは、カードのマネージャ - 従業員の図を縮小するために選択します。図が開いている場合に使用できます。
ユーザグループの縮小	このオプションは、カードのユーザグループを縮小するために選択します。図が開いている場合に使用できます。

管理者が定義している場合は、追加の関係がリストに表示されます。

次の例では、Margo MacKenzie が [現在の関係の展開/縮小] をクリックして、[ユーザグループの展開] を選択します。



続いて彼女は [左へ] をクリックして、次を表示します。



3.2.6 組織図のユーザの検索

組織図でユーザを検索できます。この検索では、現在のビューや関係図に表示されていないユーザを素早く検索できます。検索されたユーザがビューでの新しいルートになります。

- 1 図の左上隅にある [ルックアップ] リンクをクリックします。
[ルックアップ] ページが開きます。



- 2 目的のユーザを探すための検索条件を指定します。
 - 2a ドロップダウンリストで、検索の種類として [名] または [姓] を選択します。
 - 2b ドロップダウンの横にあるテキストボックスに、検索する名前の全体または一部を入力します。

入力したテキストで始まるすべての名前がヒットします。パスワードは、大文字、小文字が区別されません。テキストの中でワイルドカードとしてアスタリスク (*) を使うこともできます。このワイルドカードは、0 個以上の任意の文字を表します。

たとえば、次のどの検索テキストを入力した場合でも、「Chip」という名がヒットします。

Chip

chip

c

c*

*p

h

- 3 [検索] をクリックします。
[コンテナルックアップ] ページに検索結果が表示されます。



目的のユーザが検索結果に含まれている場合は、**ステップ 4**に進みます。含まれていない場合は、**ステップ 2**に戻ります。

カラムの見出しをクリックすると、検索結果を昇順または降順でソートできます。

- 4 検索結果の中から目的のユーザを選択します。
検索ページが閉じられ、図のビューの中ではこのユーザがルートに設定されます。

3.3 詳細情報の表示

図で選択したユーザの詳細 ([プロフィール] ページ) を表示できます。

- 1 詳細情報を表示するユーザのカードを検索します。
- 2 そのカードにある [識別アクション]  をクリックします。
ドロップダウンリストが表示されます。
- 3 ドロップダウンリストから [情報を表示] をクリックします。管理者が定義している場合は、追加オプションが表示されます。
プロフィールページが開き、選択したユーザの詳細情報が表示されます。



このページは、[\[Identity セルフサービス\]](#) タブにある自分の [\[マイページ\]](#) ページに似ています。ただし、別のユーザの詳細を表示すると、データを確認することや、ページでアクションを実行することが許可されていない場合があります。不明点は、システム管理者に問い合わせてください。

[プロフィール] ページの各機能の使用方法については、[59 ページの第 5 章「\[マイプロフィール\] ページの使用」](#)を参照してください。

- 4 [プロフィール] ページでの作業が終了したら、そのウィンドウを閉じることができます。

3.4 関係図からの電子メールの送信

この項では、以下の内容について説明します。

- ◆ [51 ページのセクション 3.4.1「図のユーザに関する情報の電子メール送信」](#)
- ◆ [52 ページのセクション 3.4.2「組織図内のユーザへの新しい電子メールの送信」](#)
- ◆ [53 ページのセクション 3.4.3「マネージャのチームへの電子メールの送信」](#)

3.4.1 図のユーザに関する情報の電子メール送信

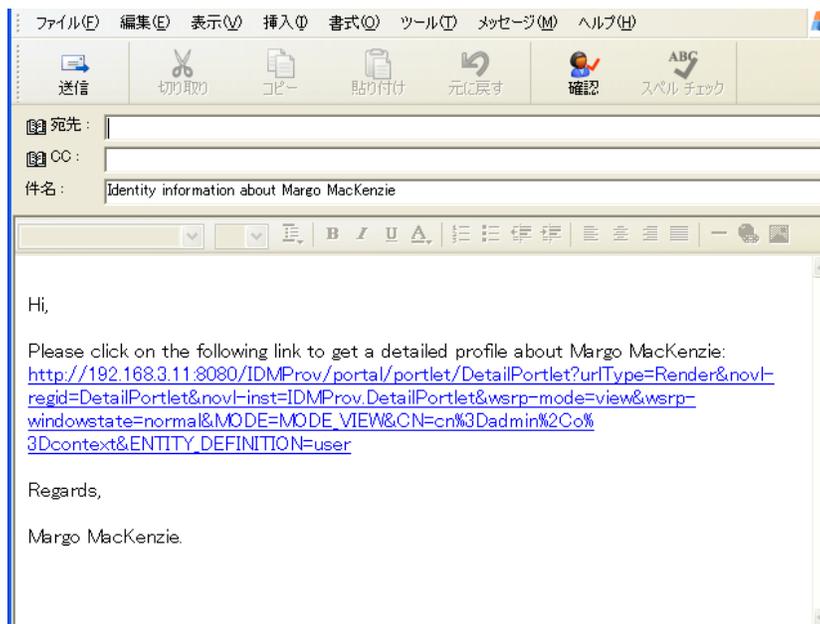
- 1 詳細を電子メールで送信するユーザのカードを検索します。
- 2 カードにある電子メールアイコンをクリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
- 3 [電子メール情報] を選択します。

デフォルトの電子メールクライアントソフトウェアで新規メッセージが作成されます。次のメッセージ要素には、既に情報が入力されています。

メッセージ要素	含む
件名	次のテキストが入っています。 Identity Information for user-name

メッセージ要素	含む
本文	<p>挨拶、メッセージ、リンク、および送信者名。</p> <p>選択したユーザの詳細情報を表示する [プロフィール] ページへのリンク (URL)。</p> <p>受信者がこのリンクをクリックすると、何かしらの情報が表示される前に、まず Identity Manager ユーザアプリケーションにログインするように要求されます。受信者が情報を表示または編集するには、適切な権限を持っている必要があります。</p> <p>プロフィールページの各機能の使用方法については、59 ページの第 5 章「[マイプロフィール] ページの使用」を参照してください。</p>

たとえば、次のような指定内容です。



- 4 メッセージの受信者を指定します。また、必要に応じてその他の項目を指定します。
- 5 メッセージを送信します。

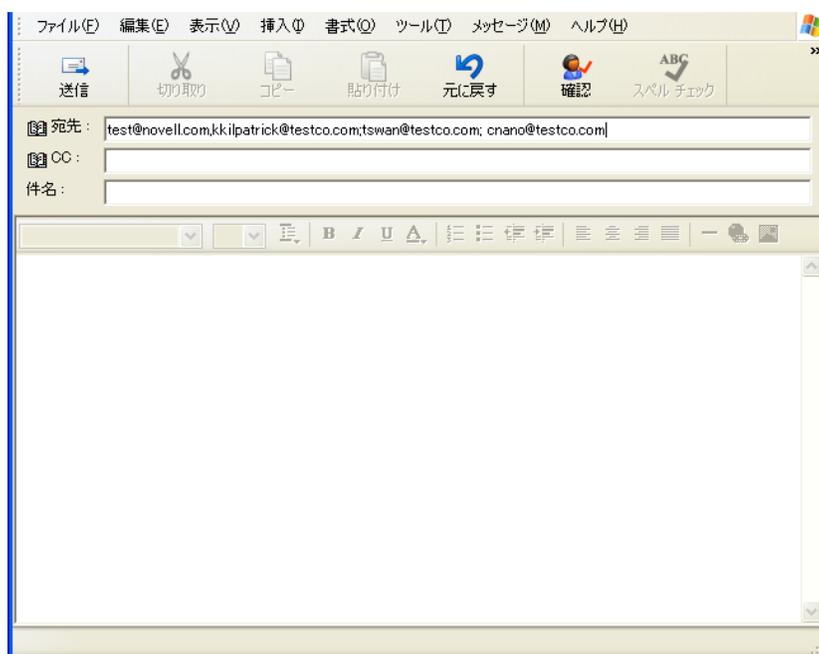
3.4.2 組織図内のユーザへの新しい電子メールの送信

- 1 電子メールを送信するユーザのカードを検索します。
- 2 カードにある電子メールアイコン  をクリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
- 3 [新しい電子メール] を選択します。
デフォルトの電子メールクライアントソフトウェアで新規メッセージが作成されます。[宛先] ボックスには、選択したユーザが受信者として表示されます。それ以外の項目は空白になっています。

- 4 メッセージの内容を入力します。
- 5 メッセージを送信します。

3.4.3 マネージャのチームへの電子メールの送信

- 1 電子メールを送信するチームの管理者であるユーザのカードを検索します。
- 2 カードにある電子メールアイコンをクリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
- 3 [チームへの電子メール] を選択します。
デフォルトの電子メールクライアントソフトウェアで新規メッセージが作成されます。[宛先] リストには、選択したユーザ(マネージャ)の直属の部下が表示されま
す。それ以外の項目は空白になっています。



- 4 メッセージの内容を入力します。
- 5 メッセージを送信します。

関連付けレポートの使用

この項では、Identity Manager ユーザアプリケーションの [Identity セルフサービス] タブにある [関連付けレポート] ページを使用する方法について説明します。主なトピックは、以下のとおりです。

- ◆ 55 ページのセクション 4.1 「関連付けレポートについて」
- ◆ 56 ページのセクション 4.2 「関連付けの表示」

注: この項では、[関連付けレポート] ページのデフォルトの機能について説明します。ジョブの役割、権限レベル、および組織内でのカスタマイズのために、ご使用の Identity Manager ユーザアプリケーションと異なっている可能性があります。詳細については、システム管理者に相談してください。

[Identity セルフサービス] タブの使用に関する全般的な説明については、35 ページの第 2 章「[Identity セルフサービス] タブの概要」を参照してください。

4.1 関連付けレポートについて

管理者は、[関連付けレポート] ページを使用してユーザがプロビジョニングされている関連付けのいくつかを一覧表示したり、トラブルシューティングしたりできます。アプリケーションの表には以下が表示されます。

- ◆ 識別ポールの DirXML-関連付け表にユーザが関連付けを持つアプリケーションまたはシステムの名前。(関連付け表は、識別ポールのユーザアカウントを接続したシステムと同期する際にポリシーまたはエンタイトルメントを介して入力されます。)
- ◆ 関連付けのインスタンス。
- ◆ 関連付けのステータス。ステータスの説明については、表 4-1 を参照してください。

表 4-1 関連付けステータス表

ステータス	内容
処理済み	ドライバはドライバのターゲットアプリケーション向けにユーザを認識しません。関連付けリストに表示されないアプリケーションまたはシステム用に、プロビジョニングリクエストを発行する必要があるかどうか、ユーザが確認する必要があります。または、アプリケーションがリストには表示されているけれども、アクセスできない場合、問題を特定するためにユーザがアプリケーション管理者に問い合わせる必要があります。
無効	ユーザがアプリケーションを利用できない可能性があります。
保留中	関連付けが何らかの原因で待機しています。
手動	関連付けを実装するのに手動によるプロセスが必要です。
移行	移行が必要です。
ANY	多岐にわたる種類のステータスです。

識別ポータルにはプロビジョニングされたリソースがすべて表示されているわけではありません。

56 ページの **図 4-1** は、[関連付けレポート] の例を示しています。

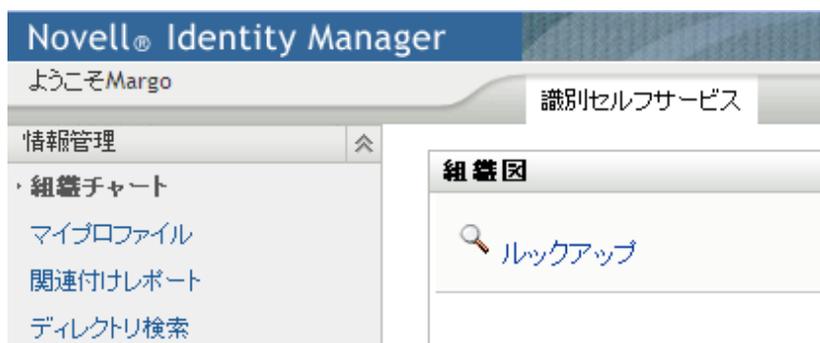
図 4-1 [関連付けレポート] ページ



4.2 関連付けの表示

[関連付けレポート] をクリックすると、最初に表示される関連付けは自分自身のものです。他のユーザの関連付けを表示するには、次の手順を実行します。

- 1 [Identity セルフサービス] タブ ([情報管理] の下) で、[関連付けレポート] をクリックします。
- 2 関連付け表の上で、[検索] をクリックします。



- 3 [オブジェクト検索] ウィンドウで、ドロップダウンメニューから [名] または [姓] を選択し、検索文字列を指定します。[オブジェクト検索] ウィンドウには、[名] および [姓] の両方が表示されます。

オブジェクトロックアップ

オブジェクトリストの検索: (例: a*, Lar*, ID, *r)

姓 Miller 検索

リストからオブジェクトを選択:

名	姓
Jack	Miller

1 - 1 / 1

4 名前を選択します。関連付け表にその名前の関連付けが表示されます。

識別セルフサービス 要求と承認 管理

関連付けレポート

ルックアップ

Mackenzie Margo

名前	インスタンス	稼働状態
ワークフロー付きユーザアプリケーションサービスドライバ	UserApplication	無効

[マイプロフィール] ページの使用

この項では、Identity Manager ユーザアプリケーションの [Identity セルフサービス] タブにある [マイプロフィール] ページを使用する方法について説明します。この節の内容は次のとおりです。

- ◆ 59 ページのセクション 5.1 「[マイプロフィール] ページの概要」
- ◆ 60 ページのセクション 5.2 「自分の情報の編集」
- ◆ 65 ページのセクション 5.3 「電子メールによる情報の送信」
- ◆ 66 ページのセクション 5.4 「自分に関する組織図の表示」
- ◆ 67 ページのセクション 5.5 「他のユーザまたはグループへのリンク」

注: この項では、[マイプロフィール] ページのデフォルトの機能について説明します。ジョブの役割、権限レベル、および組織内でのカスタマイズのために、ご使用の Identity Manager ユーザアプリケーションと異なっている可能性があります。詳細については、システム管理者に相談してください。

[Identity セルフサービス] タブの使用に関する全般的な説明については、35 ページの第 2 章「[Identity セルフサービス] タブの概要」を参照してください。

5.1 [マイプロフィール] ページの概要

[マイプロフィール] ページでは、自分のユーザアカウントに関する詳細情報を表示したり、必要に応じてその情報を編集できます。たとえば、以下は Kevin Chester (マーケティングアシスタント) が「マイプロフィール」ページに移動した際に表示される内容です。

図 5-1 マイプロフィール [詳細] ページ



これらの詳細情報を編集することもできます。ただし、どの情報を編集できるかは、システム管理者によって決められています。たとえば、Kevin Chester が [自分の情報の編集] をクリックした、というケースを考えてみます。管理者が権限を与えると、彼はプロフィールの編集が可能なページを表示できます。

図 5-2 プロファイル編集ページ

詳細

編集: ユーザ
*は入力必須です。

このオブジェクトは編集可能でないか、編集するために必要な権利がありません。[戻る]ボタンをクリックして、[ビュー]モードに戻ります。

属性	値
名:	Kevin
姓:	Chester
役職:	Marketing Assistant
部署:	marketing
リージョン:	Northeast
電子メール:	test@novel.com
マネージャ:	Margo Mackenzie
グループ:	
電話番号:	(555) 555-1221
ユーザの写真:	

[マイプロフィール] のメインページ (表示用ページ) には、自分の情報に関するその他の便利なアクションを実行するためのリンクがあります。以下の操作を行えます。

- ◆ リンク形式の自分の詳細情報を他のユーザに電子メールで送信する。
- ◆ 表示内容を自分の詳細情報から組織図に切り替える。
- ◆ 権限がある場合、詳細を表示したいユーザまたはグループを組織図の中から選択します。
- ◆ 電子メールアドレスをクリックし、そのアカウントにメッセージを送信する。
- ◆ ロケール (言語) を使用するユーザアプリケーションのインスタンス用に指定します。

5.2 自分の情報の編集

[マイプロフィール] ページの情報を変更したい場合、編集用ページに切り替えることができます。

情報には編集できないものもあります。編集できない情報は、読み取り専用のテキストまたはリンクとして編集用ページに表示されます。自分が編集できる情報について疑問がある場合は、システム管理者にお問い合わせください。

自分の情報を編集するには

- 1 [マイプロフィール] ページの上部にある [自分の情報の編集] リンクをクリックします。
- 2 編集用ページが開いたら、必要に応じて情報を編集します。表 5-1 にある編集ボタンを使用します。
- 3 編集が完了したら、[変更を保存する] アイコンをクリックし、続いて [リターン] をクリックします。

5.2.1 情報の非表示

自分の情報の一部を非表示に設定した場合、その情報は、Identity Manager ユーザアプリケーションを使用するユーザ（自分自身とシステム管理者を除く）に開示されなくなります。

- 1 [マイプロフィール] ページの上部にある [自分の情報の編集] リンクをクリックします。
- 2 編集用ページで、非表示にしたい項目を探します。
- 3 項目の隣にある [非表示] をクリックします。

項目によっては、[非表示] が無効のものもあります。システム管理者は、特定の項目に対してこの機能を有効にすることができます。

5.2.2 編集用ボタンの使用

表 5-1 には、プロフィールの詳細を編集するのに使用できる編集用ボタンが一覧表示されます。

表 5-1 編集用ボタン

ボタン	動作内容
	入力する値を検索する
	以前入力した値の履歴リストを表示する
	他の入力値を追加する
	属性に対するすべての入力値を表示する
	既存の入力値を削除する
	画像を編集（指定および表示）する

注：グループは別個の編集操作で追加および削除します。同じ編集操作でグループを削除および追加した場合、[+]（追加）ボタンをクリックすると、削除したグループ名が再度表示されます。

これらの編集用ボタンの詳しい使用方法について、次の項の中で説明します。

- ◆ 61 ページの「ユーザを検索する」
- ◆ 63 ページの「グループの検索」
- ◆ 64 ページの「履歴リストの使用」
- ◆ 65 ページの「画像の編集」

ユーザを検索する

- 1 ユーザを検索したいフィールドの右側にある [ルックアップ]  ボタンをクリックします。
[ルックアップ] ページが開きます。



2 目的のユーザを探すための検索条件を指定します。

2a ドロップダウンリストを使用して、検索キーの種類として [名] または [姓] を指定します。

2b ドロップダウンリストの横にあるテキストボックスに、検索したいユーザの名前全体または名前の一部を入力します。

入力したテキストで始まるすべての名前がヒットします。パスワードは、大文字、小文字が区別されません。テキストの中でワイルドカードとしてアスタリスク (*) を使うこともできます。このワイルドカードは、0 個以上の任意の文字を表します。

たとえば、次のどの検索テキストを入力した場合でも、「Chip」という名がヒットします。

```
Chip
chip
c
c*
*p
*h*
```

マネージャに対する検索処理を実行する場合、マネージャであるユーザのみが検索対象になります。

3 [検索] をクリックします。

[コンテナルックアップ] ページに検索結果が表示されます。



目的のユーザが検索結果に含まれている場合は、**ステップ 4**に進みます。含まれていない場合は、**ステップ 2**に戻ります。

カラムの見出しをクリックすると、検索結果を昇順または降順でソートできます。

4 検索結果の中から目的のユーザを選択します。

[オブジェクトルックアップ] ページが閉じて、選択したユーザの名前が編集用ページの該当エントリに挿入されます。

グループの検索

1 グループを検索したいフィールドの右側にある [ルックアップ] ボタンをクリックします。

[ルックアップ] ページが開きます。

オブジェクトルックアップ

オブジェクトリストの検索: (例: a*, Lar*, ID, *r)

説明

検索

リストからオブジェクトを選択:

説明

Accounting

Executive Management

Human Resources

Improve Customer Service task force

Information Technology

Marketing

Sales

1-7 / 7

2 目的のグループを探すための検索条件を指定します。

2a ドロップダウンリストでは、[説明] しか選択できません。

2b ドロップダウンリストの横にあるテキストボックスに、検索したい説明全体または説明の一部を入力します。

入力したテキストで始まるすべての説明がヒットします。パスワードは、大文字、小文字が区別されません。テキストの中でワイルドカードとしてアスタリスク (*) を使うこともできます。このワイルドカードは、0 個以上の任意の文字を表します。

たとえば、次のどの検索テキストを入力した場合でも、「Marketing」という説明がヒットします。

```
Marketing
marketing
m
m*
*g
*k*
```

- 3 [検索] をクリックします。
[コンテナルックアップ] ページに検索結果が表示されます。



目的のグループが検索結果に含まれている場合は、**ステップ 4**に進みます。含まれていない場合は、**ステップ 2**に戻ります。

カラムの見出しをクリックすると、検索結果を昇順または降順でソートできます。

- 4 検索結果の中から目的のグループを選択します。
[ルックアップ] ページが閉じて、選択したグループが編集用ページの該当エントリに挿入されます。

履歴リストの使用

- 1 以前入力した値を確認したいフィールドの右側にある [履歴]  をクリックします。
履歴リストが表示されます。値はアルファベット順に表示されます。



- 2 次のいずれかの操作を行います。

必要な作業	操作手順
履歴リスト内の値を選択する	<p>目的の値を履歴リストから選択します。</p> <p>履歴リストが閉じて、選択した値が編集用ページの該当エントリに挿入されます。</p>
履歴リストをクリアする	<p>[履歴のクリア] をクリックします。</p> <p>履歴リストが閉じ、履歴リストの内容が削除されます。の、履歴リストをクリアしても、編集用ページのエントリに現在入力されている値は変更されません。</p>

画像の編集

情報を編集する際、画像を追加、置換、または表示することがあります。

- 1 編集ページで、[表示] をクリックして画像を表示します。
- 2 プラス記号 **+** **イメージの追加** をクリックして画像を追加します。
画像がすでに存在する場合は、鉛筆アイコン **✎** **イメージの置換または削除** をクリックしてそれを置換または削除できます。
- 3 そのボタンをクリックし、[ファイルのアップロード] ページを開きます。



この項目に既に画像が設定されている場合は、このページにその画像が表示されません。

- 4 画像を追加したり、現在の画像を置換したりするには、次の手順を実行します。
 - 4a [参照] をクリックし、目的の画像ファイル (GIF、JPG など) を選択します。
 - 4b [変更を保存] をクリックし、選択した画像ファイルをサーバにアップロードします。
- 5 [ウィンドウを閉じる] をクリックし、編集用ページに戻ります。

5.3 電子メールによる情報の送信

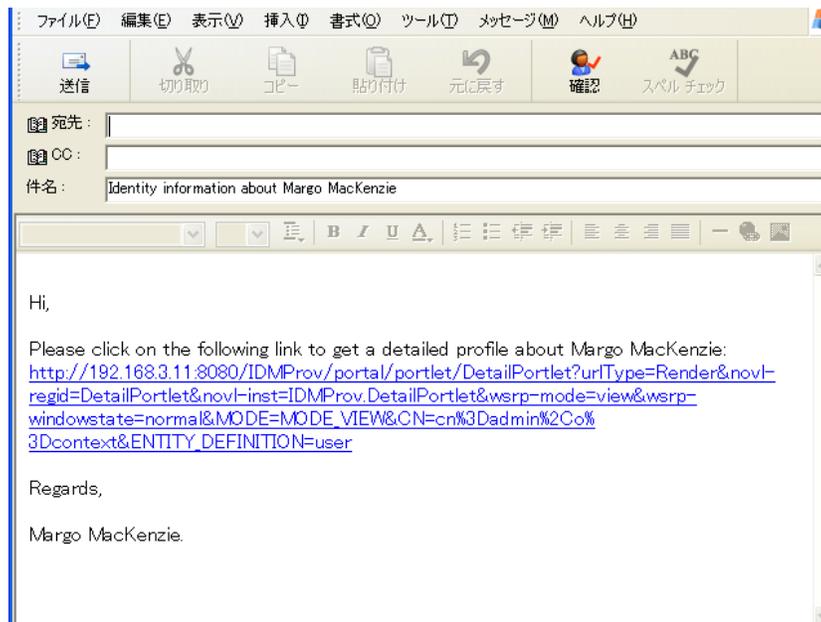
[マイプロフィール] ページでは、詳細をリンクとして電子メールで送信できます。

- 1 [マイプロフィール] ページの上部にある [識別情報の送信] リンクをクリックします。

デフォルトの電子メールクライアントソフトウェアで新規メッセージが作成されます。次のメッセージ要素には、既に情報が入力されています。

メッセージ要素	含む
件名	次のテキストが入っています。 Identity Information for <i>your-user-id</i>
本文	挨拶、メッセージ、リンク、および名前。 自分の詳細情報が表示されるプロフィールページへのリンク (URL)。 受信者がこのリンクをクリックすると、何かしらの情報が表示される前に、まず Identity Manager ユーザーアプリケーションにログインするように要求されます。受信者が情報を表示または編集するには、適切な権限を持っている必要があります。

たとえば、次のような指定内容です。



- 2 メッセージの受信者を指定します。また、必要に応じてその他の項目を指定します。
- 3 メッセージを送信します。

5.4 自分に関する組織図の表示

[マイプロフィール] から [組織図] へ切り替えるには、[マイプロフィール] ページの途中にある [組織図の表示] リンクをクリックします。

自分に関する組織図が表示されます。たとえば、次のような指定内容です。



[組織図] ページの機能の使用方法については、41 ページの第3章「組織図の使用」を参照してください。

5.5 他のユーザまたはグループへのリンク

自分のプロフィールの [詳細] ページには、他のユーザまたはグループへのリンクを含めることができます。自分の [詳細] ページにリンクとして表示されている他のユーザまたはグループに関する、詳細情報 (プロフィールページ) を表示できます。

他のユーザまたはグループに関する詳細情報を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 [マイプロフィール] ページの表示用ページまたは編集用ページで、他のユーザ名またはグループ名へのリンクを探します。マウスのカーソルをテキストの上に置き、リンクを示す下線を表示させます。
- 2 そのリンクをクリックし、他のユーザまたはグループの詳細情報を別のウィンドウに表示します。
- 3 詳細情報ウィンドウでの作業が終了したら、そのウィンドウを閉じることができます。

他のユーザおよびグループの詳細情報にリンクする例を次に示します。Timothy Swan (マーケティング担当副社長) が Identity Manager ユーザアプリケーションにログインし、[マイプロフィール] ページを開きます。

図 5-3 [マイプロフィール] ページにプロフィール詳細とプロフィールアクションが表示される

Novell® Identity Manager	
ようこそ Timothy	
識別セルフサービス 要求と承認	
情報管理	詳細
組織チャート	
マイプロフィール	自分の情報の編集
ディレクトリ検索	<input checked="" type="checkbox"/> 識別情報の送信
パスワードの管理	組織図の表示
パスワードヒントの変更	優先ロケールの編集
パスワード確認の回答	
パスワードの変更	
パスワードポリシーの状態	
パスワード同期ステータス	
Timothy Swan	
名:	Timothy
姓:	Swan
役職:	Director, Marketing, Vice President
部署:	management
リージョン:	Northeast
電子メール:	test@novell.com
マネージャ:	Jack Miller
電話番号:	(555) 555-1204

彼は [情報の編集] をクリックします。

図 5-4 [詳細の編集] ページ

詳細

編集: ユーザ

* は入力必須です。

属性	値
名:*	Timothy
姓:*	Swan
役職:	Director, Marketing, Vice President
部署:	management
リージョン:	Northeast
電子メール:	test@novell.com
マネージャ:	Jack Miller
グループ:	<ul style="list-style-type: none"> Executive Management Group Improve Customer Service task force Marketing group
電話番号:	(555) 555-1204

ユーザ名 (Terry Mellon) およびグループ名 (Executive Management、Marketing、Improve Customer Service task force) がリンクとして表示されます。Timothy は「Marketing」をクリックし、新しいウィンドウを開きます。

図 5-5 [グループの詳細] ページ

詳細

編集: グループ

☑ 識別情報の送信

Marketing group

組織図の表示

説明: Marketing group

メンバー: Allison Blake, Kevin Chester, Margo MacKenzie, Timothy Swan

このページには、Marketing グループに関する詳細情報が表示されています。彼に権限がある場合は、[グループの編集] をクリックし、[グループの編集] ページを使用してグループにメンバーを追加したり、グループからメンバーを削除したり、グループの説明を変更したり、グループを削除することができます。

Marketing グループのメンバーの名前もリンクになっています。Timothy は「Allison Blake」をクリックし、次のページを開きます。

図 5-6 グループメンバーのプロファイルへリンクしている [グループの詳細] ページ

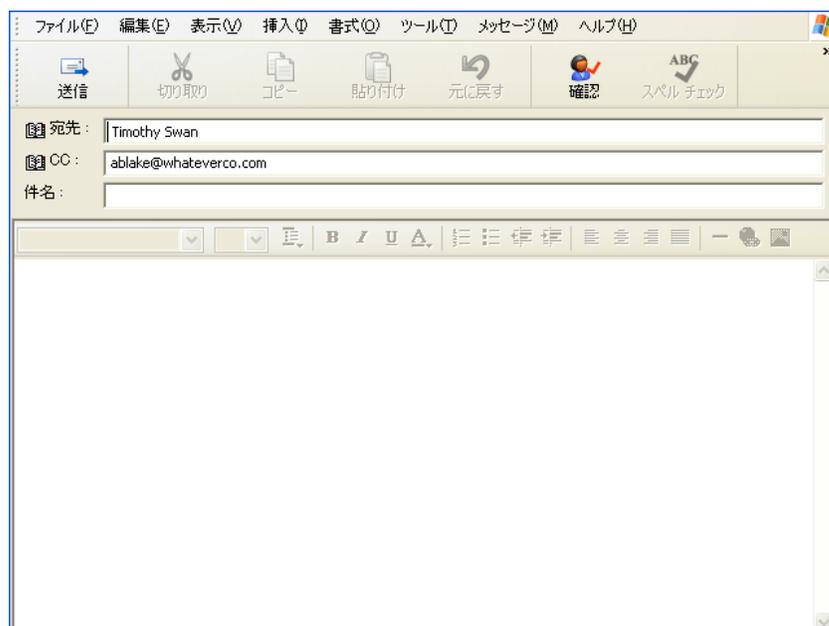


このページには、Allison Blake (Timothy の部下の一人) に関する詳細情報が表示されます。

[編集: ユーザ] をクリックし、システム管理者が権限を与えている場合は、このユーザの詳細 (部署属性および地域属性を除く) を編集するか、このユーザを削除できます。

Allison の電子メールアドレスはリンクになっています。Timothy が Allison の電子メールアドレスをクリックすると、Timothy がふだん使用している電子メールクライアントが起動し、Allison 宛のメッセージが新規に作成されます。

図 5-7 ユーザのプロファイルページから、メッセージをユーザへ電子メールで送信



Timothy は、メッセージの内容を入力して送信することができます。

5.6 優先言語の選択

Identity Manager ユーザアプリケーションで優先して使用するロケール (言語) を選択できます。優先ロケールは [マイプロファイル] でいつでも設定できます。

- 1 [Identity セルフサービス] > [情報管理] > [マイプロファイル] > [優先ロケールの編集] をクリックします。[優先ロケールの編集] ページが開きます。
- 2 [使用可能なロケール] ドロップダウンリストを開いてロケールを選択し、[追加] をクリックしてロケールを追加します。
- 3 [優先リスト順のロケール] からロケールを選択し、[上へ]、[下へ]、または [削除] を選択して、優先順位を変更します。
- 4 [変更の保存] をクリックします。

優先ロケールの編集

ユーザ: Nano Chip
現在のアプリケーションのユーザに対してロケール初期設定を設定します。

初期設定順のロケール

上へ移動
下へ移動
削除

使用可能なロケール

追加するロケールの選択... 追加

変更を保存 閉じる

以下の規則に従って、1つ以上の優先言語で [Identity Manager ユーザアプリケーション] ページが表示されます。

1. 優先ロケールリスト内の順位に従って、ユーザアプリケーション内で定義されたロケールが使用される。
2. ユーザアプリケーションで優先ロケールが定義されていない場合、一覧表示された順でブラウザの優先言語がユーザアプリケーションによって使用される。
3. ユーザアプリケーションまたはブラウザで優先ロケールが定義されていない場合、ユーザアプリケーションのデフォルトが使用される。

5.6.1 ブラウザ内の優先言語の定義

Firefox* では、[Tools] > [General] > [Languages] > [Languages] から言語を追加します。リストの最上位に優先言語を配置します。Internet Explorer では、[View] > [Encoding] から優先言語を設定します。

ディレクトリ検索の使用

この項では、Identity Manager ユーザアプリケーションの [Identity セルフサービス] タブにある [ディレクトリ検索] ページを使用する方法について説明します。この節の内容は次のとおりです。

- ◆ 71 ページのセクション 6.1 「[ディレクトリ検索] ページの概要」
- ◆ 74 ページのセクション 6.2 「基本検索の実行」
- ◆ 74 ページのセクション 6.3 「高度な検索の実行」
- ◆ 84 ページのセクション 6.4 「検索結果の使用」
- ◆ 89 ページのセクション 6.5 「保存済み検索条件の使用」

注: この項では、[ディレクトリ検索] ページのデフォルトの機能について説明します。ジョブの役割、権限レベル、および組織内でのカスタマイズのために、ご使用の Identity Manager ユーザアプリケーションと異なっている可能性があります。詳細については、システム管理者に相談してください。

[Identity セルフサービス] タブの使用に関する全般的な説明については、35 ページの第 2 章「[Identity セルフサービス] タブの概要」を参照してください。

6.1 [ディレクトリ検索] ページの概要

[ディレクトリ検索] ページでは、検索条件を新規に入力するか、または以前に保存した検索条件を使用して、ユーザ、グループ、またはチームを検索できます。

例として、Timothy Swan (マーケティングディレクター) が自分の組織内のあるユーザに関する情報を検索する必要がある、というケースを考えてみます。[ディレクトリ検索] ページを開いたときのデフォルトの状態は次のとおりです。

図 6-1 [ディレクトリ検索] ページ



保存している検索条件がないために選択できないので、[新規検索] をクリックします。

彼は、名が C で始まるあるユーザに連絡したいのですが、フルネームを思い出せません。この場合、[基本検索] ページで次の条件を指定するのみでかまいません。

図 6-2 [検索リスト] ページでの検索条件の指定

検索リスト

基本検索.

検索語句: ユーザ

項目カテゴリ 式 検索条件

名 次で始まる

検索

マイ保存済み検索 高度な検索

検索結果が表示されます。Timothy は、自分が必要としている情報を調べます。デフォルトでは、[識別] タブ情報が表示されます。

図 6-3 検索結果

検索リスト

検索結果。下のタブを使用して結果セットのさまざまなビューを表示できます。

ユーザ: (名 次で始まる c)
 ソート基準: 姓
 合計一致件数: 3

識別子		位置	組織		
名	姓	役職	電子メール	電話番号	
Chris	Black	Sales Director, Black	✉	(555) 555-1338	
Cal	Central	VP, North American Sales	✉	(555) 555-1209	
Chip	Nano	Chief Information Officer	✉	(555) 555 1222	

1 - 3 / 3

マイ保存済み検索 検索の保存 結果をエクスポート 検索の訂正 新規検索

Timothy は、検索結果にある [組織] タブをクリックし、追加の情報ビューを表示させます。彼は、自分が探していたユーザが Kip Keller の部下であることを思い出したので、目的のユーザが Cal Central であると特定します。

図 6-4 検索結果のビューを変更するためにタブを使用



[検索結果] ページには、さまざまな視点から見た情報が表示されるタブに加え、その情報に対するアクションを実行するためのリンクとボタンがあります。以下の操作を行えます。

- ◆ カラムの見出しをクリックし、行をソートする
- ◆ 特定の行をクリックし、ユーザまたはグループの詳細情報 (プロフィールページ) を表示する
- ◆ 特定の行にある電子メールアイコンをクリックし、そのユーザに新規の電子メールを送信する
- ◆ 後で再利用できるように、検索条件を保存する
- ◆ 検索結果をテキストファイルにエクスポートする
- ◆ 検索条件を変更して再検索する

基本検索だけでは情報を十分に絞り込むことができない場合があります。そのような場合、高度な検索を使用して、複雑な検索条件を指定することができます。

高度な検索を後で再実行する必要がある場合、その検索条件を保存しておくことができます。この検索条件保存機能は、使用頻度の高い基本検索においても便利です。たとえば、Timothy Swan が使用頻度の高い検索条件を 2 つ保存した場合、次のように表示されます。

図 6-5 [検索リスト] ページ上の保存された検索条件



6.2 基本検索の実行

- 1 [ディレクトリ検索] ページを開き、[新規検索] をクリックします。デフォルト設定では、[基本検索] ページが開きます。

- 2 [検索語句] ドロップダウンリストで、[グループ]または[ユーザ] を選択して検索する情報の種類を指定します。
- 3 [項目カテゴリ] ドロップダウンリストで、検索する属性を選択します。たとえば、次のような指定内容です。

Last Name

選択可能な属性のリストは、検索対象(ユーザまたはグループ)によって決まります。

- 4 [式] ドロップダウンリストで、比較演算を選択し、選択した属性に対して実行します。たとえば、次のような指定内容です。

equals

詳細については、[77 ページのセクション 6.3.1 「式を選択」](#) を参照してください。

- 5 [検索語] 入力ボックスで、選択した属性と比較する値を指定します。たとえば、次のような指定内容です。

Smith

詳細については、[79 ページのセクション 6.3.2 「比較する値の指定」](#) を参照してください。

- 6 [検索] をクリックします。

検索結果が表示されます。

次に行う作業については、[84 ページのセクション 6.4 「検索結果の使用」](#) を参照してください。

6.3 高度な検索の実行

ユーザまたはグループの検索時に条件を複数個指定する必要がある場合は、高度な検索を使用できます。たとえば、次のような指定内容です。

```
Last Name equals Smith AND Title contains Rep
```

検索条件の評価順序を調整するために、検索条件グループを複数個指定する場合も、これらの論理演算子を使って検索条件グループどうしを結び付けます。例として、次の検索条件を使って高度な検索を実行するケースを考えてみます(2つの検索条件グループが「または」で結ばれている)。

(Last Name equals Smith AND Title contains Rep) OR (First Name starts with k AND Department equals Sales)

75 ページの   6-6 で示されているように、次を指定します。

図 6-6 [検索リスト] ページ上での高度な検索条件の指定



The screenshot shows a web interface for configuring advanced search criteria. The window title is '検索リスト' (Search List). Below the title, there is a message: '高度な検索. 検索の条件を1つまたは複数指定します。' (Advanced search. Specify one or more search conditions.)

The search criteria are organized into two groups, each with a 'この基準を使用:' (Use this criterion:) label.

Group 1:

オペレータ	項目カテゴリ	式	検索条件	基準の追加/削除
	姓	次と等しい	Smith	+ -
および	役職	次を含む	rep	+ -

Buttons: 基準グループの削除 (Delete search group), 基準グループの追加 (Add search group)

Group 2:

オペレータ	項目カテゴリ	式	検索条件	基準の追加/削除
	名	次で始まる	k	+ -
および	部署	次と等しい	sales	+ -

Buttons: 基準グループの削除 (Delete search group), 基準グループの追加 (Add search group)

Between the two groups is a dropdown menu labeled '又は' (OR).

At the bottom left is a '検索' (Search) button. At the bottom right are links for 'マイ保存済み検索' (My saved searches) and '基本検索' (Basic search).

この検索結果を 76 ページの   6-7 に示します。

図 6-7 高度な検索の結果

検索リスト ? [印刷] [閉]

検索結果. 下のタブを使用して結果セットのさまざまなビューを表示できます。

ユーザ: (姓 次と等しい Smith および 役職 次を含む rep) - **又は** (名 次で始まる k および 部署 次と等しい sales)
 ソート基準: 部署
 合計一致件数: 2

識別子	位置	組織	部署	マネージャ	電子メール
名 姓	役職				
Jane Smith	HR, Representative		hr	Renee Resource	✉
Kate Smith	Sales Representative		sales	Sally South	✉
Ken Carson	Account Executive		sales	Ned North	✉
Kevir Chang	Account Executive		sales	Ned North	✉
Kip Keller	VP, North American Sales		sales	Kelly Kilpatrick	✉

1 - 2 / 2

マイ保存済み検索 | 検索の保存 | 結果をエクスポート | 検索の訂正 | 新規検索

高度な検索を実行するには、次の手順を実行します。

- 1 [ディレクトリ検索] ページを開き、[新規検索] をクリックします。デフォルト設定では、[基本検索] ページが開きます。
- 2 [高度な検索] をクリックします。[高度な検索] ページが開きます。

検索リスト ? [印刷] [閉]

高度な検索. 検索の条件を1つまたは複数指定します。

検索語句: ユーザ

この基準を使用:

項目カテゴリ	式	検索条件	基準の追加/削除
名	次で始まる		+

+ 基準グループの追加

検索

マイ保存済み検索 | 基本検索

- 3 [検索語句] ドロップダウンリストで、検索する情報の種類を次の中から選択します。
 - ◆ グループ
 - ◆ ユーザ
 これで、[この基準を使用] セクションで値を指定できる状態になりました。
- 4 検索条件グループの検索条件を指定します。
 - 4a [項目カテゴリ] ドロップダウンリストを使用して、検索する属性を選択します。たとえば、次のような指定内容です。

Last Name

選択可能な属性のリストは、検索対象(ユーザまたはグループ)によって決まります。

- 4b** [式] ドロップダウンリストを使用して、比較演算を選択し、選択した属性に対して実行します。たとえば、次のような指定内容です。

equals

詳細については、77 ページのセクション 6.3.1「式の選択」を参照してください。

- 4c** [検索語] 入力ボックスを使用して、選択した属性と比較する値を指定します。たとえば、次のような指定内容です。

Smith

詳細については、79 ページのセクション 6.3.2「比較する値の指定」を参照してください。

- 5** 検索条件グループの2つめの検索条件を指定するには、次の手順を実行します。

- 5a** 検索条件グループの右にある [基準の追加] ボタンをクリックします。



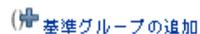
- 5b** 新規に追加された検索条件の左に表示される [検索条件論理演算子] ドロップダウンリストボックスで [および] または [または] を選択し、この検索条件を1つ目の検索条件と結び付けます。条件グループ内では、2種類の論理演算子のうちから1種類のみを使用できます。

- 5c** この手順をステップ 4 から繰り返します。

条件を削除するには、右側の [基準の削除] をクリックします。

- 6** 2つ目の検索条件グループを指定するには、次の手順を実行します。

- 6a** [基準グループの追加] をクリックします。



- 6b** 新規に追加した検索条件グループの上に表示される [検索条件グループ論理演算子] ドロップダウンリストで [および] または [または] を選択し、この検索条件グループを1つ目の検索条件グループと結び付けます。

- 6c** この手順をステップ 4 から繰り返します。

条件グループを削除するには、真上にある [基準グループの追加] をクリックします。

- 7** [検索] をクリックします。

検索結果が表示されます。

次に行う作業については、84 ページのセクション 6.4「検索結果の使用」を参照してください。

6.3.1 式の選択

[式] をクリックして検索用の比較条件を選択します。検索条件の中で使用できる比較演算は、その検索条件の中で指定した属性の種類によって決まります。

表 6-1 検索用の比較演算

属性の種類	選択可能な比較演算
文字列 (テキスト)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 次で始まる ◆ 次を含む ◆ 次と等しい ◆ 次で終わる ◆ 存在する ◆ 次で始まらない ◆ 次を含まない ◆ 次と等しくない ◆ 次では終了しない ◆ 存在しない
あらかじめ設定されている選択項目リスト内の文字列 (テキスト)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 次と等しい ◆ 存在する
ユーザまたはグループ (または DN によって特定される他のオブジェクト)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 次と等しくない ◆ 存在しない
ブール値 (True または False)	
ユーザ (項目カテゴリ: マネージャ、グループ、または直属の部下)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 次と等しい ◆ 存在する ◆ 次と等しくない ◆ 存在しない
グループ (項目カテゴリ: メンバー)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 次と等しい ◆ 存在する ◆ 次と等しくない ◆ 存在しない
日時 (日付 / 時刻形式または日付のみ形式)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 次と等しい
数値 (整数)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ より大きい ◆ より大きいか等しい ◆ より小さい ◆ より小さいか等しい ◆ 存在する ◆ 次と等しくない ◆ より大きくない ◆ より大きくないか等しい ◆ より小さくない ◆ より小さくないか等しい ◆ 存在しない

6.3.2 比較する値の指定

検索条件の中で指定した属性の種類によって、比較に使う値の指定方法が決まります。

表 6-2 比較値を入力する方法

属性の種類	値の指定方法
文字列 (テキスト)	右側に表示されるテキストボックスにテキストを入力します。
あらかじめ設定されている選択項目リスト内の文字列 (テキスト)	右側に表示されるドロップダウンリストで項目を選択します。
ユーザまたはグループ (または DN によって特定される他のオブジェクト)	右側に表示される [ルックアップ] ボタン、[履歴] ボタン、および [リセット] ボタンを使用します。
日時 (日付 / 時刻形式または日付のみ形式)	右側に表示される [カレンダー] ボタンおよび [履歴] ボタンを使用します。
数値 (整数)	右側に表示されるテキストボックスに数値を入力します。
ブール値 (True または False)	右側に表示されるテキストボックスに「true」または「false」と入力します。

比較演算が次のいずれかの場合は、値を指定しないでください。

- 存在する
- 存在しない

テキストの大文字 / 小文字

テキスト検索では大文字 / 小文字が区別されません。つまり、値を入力する際に大文字を使っても小文字を使っても、検索結果は同じになります。たとえば次の値を入力した場合、検索結果は同じになります。

McDonald

mcdonald

MCDONALD

テキスト内でのワイルドカードの使用

テキストの中でワイルドカードとしてアスタリスク (*) を使うこともできます。このワイルドカードは、0 個以上の任意の文字を表します。たとえば、次のような指定内容です。

Mc*

*Donald

Don

McD*d

[ルックアップ] ボタン、[履歴] ボタン、および [リセット] ボタンの使用

検索条件には [ルックアップ] ボタン、[履歴] ボタン、および [リセット] ボタンが表示されるものもあります。この節では、次のボタンの使用方法について説明します。

表 6-3 検索条件における [ルックアップ] ボタン、[履歴] ボタン、および [リセット] ボタン

ボタン	動作内容
	比較に使う値を検索する
	比較に使われた値の履歴リストを表示する
	比較に使う値をリセットする

ユーザを検索するには

- 1 ユーザを検索したいフィールドの右側にある [ルックアップ] ボタンをクリックします。

■

[ルックアップ] ページが開きます。



- 2 目的のユーザを探すための検索条件を指定します。
 - 2a ドロップダウンリストを使用して、検索キーの種類として [名] または [姓] を選択します。
 - 2b ドロップダウンリストの横にあるテキストボックスに、検索したいユーザの名前全体または名前の一部を入力します。

入力したテキストで始まるすべての名前がヒットします。パスワードは、大文字、小文字が区別されません。テキストの中でワイルドカードとしてアスタリスク (*) を使うこともできます。このワイルドカードは、0 個以上の任意の文字を表します。

たとえば、次のどの検索テキストを入力した場合でも、「Chip」という名がヒットします。

```
Chip
chip
c
c*
*p
*h*
```

- 3 [検索] をクリックします。
[コンテナルックアップ] ページに検索結果が表示されます。



目的のユーザが検索結果に含まれている場合は、**ステップ 4**に進みます。含まれていない場合は、**ステップ 2**に戻ります。

カラムの見出しをクリックすると、検索結果を昇順または降順でソートできます。

- 4 検索結果の中から目的のユーザを選択します。
[オブジェクトルックアップ] ページが閉じ、選択したユーザの名前が、比較に使う値として該当フィールドに入力されます。

ユーザの検索条件としてのグループを検索するには、次の手順を実行します。

- 1 検索条件として [グループ] を追加し、[ルックアップ] ([検索条件] フィールドの右側) をクリックします。



[ルックアップ] ページに 検索結果が表示されます。



2 目的のグループを探すための検索条件を指定します。

2a ドロップダウンリストでは、*[説明]*しか選択できません。

2b ドロップダウンリストの横にあるテキストボックスに、検索したい説明全体または説明の一部を入力します。

入力したテキストで始まるすべての説明がヒットします。パスワードは、大文字、小文字が区別されません。テキストの中でワイルドカードとしてアスタリスク (*) を使うこともできます。このワイルドカードは、0 個以上の任意の文字を表します。

たとえば、次のどの検索テキストを入力した場合でも、「Marketing」という説明がヒットします。

```
Marketing
marketing
m
m*
*g
*k*
```

3 *[検索]* をクリックします。

[コンテナルックアップ] ページに検索結果が表示されます。



目的のグループが検索結果に含まれている場合は、**ステップ 4**に進みます。含まれていない場合は、**ステップ 2**に戻ります。

カラムの見出しをクリックすると、検索結果を昇順または降順でソートできます。

4 検索結果の中から目的のグループを選択します。

[ルックアップ] ページが閉じ、選択したグループの説明が、比較に使う値として該当フィールドに入力されます。

履歴リストを使用するには、次の手順を実行します。

1 以前入力した値を確認したいフィールドの右側にある [履歴]  ボタンをクリックします。

履歴リストには、この条件に対する以前の値がアルファベット順に表示されます。



2 次のいずれかの操作を行います。

必要な作業	操作手順
履歴リスト内の値を選択する	目的の値を履歴リストから選択します。 履歴リストが閉じ、選択した値が、比較に使う値として該当フィールドに入力されます。

必要な作業	操作手順
履歴リストをクリアする	<p>[履歴のクリア] をクリックします。</p> <p>履歴リストが閉じ、履歴リストの内容が削除されます。なお、履歴リストをクリアしても、比較に使う値として現在入力されている値は変更されません。</p>

6.4 検索結果の使用

この項では、検索実行後に表示される検索結果の使用方法について説明します。

- ◆ 84 ページのセクション 6.4.1 「検索結果の概要」
- ◆ 85 ページのセクション 6.4.2 「検索リストの使用」
- ◆ 87 ページのセクション 6.4.3 「他に実行できるアクション」

6.4.1 検索結果の概要

検索結果の内容は、実行した検索の種類によって異なります。

- ◆ 84 ページの「ユーザ検索について」
- ◆ 85 ページの「グループ検索について」

いずれの検索結果ページにおいても、次を選択できます。

- ◆ [マイ保存済み検索] の表示
- ◆ 検索の保存
- ◆ 検索の修正
- ◆ 結果のエクスポート
- ◆ 新規検索の開始

ユーザ検索について

ユーザを検索した場合、[検索結果] ページには、ユーザを 3 とおりの観点から見た情報が次のそれぞれのタブに表示されます。

- ◆ [識別子] タブ (連絡先情報)
- ◆ [位置] タブ (場所情報)
- ◆ [組織] タブ (組織情報)

図 6-8 ユーザ検索の結果

検索リスト

検索結果。下のタブを使用して結果セットのさまざまなビューを表示できます。

ユーザ、(グループ 次と等しくない) Marketing group又は (グループ 次と等しい) Sales)
 ソート基準: 姓
 合計一致件数: 16

識別子	位置	組織	電子メール	電話番号
名	姓	役職		
Chris	Black	Sales Director, Black	✉	(555) 555-1338
Bill	Burke	Sales manager, Central	✉	(555) 555 1210
Ren	Carson	Account Executive		
Cal	Central	VP, North American Sales	✉	(555) 555-1209
Bob	Jenner	Account Executive	✉	(555) 555 1314
Brad	Jones		✉	(555) 555 1313
Kip	Keller	VP, North American Sales		
Kelly	Kilpatrick	Sr. VP, Worldwide Sales		
Marvin	Marvinov			
Jack	Miller	President, CEO		

1 - 10 / 16

次へ 最後

マイ保存済み検索 検索の保存 結果をエクスポート 検索の訂正 新規検索

グループ検索について

グループを検索した場合、次のように情報の組織ビューのみが表示されます。

図 6-9 グループ検索の結果

検索リスト

検索結果。下のタブを使用して結果セットのさまざまなビューを表示できます。

グループ: (説明 存在する)
 ソート基準: 説明
 合計一致件数: 10

組織
説明
decription 1
Executive Management Group
Improve Customer Service task force
Marketing group
New group
Object 2
QA
Sales
test
users

1 - 10 / 10

マイ保存済み検索 検索の保存 結果をエクスポート 検索の訂正 新規検索

6.4.2 検索リストの使用

検索結果の行のリストに対して次の操作を実行できます。

- ◆ 86 ページの「別のビューに切り替えるには」
- ◆ 86 ページの「情報行をソートするには」

- ◆ 86 ページの「ユーザまたはグループの詳細を表示するには」
- ◆ 86 ページの「検索リスト内のユーザに電子メールを送信するには」

別のビューに切り替えるには

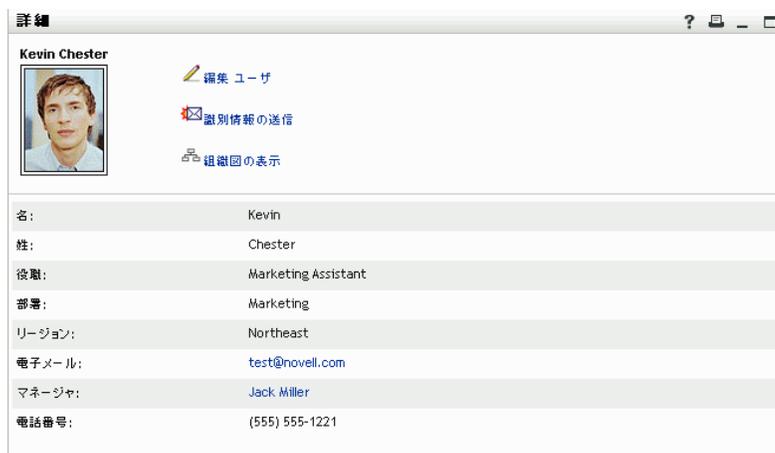
- 1 表示したいビューに対応するタブをクリックします。

情報行をソートするには

- 1 ソートしたいカラムの見出しをクリックします。
初期状態では、昇順にソートされます。
- 2 昇順と降順を切り替えるには、カラムの見出しを再度クリックします。

ユーザまたはグループの詳細を表示するには

- 1 詳細情報を表示したいユーザまたはグループの行をクリックします。その際、電子メールアイコンをクリックしないよう気を付けてください。
プロフィールページが開き、選択したユーザまたはグループの詳細情報が表示されます。



このページは、[Identity セルフサービス] タブの [マイプロフィール] ページによく似ています。唯一の違いは、自分の代わりに他ユーザまたは他グループの詳細情報を表示しているときに、一部のデータを表示することや一部のアクションを実行することができない場合がある、という点です。不明点は、システム管理者に問い合わせてください。

[プロフィール] ページの各機能の使用方法については、59 ページの第 5 章「[マイプロフィール] ページの使用」を参照してください。

- 2 [プロフィール] ページでの作業が終了したら、そのウィンドウを閉じることができます。

検索リスト内のユーザに電子メールを送信するには

- 1 電子メールを送信したいユーザを探します。
- 2 そのユーザ行にある [電子メールの送信]  をクリックします。

デフォルトの電子メールクライアントソフトウェアで新規メッセージが作成されます。[宛先] ボックスには、選択したユーザが受信者として表示されます。それ以外の項目は空白になっています。

- 3 メッセージの内容を入力します。
- 4 メッセージを送信します。

6.4.3 他に実行できるアクション

検索結果を表示しているとき、次の作業も実行できます。

- ◆ 87 ページの「検索条件の保存」
- ◆ 87 ページの「検索結果のエクスポート」
- ◆ 89 ページの「検索条件の修正」

検索条件の保存

後で再利用できるように現在の検索条件を保存するには、次の手順を実行します。

- 1 [検索条件の保存] (ページの最下部) をクリックします。
- 2 検索条件に名前を付けるよう要求された場合、名前を指定します。

すでに保存されている検索条件を使って検索した結果を表示している場合は、その検索条件名がデフォルトで表示されます。その際、保存されている検索条件に何らかの修正を加えて検索を実行した場合は、保存されている検索条件が修正後の検索条件に置き換わります。

新規の検索条件で検索した結果を表示していて、すでに保存されている検索条件と重複する名前を入力した場合、保存時にその名前の末尾にバージョン番号が自動的に付加されます。

- 3 [OK] をクリックし、検索条件を保存します。

[検索リスト] ページには [マイ保存済み検索] のリストが表示されます。

保存した更新条件の使用方法については、89 ページのセクション 6.5「保存済み検索条件の使用」を参照してください。

検索結果のエクスポート

検索結果をテキストファイルにエクスポートするには、次の手順を実行します。

- 1 [結果をエクスポート] (ページの最下部) をクリックします。
[エクスポート] ページが開きます。

ポートレットのエクスポート

データを画面で表示するか、エクスポートするかを選択します。フォーマットを選択してから、ボタンをクリックして続行します。終了したら、ウィンドウを閉じます。

モード フォーマット

画面に表示 CSV **表示**

ディスクにエクスポート

名	姓	役職	電子メール	電話番号
Bill,	Burke,	Sales manager, Central,	test@novel.com,	(555) 555 1210
Bob,	Jenner,	Account Executive,	test@novell.com,	(555) 555 1314
Brad,	Jones,	,	test@novell.com,	(555) 555 1313

ウィンドウを閉じる

デフォルトでは、[画面に表示] が選択されており、形式のドロップダウンリストでは、[CSV] が選択されています。したがって、[エクスポート] ページには、現在の検索結果が CSV (カンマ区切り) 形式で表示されます。

- 2 検索結果をタブ区切り形式にした場合にどのようなようになるかを確認するには、ドロップダウンリストで [タブ区切り] を選択し、[続行] ボタンをクリックします。
- 3 現在の検索結果をテキストファイルにエクスポートする準備が整ったら、[ディスクにエクスポート] を選択します。
[エクスポート] ページが開きます。

ポートレットのエクスポート

データを画面に表示するか、エクスポートするかを選んでください。形式を選択し、[続行] ボタンをクリックして続行します。完了したらウィンドウを閉じます。

モード フォーマット

画面に表示 CSV **続行**

ディスクにエクスポート

ウィンドウを閉じる

- 4 [形式] ドロップダウンリストを使用して検索結果のエクスポート形式を選択します。

エクスポート形式	生成ファイルのデフォルト名
CSV	SearchListResult. <i>date</i> . <i>time</i> .csv たとえば、次のような指定内容です。 SearchListResult.27-Sep-05.11.21.47.csv
タブ区切り	SearchListResult. <i>date</i> . <i>time</i> .txt たとえば、次のような指定内容です。 SearchListResult.27-Sep-05.11.20.51.txt

エクスポート形式	生成ファイルのデフォルト名
XML (ディスクにエクスポートする場合に利用可能)	SearchListResult. date. time.xml たとえば、次のような指定内容です。 SearchListResult.27-Sep-05.11.22.51.xml

- 5 [エクスポート] をクリックします。
- 6 検索結果エクスポートファイルの保存場所を指定するよう要求されたら、その名前を指定します。
- 7 エクスポートが完了したら、[ウィンドウを閉じる] をクリックします。

検索条件の修正

- 1 [検索の訂正] (ページの最下部) をクリックします。
これにより、以前の検索ページに戻り検索条件を編集できます。
- 2 次の項の説明に従って、検索条件を修正します。
 - ◆ 74 ページのセクション 6.2 「基本検索の実行」
 - ◆ 74 ページのセクション 6.3 「高度な検索の実行」

6.5 保存済み検索条件の使用

デフォルト設定では、アクションメニューの [ディレクトリ検索] をクリックすると、[マイ保存済み検索] ページが開きます。この項では、保存済み検索条件を使用して実行できることを説明します。

- ◆ 89 ページのセクション 6.5.1 「保存済み検索条件を一覧表示する」
- ◆ 90 ページのセクション 6.5.2 「保存済み検索条件を使って検索を実行する」
- ◆ 90 ページのセクション 6.5.3 「保存済み検索条件を編集するには」
- ◆ 90 ページのセクション 6.5.4 「保存済み検索条件を削除するには」

6.5.1 保存済み検索条件を一覧表示する

- 1 [ディレクトリ検索] ページの下部にある [マイ保存済み検索] ボタンをクリックします。[マイ保存済み検索] ページが表示されます。89 ページの  は例を示しています。

図 6-10 [マイ保存済み検索] ページ



6.5.2 保存済み検索条件を使って検索を実行する

- 1 [マイ保存済み検索] リストで、使用したい保存済み検索条件を探します。
- 2 保存済み検索の名前をクリックします (またはその行の頭をクリックします)。検索結果が表示されます。
次に行う作業については、[84 ページのセクション 6.4 「検索結果の使用」](#) を参照してください。

6.5.3 保存済み検索条件を編集するには

- 1 [マイ保存済み検索] リストで、修正したい保存済み検索条件を探します。
- 2 その保存済み検索条件の行の [編集] をクリックします。
すると、検索条件を編集する検索ページに移動します。
- 3 次の項の説明に従って、検索条件を修正します。
 - ◆ [74 ページのセクション 6.2 「基本検索の実行」](#)
 - ◆ [74 ページのセクション 6.3 「高度な検索の実行」](#)
- 4 修正した検索条件を保存する手順については、[84 ページのセクション 6.4 「検索結果の使用」](#) を参照してください。

6.5.4 保存済み検索条件を削除するには

- 1 [マイ保存済み検索] リストで、削除したい保存済み検索条件を探します。
- 2 その保存済み検索条件の行の [削除] をクリックします。
- 3 削除してもよいかどうかを確認するメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

パスワードの管理

この項では、Identity Manager ユーザアプリケーションの [Identity セルフサービス] タブに表示される、パスワード管理関連ページの使用方法について説明します。この節の内容は次のとおりです。

- ◆ 91 ページのセクション 7.1 「パスワード管理の概要」
- ◆ 92 ページのセクション 7.2 「パスワード確認の回答」
- ◆ 93 ページのセクション 7.3 「パスワードヒントの変更」
- ◆ 94 ページのセクション 7.4 「パスワード変更」
- ◆ 95 ページのセクション 7.5 「パスワードポリシーステータス」
- ◆ 96 ページのセクション 7.6 「パスワード同期ステータス」

注：この項では、パスワード管理関連ページのデフォルトの機能について説明します。ジョブの役割、権限レベル、および組織内でのカスタマイズのために、ご使用の Identity Manager ユーザアプリケーションと異なっている可能性があります。詳細については、システム管理者に相談してください。

[Identity セルフサービス] タブの使用に関する全般的な説明については、[35 ページの第 2 章「\[Identity セルフサービス\] タブの概要」](#)を参照してください。

7.1 パスワード管理の概要

パスワード管理関連ページを使用すると、[表 7-1](#)に一覧されているすべての機能を実行できます。

表 7-1 パスワード管理機能

ページ名	実行できる作業
パスワード確認の回答	次の情報を設定または修正する <ul style="list-style-type: none"> ◆ システム管理者によって定義された本人確認の質問に対する、有効な回答 ◆ ユーザ定義の本人確認の質問とその回答
パスワードヒントの変更	自分のパスワードヒントを設定または修正する
パスワード変更	システム管理者によって定められたルールに従って、自分のパスワードを変更 (リセット) する
パスワードポリシーステータス	パスワードポリシーの要件を確認する。有効とマークされている要件を変更可能

ページ名	実行できる作業
パスワード同期ステータス	アプリケーションパスワードと識別ボールドとの同期の状態を表示する
<p>注: 同期が完了する前にアプリケーションにアクセスすると、アプリケーションアクセスの問題が発生します。</p>	

7.2 パスワード確認の回答

本人確認の質問は、ログイン時に自分のパスワードを忘れてしまったときに、自分が正規ユーザであることを証明する目的で使われます。システム管理者によって設定されたパスワードポリシーにおいて、この機能が自分に対して有効になっている場合、[パスワード確認の回答] ページで次の作業を実行できます。

- ◆ システム管理者によって定義された質問に対して有効であると考えられる、回答を指定する
- ◆ 自分専用の質問、およびその質問に対する有効な回答を指定する (この作業は、自分に関するパスワードポリシーでこの機能が有効になっている場合にのみ、実行できる)

[パスワード確認の回答] ページを使用するには

- 1 [Identity セルフサービス] タブのメニューで、[パスワードの管理] カテゴリにある [パスワード確認の回答] をクリックします。

[パスワード確認の回答] ページが開きます。たとえば、次のような指定内容です。

[回答] テキストボックスが空欄で表示されます (以前に回答を定義していた場合でも)。

- 2 それぞれの [回答] テキストボックス (すべて必須) に適切な回答を入力するか、以前に保存した回答を使用します。

回答は、後で思い出せる内容にしてください。

- 3 ユーザ定義の質問を指定または修正します (入力必須)。同じ質問を 1 回以上使用することはできません。
- 4 [送信] をクリックします。

処理状況が表示されます。たとえば、次のような指定内容です。



7.3 パスワードヒントの変更

パスワードヒントは、ログイン時に自分のパスワードを忘れてしまったときに、自分のパスワードを思い出すための手がかりとして使われます。[パスワードヒントの変更] ページで、自分のパスワードヒントを設定および修正できます。

- 1 [Identity セルフサービス] タブのメニューで、[パスワードの管理] カテゴリにある [パスワードヒントの変更] をクリックします。
[パスワードヒント定義] ページが開きます。



- 2 自分の新しいパスワードヒントを入力します。
パスワードヒントの中にパスワード自体を含めることはできません。
- 3 [送信] をクリックします。
処理状況が表示されます。たとえば、次のような指定内容です。



7.4 パスワード変更

パスワード変更権限がシステム管理者から付与されている場合、[パスワードの変更] ページで自分のパスワードを随時変更できます。

- 1 [Identity セルフサービス] タブのメニューで、[パスワードの管理] カテゴリにある [パスワードの変更] をクリックします。

[パスワードの変更] ページが開きます。システム管理者によって自分に関するパスワードポリシーが設定されている場合、一般に [パスワードの変更] ページには、そのパスワードポリシーを反映したパスワード指定方法が表示されます。たとえば、次のような指定内容です。

The screenshot shows the Novell Identity Manager interface. The top navigation bar includes 'ようこそBIll', '識別セルフサービス', and '要求と承認'. The left sidebar lists '情報管理' and 'パスワードの管理' with sub-items like 'パスワードの変更'. The main content area is titled 'パスワードの変更' and contains the following text: 'パスワードには次のプロパティが必要です:' followed by 'パスワードには数字を使用できます。' and 'パスワードに特殊文字を使用できます。'. Below this, two bullet points specify 'パスワードの最小文字数: 4' and 'パスワードの最大文字数: 12'. At the bottom, there are three input fields: '古いパスワード:', '新しいパスワード:', and 'パスワードを再入力してください:', each followed by a text box. A '送信' button is located at the bottom left of the form.

自分に関するパスワードポリシーが設定されていない場合、[パスワードの変更] ページの内容はは次のようになります。

The screenshot shows the Novell Identity Manager interface. The top navigation bar includes 'ようこそBIll', '識別セルフサービス', and '要求と承認'. The left sidebar lists '情報管理' and 'パスワードの管理' with sub-items like 'パスワードの変更'. The main content area is titled 'パスワードの変更' and contains three input fields: '古いパスワード:', '新しいパスワード:', and 'パスワードを再入力してください:', each followed by a text box. A '送信' button is located at the bottom left of the form.

- 2 [古いパスワード] テキストボックスに現在のパスワードを入力します。
- 3 [新しいパスワード] テキストボックスに新しいパスワードを入力します。
- 4 [パスワードを再入力してください] テキストボックスに、新しいパスワードをもう一度入力します。

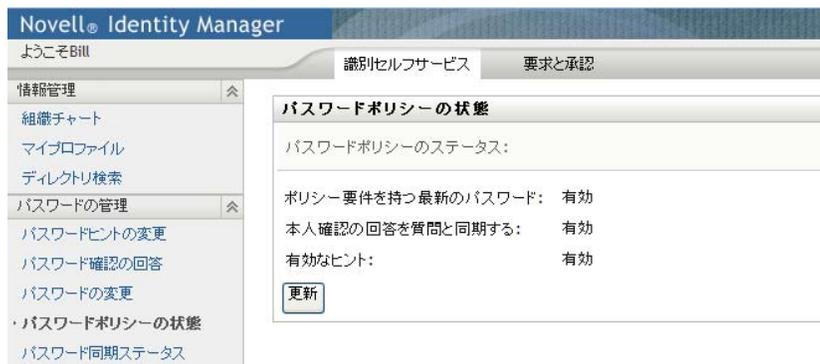
- 5 [送信] をクリックします。
- 6 管理者が設定したセキュリティポリシーによっては、パスワードヒントの入力を要求される場合があります。その場合は、[93 ページのセクション 7.3 「パスワードヒントの変更」](#)を参照してください。
- 7 処理状況が表示されます。たとえば、次のような指定内容です。



7.5 パスワードポリシーステータス

管理者によって、パスワードポリシーが割り当てられています。このポリシーは、パスワードに関連するセキュリティ対策を決定します。次のようにして、自分のパスワードポリシーの要件を確認できます。

- 1 [Identity セルフサービス] タブのメニューで、[パスワードの管理] カテゴリにある [パスワードポリシーの状態] をクリックします。すると [パスワードポリシーの状態] ページが表示されます。たとえば、次のような指定内容です。



無効となっている項目は、変更できない項目です。

7.6 パスワード同期ステータス

[パスワード同期ステータス] ページを使用して、アプリケーション間でパスワードが同期されているかを判断します。パスワードが必ず同期されてから他のアプリケーションにアクセスします。同期が完了する前にアプリケーションにアクセスすると、アプリケーションアクセスの問題が発生します。

- 1 [Identity セルフサービス] タブのメニューで、[パスワードの管理] カテゴリにある [パスワード同期ステータス] をクリックします。すると [パスワード同期ステータス] ページが表示されます。フルカラー表示のアイコンは、パスワードが同期されたアプリケーションを示します。淡色表示のアイコンは、同期が済んでいないアプリケーションを示します。たとえば、次のような指定内容です。



ユーザまたはグループの作成

この項では、Identity Manager ユーザアプリケーションの [Identity セルフサービス] タブに表示される [ユーザまたはグループの作成] ページの使用方法について説明します。この節の内容は次のとおりです。

- 97 ページのセクション 8.1 「ユーザまたはグループの作成の概要」
- 97 ページのセクション 8.2 「ユーザの作成」
- 100 ページのセクション 8.3 「グループの作成」
- 101 ページのセクション 8.4 「編集用ボタンの使用」

[Identity セルフサービス] タブの使用に関する全般的な説明については、35 ページの第 2 章「[Identity セルフサービス] タブの概要」を参照してください。

8.1 ユーザまたはグループの作成の概要

システム管理者は、[ユーザまたはグループの作成] ページを使用してユーザおよびグループを作成できます。システム管理者は、このページへのアクセス権限を他のユーザ（通常、管理または経営者によって選ばれた人々）に付与できます。

この項で説明している機能とご使用の環境とが異なっている可能性があります。理由としては、自分のジョブ役割、自分の権限レベル、および組織内のカスタマイズが考えられます。詳細は、システム管理者にお問い合わせください。

[ユーザまたはグループの作成] ページの使用をユーザに許可する手順については、『Identity Manager ユーザアプリケーション：管理ガイド(<http://www.novell.com/documentation/idmrbpm361/index.html>)』の「ページ管理」の項を参照してください。使用を許可するには、iManager を開き、Trustee としてユーザを追加し、「Create to the Trustee」と呼ばれる Assigned Right(割り当て済み権限) を追加します。

すでに存在するユーザまたはグループを確認するには、[ディレクトリ検索] ページを使用します。詳細については、71 ページの第 6 章「ディレクトリ検索の使用」を参照してください。

8.2 ユーザの作成

- 1 [Identity セルフサービス] タブのメニューで、[ディレクトリ管理] にある [ユーザまたはグループの作成] をクリックします。
[作成するオブジェクトの選択] パネルが開きます。



- 2 [オブジェクトタイプ] ドロップダウンリストで [ユーザ] を選択し、[続行] をクリックします。

[次の対象の属性を設定する: ユーザ] パネルが表示されます。

- 3 次の属性 (必須) の値を指定します。

属性	指定する内容
ユーザ ID	作成するユーザに対するユーザ名。

属性	指定する内容
コンテナ	<p>作成するユーザ (部門によって命名されたユーザなど) の格納先となる識別ポート内にある部門。たとえば、次のような指定内容です。</p> <pre>ou=users,ou=MyUnit,o=MyOrg</pre> <p>コンテナ指定時に使用可能なボタンについては、101 ページのセクション 8.4 「編集用ボタンの使用」 を参照してください。</p> <p>この種類のオブジェクトに対するデフォルトのコンテナがシステム管理者によって設定されている場合は、コンテナの指定を要求されません。</p>
名前	ユーザの名前。
名字	ユーザの名字。

- 4 作成するユーザの詳細 (肩書、部署、電子メール、マネージャ、または電話番号など) をオプションで指定します。

特定の属性の指定時に使用可能なボタンについては、[97 ページのセクション 8.2 「ユーザの作成」](#) を参照してください。

- 5 [続行] をクリックします。
[パスワードの作成] パネルが開きます。

目的のコンテナに関するパスワードポリシーが設定されている場合、このパネルには、そのパスワードポリシーを反映したパスワード指定方法が表示されます。また、入力したパスワードがそのパスワードポリシーに準拠しているかどうか、検査されます。

- 6 作成するユーザに対するパスワードを [パスワード] ボックスと [パスワードの確認] ボックスに入力し、[続行] をクリックします。

これにより、作成するユーザの初期パスワードが設定されます。このユーザは初回ログイン時、このパスワードを変更するよう要求されます。

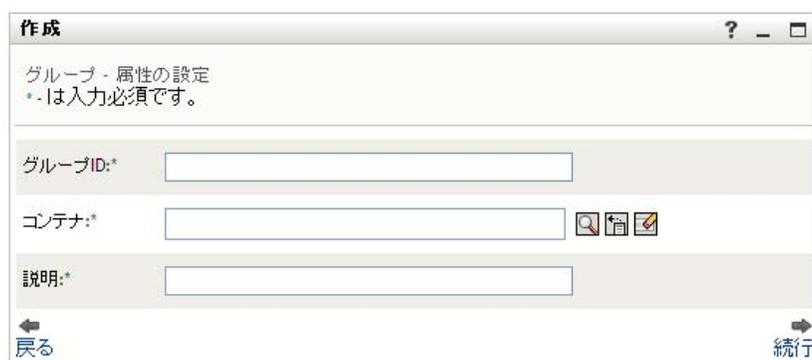
ユーザとパスワードが作成され、[レビュー] パネルに作成結果の概要が表示されます。

[レビュー] パネルでは、便利なリンクがオプションで提供されています。

- 作成したユーザの名前をクリックすると、[プロフィール] ページが開き、このユーザの詳細情報が表示されます。[プロフィール] ページから、ユーザの詳細を編集して変更したり、ユーザを削除したりできます。
- [別に作成] をクリックすると、[ユーザまたはグループの作成] ページの初期パネルに戻ります。

8.3 グループの作成

- 1 [Identity セルブサービス] タブのメニューで、[ユーザまたはグループの作成] ([ディレクトリ管理] カテゴリにある) をクリックします。
[作成するオブジェクトの選択] パネルが開きます。
- 2 [オブジェクトタイプ] ドロップダウンリストで [グループ] を選択し、[続行] をクリックします。
[次の対象の属性を設定する: グループ] パネルが開きます。



- 3 次の属性 (必須) の値を指定します。

属性	指定する内容
グループ ID	作成するグループに対するグループ名。
コンテナ	作成するグループの格納先となる内の、部門 (部門によって命名されたグループ)。たとえば、次のような指定内容です。 <code>ou=groups,ou=MyUnit,o=MyOrg</code> コンテナ指定時に使用可能なボタンについては、 97 ページのセクション 8.2 「ユーザの作成」 を参照してください。
説明	作成するグループの説明。

- 4 [続行] をクリックします。
グループが作成され、[レビュー] パネルに作成結果の概要が表示されます。



[レビュー] パネルでは、便利なリンクがオプションで提供されています。

- ◆ 作成したグループの名前をクリックすると、プロフィールページが開き、このグループの詳細情報が表示されます。

[プロフィール] ページから、グループの詳細を編集して変更したり、グループを削除したりできます。

- ◆ [別に作成] をクリックすると、[ユーザまたはグループの作成] ページの初期パネルに戻ります。

8.4 編集用ボタンの使用

表 8-1 は、属性に値を指定するのに使用できる編集用ボタンのリストです。

表 8-1 ユーザおよびグループを指定する編集用ボタン

ボタン	動作内容
	入力する値を検索する
	以前入力した値の履歴リストを表示する
	選択したエントリの値をリセットする
	新しいエントリを追加する。複数のエントリが追加可能
	複数のエントリが存在することを示す
	選択したエントリおよびその値を削除する

重要: [Identity セルフサービス] タブの [ユーザの編集] ページを使用して、階層的なレポート構造を分割できます。たとえば、あるユーザにすでにマネージャが割り当てられている場合でも、他のマネージャの直属の部下としてこのユーザを追加できます。また、あるマネージャに彼/彼女の組織に属する人物に報告してもらうこともできます。

8.4.1 コンテナを検索するには

- 1 コンテナを検索したいエントリの右側にある [ルックアップ] ボタンをクリックします。



[コンテナルックアップ] ページにコンテナのツリーが表示されます。



このツリーの [+] ボタンまたは [-] ボタンをクリックしてノードを展開表示または縮小表示することにより、目的のコンテナを探すことができます。

2 必要があれば、目的のコンテナを探すための検索条件を指定します。

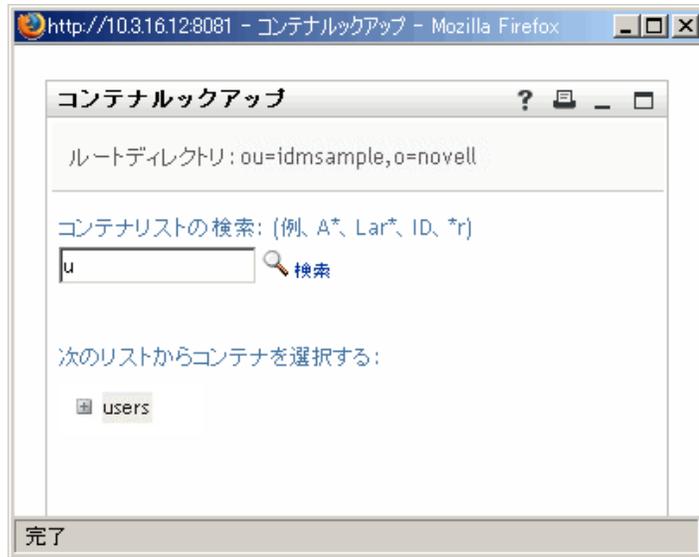
テキストボックスに、検索したいコンテナの名前全体または名前の一部を入力します。入力したテキストで始まるすべてのコンテナ名がヒットします。パスワードは、大文字、小文字が区別されません。テキストの中でワイルドカードとしてアスタリスク (*) を使うこともできます。このワイルドカードは、0 個以上の任意の文字を表します。

たとえば、次のどの検索テキストを入力した場合でも、「users」という名前のコンテナがヒットします。

```
Users
users
u
u*
*s
*r*
```

3 [検索] をクリックします。

[コンテナルックアップ] ページに検索結果が表示されます。



- 4 ツリーから目的のコンテナを選択します。

[コンテナルックアップ] ページが閉じ、選択したコンテナの名前が該当フィールドに入力されます。

8.4.2 ユーザを検索するには

- 1 ユーザを検索したいフィールドの右側にある [ルックアップ] ボタンをクリックします。

■

[ルックアップ] ページが開きます。



- 2 目的のユーザを探すための検索条件を指定します。
 - 2a ドロップダウンリストを使用して、検索キーの種類として [名] または [姓] を選択します。
 - 2b ドロップダウンリストの横にあるテキストボックスに、検索したいユーザの名前全体または名前の一部を入力します。

入力したテキストで始まるすべての名前がヒットします。パスワードは、大文字、小文字が区別されません。テキストの中でワイルドカードとしてアスタリスク (*) を使うこともできます。このワイルドカードは、0 個以上の任意の文字を表します。

たとえば、次のどの検索テキストを入力した場合でも、「Chip」という名がヒットします。

```
Chip  
chip  
c  
c*  
*p  
*h*
```

マネージャに対する検索処理を実行する場合、マネージャであるユーザのみが検索対象になります。

3 [検索] をクリックします。

[コンテナルックアップ] ページに検索結果が表示されます。



目的のユーザが検索結果に含まれている場合は、**ステップ 4**に進みます。含まれていない場合は、**ステップ 2**に戻ります。

カラムの見出しをクリックすると、検索結果を昇順または降順でソートできます。

4 検索結果の中から目的のユーザを選択します。

[ルックアップ] ページが閉じ、選択したユーザの名前が該当フィールドに入力されます。

8.4.3 履歴リストを使用するには

1 以前入力した値を確認したいフィールドの右側にある [履歴] ボタンをクリックします。

☐

履歴リストが開き、以前入力した値がアルファベット順に表示されます。



2 次のいずれかの操作を行います。

必要な作業	操作手順
履歴リスト内の値を選択する	目的の値を履歴リストから選択します。 履歴リストが閉じ、選択した値が該当フィールドに入力されます。
履歴リストをクリアする	[履歴のクリア] をクリックします。 履歴リストが閉じ、履歴リストの内容が削除されます。履歴リストをクリアしても、現在入力されている値は変更されません。

[要求と承認] タブの使用



この項では、Identity Manager ユーザアプリケーションの [要求と承認] タブの使用方法について説明します。

- ◆ 109 ページの第 9 章「[要求と承認] タブの概要」
- ◆ 119 ページの第 10 章「自分の作業の管理」
- ◆ 141 ページの第 11 章「プロビジョニング情報の設定」
- ◆ 155 ページの第 12 章「自チームの作業の管理」
- ◆ 181 ページの第 13 章「自チームのプロビジョニング情報の設定」

[要求と承認] タブの概要

この項では、[要求と承認] タブの概要について説明します。この節の内容は次のとおりです。

- ◆ 109 ページのセクション 9.1 「[要求と承認] タブの目的」
- ◆ 110 ページのセクション 9.2 「[要求と承認] タブの使用」
- ◆ 110 ページのセクション 9.3 「[Identity セルフサービス] タブの機能」
- ◆ 112 ページのセクション 9.4 「[要求と承認] タブで実行できるアクション」
- ◆ 114 ページのセクション 9.5 「[要求と承認] ページの凡例」

Identity Manager ユーザインタフェースの使用に関する全般的な説明については、17 ページの第 1 章「はじめに」を参照してください。

9.1 [要求と承認] タブの目的

[要求と承認] タブの目的は、ワークフローベースのプロビジョニングアクションをユーザが簡単に実行できるようにすることです。これらのアクションを実行することにより、組織内のセキュリティ保護されたリソースへのユーザアクセスを管理できます。このようなリソースには、ユーザアカウント、コンピュータ、データベースなどのデジタルエンティティが含まれます。たとえば、[要求と承認] タブを使用して次の作業を実行できます。

- ◆ プロビジョニング要求を行なう
- ◆ プロビジョニング作業の管理 (リソース要求、および役割要求と検証要求に関連するワークフロータスク)
- ◆ 自分自身または自分のチームに関するプロビジョニング情報の設定

プロビジョニング要求に対して、組織内の 1 人以上の個人による承認が必要な場合、ワークフローが開始されます。ワークフローは、要求の実行に必要な承認をコーディネートします。1 人の個人からの承認を必要とするプロビジョニング要求もあれば、複数の個人からの承認を必要とする要求もあります。場合によっては、承認なしに実行できる要求もあります。

プロビジョニング要求が開始されると、プロビジョニングシステムによってイニシエータと受信者が追跡されます。イニシエータとは、要求を作成した人のことです。受信者とは、作成した要求の宛先人のことです。

ワークフロー設計者およびシステム管理者は、組織内のユーザのために [要求と承認] タブの内容をセットアップする役割を担っています。プロビジョニングワークフローの制御の流れ、およびフォームの外観は、Identity Manager の Designer の中でプロビジョニング要求がどのように定義されたかによって変化します。加えて、通常各ユーザが表示できる情報および実行できる操作は、ユーザのジョブ要件と権限レベルによって決まります。

プロビジョニングワークフローの設計のカスタマイズに関する詳細については、『*Identity Manager ユーザアプリケーション：設計ガイド* (<http://www.novell.com/documentation/idmrpbm361/index.html>)』を参照してください。ワークフロー管理の詳細については、『*Identity Manager ユーザアプリケーション：管理ガイド* (<http://www.novell.com/documentation/idmrpbm361/index.html>)』を参照してください。

9.2 [要求と承認] タブの使用

デフォルト設定では、Identity Manager ユーザインタフェースにログインすると、[要求と承認] タブの [マイタスク] ページが開きます。

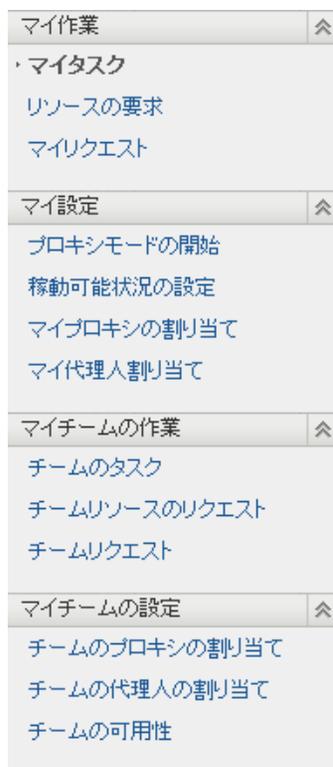


Identity Manager ユーザインタフェースの別のタブを開いた後、このタブに戻るには、[要求と承認] タブをクリックします。

9.3 [Identity セルフサービス] タブの機能

この項では、[要求と承認] タブのデフォルトの機能について説明します。(ご使用のタブは組織向けにカスタマイズされていると外観が異なって見える可能性があります。システム管理者またはワークフロー設計者にご相談ください。)

[要求と承認] タブの左部には、実行可能なアクションのメニューが表示されます。アクションはカテゴリ別に表示されます。カテゴリには、[マイ作業]、[マイ設定]、[マイチームの作業]、[マイチームの設定] の4種類があります。



[マイチームの作業] および [マイチームの設定] アクションは、チームマネージャに対してのみ表示されます。

アクションをクリックすると、対応するページが右部に表示されます。通常、ページには、そのアクションに関する詳細情報が表示されるパネルがあります。たとえば次のように、データの入力や項目の選択が可能なフィールドが表示されます。

図 9-1 アクションを表示するページ



[要求と承認] タブのほとんどのページでは、右上隅にボタンがあります。このボタンをクリックすると、[要求と承認] ページの凡例が表示されます。



[要求と承認] ページの凡例の詳細については、114 ページのセクション 9.5 「[要求と承認] ページの凡例」を参照してください。

9.4 [要求と承認] タブで実行できるアクション

[要求と承認] タブでデフォルトで実行可能なアクションの概要を次の表に示します。

表 9-1 要求と承認のアクション

カテゴリ	アクション	説明
マイ作業	マイタスク	<p>自分のワークフローキュー内で現在自分に割り当てられている、承認タスクが表示されます。これらのタスクは、リソース要求に関連付けられていることも、さらに役割および検証要求に関連付けられていることもあります。</p> <p>タスクがデジタル署名を要求する場合、マイタスクアクションによりデジタル署名を持つタスクの承認 / 承認不可を行う仕組みが提供されます。</p> <hr/> <p>警告： デジタル署名したドキュメントを保持するには、Novell Audit(または Sentinel)を使用する必要があります。デジタル署名ドキュメントはワークフローデータと一緒にユーザアプリケーションデータベースには保管されません。ログデータベースに保管されます。これらのドキュメントを保管するには、ログを有効にする必要があります。</p> <hr/> <p>タスクが複数の受取人に割り当てられている場合、マイタスクアクションによりそのタスク向けの承認要件および受取人リストと承認ステータスを確認する仕組みが提供されます。</p> <p>詳細については、119 ページの第 10 章「自分の作業の管理」を参照してください。</p>
	リソース要求	<p>リソース要求を発行できます。</p> <p>リソース要求がデジタル署名を要求する場合、リソース要求アクションによりデジタル署名と要求を関連付ける仕組みが提供されます。</p> <p>詳細については、119 ページの第 10 章「自分の作業の管理」を参照してください。</p>
	マイリクエスト	<p>自分が作成した要求、または自分を対象にした要求の、処理状況が表示されます。そのため、要求のリストには、自分がイニシエータまたは受信者となっている、受信者向けに表示権限を与えるための要求が含まれています。</p> <p>詳細については、119 ページの第 10 章「自分の作業の管理」を参照してください。</p>

カテゴリ	アクション	説明
マイ設定	代理人モードの開始	他のユーザのプロキシ(代理)としての働きを担います。 詳細については、 141 ページの第 11 章「プロビジョニング情報の設定」 を参照してください。
	可用性の設定	自分が処理できる要求、および委任先に実行させる要求を指定できます。 詳細については、 141 ページの第 11 章「プロビジョニング情報の設定」 を参照してください。
	マイ代理人割り当て	自分に関する代理割り当てを表示または編集できます。代理割り当てを編集するには、その権限を持っている必要があります。 詳細については、 141 ページの第 11 章「プロビジョニング情報の設定」 を参照してください。
	マイ委任先割り当て	自分に関する委任割り当てを表示または編集できます。委任割り当てを編集するには、必要な権限を持っている必要があります。 詳細については、 141 ページの第 11 章「プロビジョニング情報の設定」 を参照してください。
マイチームの作業	チームのタスク	自チームのメンバーに割り当てられている、承認タスクが表示されます。 チームに定義されている権限に基づき、このアクションによってタスクの引き受けまたは再割り当て、あるいはその両方が可能です。 タスクがデジタル署名を要求する場合、チームのタスクアクションによりデジタル署名を持つタスクの承認/承認不可を行う仕組みが提供されます。 タスクが複数の受取人に割り当てられている場合、チームのタスクアクションによりそのタスク向けの承認要件および受取人リストと承認ステータスを確認する仕組みが提供されます。 詳細については、 155 ページの第 12 章「自チームの作業の管理」 を参照してください。
	チームリソース要求	自チームのメンバーのためのリソース要求を作成できます。 リソース要求がデジタル署名を要求する場合、チームリソース要求アクションによりデジタル署名と要求を関連付ける仕組みが提供されます。 詳細については、 155 ページの第 12 章「自チームの作業の管理」 を参照してください。
	チーム要求	自チームが作成した要求、または自分を対象にした要求の、処理状況が表示されます。 詳細については、 155 ページの第 12 章「自チームの作業の管理」 を参照してください。

カテゴリ	アクション	説明
マイチームの設定	チームの代理人割り当て	<p>自チームのメンバーに関する代理割り当てを定義できます。</p> <p>この機能はチーム定義で有効化する必要があります。この機能が無効になっていると、このアクションは許可されません。</p> <p>詳細については、181 ページの第 13 章「自チームのプロビジョニング情報の設定」を参照してください。</p>
	チームの委任割り当て	<p>自チームのメンバーに関する委任割り当てを定義できます。</p> <p>この機能はチーム権限定義で有効化する必要があります。チーム権限の中で、マネージャがチームメンバーを他のチームメンバーのプロビジョニング要求向けに代理人にできる設定になっている場合、このアクションはこれらの要求を処理できます。チーム権限定義でこの機能が無効になっていると、このアクションは許可されません。</p> <p>詳細については、181 ページの第 13 章「自チームのプロビジョニング情報の設定」を参照してください。</p>
	チームの可用性	<p>自チームのメンバーが処理できる要求タイプ、および自チームのメンバーの委任先に実行させる要求タイプを指定できます。</p> <p>この機能はチーム定義で有効化する必要があります。この機能が無効になっていると、このアクションは許可されません。</p> <p>詳細については、181 ページの第 13 章「自チームのプロビジョニング情報の設定」を参照してください。</p>

9.5 [要求と承認] ページの凡例

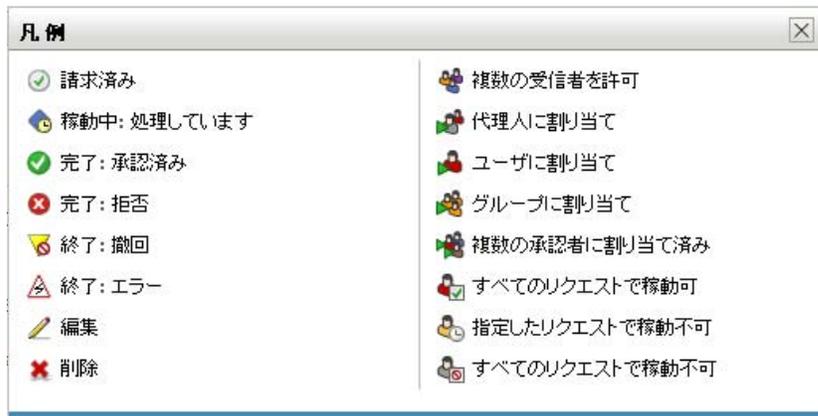
[要求と承認] タブのほとんどのページでは、右上隅にボタンがあります。このボタンをクリックすると、[要求と承認] ページの凡例が表示されます。凡例を表示するには、 9-2 に示すように、[凡例] ボタンをクリックします。

 9-2 [凡例] ボタン



凡例には [要求と承認] タブで使用されているアイコンの簡単な説明が表示されます。115 ページの   9-3 は凡例を示しています。

図 9-3 [要求と承認] ページの凡例



凡例内のアイコンの詳細内容を次の表に示します。

表 9-2 凡例のアイコン

アイコン	説明
引き受け済み	このアイコンは、特定のワークフロータスクが、あるユーザによって引き受けられているかどうかを示します。 このアイコンは、[マイタスク] ページに表示されます。
稼働中: 処理しています	このアイコンは、特定の要求が処理中であることを示します。 このアイコンは、[マイリクエスト] ページおよび [チームリクエスト] ページに表示されます。
完了: 承認済み	このアイコンは、特定の要求の処理が完了し、その要求が承認されたことを示します。 このアイコンは、[マイリクエスト] ページおよび [チームリクエスト] ページに表示されます。
完了: 拒否	このアイコンは、特定の要求の処理が完了し、その要求が拒否されたことを示します。 このアイコンは、[マイリクエスト] ページおよび [チームリクエスト] ページに表示されます。
終了: 撤回	このアイコンは、特定の要求がユーザ (要求を発行したユーザ、チームマネージャ、またはプロビジョニングアプリケーション管理者) によって撤回されたことを示します。 このアイコンは、[マイリクエスト] ページおよび [チームリクエスト] ページに表示されます。
終了: エラー	このアイコンは、特定の要求の処理がエラーによって終了したことを示します。 このアイコンは、[マイリクエスト] ページおよび [チームリクエスト] ページに表示されます。

アイコン	説明
編集	<p>このアイコンは、代理割り当てまたは委任割り当てを編集できることを示します。割り当てを編集するには、割り当てを選択して [編集] アイコンをクリックします。</p> <p>このアイコンは、[マイ代理人割り当て] ページ、[マイ委任割り当て] ページ、[チームの代理人割り当て] ページ、[チームの委任割り当て] ページ、[可用性の設定] ページ、および [チームの可用性] ページに表示されます。</p>
削除	<p>このアイコンは、代理割り当てまたは委任割り当てを削除できることを示します。割り当てを削除するには、割り当てを選択して [削除] アイコンをクリックします。</p> <p>このアイコンは、[マイ代理人割り当て] ページ、[マイ委任割り当て] ページ、[チームの代理人割り当て] ページ、[チームの委任割り当て] ページ、[可用性の設定] ページ、および [チームの可用性] ページに表示されます。</p>
複数の受信者を許可	<p>このアイコンは、このリソースに対して受信者を複数設定できることを示します。あるリソースに対して受信者を複数設定できる場合、[チームリソースのリクエスト] アクションを使って、複数のユーザを受信者として選択できます。</p> <p>このアイコンは、[チームリソースのリクエスト] ページに表示されます。</p>
代理人に割り当て	<p>このアイコンは、特定のワークフロータスクが他ユーザによって委任されたものであるかどうかを示します。このタスクは、現在のユーザのキューに表示されます。なぜなら、このタスクを元々割り当てられていたユーザが、自分自身を作業不能であると宣言しているからです。現在のユーザは、タスクを元々割り当てられていたユーザの委任先なので、この現在のユーザに対してタスクが表示されます。</p> <p>このアイコンは、[マイタスク] ページおよび [チームのタスク] ページに表示されます。</p>
ユーザに割り当て	<p>このアイコンは、特定のワークフロータスクがあるユーザに割り当てられていることを示します。</p> <p>このアイコンは、[マイタスク] ページおよび [チームのタスク] ページに表示されます。</p>
グループに割り当て	<p>このアイコンは、特定のワークフロータスクがあるグループに割り当てられていることを示します。</p> <p>このアイコンは、[マイタスク] ページおよび [チームのタスク] ページに表示されます。</p>
役割に割り当て	<p>このアイコンは、特定のワークフロータスクがある役割に割り当てられていることを示します。</p> <p>このアイコンは、[マイタスク] ページおよび [チームのタスク] ページに表示されます。</p>

アイコン	説明
複数の承認者に割り当て済み	<p>このアイコンは、特定のワークフロータスクが複数のユーザに割り当てられていることを示します。</p> <p>このアイコンは次のような状況で使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ タスクが複数の受取人を持つグループに割り当てられたが、そのうちの受取人の1人のみがそのタスクを引き受け、承認することができる。この承認がなされると、タスク実行が完了したとみなされる。 ◆ タスクが複数の受取人を持つグループに割り当てられ、アクティビティが完了したとみなされるには、すべての受取人がそのタスクの引き受けおよび承認を行う必要がある。 ◆ タスクが複数の受取人を持つグループに割り当てられ、アクティビティが完了したとみなされるには、定足数のユーザがそのタスクの引き受けおよび承認を行う必要がある。定足数の定義は管理者が行います。定足数を定義するために、管理者は必要となる正確な承認数または承認の割合を特定する承認条件を指定します。 <p>このアイコンは、[マイタスク] ページおよび [チームのタスク] ページに表示されます。</p>
すべてのリクエストで稼働可	<p>このアイコンは、特定のユーザがすべての要求タイプを処理できることを示します。この設定は、委任に適用されます。</p> <p>このアイコンは、[可用性の設定] ページおよび [チームの可用性] ページに表示されます。</p>
指定したリクエストで稼働不可	<p>このアイコンは、特定の期間、特定のユーザが特定の要求タイプを処理できないことを示します。この設定は、委任に適用されます。特定のユーザがこれらのリソース要求タイプを処理できない期間、これらのリソース要求の処理を委任されたユーザは、これらのリソース要求を処理できます。</p> <p>このアイコンは、[可用性の設定] ページおよび [チームの可用性] ページに表示されます。</p>
すべてのリクエストで稼働不可	<p>このアイコンは、特定のユーザが現在システム上に存在するすべての要求タイプを処理できないことを示します。この設定は、委任に適用されます。特定のユーザがあるリソース要求を処理できない期間、そのリソース要求の処理を委任されたユーザは、そのリソース要求を処理できます。</p> <p>このアイコンは、[可用性の設定] ページおよび [チームの可用性] ページに表示されます。</p>

自分の作業の管理

この項では、自分のプロビジョニング作業の管理方法について説明します。この節の内容は次のとおりです。

- ◆ 119 ページのセクション 10.1 「[マイ作業] アクションカテゴリの概要」
- ◆ 119 ページのセクション 10.2 「自分のタスクの管理」
- ◆ 130 ページのセクション 10.3 「リソースの要求」
- ◆ 135 ページのセクション 10.4 「リソース要求の処理状況の確認」

10.1 [マイ作業] アクションカテゴリの概要

Identity Manager ユーザアプリケーションの [要求と承認] タブには、[マイ作業] というアクションカテゴリがあります。[マイ作業] アクションカテゴリにあるアクションを使うことにより、リソース要求を発行すること、発行した要求の処理状況を確認すること、および、自分または自グループに割り当てられたタスクを実行することができます。これらのタスクは、リソース要求に関連付けられていることも、さらに役割および検証要求に関連付けられていることもあります。

[マイ作業] アクションでは、他ユーザから委任されたタスクを実行することもできます。委任されたタスクが自分のキューに表示されるのは、そのタスクを元々割り当てられていたユーザが自身を無効であると宣言し、委任先として自分を指名した場合です。

注: プロビジョニングワークフローの制御の流れ、およびフォームの外観は、Identity Manager の Designer の中でプロビジョニング要求がどのように定義されたかによって変化します。プロビジョニングワークフローの設計のカスタマイズに関する詳細については、『Identity Manager ユーザアプリケーション: 設計ガイド (<http://www.novell.com/documentation/idmrpbpm361/index.html>)』を参照してください。

10.2 自分のタスクの管理

[マイタスク] アクションメニューを選択した場合、自分に割り当てられているタスクに対するワークフローキューを確認できます。あるタスクが自分のキュー内にある場合、次のいずれかのアクションを実行する必要があります。

- ◆ そのタスクを引き受け、そのタスクを開始できるようにする
- ◆ そのタスクを他ユーザに再割り当てる

注: タスクを再割り当てるには、その権限を持っている必要があります。タスクを再割り当てるには、チーム権限定義の中でこの権限を割り当てられたプロビジョニングアプリケーション管理者またはチームマネージャである必要があります。

[マイタスク] アクションメニューを使用すると、リソース要求、役割要求、および検証要求に関連するワークフロータスクを実行することができます。ユーザインタフェースは選択したワークフロータスクのタイプによって異なる場合があります。検証要求において、[マイタスク] アクションメニューには、検証者として指定されているタスクのみが表示されます。

リソース要求または役割要求に関連付けられているタスクを引き受けるときに、作業アイテムをワークフロー内の次の処理に転送するアクションを実行できます。実行できるアクションは次のとおりです。

表 10-1 転送アクション

転送アクション	説明
Approve	タスクに承認を与えることができます。タスクを承認すると、作業アイテムがワークフロー内の次のアクティビティに転送されます。
Deny	タスクに対する承認作業を明示的に拒否できます。タスクを拒否した場合、作業アイテムがワークフロー内の次の処理に転送され、要求が拒否されません。一般に、要求が拒否された場合、ワークフロープロセスは終了します。
Refuse	タスクを明示的に拒否できます。タスクを拒否すると、拒否されたアイテムのワークフロー内の次のアクティビティに作業アイテムが転送されます。

検証要求に関連付けられているタスクを受け入れると、検証フォームに表示されている情報を確認する必要があります。また、データの正しさを認証するかどうかという検証の質問に回答する必要があります。また、1つまたは複数の調査質問に回答することが必要な場合もあります。ユーザプロフィール検証プロセス用のフォームには、正確さを確認する必要があるユーザ属性データが含まれます。役割割り当て、ユーザ割り当て、および SoD 検証プロセスで、フォームは確認する必要がある役割割り当て、ユーザ割り当て、または SoD データを示すレポートを含みます。

10.2.1 自分のタスクの表示

自分に割り当てられているタスクを表示するには、次の手順を実行します。

- 1 [マイタスク] ([マイ作業] アクションカテゴリ内) をクリックします。
自分のキュー内にあるタスクが一覧表示されます。



リソースおよび役割要求で、タスクリスト内の [受信者] カラムは必要な承認が与えられたときにリソースまたは役割を受信するユーザまたはグループを指定します。検証要求で、[受信者] カラムは検証者の名前を指定します。これはユーザアプリケーションに現在ログオンしている個人の名前と同じです。

タスクリストにある [タイプ] カラムには、現在タスクがユーザ、グループ、代理人、または複数の承認者に割り当てられているかどうかを示すアイコンが含まれます。[複数の承認者に割り当て済み] タイプは次の状況で使用されます。

- タスクが複数の受取人を持つグループに割り当てられたが、そのうちの受取人の1人のみがそのタスクを引き受け、承認することができる。この承認がなされると、タスク実行が完了したとみなされる。
- タスクが複数の受取人を持つグループに割り当てられ、アクティビティが完了したとみなされるには、すべての受取人がそのタスクの引き受けおよび承認を行う必要がある。
- タスクが複数の受取人を持つグループに割り当てられ、アクティビティが完了したとみなされるには、定足数のユーザがそのタスクの引き受けおよび承認を行う必要がある。定足数の定義は管理者が行います。定足数を定義するために、管理者は必要となる正確な承認数または承認の割合を特定する承認条件を指定します。

ワークフローシステムは短絡回路評価を実行し、定足数を最適化します。定足数の承認条件が定足数が実現不可能なところまでに達すると、常にアクティビティは拒否され、タスクがすべての受取人のキューから削除されます。

[優先度] カラムには、優先度の高いタスクを示すフラグが表示されます。[優先度] カラムをクリックし、タスクのリストを優先順位でソートできます。

検証要求に関連付けられているワークフロータスクは、次に示すように [検証承認] のタスク名を示します。

図 10-1 検証要求のワークフロータスク

タスク	要求	受信者	タイプ	引き受け済み	タイムアウト	優先度
検証承認	ユーザプロファイル - デフォルト (2008/06/13)	administrator main			6日 19時間 41分	
検証承認	ユーザ割当て - デフォルト (2008/06/13)	administrator main			しない	
検証承認	役割割当て - デフォルト (2008/06/13)	administrator main			しない	
役割要求の承認(継続的)	役割の承認 - Conflict1	administrator main			しない	

1 - 4 / 4

更新

10.2.2 タスクの選択

キュー内のタスクを選択するには

- 1 キュー内のタスクの名前をクリックします。



[タスク詳細] パネルが開きます。



タスクが複数の承認者に割り当てられている場合、[タスク詳細] フォームには [複数の承認者] アイコンが [割り当て先] フィールドの隣に表示され、アイコンの下に複数の承認が必要なことを示すテキストが表示されます。



- 2 複数の承認者に割り当てられたタスクの詳細を表示するには、[複数の承認者] アイコンの下にあるテキストをクリックします。



必要な承認の数、現在の受取人は誰か、現在の承認ステータスは何か、を示すポップアップウィンドウが表示されます。



タスクの要件は、管理者がそのタスクをどのように設定したかに依存します。

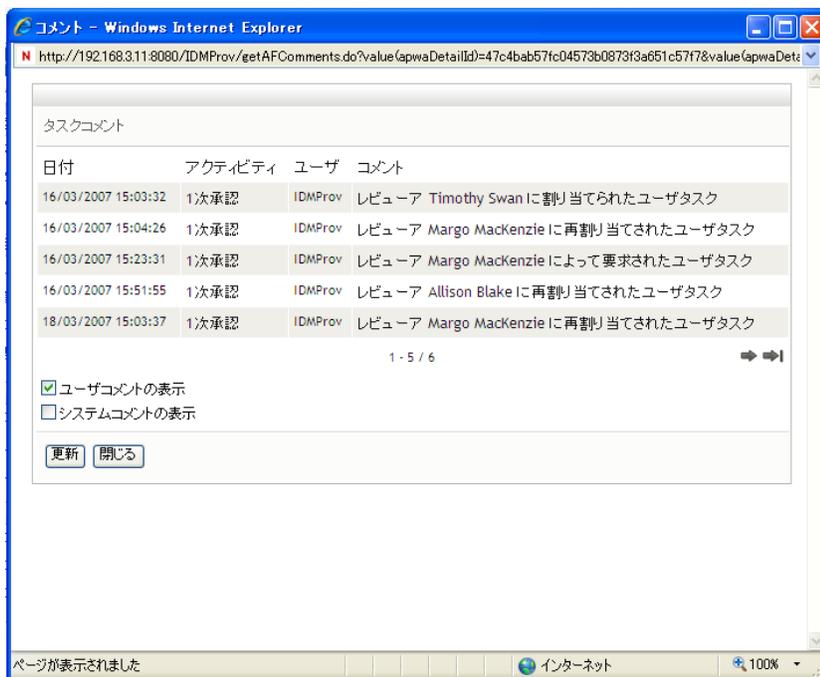
- ◆ 承認タイプが [グループ] の場合、タスクはあるグループ内の複数のユーザに割り当てられていますが、タスクを引き受けて承認できるのは1人だけです。
- ◆ 承認タイプが [役割] の場合、タスクはある役割内の複数のユーザに割り当てられていますが、タスクを引き受けて承認できるのは1人だけです。
- ◆ 承認タイプが [複数承認者] の場合、タスクは複数の受取人に割り当てられており、すべての受取人がそのタスクを引き受け、承認する必要があります。
- ◆ 承認タイプが [定足数] の場合、タスクは複数の受取人に割り当てられており、受取人のうちの定足数に達すればタスクを承認できます。定足数の定義は管理者が行います。定足数を定義するために、管理者は必要となる正確な承認数または承認の割合を特定する承認条件を指定します。

ワークフローシステムは短絡回路評価を実行し、定足数を最適化します。定足数の承認条件が定足数が実現不可能なところまでに達すると、常にアクティビティは拒否され、タスクがすべての受取人のキューから削除されます。

- 3 タスクを引き受ける場合は、126 ページのセクション 10.2.3 「タスクの引き受け」の手順を実行します。
- 4 タスクのコメント履歴を表示するには、[コメント履歴の表示] をクリックします。

ポップアップウィンドウにユーザおよびシステムコメントが表示されます。コメントが表示される順序は、各コメントに関連したタイムスタンプにより決定されます。最初に入力されたコメントが初めに表示されます。並列承認フローでは、処理中のアクティビティが同時には予測不可能な可能性があります。

- 4a ユーザコメントを表示するには、[ユーザコメントの表示] をクリックします。

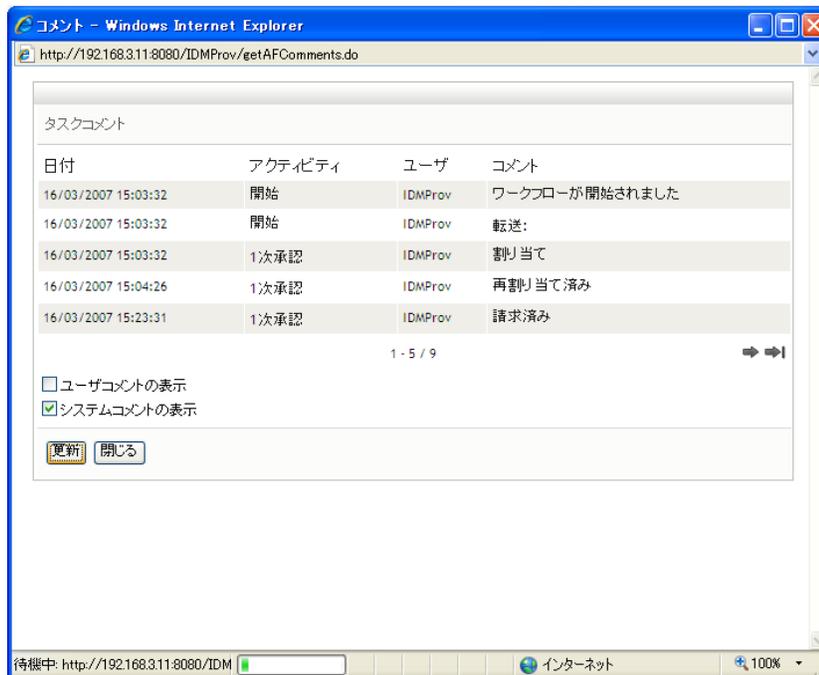


ユーザコメントには、次のような種類の情報が含まれています。

- ◆ 各コメントが追加された日時。
- ◆ コメントの対象となるアクティビティの名前。表示されるアクティビティのリストには、ユーザおよび処理済みまたは現在処理中のプロビジョニングアクティビティが含まれる。
- ◆ コメントを作成したユーザ名。コメントがワークフローシステムにより生成された場合、アプリケーション名 (たとえば、IDMProv) がユーザ名となる。ワークフローシステムにより生成されたコメントは自動的にローカライズされます。
- ◆ 各アクティビティに現在指名されているユーザ名を含むコメントテキスト。

ワークフロー設計者は、ワークフローに対するユーザコメントの生成を無効化できる。詳細については、『*Identity Manager ユーザアプリケーション: 設計ガイド* (<http://www.novell.com/documentation/idmrbpm361/index.html>)』を参照してください。

- 4b** システムコメントを表示するには、[システムコメントの表示] をクリックします。



システムコメントには、次のような種類の情報が含まれています。

- ◆ 各コメントが追加された日時。
- ◆ コメントの対象となるアクティビティの名前。システムコメントを表示すると、ワークフロー内のすべてのアクティビティが一覧表示される。表示されるアクティビティのリストには、処理済みまたは現在処理中のアクティビティが含まれる。
- ◆ コメントを作成したユーザ名。コメントがワークフローシステムにより生成された場合、アプリケーション名 (たとえば、IDMProv) がユーザ名となる。ワークフローシステムにより生成されたコメントは自動的にローカライズされます。
- ◆ アクティビティ向けに実行されたアクションを示すコメントテキスト。

システムコメントは、デバッグをするために使用されることを主な目的としています。ほとんどのビジネスユーザはワークフローのシステムコメントを見る必要はありません。

- 4c** コメントの長いリストをスクロールするには、画面の最下部の矢印をクリックします。たとえば、次ページにスクロールするには、[次へ] の矢印をクリックします。



- 4d** [閉じる] をクリックしてウィンドウを閉じます。

- 5** タスクリストに戻るには、[戻る] をクリックします。

10.2.3 タスクの引き受け

実行するタスクを引き受けるには

- 1 [引き受け] をクリックします。

マイタスク

タスク詳細

*-は入力必須です。

リソース: Enable Active Directory account 受信者: Blake Allison
リクエスト者: Blake Allison タスク: 単一承認
次の日時以降キュー内にある: 19/03/2007 16:05:20 タイムアウト日時: 21/03/2007 16:05:20
割り当て先: MacKenzie Margo 請求者:

請求 解放 再割り当て 戻る

フォームの詳細

単一承認

該当するボタンを選択して要求を承認または拒否してください。

要求元: Alison Blake 受信者: Alison Blake
要求日: 19/03/2007
理由: test
コメント:

リソース要求および役割要求で、ページの [フォームの詳細] セクションが更新され、[拒否] および [承認] ボタン、およびフロー定義に含まれる他のすべてのアクションボタンが表示され、適切なフィールドが編集可能になります。

検証要求で、ページの [フォーム詳細] セクションが検証フォームを含むように更新されます。フォームの外観は検証タイプによって異なります。ユーザプロフィール検証プロセスで、フォームはユーザが確認する必要があるユーザプロフィールデータを表示します。

フォームの詳細

属性リスト

名: main
姓: administrator
役職:
電話番号:

プロフィールに移動

検証の質問

ユーザプロフィールに関する詳細を確認し、必要に応じて更新したことを保証しますか?* コメント:

検証の送信

役割割り当て、ユーザ割り当て、および SoD 検証プロセスで、フォームはユーザが確認する必要があるデータを示すレポートを含みます。

検証フォームの詳細

レポート:
 役割割り当て検証レポート レポート日: 2008/06/13 14:31

ビジネス役割 (合計: 1)

役割名: Conflict1 (ビジネス役割)
 コンテナ: Conflict1.Level30.RoleDefs
 役割カテゴリ: Conflict1
 説明: Conflict1

この役割への割り当て 承認者
main administrator (承認済み, 08/06/13 14:27)

IT役割 (合計: 2)

役割名: 整合性モジュール管理者 (IT役割)
 コンテナ: 整合性モジュール管理者.Level20.RoleDefs
 役割カテゴリ: システム役割
 説明: 整合性管理者

この役割への割り当て 承認者
main administrator (ユーザ)

役割名: 役割モジュール管理者 (IT役割)
 コンテナ: 役割モジュール管理者.Level20.RoleDefs
 役割カテゴリ: システム役割
 説明: 役割モジュール管理者

この役割への割り当て 承認者

すべての検証タイプで、フォームには必要な検証質問と検証プロセスに含まれる追加の調査質問に解答するためのコントロールが表示されます。

調査の質問

Test Survey コメント:

検証の質問

この役割割り当てレポートに含まれる役割割り当てが有効で適切であることを保証しますか?* コメント:

リソース要求時にタスクでデジタル署名が必要な場合、[デジタル署名が必要] アイコンがページの上右隅に表示されます。



加えて、Internet Explorer 上に、デジタル署名アプレットを有効化するには <Space> キーまたは <Enter> キーを押す必要があるというメッセージが表示されます。

このコントロールを有効にして使用するには、スペースバーまたはEnterを押してください

- 2 デジタル署名が必要なタスクを処理している場合は、次のステップを実行します。
 - 2a スマートカードを使用している場合は、スマートカードリーダーに挿入します。
 - 2b Internet Explorer 上で、<Space> キーまたは <Enter> キーを押してアプレットを有効化します。

この時点で、ブラウザにセキュリティに関する警告メッセージが表示される可能性があります。



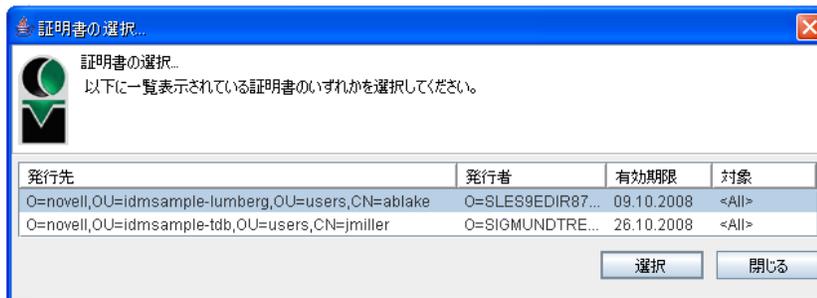
2c [実行] をクリックして、続行します。

2d 承認フォームの各フィールドで値を指定します。このフォームに表示されるフィールドは、要求したリソースの種類によって異なります。

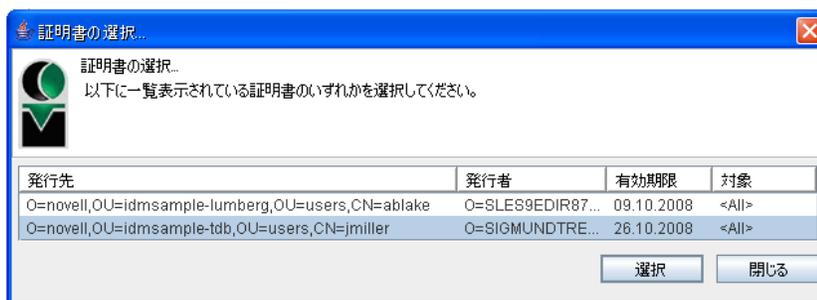
2e デジタル署名確認メッセージの隣のチェックボックスをオンにし、署名準備が整っていることを示します。

デジタル署名確認メッセージは、管理者がどのようにプロビジョニングリソースを設定したかによって変化します。

アプレットには、証明書が選択できるポップアップウィンドウが表示されます。ポップアップウィンドウには、ブラウザにインポートされた証明書、およびスマートカードにインポートされた証明書が一覧表示されます。



2f 使用する証明書を選択し、[選択] をクリックします。



- 2g** ブラウザにインポートされた証明書を選択する場合、要求フォーム上の [パスワード] フィールドに証明書のパスワードを入力する必要があります。
- 2h** スマートカードにインポートされた証明書を選択する場合、スマートカードの PIN を入力し、[OK] をクリックします。
- スマートカードを使用する場合、証明書用のパスワードを入力する必要はありません。すでに証明書パスワードがカードに送信されているからです。



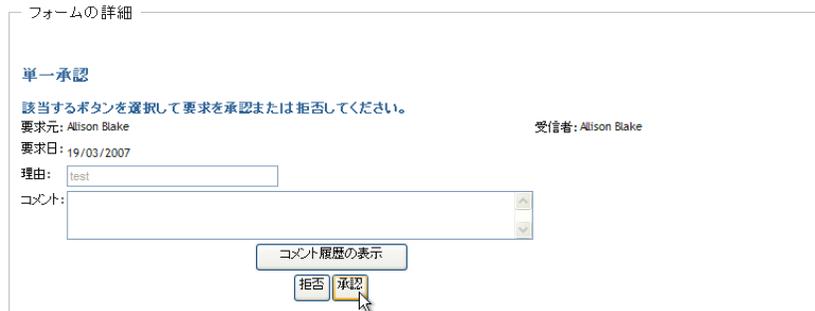
ユーザ同意書をプレビューする機能を管理者が有効化している場合は、[プレビュー] ボタンが有効になります。

- 2i** [プレビュー] をクリックし、ユーザ同意書を確認します。
- デジタル署名の種類がフォームに設定されている場合は、PDF 文書が表示されます。
- デジタル署名の種類がデータに設定されている場合は、XML 文書が表示されます。

- 3** リソースまたは役割要求を拒否するには、[拒否] をクリックします。



- 4** リソースまたは役割要求を承認するには、[承認] をクリックします。



アクションが正常に実行されたかどうかを示すメッセージが表示されます。

10.3 リソースの要求

[リクエストリソース] アクションを使用することにより、リソース要求を発行できます。要求を開始する際、初期要求フォームが表示されます。このフォームでは、要求に必要な情報をすべて指定できます。

注: [要求リソース] アクションは役割割り当ての要求または検証要求の起動を行なうことはできません。役割割り当てを要求するには、[役割] タブの [役割の割り当て] アクションを使用する必要があります。検証要求を起動するには、[整合性] タブの [検証要求] に一覧表示されているアクションを使用する必要があります。

リソース要求が送信されると、リクエストはワークフローを開始します。ワークフローは、要求の実行に必要な承認をコーディネートします。リソース要求の中には、1人の個人からの承認を必要とするもの、複数の個人からの承認を必要とするもの、および、承認をまったく必要としないものがあります。

リソースを要求するには、次の手順を実行します。

- 1 [リソースの要求] ([マイ作業] アクションカテゴリ) をクリックします。
[リソースの要求] ページが開きます。



- 2 [要求タイプ] ドロップダウンリスト内の要求カテゴリを選択します。[すべて] を選択し、利用可能なすべてのカテゴリからの要求を含めます。
- 3 [続行] をクリックします。
[要求リソース] ページに、現在のユーザが利用可能なリソースが一覧表示されます。セキュリティ制約が適用されるので、自分がアクセス権を持っている要求タイプだけが表示されます。
- 4 目的のリソースの名前をクリックして選択します。



[リソースの要求] ページに初期要求フォームが表示されます。

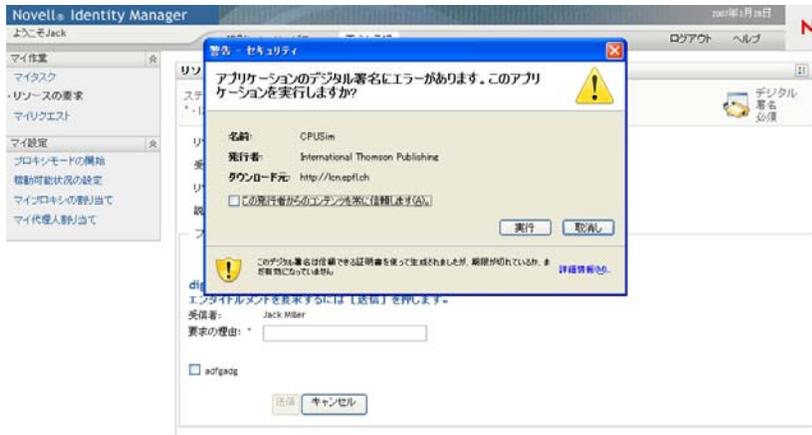


要求したリソースにデジタル署名が必要な場合、[デジタル署名が必要] アイコンがページの上右隅に表示されます。加えて、Internet Explorer 上に、デジタル署名アプレットを有効化するには <space> キーまたは <Enter> キーを押す必要があるというメッセージが表示されます。



- 5 デジタル署名が必要なタスクを行う場合は、次のステップを実行します。
 - 5a スマートカードを使用している場合は、スマートカードリーダーに挿入します。
 - 5b Internet Explorer 上で、<Space> キーまたは <Enter> キーを押してアプレットを有効化します。

この時点で、ブラウザにセキュリティに関する警告メッセージが表示される可能性があります。



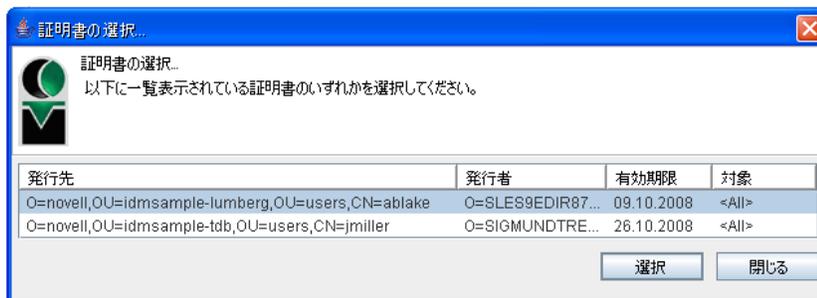
5c [実行] をクリックして、続行します。

5d 初期要求フォームの各フィールドに値を指定します。このフォームに表示されるフィールドは、要求したリソースの種類によって異なります。

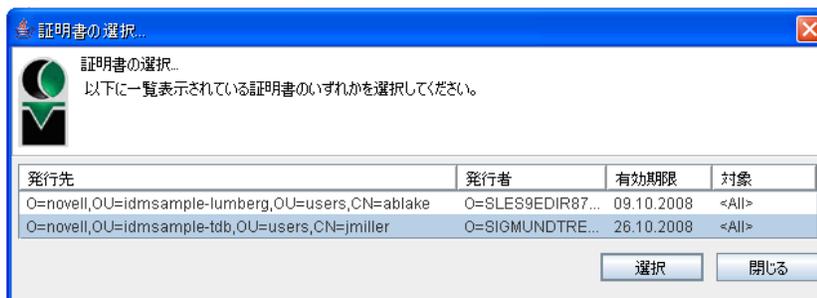
5e デジタル署名確認メッセージの隣のチェックボックスをオンにし、署名準備が整っていることを示します。

デジタル署名確認メッセージは、管理者がどのようにプロビジョニングリソースを設定したかによって変化します。

アプレットには、証明書が選択できるポップアップウィンドウが表示されます。ポップアップウィンドウには、ブラウザにインポートされた証明書、およびスマートカードにインポートされた証明書が一覧表示されます。



5f 使用する証明書を選択し、[選択] をクリックします。



5g ブラウザにインポートされた証明書を選択する場合、要求フォーム上の [パスワード] フィールドにパスワードを入力する必要があります。

- 5h スマートカードにインポートされた証明書を選択する場合、スマートカードのPINを入力し、[OK] をクリックします。

スマートカードを使用する場合、証明書用のパスワードを入力する必要はありません。すでに証明書パスワードがカードに送信されているからです。

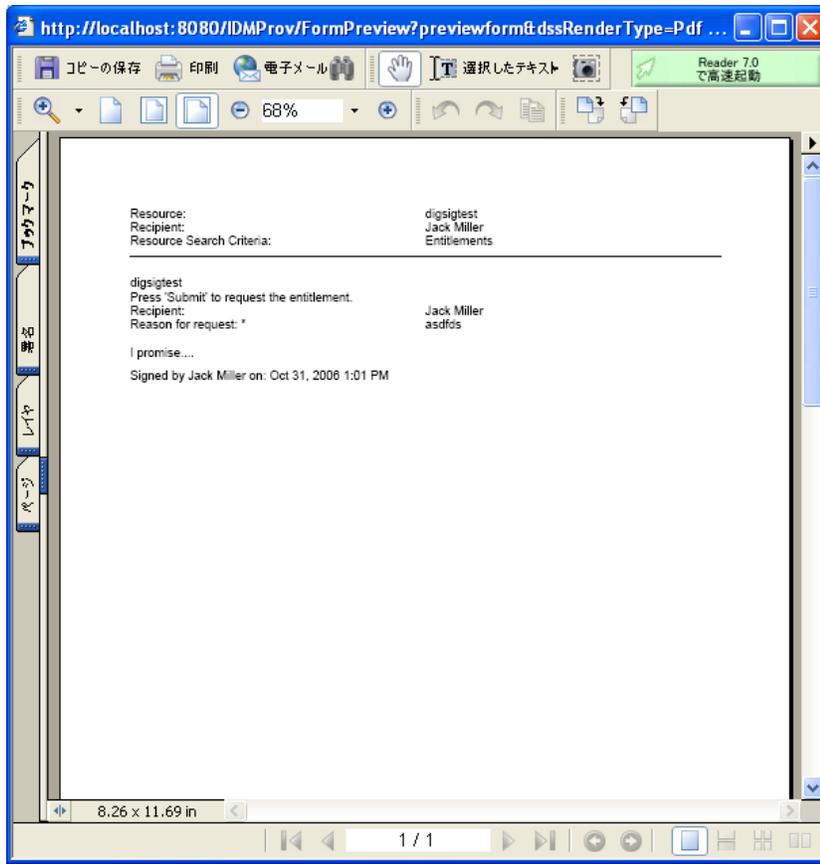


ユーザ同意書をプレビューする機能を管理者が有効化している場合は、[プレビュー] ボタンが有効になります。

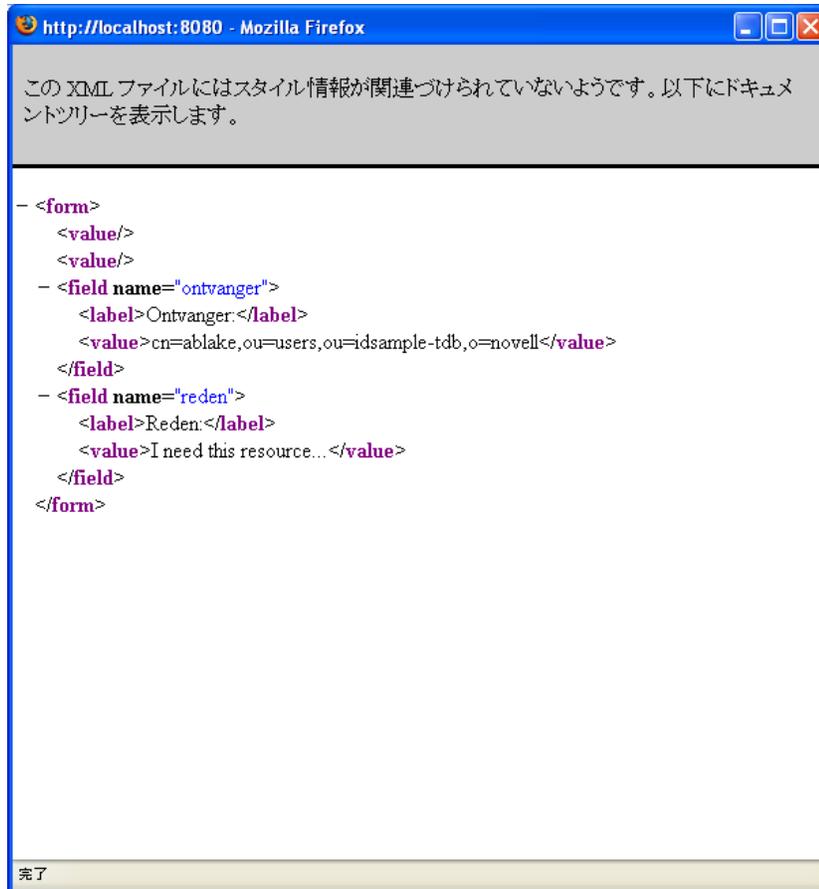


- 5i [プレビュー] をクリックし、ユーザ同意書を確認します。

デジタル署名の種類がフォームに設定されている場合は、PDF 文書が表示されます。



デジタル署名の種類がデータに設定されている場合は、XML 文書が表示されます。



6 発行した要求にデジタル署名が必要ない場合は、初期要求フォームの各フィールドに値を入力するのみです。このフォームに表示されるフィールドは、要求したリソースの種類によって異なります。

7 [送信] をクリックします。

[リソースの要求] ページに、要求が正常に送信されたかどうかを示すステータスメッセージが表示されます。



10.4 リソース要求の処理状況の確認

[マイ要求] アクションを使用することにより、自分が発行した要求の処理状態を確認できます。具体的には、リソース要求の履歴、および、各リソース要求の現在の処理状況を確認できます。また、途中で気が変わってリソース要求を行う必要がなくなった場合、処理中のリソース要求を撤回できます。

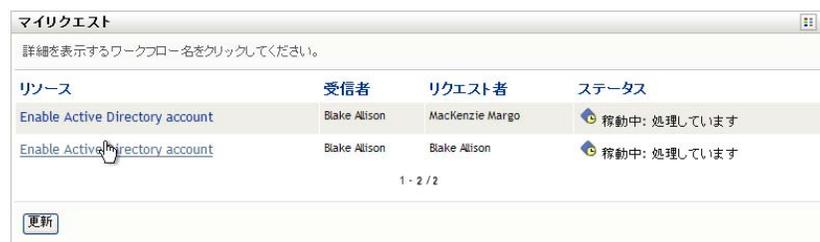
注: [マイ要求] アクションは、役割または検証要求を表示しません。役割要求の状態を表示するには、[役割] タブの [要求ステータスの表示] アクションを使用します。検証要求の状態を表示するには、[整合性] タブの [検証要求ステータスの表示] アクションを使用します。

リソース要求を一覧表示するには、次の手順を実行します。

- 1 [マイリクエスト] ([マイ作業] アクションカテゴリ内) をクリックします。



- 2 [要求タイプ] ドロップダウンリスト内の要求カテゴリを選択します。[すべて] を選択し、利用可能なすべてのカテゴリからの要求を含めます。
- 3 オプションで、[日付指定]、[前]、または [後] を指定して、[要求日] フィールドに日付を入力することで、日付で要求のリストをフィルタできます。選択したカテゴリに合うすべての要求を含めるには、[要求日] フィールドを空欄のままにします。
- 4 [続行] をクリックします。
[リクエストリソース] ページに、自分が発行したリソース要求が表示されます。現在処理中のリソース要求、および、すでに承認または拒否されているリソース要求が表示されます。管理者は、ワークフローの結果を保持する期間を制御できます。デフォルトでは、ワークフロー結果はワークフローシステムに 120 日間保持されます。
- 5 特定の要求の詳細を表示するには、名前をクリックして要求を選択します。



[マイ要求] ページに、要求発行日やワークフローの現在の状況などの詳細情報が表示されます。

状態を確認してワークフローがまだ実行中であるかまたはエラーが発生しているかどうかを判断できます。たとえば、要求が通常ではない長い間 [稼働中: 処理中] 状態を示している場合、管理者に連絡して問題かどうかを確認する場合があります。

マイリクエスト

リクエスト詳細

リソース: Enable Active Directory Account
受信者: Blake Allison
アクティビティのステータス: 撤回
リクエスト者: Blake Allison
リクエスト日: 16/03/2007 16:03:14
コメント: [コメントとフロー履歴の参照](#)

[戻る](#) [撤回](#)

- 6 リソース要求を撤回するには、[撤回] ボタンをクリックします。
- 7 リクエストのコメント履歴を表示するには、[コメントとフロー履歴の参照] をクリックします。

ポップアップウィンドウにユーザおよびシステムコメントが表示されます。コメントが表示される順序は、各コメントに関連したタイムスタンプにより決定されます。最初に入力されたコメントが初めに表示されます。並列承認フローでは、処理中のアクティビティが同時には予測不可能な可能性があります。

- 7a ユーザコメントを表示するには、[ユーザコメントの表示] をクリックします。

コメント - Windows Internet Explorer

http://192.168.3.11:8080/IDMProv/getAFComments.do?value(apwsDetailId)=47c4bab57fc04573b0873f3a651c5717&value(apwsDet

タスクコメント

日付	アクティビティ	ユーザ	コメント
16/03/2007 15:03:32	1次承認	IDMProv	レビューア Timothy Swan に割り当てられたユーザタスク
16/03/2007 15:04:26	1次承認	IDMProv	レビューア Margo MacKenzie に再割り当てされたユーザタスク
16/03/2007 15:23:31	1次承認	IDMProv	レビューア Margo MacKenzie によって要求されたユーザタスク
16/03/2007 15:51:55	1次承認	IDMProv	レビューア Allison Blake に再割り当てされたユーザタスク
18/03/2007 15:03:37	1次承認	IDMProv	レビューア Margo MacKenzie に再割り当てされたユーザタスク

1 - 5 / 6

ユーザコメントの表示
 システムコメントの表示

[更新](#) [閉じる](#)

ページが表示されました

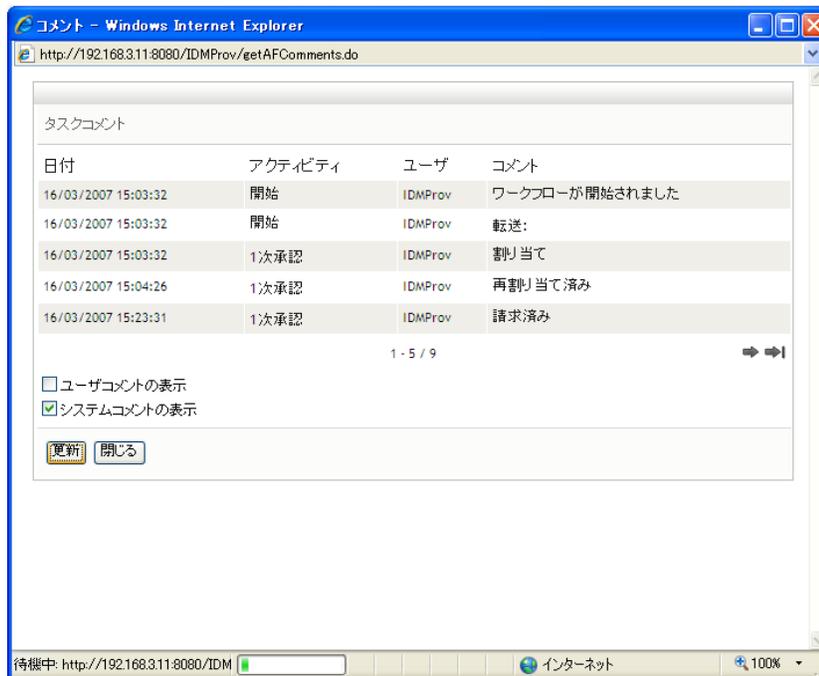
インターネット 100%

ユーザコメントには、次のような種類の情報が含まれています。

- ◆ 各コメントが追加された日時。

- ◆ コメントの対象となるアクティビティの名前。表示されるアクティビティのリストには、ユーザおよび処理済みまたは現在処理中のプロビジョニングアクティビティが含まれる。
 - ◆ コメントを作成したユーザ名。コメントがワークフローシステムにより生成された場合、アプリケーション名 (たとえば、IDMProv) がユーザ名となる。ワークフローシステムにより生成されたコメントは自動的にローカライズされます。
 - ◆ 各アクティビティに現在指名されているユーザ名を含むコメントテキスト。
- ワークフロー設計者は、ワークフローに対するユーザコメントの生成を無効化できる。詳細については、『*Identity Manager ユーザアプリケーション: 設計ガイド* (<http://www.novell.com/documentation/idmrpbpm361/index.html>)』を参照してください。

7b システムコメントを表示するには、[システムコメントの表示] をクリックします。



システムコメントには、次のような種類の情報が含まれています。

- ◆ 各コメントが追加された日時。
- ◆ コメントの対象となるアクティビティの名前。システムコメントを表示すると、ワークフロー内のすべてのアクティビティが一覧表示される。表示されるアクティビティのリストには、処理済みまたは現在処理中のアクティビティが含まれる。
- ◆ コメントを作成したユーザ名。コメントがワークフローシステムにより生成された場合、アプリケーション名 (たとえば、IDMProv) がユーザ名となる。ワークフローシステムにより生成されたコメントは自動的にローカライズされます。
- ◆ アクティビティ向けに実行されたアクションを示すコメントテキスト。

システムコメントは、デバッグをするために使用されることを主な目的としています。ほとんどのビジネスユーザはワークフローのシステムコメントを見る必要はありません。

- 7c** コメントの長いリストをスクロールするには、画面の最下部の矢印をクリックします。たとえば、次ページにスクロールするには、[次へ] の矢印をクリックします。



- 7d** [閉じる] をクリックしてウィンドウを閉じます。

プロビジョニング情報の設定

11

この項では、自分のプロビジョニング情報の設定方法について説明します。この節の内容は次のとおりです。

- ◆ 141 ページのセクション 11.1 「[マイ設定] アクションカテゴリの概要」
- ◆ 142 ページのセクション 11.2 「代理ユーザとしての作業」
- ◆ 143 ページのセクション 11.3 「自分の作業不能条件の指定」
- ◆ 149 ページのセクション 11.4 「自分に関する代理割り当ての表示と編集」
- ◆ 151 ページのセクション 11.5 「自分に関する委任割り当ての表示と編集」

11.1 [マイ設定] アクションカテゴリの概要

Identity Manager ユーザアプリケーションの [要求と承認] タブには、[マイ設定] というアクションカテゴリがあります。[マイ設定] アクションカテゴリにあるアクションを使えば、他ユーザの代理として作業を行うこと、および、自分に関する代理割り当てと委任割り当てを表示することができます。チームマネージャまたはプロビジョニングアプリケーション管理者である場合は、代理および委任の割り当ての定義、およびチームの可用性を定義する権限を持つことができます。

11.1.1 代理と委任の概要

受任者とは、別のユーザのために作業の実行を認定されたユーザです。委任割り当ては、特定の要求タイプに適用されます。

代理ユーザとは、1つまたは複数のユーザ、グループ、またはコンテナの代わりにすべての作業を行う権限を持つ、ユーザのことです。委任割り当てと異なり、代理割り当てはリソース要求だけでなく、すべての作業と設定に適用されます。

代理割り当てと委任割り当てには期間を設定する：代理割り当ておよび委任割り当てに対しては、期間を設定します。代理割り当ておよび委任割り当ての期間の長さは、自由に設定できます。無期限に設定することもできます。

代理アクションと委任アクションはログ記録される：ログが有効になっている場合、プロキシユーザまたは委任ユーザによって実行されたアクションは、他のユーザによって実行されたアクションと併せてすべてログに記録されます。アクションが代理または受任者によるものである場合、ログメッセージにはアクションが他のユーザのために代理または受任者により実行されたものであることがはっきりと表示されます。また、新しい代理または委任の割り当てが拒否されるたびに、そのイベントもログに記録されます。

役割が承認者の場合の委任割り当て ユーザアプリケーションはワークフロー承認者が役割の場合には委任処理を実行しません。役割内のユーザは、役割も割り当てられている承認を実行できるため、委任は必要ありません。

役割が承認者の場合の代理割り当て 代理割り当てを実行すると、ユーザアプリケーションはユーザがすでに持っている役割をチェックします。ユーザが代理として機能するユーザと同じ役割すべてをすでに割り当てられている可能性があります。代理として機能するユーザの役割と競合が発生する可能性もあります。

11.1.2 使用例

この項では、代理と委任の使用例を2つ説明します。

- ◆ 142 ページの「代理の使用例」
- ◆ 142 ページの「委任の使用例」

代理の使用例

あなたが毎日多数のワークフロータスクを承認または拒否する役割を担っている、マネージャであるとして。また、組織内の多数のユーザに関するプロビジョニング設定情報を編集する役割も担っているとして。このような場合、代理ユーザを割り当てれば、自分の作業の一部を自チーム内の信頼できるメンバーに任せ、自分の作業負荷を軽減することができます。

委任の使用例

あなたが10種類のプロビジョニング対象リソースに対する要求を承認または拒否する役割を担っている、マネージャであるとして。10種類のリソース要求すべてを常に処理する必要がありますが、そのうち6種類のリソース要求の処理を組織内の他ユーザに任せたいと考えています。この場合、これら6種類のリソース要求に対する委任先を定義できます。必要に応じて、この委任の期間を時間単位、日単位、または週単位で定めることができます。また、委任期間の有効期限を特に定めずに、委任関係を常時維持することもできます。

11.2 代理ユーザとしての作業

[代理人モードの開始] アクションを使用すれば、他ユーザの代理として作業を行うことができます。

- 1 [代理人モードの開始] ([マイ設定] アクションカテゴリ内) をクリックします。
1人以上の他ユーザの代理として作業を行う権限を持っている場合、ユーザが一覧表示されます。



他ユーザの代理として作業を行う権限を持っていない場合は、次のメッセージが表示されます。



2 どのユーザの代理として作業するかを選択し、[続行] をクリックします。

自分がグループまたはコンテナの代理として指定されている場合は、グループまたはコンテナを選択してからユーザを選択する必要があります。グループまたはコンテナを選択できるドロップダウンリストが表示されます。

画面がリフレッシュされ、ログイン時のデフォルトのページである [マイタスク] ページに戻ります。自分が代理となっているユーザに割り当てられているタスクが、一覧表示されます。また、[マイ作業] アクションカテゴリの上、およびタイトルバーに、現在他ユーザの代理として作業している旨のメッセージが表示されます。



この時点で、自分が代理となっているユーザが実行できる、すべてのアクションを実行できます。使用できるアクションのリストは、自分が持つ権限および自分が代理を勤めているユーザ権限によって変更されます。

11.3 自分の作業不能条件の指定

[可用性の設定] アクションを利用すれば、特定の期間に自分が処理できない要求タイプ、およびその要求の委任先を指定できます。自分が特定のリソース要求を処理できない期間、そのリソース要求の処理を委任されたユーザは、そのリソース要求を処理できます。

自分の作業不能条件をリソース要求ごとに指定したくない場合、[可用性の設定] アクションを使って、委任に関する全体的な設定情報を指定できます。

ヒント:[可用性の設定] アクションを使用するには、委任割り当てが1つ以上定義されている必要があります。チームマネージャ(またはプロビジョニングアプリケーション管理者)に委任割り当てを作成してもらう必要があります。

- ◆ 144 ページのセクション 11.3.1 「自分の作業不能条件ステータスの設定」
- ◆ 146 ページのセクション 11.3.2 「作業不能条件の作成と編集」
- ◆ 149 ページのセクション 11.3.3 「自分の作業不能条件の削除」

11.3.1 自分の作業不能条件ステータスの設定

1 [可用性の設定] ([マイ設定] アクションカテゴリ内)をクリックします。

[可用性の設定] ページが開きます。作業可能条件をまだ設定していない場合は、リストには何も表示されません。

The screenshot shows the 'Novell Identity Manager' interface. The main content area is titled '移動可能状況の設定' (Moveability Status Settings) for user 'Blake Allison'. It includes a dropdown menu for 'ステータス' (Status) set to 'すべてのリクエストで移動可' (Moveable for all requests) and a 'ステータスを変更:' (Change status:) label. Below is a table with columns for 'ユーザ' (User), '稼働不可開始日' (Inoperable start date), '稼働不可終了日' (Inoperable end date), and 'リソース' (Resource). The table contains one row for 'Blake Allison' with empty start and end dates and 'すべて' (All) for resources. The table footer shows '0 - 0 / 0'. There are '更新' (Update) and '新規' (New) buttons at the bottom.

ユーザ	稼働不可開始日	稼働不可終了日	リソース
Blake Allison	--	--	すべて

自分に関する委任割り当てが定義されていない場合、[可用性の設定] ページにステータスを編集できない旨のメッセージが表示されます。

作業不能条件を設定済みの場合、次のように表示されます。



- 2 可用性の割り当てに関連する特定のリソースの詳細を表示するには、リソース名をクリックします。

リソース

[Enable Active Directory account](#)

ページには、委任の割り当てに関する情報を含むポップアップウィンドウが表示されます。



この情報は、可用性設定リストに同じリソース名が複数回表示される場合に特に役立ちます。

- 3 ステータスを指定するため、[変更ステータス] ドロップダウンリストで次のいずれかを選択します。

ステータス	説明
すべてのリクエストで有効	これはデフォルトのステータスです。このステータスは、すべてのリソース要求を処理できることを示します。このステータスが有効である場合、自分に対して委任先が設定されていたとしても、自分に割り当てられたリソース要求は委任されません。 [すべてのリクエストで有効(すべての要求を処理可能)] ステータスは、他の設定情報よりも優先されます。[すべてのリクエストで有効(すべての要求を処理可能)] ステータスから別のステータスに変更し、その後 [すべてのリクエストで有効(すべての要求を処理可能)] ステータスに戻した場合、[選択的可用性(選択的に処理可能)] の選択時に設定していた情報はすべて削除されます。

ステータス	説明
すべてのリクエストで無効	<p>このステータスは、システム上に現在存在するリソース要求をまったく処理できないことを示します。</p> <p>[すべてのリクエストで無効(すべての要求を処理不能)] ステータスを選択した場合、既存の委任割り当てに対して自分が作業不能であることを意味し、現在のステータスが [指定したリクエストで無効(指定した要求を処理不能)] に変わります。委任割り当ては、期限切れになるまで有効です。この設定は、この時点以降に新たに定義された委任割り当てに対する作業不能条件には、影響しません。</p>
指定したリクエストで無効	<p>このステータスは、特定のリソース要求を処理できないことを示します。自分が特定のリソース要求を処理できない期間、そのリソース要求の処理を委任されたユーザは、そのリソース要求を処理できます。</p> <p>[指定したリクエストで無効(指定した要求を処理不能)] を選択した場合、[可用性の設定] ページが開きます。この動作は、[新規] ボタンをクリックした場合と同じです。</p>

11.3.2 作業不能条件の作成と編集

- 1 作業不能条件を新規に作成するには、[新規] をクリックするか、または、[指定したリクエストで無効(指定した要求を処理不能)] ([変更ステータス] ドロップダウンリスト内) を選択します。
- 2 既存の作業不能条件を編集するには、修正したい作業不能条件の横にある [編集] ボタンをクリックします。



ページ上の各種のコントロールを使って、作業不能条件を指定すること、および、この作業不能条件の適用先となる要求を選択することができます。

一覧表示されるリソース要求は、委任割り当てが設定されているもののみです。

3 作業不能期間を指定します。

- 3a [使用不可開始日 (作業不能期間開始日時)] ボックスに作業不能期間開始日時を直接入力するか、カレンダーボタンをクリックして日時を選択します。



- 3b 次のいずれかをクリックし、作業不能期間終了日時を指定します。

ボタン	説明
期間	作業不能期間を週、日、または時間で指定できます。
終了日	委任割り当て適用期間の終了日時を指定できます。終了日時を直接入力するか、または、カレンダーボタンをクリックして日時を選択します。
無期限	作業不能期間が無期限であることを意味します。

終了日時を指定する際、作業不能期間が委任割り当てで許可されている期間以内になるようにする必要があります。たとえば、委任割り当てが 2007 年 10 月 31 日に期限切れになる場合、作業不能期間の終了日時を 2007 年 11 月 15 日に指定することはできません。期限切れを 2007 年 11 月 15 日に定めた場合、送信時に自動的に 2007 年 10 月 31 日に期限切れになるように調整されます。

- 4 次のフィールドに値を入力し、他のユーザに電子メールによる通知を送信するかどうかを指定します。

フィールド	説明
他のユーザにこれらの変更について通知します	この可用性の割り当てを 1 人以上のユーザに通知するメッセージを電子メールで送信するかどうかを指定します。
受信者	電子メールによる通知を受け取るユーザを指定します。 選択的: 選択した任意のユーザに電子メールによる通知を送信できます。

- 5 [リクエストのタイプ] ボックスのリストで、リソース要求を 1 つまたは複数個選択し、[追加] をクリックします。

このページでは、作業不能時に承認しないリソース要求を選択します。選択したリソース要求タイプを他ユーザに委任する際、そのリソース要求は承認されません。

リクエストタイプの選択

対応できない期間に受け入れられないリクエストのタイプを選択します。次の項目については、代理人割り当てのあるリクエストのみが使用できます。

リクエストのタイプ:

- digesttest
- Enable Active Directory account
- QuorumApprover
- TDBQuorum2

追加 削除

指定期間内には受け入れない*

追加したリソース要求は、[指定された期間内の減少(指定期間において拒否される要求)] リストに表示されます。

リクエストタイプの選択

対応できない期間に受け入れられないリクエストのタイプを選択します。次の項目については、代理人割り当てのあるリクエストのみが使用できます。

リクエストのタイプ:

追加 削除

指定期間内には受け入れない*

Enable Active Directory account

- 6 この可用性設定がすべての要求タイプに当てはまることを示すには、個別に要求タイプを選択する代わりに、[すべての要求タイプ] チェックボックスをオンにします。

すべての要求タイプ

[すべての要求タイプ] チェックボックスは、委任割り当て用の要求タイプが [すべて] に設定されている場合にのみ、使用できます。

- 7 [選択したリクエスト] ボックスからリソース要求を削除するには、[削除] をクリックします。
- 8 [送信] をクリックし、修正内容を確定します。

11.3.3 自分の作業不能条件の削除

既存の作業不能条件を削除するには、次の手順を実行します。

- 1 設定の隣にある [削除] をクリックします。



11.4 自分に関する代理割り当ての表示と編集

[マイプロキシ(代理)の割り当て] アクションを使うことにより、代理割り当てを表示できます。プロビジョニングアプリケーション管理者の場合、このアクションを使用して代理割り当てを編集することもできます。

プロビジョニングアプリケーション管理者およびチームマネージャのみが、以下に説明するように代理割り当てを実行できます。

- ◆ プロビジョニングアプリケーション管理者は、組織内の任意のユーザに関する代理割り当てを定義できます。
- ◆ チームマネージャは、自チームの定義方法によっては、チームに関してユーザの代理設定を定義できます。代理も、自チーム内部で行われる必要があります。代理を定義するには、チームマネージャは [チームの代理人割り当て] アクションを使用する必要があります。

チームマネージャがチーム外から代理を選ぶ必要がある場合は、プロビジョニングアプリケーション管理者が代理関係を設定するように要求する必要があります。

11.4.1 自分に関する代理割り当て情報の表示

- 1 [マイ代理人割り当て] ([マイ設定] アクションカテゴリ内) をクリックします。

自分に関する現在の設定が表示されます。表示される代理割り当ては、自分を他ユーザの代理として指定するもの、および、他ユーザを自分の代理として指定するものです。

プロビジョニングアプリケーション管理者ではない場合、代理割り当ての読み取り専用のビューが表示されます。

ユーザ	プロキシ割り当て済み	有効期限
Chester Kevin	Blake Allison	無期限

管理権限を持っているユーザに対しては、代理割り当ての作成および編集ができるボタンが提供されます。

- 2 リストを最新の情報に更新するには、[更新] をクリックします。

11.4.2 代理割り当ての作成または編集

- 1 代理割り当てを新規に作成するには、[新規] をクリックします。
- 2 既存の代理割り当てを編集するには、修正したい代理割り当ての横にある [編集] ボタンをクリックします。



プロビジョニングアプリケーション管理者に対しては、代理割り当てを定義するための次のページが表示されます。

- 3 自分がプロビジョニングアプリケーション管理者である場合は、代理割り当てを定義したいユーザ、グループ、またはコンテナを1つまたは複数選択します。
ユーザ、グループ、またはコンテナを選択するには、オブジェクトセレクトツールまたは履歴表示ツールを使用します。
- 4 自分がチームマネージャである場合は、代理割り当てを定義したいユーザを1つまたは複数選択します。
- 5 [割り当て済み代理人] フィールドに代理となるユーザを指定します。
- 6 次のいずれかをクリックし、作業不能期間終了日時を指定します。

ボタン	説明
無期限	この代理割り当て適用期間が無期限であることを意味します。
有効期限の指定	委任割り当て適用期間の終了日時を指定できます。終了日時を直接入力するか、または、カレンダーボタンをクリックして日時を選択します。

- 7 [送信] をクリックし、修正内容を確定します。

11.4.3 代理割り当ての削除

既存の代理割り当てを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 割り当ての隣にある [削除] をクリックします。



11.5 自分に関する委任割り当ての表示と編集

[マイ委任先割り当て] アクションを使うことにより、委任割り当てを表示および定義できます。プロビジョニングアプリケーション管理者の場合、このアクションを使用して代理割り当てを編集することもできます。

プロビジョニングアプリケーション管理者およびチームマネージャのみが、以下に説明するように代理割り当てを実行できます。

- ◆ プロビジョニングアプリケーション管理者は、組織内の任意のユーザに関する委任割り当てを定義できます。
- ◆ チームマネージャは、自チームの権限の定義方法によっては、チームに関してユーザの委任設定を定義できます。委任も、自チーム内部で行われる必要があります。委任を定義するには、チームマネージャは [チームの委任割り当て] アクションを使用する必要があります。

チームマネージャが自分の権限の範囲外にいるユーザに委任関係を定義する必要がある場合は、プロビジョニングアプリケーション管理者が委任関係を設定するように要求する必要があります。

ヒント: [可用性の設定] アクションを使用するには、委任割り当てが1つ以上定義されている必要があります。

11.5.1 自分に関する委任割り当ての表示

- 1 [マイ委任先割り当て] ([マイ設定] アクションカテゴリ内) をクリックします。

自分に関する現在の設定が表示されます。

プロビジョニングアプリケーション管理者ではない場合、委任割り当ての読み取り専用のビューが表示されます。

ユーザ	代理人割り当て済み	有効期限	リソース
Blake Allison	Chester Kevin	無期限	すべて

管理権限を持っているユーザに対しては、委任割り当ての作成および編集ができるボタンが提供されます。



2 リストを最新の情報に更新するには、[更新] をクリックします。

11.5.2 委任割り当ての作成と編集

1 既存の委任割り当てを編集するには、修正したい代理割り当ての横にある [編集] ボタンをクリックします。



または、委任割り当てを新規に作成するには、[新規] をクリックします。

プロビジョニングアプリケーション管理者に対しては、委任割り当てを義するための次のページが表示されます。



2 委任を定義したい1つ以上のユーザ、グループ、およびコンテナを選択します。

ユーザ、グループ、またはコンテナを選択するには、オブジェクトセレクトツールまたは履歴表示ツールを使用します。

- 3 [委任の割り当て] をクリックし、[委任先] フィールドで委任先ユーザを指定します。または、[関係による割り当て] をクリックし、[委任関係] フィールドで関係を選択します。
- 4 次のいずれかをクリックし、作業不能期間終了日時を指定します。

ボタン	説明
無期限	この委任割り当て適用期間が無期限であることを意味します。
有効期限の指定	委任割り当て適用期間の終了日時を指定できます。終了日時を直接入力するか、または、カレンダーボタンをクリックして日時を選択します。

- 5 [要求タイプ] フィールドでリソース要求のカテゴリを選択します。[すべて] を選択し、利用可能なすべてのカテゴリからの要求を含めます。
- 6 [選択したカテゴリの使用可能なリクエスト (選択されたカテゴリ内の処理可能な要求)] リストで、委任したい要求を1つまたは複数個選択し、[追加] をクリックします。

リクエストタイプの選択

この代理人割り当てのリクエストのタイプを選択してください。使用可能なリクエストを表示するリソースカテゴリを選択してください。

リソース検索条件: (1つ選択してください) ▼

選択したカテゴリの使用可能なリクエスト:

Enable Active Directory account

選択したリクエスト*

追加したリソース要求は、それぞれ [選択したリクエスト] リストに含まれます。

リクエストタイプの選択

この代理人割り当てのリクエストのタイプを選択してください。使用可能なリクエストを表示するリソースカテゴリを選択してください。

リソース検索条件: (1つ選択してください) ▼

選択したカテゴリの使用可能なリクエスト:

選択したリクエスト*

Enable Active Directory account

リソース要求を複数個選択した場合、各リソース要求は個別のオブジェクトとして扱われるので、別々に編集できます。

- 7 [選択したリクエスト] ボックスからリソース要求を削除するには、[削除] をクリックします。
- 8 [送信] をクリックし、修正内容を確定します。
委任割り当てが正常に送信されたかどうかを示すメッセージが表示されます。

マイ代理人割り当て

送信が成功しました。
処理された代理人割り当て内で参照されたユーザのすべての可用性設定は、自動的に更新されない点に注意してください。これら変更を有効にするには、対応するユーザの既存の可用性設定を確認し、更新してください。

アクション:	送信
ユーザ:	MacKenzie Margo
代理人割り当て済み:	Miller Jack

11.5.3 委任割り当ての削除

既存の委任割り当てを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 割り当ての隣にある [削除] をクリックします。



自チームの作業の管理

この項では、[要求と承認] タブで自チームのプロビジョニング作業を管理する手順について説明します。この節の内容は次のとおりです。

- 155 ページのセクション 12.1 「[マイチームの作業] アクションカテゴリの概要」
- 156 ページのセクション 12.2 「自チームのタスクの管理」
- 172 ページのセクション 12.3 「チームリクエストの作成」
- 176 ページのセクション 12.4 「自チームの要求の管理」

12.1 「マイチームの作業」 アクションカテゴリの概要

Identity Manager ユーザインタフェースの [要求と承認] タブには、[マイチームの作業] というアクションカテゴリがあります。[マイチームの作業] アクションカテゴリにあるアクションを使うことにより、ワークフロー内のチームメンバーのタスクと要求を処理することができます。一部のアクションは、119 ページの第 10 章「自分の作業の管理」で説明した内容と同じです。実行できるアクションは、チームおよびチーム要求権限によって決定されます。[要求と承認] タブでは、既存のユーザとチームに関する作業を実行します。ユーザおよびチームを新規に作成する手順については、97 ページの第 8 章「ユーザまたはグループの作成」を参照してください。

注: プロビジョニングワークフローの制御の流れ、およびフォームの外観は、Identity Manager の Designer の中でプロビジョニング要求がどのように定義されたかによって変化します。プロビジョニングワークフローの設計のカスタマイズに関する詳細については、『Identity Manager ユーザアプリケーション: 設計ガイド (<http://www.novell.com/documentation/idmrbpm361/index.html>)』を参照してください。

12.1.1 チームの概要

チームとは、複数のユーザで構成する 1 つのグループを特定するものです。チームにより、プロビジョニング要求やそのチームに関連する承認タスクを誰が管理できるかが決定されます。チーム定義は、以下で説明するように、チームマネージャ、チームメンバー、およびチームオプションのリストで構成されています。

- チームマネージャとは、チームメンバーのための要求やタスクを管理できるユーザです。チームマネージャには、チームメンバーのために代理や委任を設定する権限を与えることもできます。チームマネージャにはユーザまたはグループがなることができます。
- チームメンバーとは、チームに参加することを許可されたユーザのことです。チームメンバーにはディレクトリ内のユーザ、グループ、またはコンテナがなることができます。または、ディレクトリ関係から生成することもできます。たとえば、メンバーのリストは組織内の「マネージャ - 従業員」の関係から生成できます。この場合のチームメンバーは、チームマネージャに報告義務のあるすべてのユーザを指します。

注: プロビジョニングアプリケーション管理者は、連鎖関係をサポートするためのディレクトリ抽出レイヤを設定できます。この場合、組織内のいくつかのレベルが1つのチームに含まれます。管理者は含めるレベルの数を設定できます。

- ◆ チームオプションとは、プロビジョニング要求の範囲を決定するもので、チームが個別のプロビジョニング要求、1つ以上の要求カテゴリ、またはすべての要求を実行できるかどうかを指定します。チームオプションは、チームマネージャがチームメンバーのために代理を設定できるか、または委任の目的でチームメンバーの要求を設定できるか、あるいはその両方の決定も行います。

プロビジョニングアプリケーション管理者は、すべてのチーム管理機能を実行できます。

チーム定義自体は、iManager 内部で1人以上の管理マネージャによって管理されます。

12.1.2 チーム要求権限の概要

チーム要求権限とは、1チームのドメイン範囲に含まれるリクエストや、チームマネージャがプロビジョニング要求やタスクに関して実行できるアクションのリストを指定します。

チーム要求権限は、iManager 内部で1人以上の管理マネージャによって管理されます。チームマネージャはこれらの権限を設定できません。

管理者は、特定のチームのビジネスにおけるニーズに基づいて、チームマネージャがコントロールできる範囲を定義することができます。このため、ユーザは、自分がマネージャとしての役割を持つチームによっては、要求およびタスクに対する異なる権限を持つ可能性があります。特定のチームのアクセス権に関して質問がある場合は、管理者にお問い合わせください。

12.2 自チームのタスクの管理

あるタスクがワークフローキュー内にある場合、次のアクションを実行できます。

- ◆ [156 ページのセクション 12.2.1 「タスクの表示 \(チームメンバー別\)」](#)
- ◆ [158 ページのセクション 12.2.2 「ユーザまたはグループごとのタスクの表示」](#)
- ◆ [160 ページのセクション 12.2.3 「タスク表示の使用」](#)
- ◆ [164 ページのセクション 12.2.4 「タスクの選択」](#)
- ◆ [168 ページのセクション 12.2.5 「タスクの引き受け」](#)
- ◆ [171 ページのセクション 12.2.6 「タスクの再割り当て」](#)
- ◆ [171 ページのセクション 12.2.7 「タスクの解放」](#)

12.2.1 タスクの表示 (チームメンバー別)

チームマネージャはチームメンバーのタスクを表示できます。タスクリストに一覧されるのは、チームが利用可能なタスクだけです。

- 1 [チームのタスク] ([マイチームの作業] アクションカテゴリ内) をクリックし、[チームのタスク] ウィンドウを表示します。



- 2 [チームの選択] 下矢印をクリックして、チームを表示します。チームマネージャとして割り当てられているチームを選択します。
- 3 ユーザを選択します。
 [ユーザ] 選択ボックスに名前が含まれている場合は、[ユーザ] 下矢印をクリックして、選択したチームのメンバーすべてを表示します。表示するタスクを所有する人物の名前をクリックします。
 [ユーザ] 選択ボックスが空の場合は、[オブジェクトセクタ] アイコンをクリックして、[オブジェクトルックアップ] ウィンドウを開きます。チームメンバーを探すための検索条件を指定して [検索] をクリックし、チームメンバーを選択します。
 チームは管理者が定義し、選択ボックスの横にある [オブジェクトセクタ] アイコン  に自動的に入力した選択内容を表示するか、それとも空のリストを表示するかも管理者が定義します。
- 4 (オプション) [タイムアウト] 間隔を指定して、選択した時間内に期限切れになるタスクを検索します。1桁以上 (例: 10) を指定します。
 [タイムアウト] 間隔を指定した場合は、間隔を日、週、または月のいずれにするかを選択します。
- 5 [フィルタ基準] を使用して、チームメンバーに対して表示するタスクのサブセットを選択します。チームメンバーに対してリソースを許可または取り消すタスクを表示するには、[受信者] を選択します。チームメンバーが実行責任を持つタスクを表示するには、[割り当て先] を選択します。両方のタスクを選択できます。
- 6 [タスクリストカラム] 選択ボックスで、表示するタスクカラムを1つ以上選択し、右矢印をクリックしてタスクリストに追加します。カラムの選択順序が画面での表示順序になります。カラムに含めることができる項目は次のとおりです。

タスク (必須)。
 要求
 受信者
 要求日
 タイプ
 割り当て先
 要求者
 引き受け済み
 タイムアウト

優先度
デジタル署名

- 7 [検索] をクリックして、選択したユーザのタスクを一覧にします。
- 8 別のチームメンバーのタスク、または別のチームのタスクを表示するには、[ステップ 2](#)に戻って、新しい検索条件を定義します。

12.2.2 ユーザまたはグループごとのタスクの表示

プロビジョニングアプリケーション管理者は、ユーザまたはグループごとにタスクを表示できます。

- 1 [チームのタスク] ([マイチームの作業] アクションカテゴリ内) をクリックし、[チームのタスク] ウィンドウを表示します。
- 2 [選択タイプ] で、[ユーザ] または [グループ] を選択します。

チームのタスク

タスクを表示するユーザ (使用可能な場合はグループ)を選択します。

選択タイプ:

指定 チームメンバー

指定 グループ

グループ:

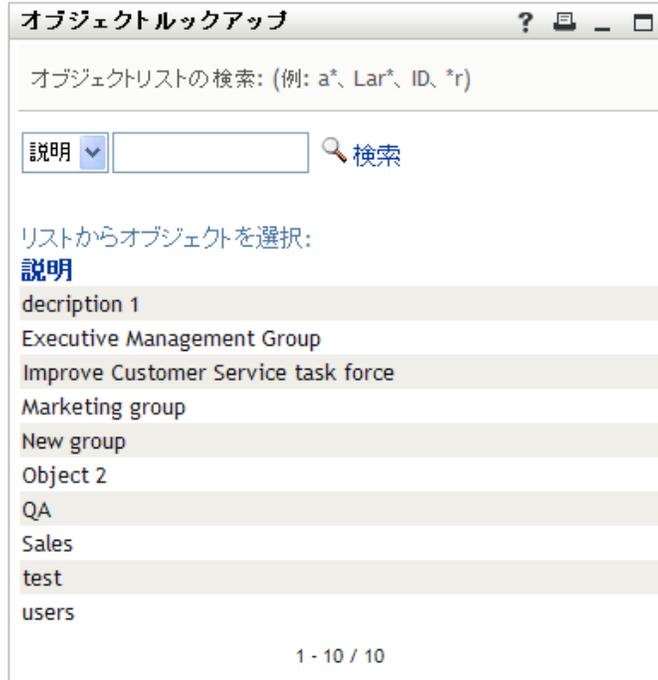
タイムアウト残り時間: 週

フィルタ基準: 受信者

宛先

すべて

- 3 名前をロックアップするには、[オブジェクトセレクタ] アイコン をクリックしてロックアップ条件を指定し、[検索] をクリックします。
- ユーザ名またはグループ名をクリックして選択します。[オブジェクトロックアップ] ページの次のサンプルは、すべてのグループをロックアップした場合です。



- 4 オプションで、[タイムアウト] 間隔を指定して、指定した間隔内で期限切れになるタスクを検索します。1桁以上で指定します。
[タイムアウト] 間隔を指定した場合は、間隔を日、週、または月のいずれにするかを選択します。
- 5 [フィルタ基準] を使用して、タスクのサブセットを選択します。ユーザまたはグループにリソースを許可または取り消すタスクを表示するには、[受信者] を選択します。ユーザまたはグループが実行責任を持つタスクを表示するには、[割り当て先] を選択します。両方の種類のタスクを選択できます。
- 6 [タスクリストカラム] 選択ボックスで、表示するタスクの説明を1つ以上選択し、右矢印をクリックして説明をタスクリストに追加します。説明を追加した順序は、タスクリストのカラム見出しの表示順序になります。次を選択できます。

タスク (必須)。

要求
受信者
要求日
タイプ
割り当て先
要求者
引き受け済み
タイムアウト
優先度
デジタル署名

- 7 [検索] をクリックしてタスクを表示します。

表示されたグループタスクは、グループに明示的に割り当てられたもので、グループの各メンバーに割り当てられたものではありません。個人に割り当てられたタスクを表示するには、その人物のタスクを表示します。

- 別のユーザまたはグループのタスクを表示するには、**ステップ 2**に戻って、新しい検索条件を定義します。

12.2.3 タスク表示の使用

タスクリストは、テンプレート表示または公開表示フォーマットで表示されます。表示フォーマットは管理者が選択します。

テンプレート表示フォーマット

テンプレート表示フォーマットはデフォルトの表示フォーマットです。図 12-1 は例を示しています。

図 12-1 テンプレート表示フォーマットのタスクリストの例

1ページごとのタスク数

タスク	要求	受信者	タイプ	割り当て先	引き受け済み	タイムアウト
単一承認	医療保険の許可	Kevin Chester		Margo MacKenzie		1日23時間39分
単一承認	経費システムアクセスの許可	Margo MacKenzie		Timothy Swan		1日23時間43分
単一承認	Active Directory アカウントを有効にする(マネージャの承認-タイムアウトなし)	Kevin Chester		Margo MacKenzie		1日23時間35分
単一承認	Active Directory アカウントを有効にする(マネージャの承認-タイムアウトなし)	Margo MacKenzie		Timothy Swan		1日23時間42分
単一承認	Active Directory アカウントを有効にする(マネージャの承認-タイムアウトなし)	Allison Blake		Margo MacKenzie		1日23時間40分
単一承認	スマートカードの許可	Margo MacKenzie		Timothy Swan		1日23時間44分
単一承認	ジムの許可	Kevin Chester		Margo MacKenzie		1日23時間39分
単一承認	本の許可 7x24	Kevin Chester		Margo MacKenzie		1日23時間36分
単一承認	歯科保険の許可	Kevin Chester		Margo MacKenzie		1日23時間37分
単一承認	医療保険の許可	Allison Blake		Margo MacKenzie		1日23時間41分

1-10 (全16中)

テンプレート表示では、値を基準にカラムをソートしたり、1 ページごとのタスク数を設定したり、タスクリストのページを移動したりできます。

値によるカラムのソート

- カラムの見出しをクリックすると、カラム内の値をソートできます。
- もう一度見出しをクリックすると、逆順にソートできます。

1 ページごとのタスク数の設定

- タスクリストの右側にある [1 ページごとのタスク数] 選択ボックスの下矢印をクリックします。
- ページの長さを、1 ページごとのタスク数 5、10、または 25 の中から選択します。

タスクリストのページの移動

- [先頭]、[前へ]、[次へ]、および [最後] をクリックして、タスクリストのページを移動できます。

1ページごとのタスク数 5

タスク	要求	受信者	割り当て先	タイムアウト	優先度
単一承認	Active Directoryアカウントを有効にする(マネージャの承認-タイムアウトなし)	Margo MacKenzie	Timothy Swan	1日23時間38分	
単一承認	カフェテリアの許可	Kevin Chester	Margo MacKenzie	1日23時間14分	
単一承認	扶養家族養育費の許可	Allison Blake	Margo MacKenzie	1日23時間12分	
単一承認	Active Directoryアカウントを有効にする(マネージャの承認-タイムアウトなし)	Kevin Chester	Margo MacKenzie	1日23時間13分	
単一承認	本の許可	Margo MacKenzie	Timothy Swan	1日23時間38分	

1~10 (全18中)

公開表示フォーマット

公開表示フォーマットを使用すると、取得済みデータをフィルタできます。図 12-2 は、公開表示フォーマットの例を示しています。

図 12-2 公開表示フォーマットのタスクリストの例

チームのタスク

検索の修正

16 タスク合計

タスク	要求	受信者	タイプ	割り当て先	引き受け済み	タイムアウト	優先度	要求日	要求者	デジタル署名	タスク
単一承認	医療保険の許可	Kevin Chester		Margo MacKenzie		1日23時間36分		0日0時間23分	Kevin Chester		16 単一承認
単一承認	経費システムアクセスの許可	Margo MacKenzie		Timothy Swan		1日23時間40分		0日0時間19分	Margo MacKenzie		
単一承認	Active Directoryアカウントを有効にする(マネージャの承認-タイムアウトなし)	Kevin Chester		Margo MacKenzie		1日23時間32分		0日0時間27分	Kevin Chester		
単一承認	Active Directoryアカウントを有効にする(マネージャの承認-タイムアウトなし)	Margo MacKenzie		Timothy Swan		1日23時間39分		0日0時間20分	Margo MacKenzie		

タスク

要求

- Active Directoryアカウントを有効にする(マネージャの承認-タイムアウトなし)

割り当て先

- Margo MacKenzie
- Timothy Swan

値によるカラムのソート

- 1 カラムの見出しをクリックすると、カラム内の値をソートできます。
- 2 もう一度見出しをクリックすると、逆順にソートできます。

データの表示のフィルタリング

公開表示フォーマットでは、検索によって返されたデータセット全体が表示されます。フィルタを使用して、このデータセットをフィルタできます。フィルタは画面右側にあり、検索のカラム見出しの名前が付いています。[タスク]、[要求]、[割り当て先]、および[要求者]のカラム値を基準にデータをフィルタできます。フィルタは、対応するカラムが画面に含まれている場合にのみ表示されます。

注：公開表示では、フィルタをファセットと呼びます。

図 12-3 は、[要求] フィルタと [割り当て先] フィルタを使用した例を示しています。

図 12-3 公開表示の 2 つのフィルタ



各フィルタパラメータの横には、数字とチェックマーク (オプション) があります。数字は、現在のフィルタセット内のパラメータに一致するタスク数を示します。チェックマークは、フィルタパラメータが選択されているかどうかを示します。初期状態では、すべてのフィルタパラメータが選択されており、検索を実行すると、すべてのデータを表示できます。フィルタにパラメータが 1 つしかない場合、そのパラメータは自動的に選択されます。

- 1 データのサブセットを表示するには、1 つ以上のフィルタボックスのパラメータを 1 つ以上クリックします。

注: 1 つのフィルタのパラメータを選択すると、他のフィルタで使用できるパラメータが変わる場合があります。

たとえば、[割り当て先] フィルタで Margo の名前をクリックして、[要求者] フィルタで Kevin の名前をクリックした場合、図 12-4 に示すように、Margo Mackenzie に割り当てられていて、かつ Kevin Chester が要求したタスクのみが表示されます。

図 12-4 2 つのフィルタを適用した後のタスクリストの例



画面からのデータのエクスポート

- 1 画面に表示されているデータをエクスポートするには、画面上部にある [リストをクリップボードにコピー] をクリックします。
- 2 [タブ区切り値] または [このビューの生成されたHTML] を選択します。公開表示によって、コード化されたテキストファイルが生成されます。
- 3 内容をクリップボードにコピーします。
- 4 クリップボードから貼り付け先のファイルに貼り付けます。
- 5 [閉じる] をクリックするか、または <ESC> キーを押して、コード化されたテキストのウィンドウを閉じます。

表示アイコンの理解

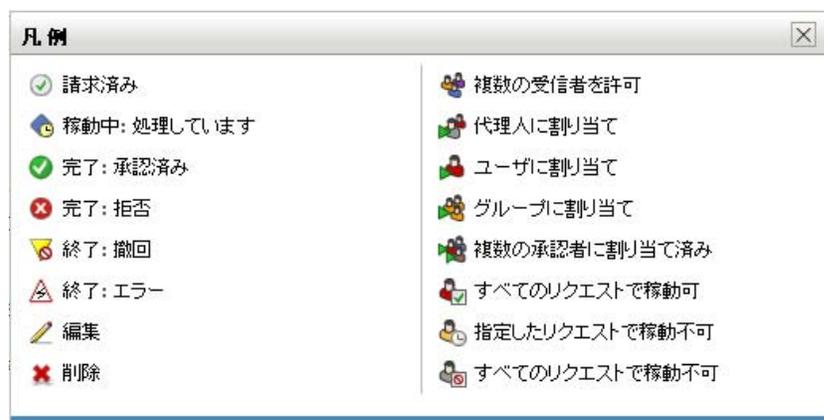
テンプレート表示および公開表示のどちらでも、結果セット内の各タスクのステータスを示すアイコンが表示されます。この節では、タスクリストに表示される表示アイコンについて説明します。

- ◆ 163 ページの 「[タイプ] カラム」
- ◆ 163 ページの 「[優先度] カラム」
- ◆ 164 ページの 「[引き受け済み] カラム」
- ◆ 164 ページの 「[デジタル署名] カラム」

[タイプ] カラム

[タイプ] カラムの下にはステータスフラグが表示されます。フラグは凡例で定義されています。凡例にアクセスするには、[チームのタスク] タイトルバーの右側にある複数色のアイコンをクリックします。163 ページの 図 12-5 は凡例を示しています。

図 12-5 [チームのタスク] 画面に表示されるアイコン



[優先度] カラム

赤いフラグは優先度の高いタスクを示します。この優先度は、管理者が作成したプロビジョニング要求定義で設定されています。

[引き受け済み] カラム

[引き受け済み] アイコン  ([引き受け済み] カラムにあります) は、タスクが引き受け済みであることを示します。

[デジタル署名] カラム

[デジタル署名] アイコン  ([デジタル署名] カラムにあります) は、タスクを承認または拒否するのにデジタル署名が必要なことを示します。

12.2.4 タスクの選択

タスクリスト内のタスクを選択して開くには、次の手順を実行します。

- 1 タスク名をクリックします。

[チームのタスク] ページに [タスク詳細] パネルが表示されます。



チームのタスク

タスク詳細

・は入力必須です。

リソース: Enable Active Directory account 受信者: Blake Allison
リクエスト者: MacKenzie Margo タスク: 単一承認
次の日時以降キュー内にある: 19/03/2007 15:13:38 タイムアウト日時: 21/03/2007 15:13:38
割り当て先:  MacKenzie Margo 請求者:

フォームの詳細

単一承認

該当するボタンを選択して要求を承認または拒否してください。

要求元: Margo MacKenzie 受信者: Allison Blake
要求日: 19/03/2007
理由:
コメント:

タスクが複数の承認者に割り当てられている場合、[タスク詳細] フォームには [複数の承認者] アイコンが [割り当て先] フィールドの隣に表示され、アイコンの下に複数の承認が必要なことを示すテキストが表示されます。



チームのタスク

タスク詳細

・は入力必須です。

リソース: Quorum_Approval 受信者: Blake Allison
リクエスト者: Blake Allison タスク: 単一承認
次の日時以降キュー内にある: 27/03/2007 15:25:07 タイムアウト日時: 29/03/2007 15:25:07
割り当て先:  複数の承認者** 請求者:

**複数の承認が必要です。このタスクは委任されているのでキューに入っています。

- 2 複数の承認者に割り当てられたタスクの詳細を表示するには、[複数の承認者] アイコンの下にあるテキストをクリックします。

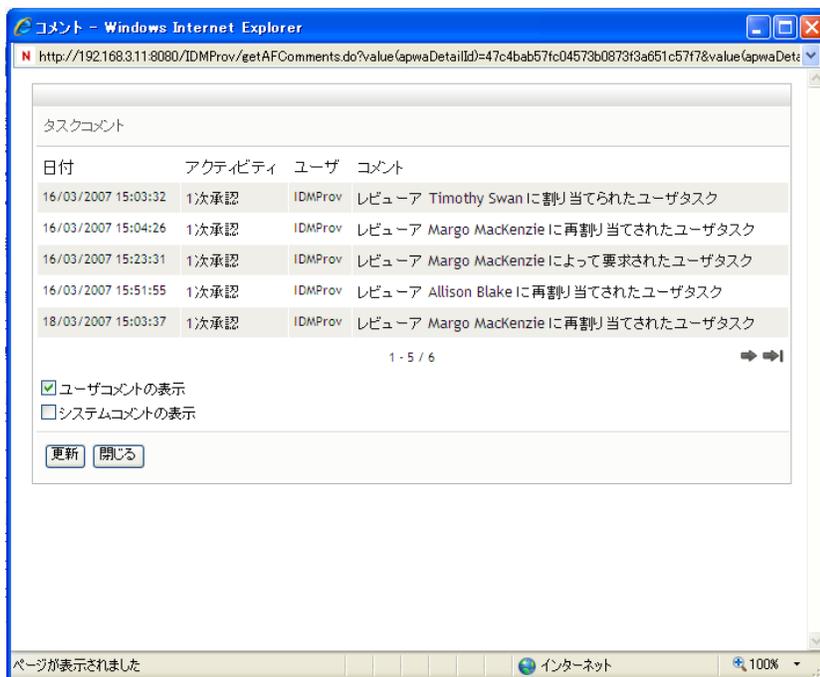


必要な承認の数、現在の受取人は誰か、現在の承認ステータスは何か、を示すポップアップウィンドウが表示されます。



タスクの要件は、管理者がそのタスクをどのように設定したかに依存します。

- ◆ 承認タイプが [グループ] の場合、タスクはあるグループ内の複数のユーザに割り当てられていますが、タスクを引き受けて承認できるのは1人だけです。
 - ◆ 承認タイプが [複数承認者] の場合、タスクは複数の受取人に割り当てられており、すべての受取人がそのタスクを引き受け、承認する必要があります。
 - ◆ 承認タイプが [定足数] の場合、タスクは複数の受取人に割り当てられており、受取人のうちの定足数に達すればタスクを承認できます。定足数の定義は管理者が行います。定足数を定義するために、管理者は必要となる正確な承認数または承認の割合を特定する承認条件を指定します。
- 3 タスクを引き受ける場合は、**168 ページのセクション 12.2.5 「タスクの引き受け」**の手順を実行します。
 - 4 タスクを再割り当てする場合は、**171 ページのセクション 12.2.6 「タスクの再割り当て」**の手順を実行します。
 - 5 タスクのコメント履歴を表示するには、[コメント履歴の表示] をクリックします。
- ポップアップウィンドウにユーザおよびシステムコメントが表示されます。コメントが表示される順序は、各コメントに関連したタイムスタンプにより決定されます。最初に入力されたコメントが初めに表示されます。並列承認フローでは、処理中のアクティビティが同時には予測不可能な可能性があります。
- 5a ユーザコメントを表示するには、[ユーザコメントの表示] をクリックします。

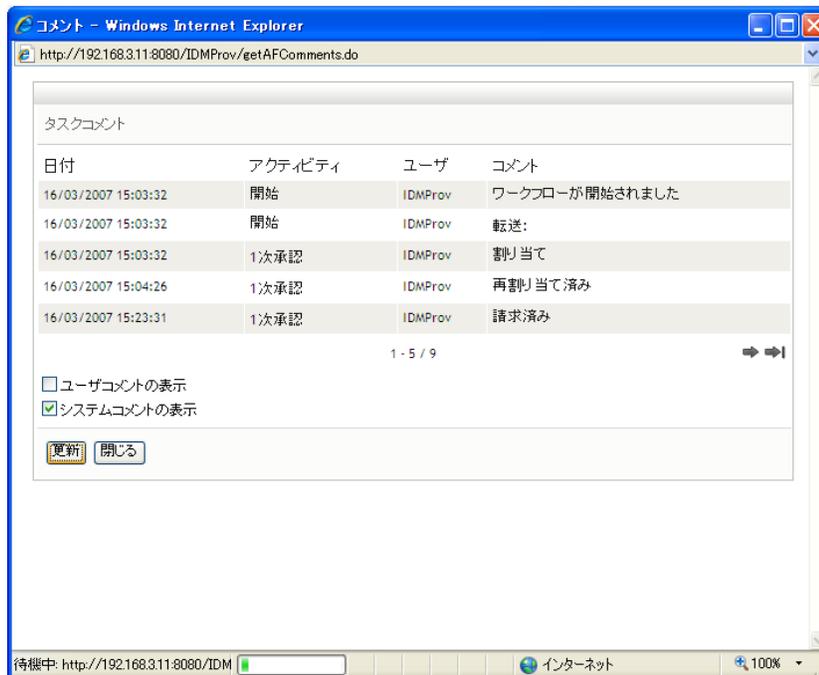


ユーザコメントには、次のような種類の情報が含まれています。

- ◆ 各コメントが追加された日時。
- ◆ コメントの対象となるアクティビティの名前。表示されるアクティビティのリストには、ユーザおよび処理済みまたは現在処理中のプロビジョニングアクティビティが含まれる。
- ◆ コメントを作成したユーザ名。コメントがワークフローシステムにより生成された場合、アプリケーション名 (たとえば、IDMProv) がユーザ名となる。ワークフローシステムにより生成されたコメントは自動的にローカライズされます。
- ◆ 各アクティビティに現在指名されているユーザ名を含むコメントテキスト。

注: ワークフロー設計者は、ワークフローに対するユーザコメントの生成を無効化できる。詳細については、『[Identity Manager ユーザアプリケーション: 設計ガイド](http://www.novell.com/documentation/idmrbpm361/index.html) (<http://www.novell.com/documentation/idmrbpm361/index.html>)』を参照してください。

- 5b** システムコメントを表示するには、[システムコメントの表示] をクリックします。



システムコメントには、次のような種類の情報が含まれています。

- ◆ 各コメントが追加された日時。
- ◆ コメントの対象となるアクティビティの名前。システムコメントを表示すると、ワークフロー内のすべてのアクティビティが一覧表示される。表示されるアクティビティのリストには、処理済みまたは現在処理中のアクティビティが含まれる。
- ◆ コメントを作成したユーザ名。コメントがワークフローシステムにより生成された場合、アプリケーション名 (たとえば、IDMProv) がユーザ名となる。ワークフローシステムにより生成されたコメントは自動的にローカライズされます。
- ◆ アクティビティ向けに実行されたアクションを示すコメントテキスト。

システムコメントは、デバッグをするために使用されることを主な目的としています。ほとんどのビジネスユーザはワークフローのシステムコメントを見る必要はありません。

- 5c** コメントの長いリストをスクロールするには、画面の最下部の矢印をクリックします。たとえば、次ページにスクロールするには、[次へ] の矢印をクリックします。



- 5d** [閉じる] をクリックしてウィンドウを閉じます。

- 6** タスクリストに戻るには、[戻る] をクリックします。

注: [引き受け] および [再割り当て] ボタンは、これらのアクションがチーム要求権限で許可されている場合のみ表示されます。

12.2.5 タスクの引き受け

実行するチームメンバーのタスクを引き受けるには、次の手順を実行します。

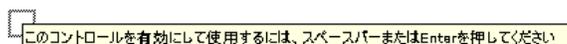
- 1 [引き受け] をクリックします。

ページの [フォームの詳細] セクションが更新され、[拒否] および [承認] ボタン、およびフロー定義に含まれる他のすべてのアクションボタンが表示され、適切なフィールドが編集可能になります。

要求したリソースにデジタル署名が必要な場合、[デジタル署名が必要] アイコンがページの上右隅に表示されます。



加えて、Internet Explorer 上に、デジタル署名アプレットを有効化するには <Space> キーまたは <Enter> キーを押す必要があるというメッセージが表示されます。



- 2 デジタル署名が必要なタスクを処理している場合は、次のステップを実行します。
 - 2a スマートカードを使用している場合は、スマートカードリーダーに挿入します。
 - 2b Internet Explorer 上で、<Space> キーまたは <Enter> キーを押してアプレットを有効化します。

この時点で、ブラウザにセキュリティに関する警告メッセージが表示される可能性があります。



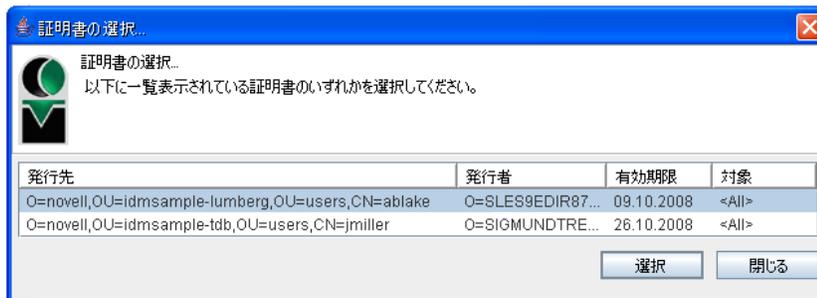
2c [実行] をクリックして、続行します。

2d 承認フォームの各フィールドで値を指定します。このフォームに表示されるフィールドは、要求したリソースの種類によって異なります。

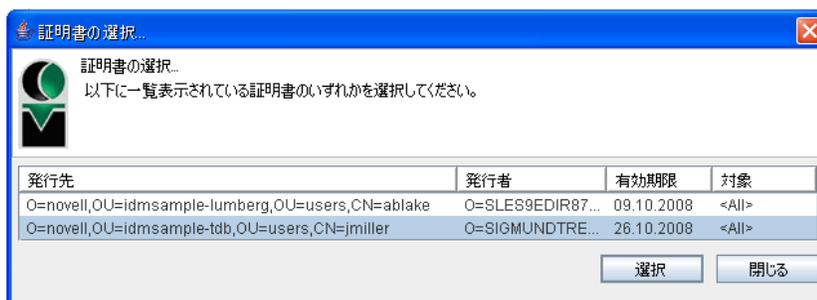
2e デジタル署名確認メッセージの隣のチェックボックスをオンにし、署名準備が整っていることを示します。

デジタル署名確認メッセージは、管理者がどのようにプロビジョニングリソースを設定したかによって変化します。

アプレットには、証明書が選択できるポップアップウィンドウが表示されます。ポップアップウィンドウには、ブラウザにインポートされた証明書、およびスマートカードにインポートされた証明書が一覧表示されます。



2f 使用する証明書を選択し、[選択] をクリックします。



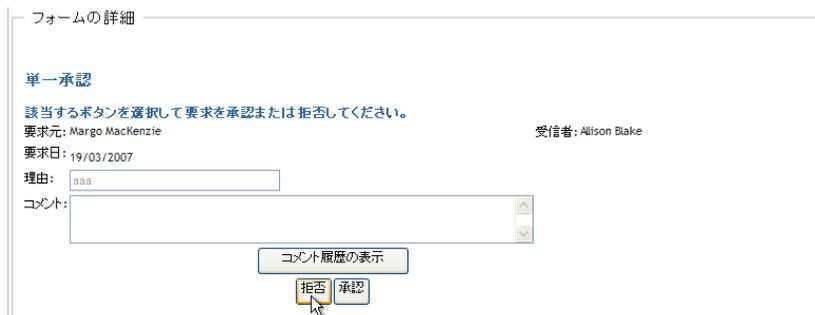
- 2g** ブラウザにインポートされた証明書を選択する場合、要求フォーム上の [パスワード] フィールドにパスワードを入力する必要があります。
- 2h** スマートカードにインポートされた証明書を選択する場合、スマートカードの PIN を入力し、[OK] をクリックします。
- スマートカードを使用する場合、証明書用のパスワードを入力する必要はありません。すでに証明書パスワードがカードに送信されているからです。



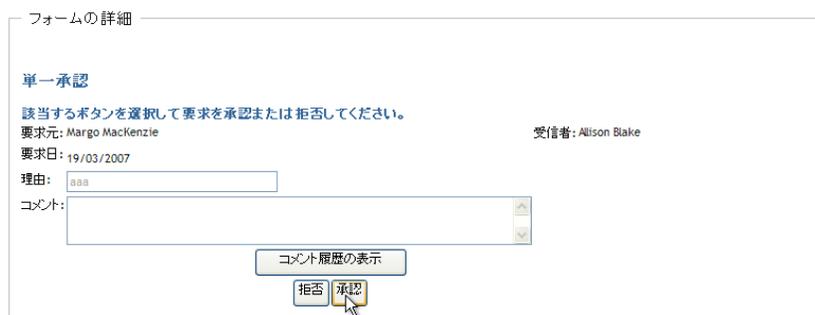
ユーザ同意書をプレビューする機能を管理者が有効化している場合は、[プレビュー] ボタンが有効になります。

- 2i** [プレビュー] をクリックし、ユーザ同意書を確認します。
- デジタル署名の種類がフォームに設定されている場合は、PDF 文書が表示されます。
- デジタル署名の種類がデータに設定されている場合は、XML 文書が表示されます。

- 3** 要求を拒否するには、[拒否] ボタンをクリックします。



- 4** 要求を承認するには、[承認] ボタンをクリックします。



アクションが正常に実行されたかどうかを示すメッセージが表示されます。

12.2.6 タスクの再割り当て

実行するチームメンバーのタスクを再割り当てするには、次の手順を実行します。

- 1 [チームのタスク] タスク詳細ウィンドウで、[再割り当て] をクリックします。



- 2 選択したエントリボックスの隣にある [オブジェクトセクタ] アイコン をクリックします。
- 3 [新しい割り当て先] ドロップダウンリストで、タスクの再割り当てを行いたいユーザを選択します。



- 4 (オプション) [コメント] フィールドに、再割り当ての理由を説明するコメントを入力します。
- 5 [送信] をクリックします。

アクションが正常に実行されたかどうかを示すメッセージが表示されます。

12.2.7 タスクの解放

タスクを解放した場合、他のチームメンバーは、そのタスクを割り当てること、および引き受けることができます。

- 1 [チームのタスク] ページの [タスク詳細] パネルで、[解放] をクリックします。



12.3 チームリクエストの作成

[チームリソースのリクエスト] アクションを使用することにより、チームメンバーのためのリソースを要求できます。

- 1 [チームリソースのリクエスト] ([マイチームの作業] アクションカテゴリ内) をクリックします。

[チームリソースのリクエスト] ページが開きます。



- 2 [チームの選択] をクリックし、チームマネージャとして指名されたチームを選択します。それから、[続行] をクリックします。

カテゴリを選択できるページが表示されます。

- 3 [要求タイプ] ドロップダウンリスト内の要求カテゴリを選択します。[すべて] を選択し、利用可能なすべてのカテゴリからの要求を含めます。

使用可能なカテゴリのリストは、チーム要求権限に依存しています。チームのプロビジョニング要求範囲にリソースカテゴリが含まれない場合、カテゴリリストは表示されません。この場合、次のステップへスキップしリソースを選択します。

- 4 [続行] をクリックします。

[チームリソースのリクエスト] ページに、要求可能なリソースが一覧表示されます。リストには、チームマネージャが要求を開始できるリソースのみが含まれています。



- 5 リソース名をクリックして選択します。
- 6 [受信者] 名をクリックして選択します。選択したチームメンバーは要求の受信者です。

チームの定義方法に応じて、チームメンバーのリストの代わりに、[オブジェクトセレクタ] アイコン  が [受信者] 選択ボックスの隣に表示される場合もあります。この場合、アイコンをクリックし [オブジェクト検索] ウィンドウを開きます。チームメンバーを探すための検索条件を指定して [検索] をクリックし、チームメンバーを選択します。

ワークリストに対して複数受信者をサポートするように [フロー戦略] が定義されていた場合、グループ、コンテナ、またはチームを受信者として選択できます。ワークフローの設定方法によって、ユーザアプリケーションが (要求が受信者ごとに個別に承認または拒否されるように) 各受信者に対して別のワークフローを生じる場合、または各受信者向けに1つずつ、複数のプロビジョニングステップを含む単一のフローを開始する場合があります。後に説明した場合は、要求の承認または拒否が全受信者に適用されます。

- 7 [続行] をクリックします。
- 8 [チームリソースのリクエスト] ページに要求パネルが表示されます。要求パネルの各フィールドで値を指定します。次の例では、必須フィールドは [要求の理由] のみです。

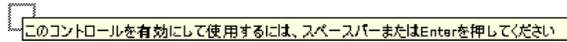
このフォームに表示されるフィールドは、要求したリソースの種類によって異なります。



要求したリソースにデジタル署名が必要な場合、[デジタル署名が必要] アイコンがページの上右隅に表示されます。



加えて、Internet Explorer 上に、デジタル署名アプレットを有効化するには <space> キーまたは <Enter> キーを押す必要があるというメッセージが表示されます。



- 9 デジタル署名が必要なタスクを行う場合は、次のステップを実行します。
 - 9a スマートカードを使用している場合は、スマートカードリーダーに挿入します。
 - 9b Internet Explorer 上で、<Space> キーまたは <Enter> キーを押してアプレットを有効化します。

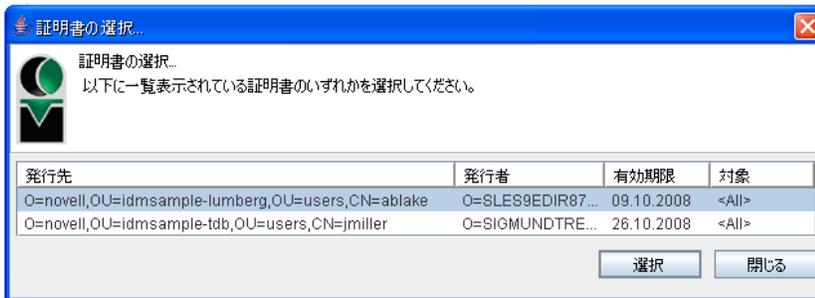
この時点で、ブラウザにセキュリティに関する警告メッセージが表示される可能性があります。



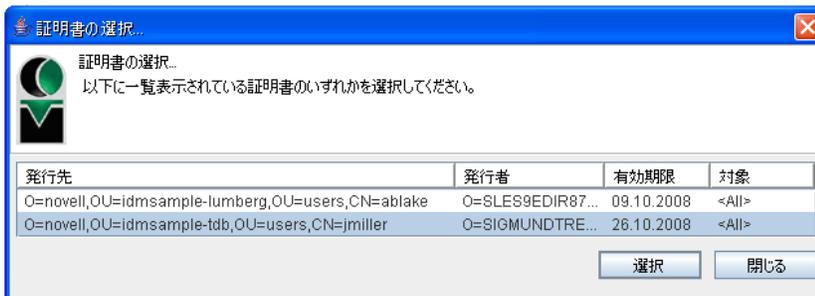
- 9c [実行] をクリックして、続行します。
- 9d 初期要求フォームの各フィールドに値を指定します。このフォームに表示されるフィールドは、要求したリソースの種類によって異なります。
- 9e デジタル署名確認メッセージの隣のチェックボックスをオンにし、署名準備が整っていることを示します。

デジタル署名確認メッセージは、管理者がどのようにプロビジョニングリソースを設定したかによって変化します。

アプレットには、証明書が選択できるポップアップウィンドウが表示されます。ポップアップウィンドウには、ブラウザにインポートされた証明書、およびスマートカードにインポートされた証明書が一覧表示されます。



- 9f 使用する証明書を選択し、[選択] をクリックします。



- 9g ブラウザにインポートされた証明書を選択する場合、要求フォーム上の [パスワード] フィールドにパスワードを入力する必要があります。
- 9h スマートカードにインポートされた証明書を選択する場合、スマートカードの PIN を入力し、[OK] をクリックします。
- スマートカードを使用する場合、証明書用のパスワードを入力する必要はありません。すでに証明書パスワードがカードに送信されているからです。



ユーザ同意書をプレビューする機能を管理者が有効化している場合は、[プレビュー] ボタンが有効になります。

プレビュー

9i [プレビュー] をクリックし、ユーザ同意書を確認します。

デジタル署名の種類がフォームに設定されている場合は、PDF 文書が表示されます。デジタル署名の種類がデータに設定されている場合は、XML 文書が表示されます。

10 [送信] をクリックします。

そのユーザに対するワークフローが開始します。

[チームリソースのリクエスト] ページに、要求が正常に送信されたかどうかを示すステータスメッセージが表示されます。

リソース要求に対して、組織内の 1 人または複数の個人からの承認が必要な場合、それらのユーザによる承認を得るためのワークフローが 1 つ以上開始します。

12.4 自チームの要求の管理

[チーム要求] アクションでは、チームマネージャおよびプロビジョニングアプリケーション管理者がリソース要求の状態と履歴を表示でき、リソース要求を撤回することができます。

注: [チーム要求] アクションは、役割または検証要求を表示しません。役割要求の状態を表示するには、[役割] タブの [要求ステータスの表示] アクションを使用します。検証要求の状態を表示するには、[整合性] タブの [検証要求ステータスの表示] アクションを使用します。

1 [チームリクエスト] ([マイチームの作業] アクションカテゴリ内) をクリックします。

2 [チームの選択] をクリックし、チームマネージャとして指名されたチームを選択します。

自分がプロビジョニングアプリケーション管理者は、[チームの選択] ボックスは表示されません。

プロビジョニングアプリケーション管理者は、コンテナまたはグループによるチーム要求のリストをフィルタできません。管理者はチームメンバーを個別に選択する必要があります。



3 [続行] をクリックします。

[チームリソースの要求] ページでは、[チームメンバー] フィルタ、[要求タイプ] (カテゴリ) フィルタ、および [要求日] フィルタを選択するように要求されます。

4 [チームメンバー] で名前をクリックして選択します。

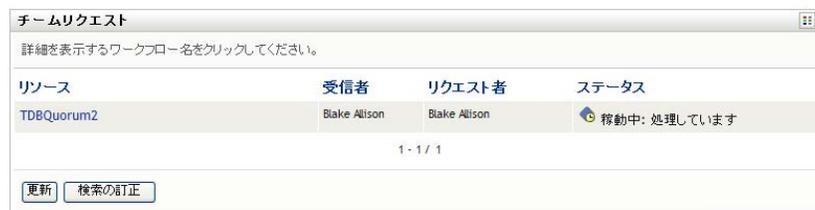
チームの定義方法に応じて、チームメンバーのリストの代わりに、[オブジェクトセレクタ] アイコン  が表示される場合もあります ([チームメンバー] 選択ボックスの隣)。この場合、アイコンをクリックし [オブジェクト検索] ウィンドウを開きます。チームメンバーを探すための検索条件を指定して [検索] をクリックし、チームメンバーを選択します。

5 チームメンバーを選択すると、[要求タイプ] (カテゴリ) フィルタおよび [要求日] フィルタを選択できます。[続行] をクリックします。

[チームリクエスト] ページに次の情報が一覧表示されます。

- ◆ 要求された各リソース
- ◆ そのリソースを受信するユーザ
- ◆ そのリソースを要求したユーザ
- ◆ その要求のステータス

チーム要求が表示されます。要求のリストにはチームが実行できる要求のみが含まれます。



6 要求の詳細情報を表示するには、リストで要求名をクリックします。

[リクエスト詳細] ページに、次の詳細情報が表示されます。

- ◆ リソースの名前
- ◆ リソースの受信者
- ◆ 現在のリソース要求の処理ステータス

- ◆ リソースの要求者
- ◆ リソース要求の発行日時
- ◆ コメント

7 リクエストのコメント履歴を表示するには、[コメントとフロー履歴の参照] をクリックします。

ポップアップウィンドウにユーザおよびシステムコメントが表示されます。コメントが表示される順序は、各コメントに関連したタイムスタンプにより決定されます。最初に入力されたコメントが初めに表示されます。並列承認フローでは、処理中のアクティビティが同時には予測不可能な可能性があります。

7a ユーザコメントを表示するには、[ユーザコメントの表示] をクリックします。

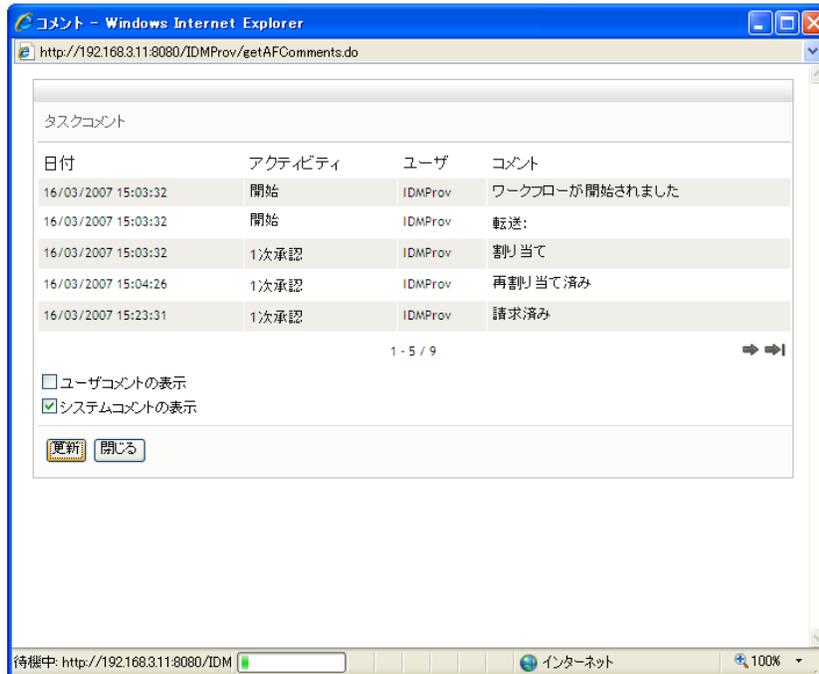
日付	アクティビティ	ユーザ	コメント
16/03/2007 15:03:32	1次承認	IDMProv	レビューア Timothy Swan に割り当てられたユーザタスク
16/03/2007 15:04:26	1次承認	IDMProv	レビューア Margo MacKenzie に再割り当てされたユーザタスク
16/03/2007 15:23:31	1次承認	IDMProv	レビューア Margo MacKenzie によって要求されたユーザタスク
16/03/2007 15:51:55	1次承認	IDMProv	レビューア Allison Blake に再割り当てされたユーザタスク
18/03/2007 15:03:37	1次承認	IDMProv	レビューア Margo MacKenzie に再割り当てされたユーザタスク

ユーザコメントには、次のような種類の情報が含まれています。

- ◆ 各コメントが追加された日時。
- ◆ コメントの対象となるアクティビティの名前。表示されるアクティビティのリストには、ユーザおよび処理済みまたは現在処理中のプロビジョニングアクティビティが含まれる。

- ◆ コメントを作成したユーザ名。コメントがワークフローシステムにより生成された場合、アプリケーション名 (たとえば、IDMProv) がユーザ名となる。ワークフローシステムにより生成されたコメントは自動的にローカライズされます。
- ◆ 各アクティビティに現在指名されているユーザ名を含むコメントテキスト。ワークフロー設計者は、ワークフローに対するユーザコメントの生成を無効化できる。詳細については、『*Identity Manager ユーザアプリケーション: 設計ガイド* (<http://www.novell.com/documentation/idmrbpm361/index.html>)』を参照してください。

7b システムコメントを表示するには、[システムコメントの表示] をクリックします。



システムコメントには、次のような種類の情報が含まれています。

- ◆ 各コメントが追加された日時。
- ◆ コメントの対象となるアクティビティの名前。システムコメントを表示すると、ワークフロー内のすべてのアクティビティが一覧表示される。表示されるアクティビティのリストには、処理済みまたは現在処理中のアクティビティが含まれる。
- ◆ コメントを作成したユーザ名。コメントがワークフローシステムにより生成された場合、アプリケーション名 (たとえば、IDMProv) がユーザ名となる。ワークフローシステムにより生成されたコメントは自動的にローカライズされます。
- ◆ アクティビティ向けに実行されたアクションを示すコメントテキスト。

システムコメントは、デバッグをするために使用されることを主な目的としています。ほとんどのビジネスユーザはワークフローのシステムコメントを見る必要はありません。

- 7c** コメントの長いリストをスクロールするには、画面の最下部の矢印をクリックします。たとえば、次ページにスクロールするには、**[次へ]** の矢印をクリックします。



- 7d** **[閉じる]** をクリックしてウィンドウを閉じます。
- 8** リソース要求を撤回するには、**[リクエスト詳細]** ページで **[撤回]** をクリックします。**[撤回]** ボタンは、実行のプロセスに対してのみ有効です。プロセスの実行が終了すると、**[撤回]** ボタンは無効になります。
- [撤回]** ボタンは、チーム要求権限内でチームマネージャに要求を撤回する権限が与えられていない限り、表示されません。

自チームのプロビジョニング情報の設定

この項では、Identity Manager ユーザインタフェースの [マイチームの設定] アクションカテゴリ ([要求と承認] タブ内) を使用する方法について説明します。この節の内容は次のとおりです。

- 181 ページのセクション 13.1 「[マイチームの設定] アクションカテゴリの概要」
- 181 ページのセクション 13.2 「自チームに関する代理割り当ての表示と編集」
- 185 ページのセクション 13.3 「自チームに関する委任割り当ての表示と編集」
- 190 ページのセクション 13.4 「自チームの作業不能条件の指定」

13.1 [マイチームの設定] アクションカテゴリの概要

Identity Manager ユーザアプリケーションの [要求と承認] タブには、[マイチームの設定] というアクションカテゴリがあります。[マイチームの設定] アクションカテゴリのアクションを使用することにより、次の作業を実行できます。

- 自チームに関する現在の代理割り当てを作成、表示、および修正する。
- 自チームに関する現在の委任割り当てを作成、表示、および修正する。
- 委任割り当てに関するチームメンバーの作業不能条件を定義および表示する。

13.2 自チームに関する代理割り当ての表示と編集

[チームの代理人割り当て] アクションを使用することにより、自チームのメンバーに関する代理割り当てを管理できます。代理割り当てを定義する際のルールは次のとおりです。

- 自分がチームマネージャの場合は、チームのメンバーの代理を定義することができます。代理を定義する権限はチーム定義により決定される。
- 代理として指定するユーザも、自チームのメンバーでなければならない。
- プロビジョニングアプリケーション管理者は、組織内の任意のユーザ、グループ、またはコンテナに関する代理を設定できる。

チームメンバーに対する代理ユーザを割り当てるには、次の手順を実行します。

- 1 [チームの代理人割り当て] ([マイチームの設定] アクションカテゴリ内) をクリックします。



- 2 [チームの選択] をクリックし、チームマネージャとして指名されたチームを選択します。

自分がプロビジョニングアプリケーション管理者は、[チームの選択] ボックスは表示されません。

チームのリストには、チームマネージャが代理を設定できるチーム、および代理を設定する機能が無効化されたチームが含まれています。特定のチーム定義によりマネージャが代理を設定できないようになっている場合でも、マネージャは、管理者または他のチーム (自チームのメンバーが他に属している) のマネージャによって自チームのメンバーに定義された代理設定を表示できます。ただし、チームマネージャはこれらの設定の編集、詳細表示、新規代理の割り当てはできません。

- 3 [続行] をクリックします。
- 4 [チームメンバー] で名前をクリックして選択します。

チームの定義方法に応じて、チームメンバーのリストの代わりに、[オブジェクトセレクタ] アイコン  が表示される場合もあります ([チームメンバー] 選択ボックスの隣)。この場合、アイコンをクリックし [オブジェクト検索] ウィンドウを開きます。チームメンバーを探すための検索条件を指定して [検索] をクリックし、チームメンバーを選択します。



- 5 [続行] をクリックします。
 選択したチームメンバーに関する代理割り当てがすでに定義されている場合は、その情報が表示されます。 [割り当て済み代理人] フィールドををクリックして、代理割り当てをソートできます。
- 6 [新規] をクリックします。
 [新規] ボタンは、チームマネージャがチームメンバーに関して代理を設定できるチームに対してのみ有効化されています。

7 次のようにフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
ユーザ	代理ユーザを割り当てたいチームメンバーを選択します。複数のユーザを選択することもできます。
割り当て済み代理人	代理となるチームメンバーを選択します。
他のユーザにこれらの変更について通知します	この代理の割り当てを1人以上のユーザに通知するメッセージを電子メールで送信するかどうかを指定します。
受信者	電子メールによる通知を受け取るユーザを指定します。 すべて: 代理として割り当てられたユーザ、および代理が割り当てられたチームメンバーが電子メールによる通知を受け取るように指定します。 割り当て元: 代理が割り当てられたチームメンバーのみが電子メールによる通知を受け取るように指定します。 割り当て先: 代理として割り当てられたユーザのみが電子メールによる通知を受け取るように指定します。 選択的: チームに属しないユーザを含む、選択した任意のユーザに電子メールによる通知を送信できます。
有効期限	無期限: 代理の割り当てが削除されるか変更されるまで効力を保ったままにする場合は、[無期限]を選択します。 期限の指定: [有効期限の指定]を選択し、[終了日]を定義します。カレンダーをクリックし、代理割り当ての有効期限を選択します。

8 [送信] をクリックし、選択内容を保存します。

代理割り当てが完了した場合、次のようなメッセージが表示されます。

```
Submission was successful
Changes will be reflected upon the assigned's next login.
```

9 代理割り当てを新規にするか、または既存の代理割り当てを編集するには、[チームの代理人の割り当て] に戻る] をクリックします。

既存の代理割り当てを修正するには

1 [チームの代理人割り当て] ([マイチームの設定] アクションカテゴリ内) をクリックします。

2 [チームの選択] をクリックし、チームマネージャとして指名されたチームを選択します。

チームのリストには、チームマネージャが代理を設定できるチーム、および代理を設定する機能が無効化されたチームが含まれています。特定のチーム定義によりマネージャが代理を設定できないようになっている場合でも、マネージャは、管理者または他のチーム (自チームのメンバーが他に属している) のマネージャによって自チームのメンバーに定義された代理設定を表示できます。ただし、チームマネージャはこれらの設定の編集、詳細表示、新規代理の割り当てはできません。

自分がプロビジョニングアプリケーション管理者は、[チームの選択] ボックスは表示されません。

3 [続行] をクリックします。

- 4 [チームメンバー] で名前をクリックして選択します。

チームの定義方法に応じて、チームメンバーのリストの代わりに、[オブジェクトセクタ] アイコンが表示される場合もあります ([チームメンバー] 選択ボックスの隣)。この場合、アイコンをクリックし [オブジェクト検索] ウィンドウを開きません。チームメンバーを探すための検索条件を指定して [検索] をクリックし、チームメンバーを選択します。

- 5 [続行] をクリックします。

選択したチームメンバーに関する代理割り当てがすでに定義されている場合は、その情報が表示されます。

- 6 代理割り当てを修正するには、修正したい代理割り当ての横にある編集ボタンをクリックします。



チーム定義により、チームマネージャが代理を設定できない場合、編集ボタンは無効になっています。

- 7 次のようにフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
ユーザ	代理ユーザを割り当てたいチームメンバーを選択します。複数のユーザを選択することもできます。
割り当て済み代理人	代理となるチームメンバーを選択します。
他のユーザにこれらの変更について通知します	この代理の割り当てを 1 人以上のユーザに通知するメッセージを電子メールで送信するかどうかを指定します。
受信者	電子メールによる通知を受け取るユーザを指定します。 すべて: 代理として割り当てられたユーザ、および代理が割り当てられたチームメンバーが電子メールによる通知を受け取るように指定します。 割り当て元: 代理が割り当てられたチームメンバーのみが電子メールによる通知を受け取るように指定します。 割り当て先: 代理として割り当てられたユーザのみが電子メールによる通知を受け取るように指定します。 選択的: チームに属しないユーザを含む、選択した任意のユーザに電子メールによる通知を送信できます。
有効期限	無期限: 代理の割り当てが削除されるか変更されるまで効力を保ったままにする場合は、[無期限] を選択します。 期限の指定: [有効期限の指定] を選択し、[終了日] を定義します。カレンダーをクリックし、代理割り当ての有効期限を選択します。

- 8 [送信] をクリックし、選択内容を保存します。

修正処理が完了した場合、次のようなメッセージが表示されます。

```
Submission was successful
Changes will be reflected upon the assigned's next login.
```

代理割り当てを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [チームの代理人割り当て] ([マイチームの設定] アクションカテゴリ内) をクリックします。
- 2 代理設定を削除するには、[削除] をクリックします。



削除操作を確認するメッセージが表示されます。削除が完了すると、次のようなメッセージが表示されます。

```
Submission was successful.  
Changes will be reflected upon the assigned's next login.
```

注: 代理割り当ての編集中に削除を行うこともできます。

13.3 自チームに関する委任割り当ての表示と編集

[チームの委任割り当て] アクションを使用することにより、自分および自チームのメンバーに関する委任割り当てを管理できます。委任割り当てを定義する際のルールは次のとおりです。

- ◆ チーム定義により権限が与えられている限り、チームマネージャとして指名されたチームのメンバーに関して委任を定義できます。
- ◆ 委任先として指定するユーザも、自チームのメンバーでなければなりません。
- ◆ プロビジョニングアプリケーション管理者は、組織内の任意のユーザ、グループ、またはコンテナに関する委任割り当てを定義できます。

委任割り当てを定義するには、次の手順を実行します。

- 1 [チームの委任割り当て] ([マイチームの設定] アクションカテゴリ内) をクリックします。
- 2 [チームの選択] をクリックし、チームマネージャとして指名されたチームを選択します。



チームのリストには、チームマネージャが委任を定義できるチーム(チーム要求権限内で指定されている)、および委任を設定する機能が無効化されたチームが含まれています。要求権限によりチームマネージャが委任を定義できないようになっている場合でも、マネージャは、管理者または他のチーム(チームメンバーが属している)のマネージャによって自チームのメンバーに定義された委任設定を表示できます。ただし、チームマネージャはこれらの設定の編集または削除、詳細表示、新規委任の割り当てはできません。

自分がプロビジョニングアプリケーション管理者は、[チームの選択] ボックスは表示されません。

- 3 [続行] をクリックします。
- 4 [チームメンバー] で名前をクリックして選択します。



チームの定義方法に応じて、チームメンバーのリストの代わりに、[オブジェクトセレクタ] アイコン  が表示される場合もあります([チームメンバー] 選択ボックスの隣)。この場合、アイコンをクリックし [オブジェクト検索] ウィンドウを開きます。チームメンバーを探すための検索条件を指定して [検索] をクリックし、チームメンバーを選択します。

- 5 リストでチームメンバーを選択し、[続行] をクリックします。
このチームメンバーに関する委任割り当てがすでに存在している場合は、その情報が表示されます。
- 6 [新規] をクリックします。
[新規] ボタンは、チームマネージャがチームメンバーに関して委任を定義できるチームに対してのみ有効化されています。
- 7 次のようにフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
ユーザ	委任したい仕事を持つ1人以上のユーザを選択します。
割り当てタイプ	委任された作業を実行できるユーザを割り当てるため、次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 委任の割り当て：リストからユーザを選択します。 ◆ 関係による割り当て：ドロップダウンリストから委任関係を選択します。
他のユーザにこれらの変更について通知します	この委任割り当てを1人以上のユーザに通知するメッセージを電子メールで送信するかどうかを指定します。
受信者	電子メールによる通知を受け取るユーザを指定します。 <p>すべて：委任先として割り当てられたユーザ、および委任が割り当てられたチームメンバーが電子メールによる通知を受け取るように指定します。</p> <p>割り当て元：委任が割り当てられたチームメンバーのみが電子メールによる通知を受け取るように指定します。</p> <p>割り当て先：委任先として割り当てられたユーザのみが電子メールによる通知を受け取るように指定します。</p> <p>選択的：チームに属しないユーザを含む、選択した任意のユーザに電子メールによる通知を送信できます。</p>
有効期限	無期限 ：委任の割り当てが削除されるか変更されるまで効力を保ったままにする場合は、 [無期限] を選択します。つまり、このオプションを選択した場合、委任割り当ては無期限になります。 <p>期限の指定：[有効期限の指定]を選択し、[終了日]を定義します。カレンダーをクリックし、委任割り当ての有効期限を選択します。</p>
[要求タイプ]	リストからカテゴリを選択します。 <p>これにより、[使用可能なリクエスト] ([選択したカテゴリ]内)のリストが入力されます。</p>
選択したカテゴリの使用可能なリクエスト	このリストからリソース要求を1つまたは複数個選択し、 [追加] をクリックします。
選択したリクエスト	委任されているリソース要求が一覧表示されます。リクエストタイプを削除するには、削除したいものをリストから選択し、 [削除] をクリックします。

- 8 **[送信]** をクリックし、委任割り当てを保存します。
保存が完了した場合、次のようなメッセージが表示されます。

```
Submission was successful
Please note that any previous availability settings for users referenced in
processed delegatee assignment will not be updated automatically. Please check
and refresh any existing availability settings for the corresponding users in
order to activate these changes.
```

委任割り当てを修正するには、次の手順を実行します。

- 1 [チームの委任割り当て] ([マイチームの設定] アクションカテゴリ内) をクリックします。
- 2 [チームの選択] をクリックし、チームマネージャとして指名されたチームを選択します。

チームのリストには、チームマネージャが委任を定義できるチーム (チーム要求権限内で指定されている)、および委任を設定する機能が無効化されたチームが含まれています。要求権限によりチームマネージャが委任を定義できないようになっている場合でも、マネージャは、管理者または他のチーム (チームメンバーが属している) のマネージャによって自チームのメンバーに定義された委任設定を表示できます。ただし、チームマネージャはこれらの設定の編集または削除、詳細表示、新規委任の割り当てはできません。

自分がプロビジョニングアプリケーション管理者は、[チームの選択] ボックスは表示されません。

- 3 [続行] をクリックします。
- 4 [チームメンバー] で名前をクリックして選択します。

チームの定義方法に応じて、チームメンバーのリストの代わりに、[オブジェクトセレクタ] アイコン  が表示される場合もあります ([チームメンバー] 選択ボックスの隣)。この場合、アイコンをクリックし [オブジェクト検索] ウィンドウを開きます。チームメンバーを探すための検索条件を指定して [検索] をクリックし、チームメンバーを選択します。

選択したチームメンバーに関する委任割り当てがすでに定義されている場合は、その情報が表示されます。

- 5 リストでチームメンバーを選択し、[続行] をクリックします。

このチームメンバーに関する委任割り当てがすでに存在している場合は、その情報が表示されます。

- 6 委任割り当てを修正するため、修正したい委任割り当ての横にある編集ボタンをクリックします。



チーム要求権限により、チームマネージャが委任を定義できない場合、編集ボタンは無効になっています。

- 7 次のようにフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
ユーザ	委任したい仕事を持つ1人以上のユーザを選択します。
割り当てタイプ	委任された作業を実行できるユーザを割り当てるため、次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 委任の割り当て：リストからユーザを選択します。 ◆ 関係による割り当て：ドロップダウンリストから委任関係を選択します。
他のユーザにこれらの変更について通知します	この委任割り当てを1人以上のユーザに通知するメッセージを電子メールで送信するかどうかを指定します。
受信者	電子メールによる通知を受け取るユーザを指定します。 <p>すべて：委任先として割り当てられたユーザ、および委任が割り当てられたチームメンバーが電子メールによる通知を受け取るように指定します。</p> <p>割り当て元：委任が割り当てられたチームメンバーのみが電子メールによる通知を受け取るように指定します。</p> <p>割り当て先：委任先として割り当てられたユーザのみが電子メールによる通知を受け取るように指定します。</p> <p>選択的：チームに属しないユーザを含む、選択した任意のユーザに電子メールによる通知を送信できます。</p>
有効期限	<p>無期限：委任の割り当てが削除されるか変更されるまで効力を保ったままにする場合は、[無期限]を選択します。つまり、このオプションを選択した場合、委任割り当ては無期限になります。</p> <p>期限の指定：[有効期限の指定]を選択し、[終了日]を定義します。カレンダーをクリックし、委任割り当ての有効期限を選択します。</p>
[要求タイプ]	<p>リストからカテゴリを選択します。</p> <p>これにより、[使用可能なリクエスト] ([選択したカテゴリ]内)のリストが入力されます。</p> <p>この委任割り当てがすべてのカテゴリに適用されるように指定するには、委任割り当ての要求タイプを[すべて]に設定します。</p> <div data-bbox="690 1501 1367 1617" style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>リクエストタイプの選択</p> <p>この代理人割り当てのリクエストのタイプを選択してください。使用可能なリクエストを表示するリソースカテゴリを選択してください。</p> <p>リソース検索条件: <input type="text" value="すべて"/></p> </div>
	<p>注：[すべて] オプションは、プロビジョニング管理者がご使用のアプリケーション向けに[すべての要求を許可] オプションを有効にしている場合のみ、使用できます。</p>

フィールド	説明
選択したカテゴリの使用可能なリクエスト	このリストからリソース要求を1つまたは複数個選択し、[追加] をクリックします。 プロビジョニング要求のリストには、チームのドメイン内にあるリクエストのみが含まれます。チーム要求権限により、チームマネージャが委任を定義できない場合、チームに関連するプロビジョニング要求はリスト内に含まれません。
選択したリクエスト	委任されているリソース要求が一覧表示されます。リクエストタイプを削除するには、削除したいものをリストから選択し、[削除] をクリックします。

8 [送信] をクリックし、選択内容を保存します。

委任割り当てを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [チーム委任先の割り当て] ([マイチームの設定] アクションカテゴリ内) をクリックし、このチームメンバーに委任された割り当て、およびこのチームメンバーから委任された割り当てを表示します。
- 2 委任割り当てを削除するため、削除したい委任割り当ての横にある削除ボタンをクリックします。



削除操作を確認するメッセージが表示されます。削除が完了すると、メッセージが表示されます。

13.4 自チームの作業不能条件の指定

[チームの可用性] アクションを使用することにより、自分または自チームのメンバーが処理できないリソース要求を指定できます。自分または自チームのメンバーが作業できない期間、指定された種類のリソース要求は、委任先のキューに転送されます。

作業不能条件は、個別のリソース要求に対して指定することも、すべてのリソース要求に対して指定することもできます。作業不能条件は、すでに委任先が割り当てられているユーザーに対してのみ指定できます。

- 1 [チームの可用性] ([マイチームの設定] アクションカテゴリ内) をクリックします。
- 2 [チームの選択] をクリックし、チームマネージャとして指名されたチームを選択します。



チームのリストには、チームマネージャが可用性を定義できるチーム(チーム定義内で指定されている)、および可用性を定義する機能が無効化されたチームが含まれています。特定のチーム定義によりマネージャが可用性を定義できないようになっている場合でも、マネージャは、管理者または他のチーム(自チームのメンバーが他に属している)のマネージャによって自チームのメンバーに定義された可用性設定を表示できます。ただし、チームマネージャはこれらの設定の編集または削除、詳細表示、新規可用性の割り当てはできません。

自分がプロビジョニングアプリケーション管理者は、[チームの選択] ボックスは表示されません。

- 3 [続行] をクリックします。
- 4 [チームメンバー] の名前をクリックして選択し、[続行] をクリックします。

チームの定義方法に応じて、チームメンバーのリストの代わりに、[オブジェクトセレクタ] アイコン  が表示される場合もあります([チームメンバー] 選択ボックスの隣)。この場合、アイコンをクリックし [オブジェクト検索] ウィンドウを開きます。チームメンバーを探すための検索条件を指定して [検索] をクリックし、チームメンバーを選択します。



選択したチームメンバーに関する可用性がすでに設定されている場合は、その情報が表示されます。

- 5 可用性の割り当てに関連する特定のリソースの詳細を表示するには、リソース名をクリックします。

リソース

[Enable Active Directory account](#)

ページには、委任の割り当てに関する情報を含むポップアップウィンドウが表示されます。

委任割り当て
ユーザ: Margo MacKenzie
代理人割り当て済み: Allison Blake
有効期限: 無期限

この情報は、可用性設定リストに同じリソース名が複数回表示される場合に特に役立ちます。

- 6 **[新規]** をクリックします。

[新規] ボタンは、チームマネージャがチームメンバーに関して可用性を定義できるチームに対してのみ有効化されています。

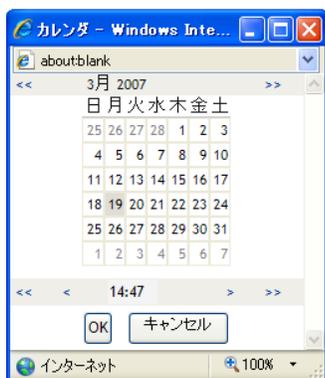
- 7 ステータスを指定するため、**[変更ステータス]** ドロップダウンリストで次のいずれかを選択します。

ステータス	説明
すべてのリクエストで有効	<p>これはデフォルトのステータスです。このステータスは、チームメンバーがすべてのリソース要求を処理できることを示します。このステータスが有効である場合、チームメンバーに対して委任先が設定されていたとしても、チームメンバーに割り当てられたリソース要求は委任されません。</p> <hr/> <p>注: [すべてのリクエストで有効 (すべての要求を処理可能)] ステータスから別のステータスに変更し、その後 [すべてのリクエストで有効 (すべての要求を処理可能)] ステータスに戻した場合、[選択的可用性 (選択的に処理可能)] の選択時に設定していた情報はすべて削除されます。</p>
すべてのリクエストで無効	<p>このステータスは、チームメンバーがシステム上に現在存在するリソース要求をまったく処理できないことを示します。</p> <p>このステータスを選択した場合、チームメンバーが既存の委任割り当てに対して作業不能であることを意味し、現在のステータスが [指定したリクエストで無効 (指定した要求を処理不能)] に変わります。</p> <p>委任割り当てはすぐに有効になります。また、期限切れになるまで有効です。</p> <hr/> <p>注: この設定は、この時点以降に新たに定義された委任割り当てに対する作業不能条件には、影響しません。</p>

ステータス	説明
指定したリクエストで無効	<p>このオプションを選択した場合、チームメンバーの作業不能条件を指定するよう要求されます。(この動作は、[新規] ボタンをクリックしたときと同じです。) 次の情報を指定するよう要求されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ チームメンバーが処理できない種類のリソース要求。 ◆ チームメンバーが作業できない期間。 <p>チームメンバーが特定種類のリソース要求を処理できない期間、そのリソース要求の処理を委任されたユーザは、そのリソース要求を処理できます。</p>

8 チームメンバーが作業できない期間を指定します。

8a [使用不可開始日 (作業不能期間開始日時)] ボックスに作業不能期間開始日時を直接入力するか、カレンダーボタンをクリックして日時を選択します。



8b 次のいずれかをクリックし、作業不能期間終了日時を指定します。

ボタン	説明
無期限	作業不能期間が無期限であることを意味します。
期間の指定	作業不能期間を週、日、または時間で指定できます。
終了日の指定	委任割り当て適用期間の終了日時を指定できます。終了日時を直接入力するか、または、カレンダーボタンをクリックして日時を選択します。

9 次のフィールドに値を入力し、他のユーザに電子メールによる通知を送信するかどうかを指定します。

フィールド	説明
他のユーザにこれらの変更について通知します	この可用性の割り当てを1人以上のユーザに通知するメッセージを電子メールで送信するかどうかを指定します。

フィールド	説明
受信者	電子メールによる通知を受け取るユーザを指定します。 選択的: チームに属しないユーザを含む、選択した任意のユーザに電子メールによる通知を送信できます。

- 10** [リクエストのタイプ] ボックスのリストで、リソース要求を1つまたは複数個選択し、[追加] をクリックします。
- このページでは、チームメンバーが作業不能時に承認しないリソース要求タイプを選択します。選択したリソース要求タイプを他ユーザに委任する際、そのリソース要求は承認されません。
- 追加したリソース要求は、[指定された期間内の減少 (指定期間において拒否される要求)] ボックスに表示されます。
- この期間に対してリソース要求を複数個追加した場合、各リソース要求は個別のオブジェクトとして扱われるので、個別に編集できます。
- 11** この可用性設定がすべての要求タイプに当てはまることを示すには、個別に要求タイプを選択する代わりに、[すべての要求タイプ] チェックボックスをオンにします。
- すべての要求タイプ
- [すべての要求タイプ] チェックボックスは、委任割り当て用の要求タイプが [すべて] に設定されている場合にのみ、使用できます。
- 12** [選択したリクエスト] ボックスからリソース要求を削除するには、[削除] をクリックします。
- 13** [送信] をクリックし、修正内容を確定します。

[役割] タブの使用

IV

次の各項では、Identity Manager ユーザアプリケーションの [役割] タブの使用方法について説明します。

- ◆ 197 ページの第 14 章 「[役割] タブの概要」
- ◆ 209 ページの第 15 章 「役割の表示」
- ◆ 211 ページの第 16 章 「役割の割り当て実行」
- ◆ 231 ページの第 17 章 「役割の管理」
- ◆ 245 ページの第 18 章 「役割レポートの作成および表示」

[役割] タブの概要

この項では、[役割] タブの概要について説明します。この節の内容は次のとおりです。

- ◆ 197 ページのセクション 14.1 「[役割] タブについて」
- ◆ 203 ページのセクション 14.2 「[役割] タブへのアクセス」
- ◆ 203 ページのセクション 14.3 「タブの機能の詳細」
- ◆ 204 ページのセクション 14.4 「実行できる役割のアクション」
- ◆ 206 ページのセクション 14.5 「役割の凡例の理解」

Identity Manager ユーザインタフェースの使用に関する全般的な説明については、17 ページの第 1 章「はじめに」を参照してください。

14.1 [役割] タブについて

[役割] タブの目的は、役割ベースのプロビジョニングアクションをユーザが簡単に実行できるようにすることです。これらのアクションを使用することで、組織内での役割の定義および役割の割り当てを管理できます。役割の割り当ては、会社内部のリソース（ユーザアカウント、コンピュータ、データベースなど）にマップできます。たとえば、[役割] タブを使用して次の作業を実行できます。

- ◆ 自分自身または組織内のその他のユーザに対して役割要求を行う
- ◆ 役割階層内で役割および役割関係を作成する
- ◆ 役割の割り当て間で発生する可能性のある衝突を管理するための役割分担 (SoD) の制約を作成する
- ◆ 役割カタログおよび現在ユーザ、グループ、およびコンテナに割り当てられている役割に関する詳細を提供するレポートを確認する

役割割り当て要求に対して組織内の 1 人以上の個人による許可が必要な場合、ワークフローが開始されます。ワークフローは、要求の完了に必要な承認を手配します。1 人の個人の承認が必要な役割割り当て要求もあれば、複数の個人の承認が必要な役割割り当て要求もあります。場合によっては、承認なしに実行できる要求もあります。

役割割り当て要求の結果、役割分担の競合が発生する可能性がある場合、イニシエータは役割分担の制約を上書きすることができ、制約に対して例外を許可するための正当な理由を提供します。場合によっては、役割分担の競合のためにワークフローが開始されます。このワークフローは、役割分担の例外を有効にするために必要な承認を手配します。

組織内のユーザのために [役割] タブの内容を設定するのは、ワークフロー設計者およびシステム管理者の責任です。役割ベースまたは役割分担のワークフローの制御の流れ、およびフォームの外観は、Designer for Identity Manager でワークフローの承認定義がどのように定義されているかによって変わります。加えて、通常各ユーザが表示できる情報および実行できる操作は、ユーザのジョブ要件と権限レベルによって決まります。

役割および代理 モード

プロキシモードは、[要求と承認] タブでのみ有効で、[役割] タブではサポートされていません。[要求と承認] タブでプロキシモードを起動し、[役割] タブに切り替えた場合、プロキシモードは両方のタブでオフになります。

14.1.1 役割について

この項では、[役割] タブで使用されている用語および概念の概要について説明します。

- ◆ 198 ページの「役割および役割の割り当てについて」
- ◆ 198 ページの「役割カタログおよび役割階層」
- ◆ 200 ページの「役割分担」
- ◆ 200 ページの「役割のレポートおよび監査」
- ◆ 201 ページの「役割のセキュリティ」
- ◆ 202 ページの「役割サービスドライバ」

役割および役割の割り当てについて

役割は、1 つ以上のターゲットシステムまたはアプリケーションに関連する一連の許可を定義します。ユーザは、[役割] タブを使用することで、役割とユーザ、グループ、またはコンテナの関係である **役割の割り当て** を要求できます。さらに [役割] タブでは、役割階層内での役割間関係を設定する **役割関係** を定義することもできます。

役割は直接ユーザに割り当てることができます。この場合、これらの **直接割り当て** では、役割に関連付けられている許可に対して明示的なアクセスを付与することになります。また、**間接割り当て** を定義することもできます。この場合、ユーザは、役割階層内のグループ、コンテナ、または関連するメンバーシップを通じて役割を取得できます。

役割の割り当てを要求する際には、**役割割り当ての有効開始日** を定義して、割り当てが有効になる日時を指定できます。このオプションを空欄にすると、割り当てはただちに行われることになります。

また、**役割割り当て有効期限** を定義して、割り当てを自動的に削除する日時を指定することもできます。

ユーザが役割の割り当てを要求すると、役割サブシステムが役割要求のライフサイクルを管理します。ユーザまたは役割サブシステムによって要求に対して実行されたアクションを確認するには、[要求ステータスの表示] ページで要求のステータスを確認できます。

役割カタログおよび役割階層

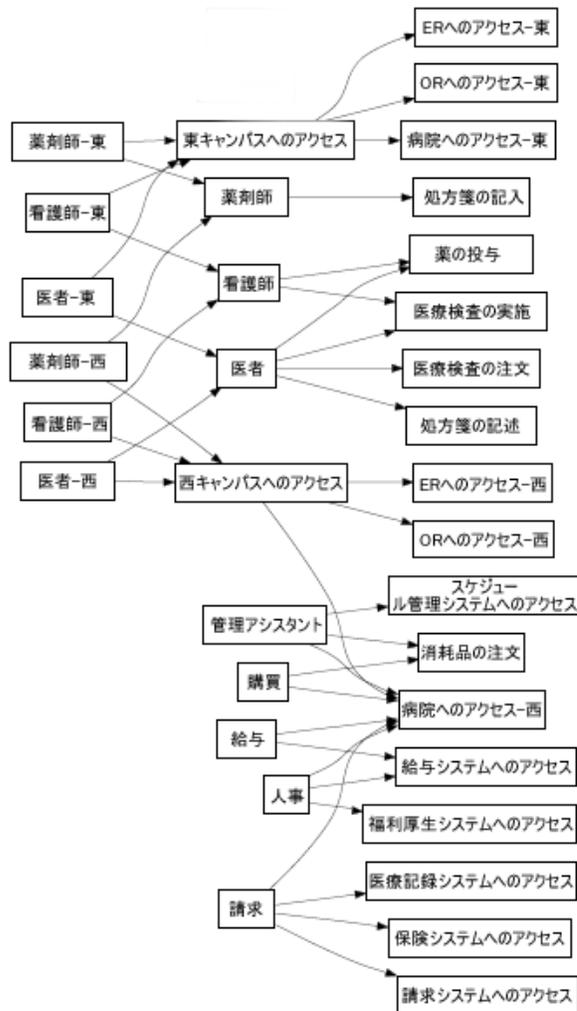
役割の割り当てを始めるには、該当する役割が役割カタログで定義されている必要があります。役割カタログとは、役割サブシステムで使用されるすべての役制定義と関連データのストレージレポジトリです。役割カタログを設定するには、役割モジュール管理者 (または役割マネージャ) が役割および役割階層を定義します。

カタログ内の役割間関係は **役割階層** で設定されます。役割関係を定義することで、役割関係を使用して権限を付与するタスクを簡素化できます。たとえば、医者が組織に加わるたびに医療関係の個別の役割を 50 個割り当てる代わりに、Doctor という役割を定義して

において、その Doctor の役割と各医療関係の役割の間に役割関係を指定することができます。ユーザを Doctor の役割に割り当てることで、関連する医療関係の各役割に対して定義された許可をユーザに付与できます。

役割階層は3つのレベルをサポートしています。最上位レベルに定義されている役割(ビジネス役割)は、組織内においてビジネス的な意味を持つ業務を定義します。中間レベルの役割(IT 役割)は、技術的な機能をサポートします。階層の最下位レベルで定義されている役割(許可役割)は、下位レベルの特権を定義します。次の例は、3レベルで構成されるある医療機関の役割階層のサンプルを示しています。左側に階層の最上位レベルがあり、右側が最下位レベルになります。

図 14-1 役割階層の例



上位レベルの役割には、自動的に、下位レベルの役割に含まれる役割が持つ特権が含まれます。たとえば、ビジネス役割には IT 役割が持つ特権が自動的に含まれます。同様に、IT 役割には許可役割が持つ特権が自動的に含まれます。

階層内の同等の役割間の役割関係は許可されていません。さらに、下位レベルの役割に上位レベルの役割を含めることはできません。

役割を定義する際には、オプションでその役割に1人以上の所有者を指定することができます。役割所有者とは、役割定義の所有者に指定されたユーザです。役割カタログでレポートを生成する際には、役割所有者に基づいてレポートをフィルタできます。役割所有者には、役割定義の変更を管理する権限は自動的に与えられません。場合によっては、役割に対して管理アクションを実行するよう所有者が役割管理者に依頼しなければならないこともあります。

役割を定義する際には、オプションでその役割を1つ以上の役割カテゴリに関連付けることができます。役割カテゴリを使用すると、役割を分類して、役割システムを整理することができます。役割をカテゴリに関連付けたら、役割カタログを参照する際にこのカテゴリをフィルタとして使用できます。

役割割り当て要求に承認が必要な場合は、承認を調整するのに使用されるワークフロープロセスのほかに、承認者リストの詳細が役割定義によって指定されます。承認者とは、役割割り当て要求を承認または拒否できる個人のことです。

役割分担

役割サブシステムの重要な機能は、役割分担 (SoD) 制約を定義できる点です。役割分担 (SoD) 制約とは、競合していると考えられる2つの役割を定義する規則です。組織の役割分担制約はセキュリティ責任者が作成します。SoD 制約を定義することで、セキュリティ責任者はユーザが競合する役割に割り当てられるのを防いだり、監査証跡を管理して、違反が許可されている状況をトラッキングしたりすることができます。役割分担制約では、競合する役割は役割階層内の同じレベルに存在する必要があります。

役割分担制約の中には、承認なしで上書きできるものも、承認が必要なものもあります。承認なしで許可されている競合を役割分担違反と呼びます。承認されている競合は、役割分担の承認済み例外と呼びます。役割サブシステムでは、間接割り当て (グループやコンテナ内のメンバーシップ、または役割関係など) の結果発生した SoD 違反の承認は必要ありません。

役割分担制約に承認が必要な場合は、承認を手配するのに使用されるワークフロープロセスのほかに、承認者リストに関する詳細が制約定義によって指定されます。承認者とは、SoD 例外を承認または拒否できる個人のことです。役割サブシステムの設定の一部として、デフォルトリストが定義されます。ただし、このリストは SoD の制約の定義で上書きできます。

役割のレポートおよび監査

役割サブシステムは、監査担当者が役割カタログに加え、役割割り当ておよび SoD の制約、違反、例外の現在のステータスを分析するのに役立つ豊富なレポート機能を備えています。役割監査担当者および役割モジュール管理者は、役割レポート機能を使用して次の種類のレポートを PDF 形式で表示できます。

- ◆ 役割リストレポート
- ◆ 役割詳細レポート
- ◆ 役割割り当てレポート
- ◆ SoD 制約レポート
- ◆ SoD 違反および例外レポート
- ◆ ユーザ役割レポート
- ◆ ユーザエンタイトルメントレポート

役割サブシステムは、レポート機能を使用して情報を提供するだけでなく、Novell® Audit イベントをログするように設定することもできます。

役割のセキュリティ

役割サブシステムは、一連のシステム役割を使用して、[役割] タブにある機能へのアクセスを保護しています。[役割] タブにある各メニューアクションは、1つ以上のシステム役割にマップされています。ユーザが、アクションに関連付けられているいずれかの役割のメンバーでない場合、そのアクションに対応するメニュー項目は [役割] タブに表示されません。

システム役割とは、インストール時に自動的に定義される、委任管理のための管理役割です。これらの役割には次のものが含まれます。

- ◆ 役割モジュール管理者
- ◆ 役割マネージャ
- ◆ 役割監査担当者
- ◆ セキュリティ責任者

システム役割については、次で詳細を説明します。

表 14-1 システム役割

役割	説明
役割モジュール管理者	<p>このシステム役割に含まれるメンバーは、すべての役割を作成、削除、変更したり、ユーザ、グループ、またはコンテナに役割を付与したり、取り消したりすることができます。さらにこの役割のメンバーは、任意のユーザに対して任意のレポートを実行できます。この役割に含まれるユーザは、ユーザアプリケーション内で次の機能を制限なしで実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 役割を作成、削除、および変更する◆ 役割の役割関係を変更する◆ 役割へのユーザ、グループ、またはコンテナの割り当てを要求する◆ SoD 制約を作成、削除、および変更する◆ 役割カタログを参照する◆ 役割サブシステムを設定する◆ すべての要求のステータスを表示する◆ 割り当て要求を撤回する◆ すべてのレポートを実行する

役割	説明
役割マネージャ	<p>このシステム役割に含まれるメンバーは、役割および役割関係を変更したり、ユーザに対して役割割り当てを付与したり、取り消したりすることができます。この役割に含まれるユーザは、ユーザアプリケーション内で次の機能を実行できます。その範囲は、役割オブジェクトに対するディレクトリ参照権限によって制限されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 新しい役割を作成し、ユーザが参照権限を持っている既存の役割を変更する ◆ ユーザが参照権限を持っている役割の役割関係を変更する ◆ ユーザが参照権限を持っている役割へのユーザ、グループ、またはコンテナの割り当てを要求する ◆ 役割カタログを参照する (参照権限によって範囲が制限される) ◆ ユーザ、グループ、およびコンテナに対する役割割り当て要求を参照する (役割、ユーザ、グループ、およびコンテナに対するディレクトリ参照権限により範囲が制限される) ◆ ユーザ、グループ、およびコンテナに対する役割割り当て要求を撤回する (役割、ユーザ、グループ、およびコンテナに対するディレクトリ参照権限により範囲が制限される)
役割監査担当者	<p>このシステム役割に含まれるメンバーは、自分がディレクトリ参照権限を持つレポートを実行できます。</p>
セキュリティ責任者	<p>このシステム役割に含まれるメンバーは、SoD 制約を作成、削除、または変更できます。セキュリティ責任者には、SoD 制約に対する参照権限が必要です。</p>

認証ユーザ

システム役割のサポートに加え、役割サブシステムは、認証ユーザによるアクセスを許可します。認証ユーザとは、ユーザアプリケーションにログインしていて、システム役割のメンバーシップによる特別な特権を持たないユーザのことです。標準的な認証ユーザは次の機能を実行できます。

- ◆ ユーザに割り当てられているすべての役割を表示する
- ◆ 参照権限を持つ役割への割り当てを要求する (ユーザ自身に対してのみ)
- ◆ ユーザが要求者または受信者のいずれかである要求の要求ステータスを表示する
- ◆ ユーザが要求者および受信者の両方である要求の役割割り当て要求を撤回する

役割サービスドライバ

役割サブシステムは、役割サービスドライバを使用して役割のバックエンド処理を管理します。たとえば、すべての役割割り当ての管理、承認が必要な役割割り当て要求や SoD 競合用のワークフローの開始、グループとコンテナのメンバーシップに従った間接役割割り当ての管理のほか、関連する役割のメンバーシップの管理を行います。このドライバは、役割のメンバーシップに基づいてユーザのエンタイトルメントを付与および取消し、完了した要求のクリーンアップ手順を実行します。

役割サービスドライバの詳細については、『[Identity Manager ユーザアプリケーション: 管理ガイド](http://www.novell.com/documentation/idmrbpm361/index.html) (<http://www.novell.com/documentation/idmrbpm361/index.html>)』を参照してください。

14.2 [役割] タブへのアクセス

[役割] タブにアクセスする

- 1 ユーザアプリケーションで [役割] をクリックします。
デフォルトで [役割] タブが開き、[マイ役割] ページが表示されます。

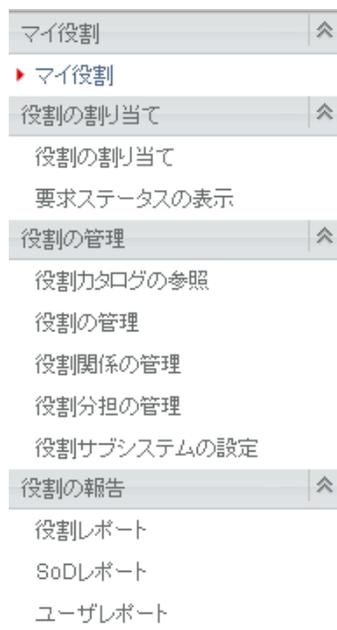


ユーザインタフェースの別のタブを開いた後、このタブに戻るには、[役割] タブをクリックします。

14.3 タブの機能の詳細

この項では、[役割] タブのデフォルトの機能について説明します (ご使用のタブは組織向けにカスタマイズされていると外観が異なって見える可能性があります。システム管理者またはワークフロー設計者にご相談ください)。

[役割] タブの左部には、実行可能なアクションのメニューが表示されます。アクションはカテゴリごとにリストされています ([マイ役割]、[役割の管理] および [役割の報告])。



[**役割の管理**] アクションは、役割モジュール管理者または役割マネージャの場合にのみ表示されます。[**役割の管理**] の [**役割分担の管理**] アクションは、役割モジュール管理者またはセキュリティ責任者の場合にのみ表示されます。[**役割の報告**] アクションは、役割モジュール管理者または役割監査担当者の場合にのみ表示されます。

アクションをクリックすると、対応するページが右部に表示されます。通常、ページには、そのアクションに関する詳細情報が表示されるパネルがあります。たとえば次のように、データの入力や項目の選択が可能なフィールドが表示されます。

図 14-2 アクションを表示するページ



[**役割**] タブで操作するほとんどのページには、右上隅にボタンがあります。このボタンをクリックすると、[**役割**] ページの凡例が表示されます。



[**役割**] ページの凡例の詳細については、[206 ページのセクション 14.5 「役割の凡例の理解」](#)を参照してください。

14.4 実行できる役割のアクション

次の表は、[**役割**] タブでデフォルトで実行可能なアクションの概要を示しています。

表 14-2 役割のアクション

カテゴリ	アクション	説明
マイ役割	マイ役割	承認した役割のステータスおよび詳細を表示できます。[プロビジョニング済み] または [保留中のアクティベーション] というステータスを持つ役割が表示され、未承認の役割は表示されません。 詳細については、 209 ページの第 15 章「役割の表示」 を参照してください。

カテゴリ	アクション	説明
役割の割り当て	役割の割り当て	<p>[役割の割り当て] アクションでは、ユーザが役割の割り当てを要求できます。このアクションは、役割モジュール管理者、役割マネージャ、およびインストールされているシステム役割のいずれにも特に割り当てられていない認証ユーザが使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 役割モジュール管理者は、ユーザ、グループ、およびコンテナを役割へ割り当てるよう要求できます。役割モジュール管理者のディレクトリ内での権限範囲は無制限です。 ◆ 役割マネージャは、参照権限を持つ役割へのユーザ、グループ、およびコンテナの割り当てを要求できます。 ◆ その他の認証ユーザは、参照権限を持つ役割への自分の割り当てを要求できます。 <p>詳細については、211 ページのセクション 16.2「役割の割り当て」を参照してください。</p>
	要求ステータスの表示	<p>役割要求 (明示的に行った要求、および自分が属するグループまたはコンテナへの役割割り当て要求を含む) のステータスを表示できます。各要求の現在の処理状況を確認できます。また、途中で方針が変わって要求を完了する必要がなくなった場合、完了または終了していない要求を撤回することもできます。</p> <p>詳細については、221 ページのセクション 16.3「リソース要求のステータスの確認」を参照してください。</p>

カテゴリ	アクション	説明
役割の管理	役割カタログの参照	<p>役割カタログ内の既存の役割を表示できます。役割の削除、役割関係の管理へのアクセス、および役割の割り当てアクションを実行できます。</p> <p>詳細については、231 ページのセクション 17.1 「役割カタログの参照」を参照してください。</p>
	役割の管理	<p>役割を作成、変更、または削除できます。</p> <p>詳細については、232 ページの「役割の管理」を参照してください。</p>
	役割関係の管理	<p>上位または下位の役割包含階層において役割同士を関連させる方法を定義できます。この階層を使用すると、下位レベルの役割に含まれる特権やリソースを上位レベルの役割にグループ化できるため、権限の割り当てが容易になります。</p> <p>詳細については、237 ページの「役割関係の管理」を参照してください。</p>
	役割分担の管理	<p>役割分担 (SoD) 制約を定義できます。SoD 制約とは、2 つの役割を相互排他的にする規則を表します。ユーザが 1 つの役割に含まれる場合、該当する制約で例外が許可されていない限り、2 つ目の役割には属することはできません。制約への例外を常に許可するか、承認フローを通じてのみ許可するかを定義できます。</p> <p>詳細については、239 ページの「役割分担制約の管理」を参照してください。</p>
	役割サブシステムの設定	<p>役割サブシステムの管理設定を指定できます。</p> <p>詳細については、243 ページの「役割サブシステムの環境設定」を参照してください。</p>
	役割の報告	役割レポート
SoD レポート		<p>役割分担の制約、違反、および承認済み例外の現在の状況を説明するレポートを作成および表示できます。</p> <p>詳細については、249 ページのセクション 18.3 「SoD レポート」を参照してください。</p>
ユーザレポート		<p>役割メンバーシップおよびユーザのエンタイトルメントの現在の状況を説明するレポートを作成および表示できます。</p> <p>詳細については、251 ページのセクション 18.4 「ユーザレポート」を参照してください。</p>

14.5 役割の凡例の理解

[**役割**] タブで操作するほとんどのページには、右上隅にボタンがあります。このボタンをクリックすると、[**役割**] ページの凡例が表示されます。凡例を表示するには、**図 9-2**に示すように、[**凡例**] ボタンをクリックします。

図 14-3 [凡例] ボタン



凡例には、[役割] タブで使用されているアイコンの簡単な説明が表示されます。次の図は凡例を示しています。

図 14-4 役割の凡例



凡例内のアイコンの詳細内容を次の表に示します。

表 14-3 凡例のアイコン

アイコン	説明
実行しています: 処理しています	このアイコンは、特定の役割要求が処理中であることを示します。 [要求ステータスの表示] ページに表示されます。
保留中の承認	役割要求が役割分担の例外または役割割り当て自体のために承認待ちであることを示します。 [要求ステータスの表示] ページに表示されます。
承認済み	役割要求が承認されたことを示します。役割分担の例外が検出された場合も、承認されたことを示すためにこのステータスが使用されることがあります。 [要求ステータスの表示] ページに表示されます。
完了: プロビジョニング済み	役割要求が承認され、役割が受信者 (ユーザ、グループ、またはコンテナ) に割り当てられたことを示します。 [マイ役割]、[役割の割り当て]、および [要求ステータスの表示] ページに表示されます。
却下済み	役割要求が却下されたことを示します。役割分担の例外が検出された場合も、このステータスを使用して例外が却下されたことを示すことができます。 [要求ステータスの表示] ページに表示されます。

アイコン	説明
終了	<p>ユーザが要求をキャンセルしたか、処理中にエラーが発生したために、役割要求が完了前に終了したことを示します。</p> <p>[要求ステータスの表示] ページに表示されます。</p>
役割	<p>オブジェクトが役割であることを示します。</p> <p>[マイ役割]、[役割の割り当て]、および [要求ステータスの表示] ページに表示されます。</p>
上位レベルの関係	<p>役割が現在選択されている役割に対して上位レベルの関係にあることを示します。つまり、この役割には現在選択されている役割が含まれています。</p> <p>[役割関係の管理] ページに表示されます。</p>
下位レベルの関係	<p>役割が現在選択されている役割に対して下位レベルの関係にあることを示します。つまり、この役割は現在選択されている役割に含まれています。</p> <p>[役割関係の管理] ページに表示されます。</p>
ユーザ	<p>オブジェクトがユーザであることを示します。</p> <p>[マイ役割] および [役割の割り当て] ページに表示されます。</p>
グループ	<p>オブジェクトがグループであることを示します。</p> <p>[マイ役割] および [役割の割り当て] ページに表示されます。</p>
コンテナ	<p>オブジェクトがコンテナであることを示します。</p> <p>[マイ役割] および [役割の割り当て] ページに表示されます。</p>
直接割り当て	<p>役割が現在選択されているユーザ、グループ、またはコンテナに直接割り当てられたことを示します。</p> <p>[マイ役割] および [役割の割り当て] ページに表示されます。</p>
保留中のアクティベーション	<p>役割要求の処理は完了して承認されているものの、アクティベーションが未来の日付になっていることを示します。</p> <p>[マイ役割] および [要求ステータスの表示] ページに表示されます。</p>

役割の表示

この項では、自分の役割を表示する方法について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- 209 ページのセクション 15.1 「[マイ役割] アクションについて」
- 209 ページのセクション 15.2 「承認済みの役割要求の表示」

15.1 [マイ役割] アクションについて

Identity Manager ユーザアプリケーションの [役割] タブには、[マイ役割] というアクショングループがあります。[マイ役割] アクションを使用すると、ユーザ自身の役割を表示できます。

15.2 承認済みの役割要求の表示

[マイ役割] アクションを使用すると、ユーザが承認された役割のステータスおよび詳細を表示できます。[プロビジョニング済み] または [保留中のアクティベーション] というステータスを持つ役割が表示され、未承認の役割要求は表示されません。

承認済みの役割を表示する

- 1 [マイ役割] アクションのリストにある [マイ役割] をクリックします。

ユーザアプリケーションに、現在認証されているユーザの役割割り当てのステータスが表示されます。

割り当て	ソース	有効開始日	有効期限	ステータス
直接割り当て	直接割り当て	20080116		承認済みの役割
役割のメンバーシップ	役割のメンバーシップ Nurse	20080116		承認済みの役割
医療機関の所属	役割のメンバーシップ Nurse	20080116		承認済みの役割

以下では、割り当てリスト表のカラムについて説明します。

- [割り当て] カラムには、現在のユーザに割り当てられている役割の名前が表示されます。
- [ソース] カラムは、次のように、ユーザに役割が割り当てられた方法を示します。

ソース	説明
直接割り当て	現在のユーザにこの役割が直接割り当てられたことを示します。
役割 役割名内のメンバーシップ	ユーザが関連する役割に属してこの役割を受け取ったことを示します。

ソース	説明
グループグループ名内のメンバーシップ	ユーザがグループに属してこの役割を受け取ったことを示します。
コンテナコンテナ名内のメンバーシップ	ユーザがコンテナに属してこの役割を受け取ったことを示します。

- ◆ [有効開始日] には、割り当てが有効になる日付が表示されます。日付が表示されていない場合、割り当ては要求直後に有効になっています。
- ◆ [有効期限] には、割り当ての期限が切れる日付が表示されます。日付が表示されていない場合は、割り当ては無期限に有効になっています。
- ◆ [ステータス] カラムには、割り当てが付与されたかどうかが表示されます。

ステータス	説明
プロビジョニング済み	承認済み (必要に応じて) で有効な状態です。
保留中のアクティベーション	承認済み (必要に応じて) ですが、役割割り当ての有効開始日が未来の日付なので、まだアクティブ化されていません。

2 割り当てリストを次のようにフィルタできます。

- 2a** 特定の文字列で始まる割り当てのみを表示する場合、[割り当て] ボックスに入力する内容については、**30 ページ**の「データのフィルタ」を参照してください。
- 2b** ユーザに直接割り当てられた役割を表示する場合、[直接] ボックスをオンにします。
- 2c** ユーザが役割関係を通じて取得した役割、あるいはグループまたはコンテナに属することによってのみ取得した役割を表示するには、[間接] ボックスをオンにします。
- 2d** 表示するよう指定したフィルタ基準を適用するには、[フィルタ] をクリックします。

注：フィルタは自動的には実行されません。[フィルタ] ボタンをクリックして、基準を適用する必要があります。

- 2e** 現在指定しているフィルタ基準をクリアするには、[リセット] をクリックします。
- 3** 1 ページに表示する割り当ての最大数を設定するには、[ページ当たりの最大行数] ドロップダウンリストから数値を選択します。
 - 4** 特定の役割割り当ての詳細を表示するには、[割り当て] カラムにある割り当て名をクリックし、[割り当ての詳細] グループボックスが表示されるまで下にスクロールします。

割り当ての詳細

選択した役割: 看護師

初期要求の説明: test

有効開始日: 2008/01/17 10:44:41

有効期限: 無期限

役割の割り当て実行

この項では、役割の割り当てを行う方法について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- ◆ 211 ページのセクション 16.1 「役割の割り当てのアクションについて」
- ◆ 211 ページのセクション 16.2 「役割の割り当て」
- ◆ 221 ページのセクション 16.3 「リソース要求のステータスの確認」

16.1 役割の割り当てのアクションについて

Identity Manager ユーザアプリケーションの [役割] タブには、[役割の割り当て] というアクショングループがあります。[役割の割り当て] アクションでは、役割の割り当てを要求したり、要求のステータスを確認したりできます。

16.2 役割の割り当て

[役割の割り当て] アクションでは、ユーザが役割の割り当てを要求できます。このアクションは、役割モジュール管理者、役割マネージャ、およびインストールされているシステム役割のいずれにも特に割り当てられていない認証ユーザが使用できます。

- ◆ 役割モジュール管理者は、ユーザ、グループ、およびコンテナを役割へ割り当てよう要求できます。役割モジュール管理者のディレクトリ内での権限範囲は無制限です。
- ◆ 役割マネージャは、参照権限を持つ役割へのユーザ、グループ、およびコンテナの割り当てを要求できます。
- ◆ その他の認証ユーザは、参照権限を持つ役割への自分の割り当てを要求できます。

16.2.1 ユーザ、グループ、コンテナの役割への割り当て

1 つ以上のユーザ、グループ、またはコンテナを単一の役割に割り当てるように要求する

- 1 [役割の割り当て] アクションのリストにある [役割の割り当て] をクリックします。
- 2 [どのような方法で割り当てを表示しますか?] にある [役割] アイコンをクリックします。



- 3 ユーザ、グループ、またはコンテナを割り当てる役割を選択します。

[オブジェクトセレクト] ツールまたは [履歴の表示] ツールを使用して、役割を選択します。[オブジェクトセレクト] ツールおよび [履歴の表示] ツールの使用方法の詳細については、27 ページのセクション 1.4.4 「一般的なユーザアクション」を参照してください。

ユーザアプリケーションに、選択した役割の割り当てのステータスが表示されます。



以下では、割り当てリスト表のカラムについて説明します。

- [割り当て] カラムには、現在選択されている役割に割り当てられているオブジェクトの名前が表示されます。
- [ソース] カラムは、次のように、オブジェクトを役割に割り当てた方法を示します。

ソース	説明
役割関係	この割り当てが役割関係を表していることを示します。[割り当て] カラムに表示される名前は、関連する役割の名前です。
役割に割り当てられているユーザ	[割り当て] カラムに名前のあるユーザが、現在選択されている役割に以前割り当てられていたことを示します。
役割に割り当てられているグループ	[割り当て] カラムに名前のあるグループが、現在選択されている役割に以前割り当てられていたことを示します。
役割に割り当てられているコンテナ	[割り当て] カラムに名前のあるコンテナが、現在選択されている役割に以前割り当てられていたことを示します。

- [有効開始日] には、割り当てが有効になる日付が表示されます。日付が表示されていない場合、割り当ては要求直後に有効になっています。
- [有効期限] には、割り当ての期限が切れる日付が表示されます。日付が表示されていない場合は、割り当ては無期限に有効になっています。
- [ステータス] カラムには、割り当てが付与されたかどうかが表示されます。

ステータス	説明
プロビジョニング済み	承認済み (必要に応じて) で有効な状態です。

- 4 割り当てリストを次のようにフィルタできます。
- 4a 該当する割り当てのみを表示する場合、[割り当て] ボックスに入力する内容については、**30 ページの「データのフィルタ」**を参照してください。
 - 4b ユーザの割り当てのみを表示する場合は、[ユーザ] ボックスをオンにします。
 - 4c グループの割り当てのみを表示する場合は、[グループ] ボックスをオンにします。
 - 4d コンテナの割り当てのみを表示する場合は、[コンテナ] ボックスをオンにします。
 - 4e 役割関係のみを表示する場合は、[役割] ボックスをオンにします。
 - 4f 表示するよう指定したフィルタ基準を適用するには、[フィルタ] をクリックします。
 - 4g 現在指定しているフィルタ基準をクリアするには、[リセット] をクリックします。
- 5 1 ページに表示する割り当ての最大数を設定するには、[ページ当たりの最大行数] ドロップダウンリストから数値を選択します。
- 6 新しい割り当てを作成するには、[新規割り当て] をクリックします。
- [割り当ての詳細] グループボックスで、割り当ての詳細を指定します。

- ◆ [割り当てタイプ] ドロップダウンから、[ユーザ]、[グループ]、または [コンテナ] を選択し、現在選択されている役割に割り当てるオブジェクトのタイプを指定します。
- ◆ [ユーザの選択] フィールドで、割り当てるユーザを指定します。

注: 割り当てタイプとして [グループ] を選択した場合、ユーザインタフェースには [グループの選択] フィールドが表示されます。[コンテナ] を選択した場合、[コンテナの選択] フィールドが表示されます。

- ◆ [初期要求の説明] フィールドに、割り当て要求の理由を説明するテキストを入力します。
- ◆ [有効開始日] フィールドに、割り当てを有効にする日付を指定します。カレンダーコントロールを使用して日付を選択できます。
- ◆ [有効期限] フィールドに、割り当ての期限が切れる日付を入力します。割り当てを無期限に有効にするには、[無制限] を選択します。有効期限を定義する場合は、[有効期限の指定] を選択し、カレンダーコントロールを使用して日付を選択します。
- ◆ [送信] をクリックして、役割の割り当て要求を送信します。

注: [役割の割り当て] アクションでは、現在選択されている役割に関する役割を確認できますが、役割関係を作成することはできません。役割関係を作成するには、[役割関係の管理] アクションを使用する必要があります。

役割を1人以上のユーザに割り当てた場合に、役割分担の競合が発生するときは、ユーザインタフェースのページ最下部に「**役割分担の競合**」ボックスが表示されます。この場合、役割の割り当てに対してビジネス上の正当な理由を指定する必要があります。

正当な理由を提供する

- 1 「**正当な理由**」フィールドに、役割分担の制約の例外がこの状況で必要な理由を説明するテキストを入力します。

注: 新しい役割割り当てが、役割関係またはグループやコンテナのメンバーシップを通じてユーザが間接的に取得した既存の割り当てと競合する場合は、正当な理由を指定する必要はありません。ユーザが役割に間接的に追加され、役割分担の潜在的な競合が検出された場合、ユーザアプリケーションは、新しい割り当てを追加したり、報告や監査のために違反を記録したりすることができます。必要に応じて、役割管理者は役割を再定義して違反を修正できます。

16.2.2 単一ユーザへの役割の割り当て

単一ユーザへの1つ以上の役割の割り当てを要求する

- 1 「**役割の割り当て**」アクションのリストにある「**役割の割り当て**」をクリックします。
- 2 「**どのような方法で割り当てを表示しますか?**」にある「**ユーザ**」アイコンをクリックします。

- 3 1つ以上の役割を割り当てるユーザを選択します。

ユーザを選択するには、「**オブジェクトセクタ**」ツールまたは「**履歴の表示**」ツールを使用します。「**オブジェクトセクタ**」ツールおよび「**履歴の表示**」ツールの使用方法の詳細については、[28 ページの「\[オブジェクトセクタ\] ボタンを使用した検索](#)」を参照してください。

ユーザアプリケーションに、選択したユーザの割り当てのステータスが表示されません。



以下では、割り当てリスト表のカラムについて説明します。

- [割り当て] カラムには、現在選択されているユーザに割り当てられている役割の名前が表示されます。
- [ソース] カラムは、次で説明するように、ユーザに役割を割り当てた方法を示します。

ソース	説明
直接割り当て	現在選択されているユーザにこの役割が直接割り当てられたことを示します。
役割役割名内のメンバーシップ	ユーザが関連する役割に属してこの役割を受け取ったことを示します。
グループグループ名内のメンバーシップ	ユーザがグループに属してこの役割を受け取ったことを示します。
コンテナコンテナ名内のメンバーシップ	ユーザがコンテナに属してこの役割を受け取ったことを示します。

- [有効開始日] には、割り当てが有効になる日付が表示されます。日付が表示されていない場合、割り当ては要求直後に有効になっています。
- [有効期限] には、割り当ての期限が切れる日付が表示されます。日付が表示されていない場合は、割り当ては無期限に有効になっています。
- [ステータス] カラムには、割り当てが付与されていてプロビジョニング済みかどうかが表示されます。

ステータス	説明
プロビジョニング済み	承認済み (必要に応じて) で有効な状態です。

4 割り当てリストを次のようにフィルタできます。

- 4a 特定の文字列で始まる割り当てのみを表示する場合、[割り当て] ボックスに入力する内容については、30 ページの「データのフィルタ」を参照してください。

- 4b ユーザに直接割り当てられた役割をのみを表示する場合、[直接] ボックスをオンにします。
 - 4c 間接的に割り当てられた割り当てのみを表示する場合、[間接] ボックスをオンにします。間接割り当てとは、ユーザが役割関係を通じて、あるいはグループまたはコンテナに属することによって取得した割り当てのことです。
 - 4d 表示するよう指定したフィルタ基準を適用するには、[フィルタ] をクリックします。
 - 4e 現在指定しているフィルタ基準をクリアするには、[リセット] をクリックします。
- 5 1 ページに表示する割り当ての最大数を設定するには、[ページ当たりの最大行数] ドロップダウンリストから数値を選択します。
- 6 新しい割り当てを作成するには、[新規割り当て] をクリックします。

[割り当ての詳細] グループボックスで、割り当ての詳細を指定します。

- [役割の選択] フィールドで、割り当てる役割を指定します。
- [初期要求の説明] フィールドに、割り当て要求の理由を説明するテキストを入力します。
- [有効開始日] フィールドに、割り当てを有効にする日付を指定します。カレンダーコントロールを使用して日付を選択できます。
- [有効期限] フィールドに、割り当ての期限が切れる日付を入力します。割り当てを無期限に有効にするには、[無制限] を選択します。有効期限を定義する場合は、[有効期限の指定] を選択し、カレンダーコントロールを使用して日付を選択します。
- [送信] をクリックして、役割の割り当て要求を送信します。

現在選択されているユーザに役割を割り当てた場合に、役割分担の競合が発生するときは、ユーザインタフェースのページ最下部に [役割分担の競合] ボックスが表示されます。この場合、役割の割り当てに対してビジネス上の正当な理由を指定する必要があります。

正当な理由を提供する

- 1 [正当な理由] フィールドに、役割分担の制約の例外がこの状況に必要な理由を説明するテキストを入力します。

ユーザ	競合名	競合する役割	競合する役割
Abby Spencer	番組部-変更部	番組部	変更部
正当な理由:	このユーザは両方の役割を持つ必要があります。		

間接的な役割割り当ておよび SoD の競合 新しい役割割り当てが、役割関係またはグループやコンテナのメンバーシップを通じてユーザが間接的に取得した既存の割り当てと競合する場合は、正当な理由を指定する必要はありません。ユーザが役割に間接的に追加され、役割分担の潜在的な競合が検出された場合、ユーザアプリケーションは、新しい割り当てを追加したり、報告や監査のために違反を記録したりすることができます。必要に応じて、役割管理者は役割を再定義して違反を修正できます。

16.2.3 単一グループへの役割の割り当て

単一グループへの1つ以上の役割の割り当てを要求する

- 1 [役割の割り当て] アクションのリストにある [役割の割り当て] をクリックします。
- 2 [どのような方法で割り当てを表示しますか?] にある [グループ] アイコンをクリックします。



- 3 1つ以上の役割を割り当てるグループを選択します。

グループを選択するには、[オブジェクトセレクタ] ツールまたは [履歴の表示] ツールを使用します。[オブジェクトセレクタ] ツールおよび [履歴の表示] ツールの使用方法の詳細については、28 ページの「[オブジェクトセレクタ] ボタンを使用した検索」を参照してください。

ユーザアプリケーションに、選択したグループの割り当てのステータスが表示されます。



以下では、割り当てリスト表のカラムについて説明します。

- ◆ [割り当て] カラムには、現在選択されているグループに割り当てられている役割の名前が表示されます。
- ◆ [ソース] カラムは、次で説明するように、グループに役割を割り当てた方法を示します。

ソース	説明
直接割り当て	現在選択されているグループにこの役割が直接割り当てられたことを示します。

ソース	説明
役割役割名内のメンバーシップ	グループが関連する役割に割り当てられたために、この役割がそのグループに付与されたことを示します。

- ◆ [有効開始日] には、割り当てが有効になる日付が表示されます。日付が表示されていない場合、割り当ては要求直後に有効になっています。
- ◆ [有効期限] には、割り当ての期限が切れる日付が表示されます。日付が表示されていない場合は、割り当ては無期限に有効になっています。
- ◆ [ステータス] カラムには、割り当てが付与されていてプロビジョニング済みかどうかが表示されます。

ステータス	説明
プロビジョニング済み	承認済み (必要に応じて) で有効な状態です。

4 割り当てリストを次のようにフィルタできます。

- 4a** 特定の文字列で始まる割り当てのみを表示する場合、[割り当て] ボックスに入力する内容については、**30 ページ**の「データのフィルタ」を参照してください。
- 4b** グループに直接割り当てられた役割のみを表示する場合、[直接] ボックスをオンにします。
- 4c** 間接的に割り当てられた割り当てのみを表示する場合、[間接] ボックスをオンにします。間接的な割り当てとは、グループが役割関係を通じて取得した割り当てのことです。
- 4d** 表示するよう指定したフィルタ基準を適用するには、[フィルタ] をクリックします。
- 4e** 現在指定しているフィルタ基準をクリアするには、[リセット] をクリックします。

5 1 ページに表示する割り当ての最大数を設定するには、[ページ当たりの最大行数] ドロップダウンリストから数値を選択します。

6 新しい割り当てを作成するには、[新規割り当て] をクリックします。

[割り当ての詳細] グループボックスで、割り当ての詳細を指定します。

- ◆ [役割の選択] フィールドで、割り当てる役割を指定します。
- ◆ [初期要求の説明] フィールドに、割り当て要求の理由を説明するテキストを入力します。
- ◆ [有効開始日] フィールドに、割り当てを有効にする日付を指定します。カレンダーコントロールを使用して日付を選択できます。
- ◆ [有効期限] フィールドに、割り当ての期限が切れる日付を入力します。割り当てを無期限に有効にするには、[無制限] を選択します。有効期限を定義する場合は、[有効期限の指定] を選択し、カレンダーコントロールを使用して日付を選択します。
- ◆ [送信] をクリックして、役割の割り当て要求を送信します。

16.2.4 単一コンテナへの役割の割り当て

単一コンテナへの1つ以上の役割の割り当てを要求する

- 1 [役割の割り当て] アクションのリストにある [役割の割り当て] をクリックします。
- 2 [どのような方法で割り当てを表示しますか?] にある [コンテナ] アイコンをクリックします。



- 3 1つ以上の役割を割り当てるコンテナを選択します。

コンテナを選択するには、[オブジェクトセレクタ] ツールまたは [履歴の表示] ツールを使用します。[オブジェクトセレクタ] ツールおよび [履歴の表示] ツールの使用方法の詳細については、28 ページの「[オブジェクトセレクタ] ボタンを使用した検索」を参照してください。

ユーザアプリケーションに、選択したコンテナの割り当てのステータスが表示されます。



以下では、割り当てリスト表のカラムについて説明します。

- ◆ [割り当て] カラムには、現在選択されているコンテナに割り当てられている役割の名前が表示されます。
- ◆ [ソース] カラムは、次で説明するように、コンテナに役割を割り当てた方法を示します。

ソース	説明
直接割り当て	現在選択されているコンテナにこの役割が直接割り当てられたことを示します。

ソース	説明
役割 役割名内のメンバーシップ	コンテナが関連する役割に割り当てられたために、この役割がそのコンテナに付与されたことを示します。
コンテナ コンテナ名内のメンバーシップ	コンテナが上位レベルのコンテナ内部でネストされているために、コンテナが割り当てられたことを示します。

- ◆ [有効開始日] には、割り当てが有効になる日付が表示されます。日付が表示されていない場合、割り当ては要求直後に有効になっています。
- ◆ [有効期限] には、割り当ての期限が切れる日付が表示されます。日付が表示されていない場合は、割り当ては無期限に有効になっています。
- ◆ [ステータス] カラムには、割り当てが付与されていてプロビジョニング済みかどうかが表示されます。

ステータス	説明
プロビジョニング済み	承認済み (必要に応じて) で有効な状態です。

4 割り当てリストを次のようにフィルタできます。

- 4a** 特定の文字列で始まる割り当てのみを表示する場合、[割り当て] ボックスに入力する内容については、[30 ページの「データのフィルタ」](#)を参照してください。
 - 4b** コンテナに直接割り当てられた役割をのみを表示する場合、[直接] ボックスをオンにします。
 - 4c** 間接的に割り当てられた割り当てのみを表示する場合、[間接] ボックスをオンにします。間接的な割り当てとは、コンテナが役割関係を通じて取得した割り当てのことです。
 - 4d** 表示するよう指定したフィルタ基準を適用するには、[フィルタ] をクリックします。
 - 4e** 現在指定しているフィルタ基準をクリアするには、[リセット] をクリックします。
- 5** 1 ページに表示する割り当ての最大数を設定するには、[ページ当たりの最大行数] ドロップダウンリストから数値を選択します。
- 6** 新しい割り当てを作成するには、[新規割り当て] をクリックします。
- [割り当ての詳細] グループボックスで、割り当ての詳細を指定します。
- ◆ [役割の選択] フィールドで、割り当てる役割を指定します。
 - ◆ [初期要求の説明] フィールドに、割り当て要求の理由を説明するテキストを入力します。
 - ◆ [有効開始日] フィールドに、割り当てを有効にする日付を指定します。カレンダーコントロールを使用して日付を選択できます。
 - ◆ [有効期限] フィールドに、割り当ての期限が切れる日付を入力します。割り当てを無期限に有効にするには、[無制限] を選択します。有効期限を定義する場合は、[有効期限の指定] を選択し、カレンダーコントロールを使用して日付を選択します。

- ◆ すべてのサブコンテナ内のユーザにこの役割の割り当てを伝播するには、[役割割り当てをサブコンテナに適用します] を選択します。
- ◆ [送信] をクリックして、役割の割り当て要求を送信します。

16.3 リソース要求のステータスの確認

[要求ステータスの表示] アクションを使用すると、役割要求 (明示的に行った要求、および自分が属するグループまたはコンテナへの役割割り当て要求を含む) のステータスを表示できます。各要求の現在の処理状況を確認できます。また、途中で方針が変わって要求を完了する必要がなくなった場合、完了または終了していない要求を撤回することもできます。

[要求ステータスの表示] アクションは、稼働中、保留中の承認、承認済み、完了、却下済み、または終了を含むすべての役割割り当て要求を表示します。さらに [要求ステータスの表示] アクションは、[役割関係の管理] アクションを使用して役割関係を作成する要求も表示します。

[要求ステータスの表示] ページで表示できる内容および実行できる内容は、次に説明するように、セキュリティの役割に依存します。

表 16-1 各セキュリティの役割の機能

セキュリティの役割	機能
役割モジュール管理者	<p>役割モジュール管理者は、[要求ステータスの表示] ページで次の機能を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ すべての役割の割り当て要求を表示します。 ◆ ステータスおよびユーザに基づいて要求をフィルタする。役割モジュール管理者がユーザで要求をフィルタする場合、指定したユーザが要求者または受信者である要求が結果に表示されます。役割モジュール管理者は、要求者または受信者に基づいて要求をフィルタするためのコントロールを使用できません。 ◆ 要求が撤回可能な状態 (承認済み、却下済み、完了、または終了ではない状態) の場合に、任意の役割要求を撤回する。

セキュリティの役割	機能
役割マネージャ	<p>役割マネージャは、[要求ステータスの表示] ページで次の機能を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ユーザが役割に対して参照権限を持っており、ユーザが要求者または受信者のいずれかである要求のステータスを表示する。 ◆ ステータスおよびユーザに基づいて要求をフィルタする。役割マネージャがユーザで要求をフィルタする場合、指定したユーザが要求者または受信者である要求が結果に表示されます。役割マネージャは、要求者または受信者に基づいて要求をフィルタするためのコントロールを使用できません。 ◆ ユーザが役割および対象オブジェクト(ユーザ、グループ、またはコンテナ)に対してディレクトリ参照権限を持っているユーザ、グループ、およびコンテナの要求を撤回する。要求は撤回可能な状態(承認済み、却下済み、完了、または終了でない状態)である必要があります。
認証ユーザ	<p>ユーザアプリケーションにログインしていて、システム役割のメンバーではない標準的なユーザは、[要求ステータスの表示] ページで次の機能を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 自分が要求者または受信者のいずれかである要求のステータスを表示する。 ◆ ステータス、および要求者または受信者に基づいて要求をフィルタする。認証ユーザは自分の要求しか表示できないので、ユーザに基づいて要求をフィルタするコントロールは利用できません。 ◆ ユーザが要求者および受信者の両方である要求を撤回する。要求は撤回可能な状態(承認済み、却下済み、完了、または終了でない状態)である必要があります。

大量の結果セット デフォルトでは、[要求ステータスの表示] ページを実行すると、最大 10,000 の要求オブジェクトが取得されます。それよりも大量の結果セットを取得しようとすると、制限に達していることを示すメッセージが表示されます。この場合、検索条件を絞り込んで(特定のユーザまたはステータスを指定するなど)、結果セットに返されるオブジェクト数を制限する必要があります。役割名にフィルタを適用すると、返されるオブジェクト数ではなく、表示対象およびその順序が制限されることに注意してください。

役割要求を確認する

- 1 [役割の割り当て] アクションのリストにある [要求ステータスの表示] をクリックします。

現在認証されているユーザの役割要求のステータスが、ユーザアプリケーションに表示されます。

要求ステータスの表示

役割要求のステータスを表示したり、進行中の役割要求を撤回したりします。1回の役割割当てアクションで作成した複数の要求をグループ化できます。このためにも、[初期要求の説明]を基準にソートします。1回の役割割当てアクションで複数の要求を作成した場合、これらの要求は[要求の詳細]ボックスに表示され、[共通要求ID]を共有します。

フィルタ基準: 役割名: ユーザ: ステータス: [すべて] [フィルタ] [リセット]

ページ当たりの最大行数 [10]

役割名	要求者	受信者	ステータス	要求日	初期要求の説明
薬剤師	main	linvoy primus	SoD例外 - 承認保留中	2008/01/17	test
看護師	main	linvoy primus	プロビジョン済み	2008/01/17	test
看護師	main	Abby Spencer	承認保留中	2008/01/17	test
看護師	main	linvoy primus	プロビジョン済み	2008/01/17	test
医者	main	chip nano	保留中のアクティベーション	2008/01/16	test
消耗品の注文	main	薬剤師	プロビジョン済み	2008/01/16	test
看護師	main	Abby Spencer	プロビジョン済み	2008/01/16	test
看護師	main	test user1	プロビジョン済み	2008/01/16	test
消耗品の注文	main	TestOU.context	プロビジョン済み	2008/01/16	test
消耗品の注文	main	TestOU.context	プロビジョン済み	2008/01/16	test

1 - 10/57 次へ 最後

以下では、役割要求のリストのカラムについて説明します。

- ◆ [役割名] カラムでは、要求に指定した役割の名前が表示されます。
- ◆ [要求者] カラムでは、要求を行ったユーザを特定します。
- ◆ [受信者] カラムでは、要求が承認された場合に役割を受け取るユーザ、グループ、またはコンテナを特定します。役割関係の場合、[受信者] カラムには、[役割名] カラムに名前のある役割に関する役割の名前が表示されます。
- ◆ [ステータス] カラムには、要求の詳細なステータスおよびステータス概要を示すアイコンが表示されます。ステータス概要には、要求の一般ステータスが表示され、[フィルタ] メニューから選択することで特定のステータスを持つ要求を検索する際に結果を絞ることができます。

ステータス概要アイコン	詳細ステータス	説明
	新規要求	現在処理されている新規要求であることを示します。 このステータスを持つ要求は撤回できます。
	SoD 承認開始 - 保留中	役割サービスドライバが、SoD 承認開始 - 中断の状態に続いて、要求に対する役割分担の承認プロセスを再起動しようとしていることを示します。 このステータスを持つ要求は撤回できます。

ステータス概要アイコン	詳細ステータス	説明
 実行しています: 処理しています	SoD 承認開始 - 中断	<p>役割サービスドライバが、役割分担の承認プロセスを開始できず、プロセスが一時的に中断していることを示します。</p> <p>役割サービスドライバがワークフローを開始しようとして開始できなかった場合(たとえば、ユーザアプリケーションが停止しているか、アクセス不能の場合)、要求は再試行の保留状態に移行し、再試行状態に移行するまでに最大1分間待機します (SoD 承認開始 - 保留中状態)。この再試行状態は、ドライバをトリガしてワークフローを再度開始するようにします。これらの状態は、ワークフローによってブロックされている開始できない要求が原因で、ワークフローに依存しない要求が滞ってしまわないようにします。</p> <p>要求が長期間この状態にある場合は、ユーザアプリケーションが実行中であることを確認します。ユーザアプリケーションが実行中の場合は、役割サービスドライバに設定されている接続パラメータが正しいかどうかを確認します。</p> <p>このステータスを持つ要求は撤回できます。</p>
 実行しています: 処理しています	承認開始 - 保留中	<p>役割サービスドライバが、承認開始 - 中断の状態に続いて、要求に対する役割分担の承認プロセスを再起動しようとしていることを示します。</p> <p>このステータスを持つ要求は撤回できます。</p>

ステータス概要アイコン	詳細ステータス	説明
 実行しています: 処理しています	承認開始 - 中断	<p>要求に対する承認プロセスが開始されましたが、一時的にプロセスが中断していることを示します。</p> <p>役割サービスドライバがワークフローを開始しようとして開始できなかった場合(たとえば、ユーザアプリケーションが停止しているか、アクセス不能の場合)、要求は再試行の保留状態に移行し、再試行状態に移行するまでに最大1分間待機します(承認開始 - 保留中状態)。この再試行状態は、ドライバをトリガしてワークフローを再度開始するようにします。これらの状態は、ワークフローによってブロックされている、開始できない要求が原因で、ワークフローに依存しない要求が滞ってしまわないようにします。</p> <p>要求が長期間この状態にある場合は、ユーザアプリケーションが実行中であることを確認します。ユーザアプリケーションが実行中の場合は、役割サービスドライバに設定されている接続パラメータが正しいかどうかを確認します。</p> <p>このステータスを持つ要求は撤回できます。</p>
 保留中の承認	SOD 例外 - 承認保留中	<p>役割分担の承認プロセスが開始され、1つ以上の承認を待っている状態であることを示します。</p> <p>このステータスを持つ要求は撤回できます。</p>
 保留中の承認	承認保留中	<p>要求に対する承認プロセスが開始され、1つ以上の承認を待っている状態であることを示します。</p> <p>このステータスを持つ要求は撤回できます。</p>
 承認済み	SOD 例外 - 承認済み	<p>この要求に対して役割分担の例外が承認されたことを示します。</p> <p>このステータスを持つ要求は撤回できます。</p>
 承認済み	承認済み	<p>要求が承認されたことを示します。</p> <p>このステータスを持つ要求は撤回できます。</p>

ステータス概要アイコン	詳細ステータス	説明
 承認済み	プロビジョニング	<p>要求が承認され (承認が必要な場合)、役割の割り当てのアクティベーションタイムに到達したことを示します。役割サービスドライバは、役割の割り当てを付与するプロセスにあります。</p> <p>このステータスでは要求の撤回は許可されません。</p>
 保留中のアクティベーション	保留中のアクティベーション	<p>要求が承認されていますが、役割の割り当てのアクティベーション時間に到達していないことを示します。保留中のアクティベーションには、ロールアップカテゴリまたは概要ステータスアイコンはありません。つまり、保留中のアクティベーションステータスを基準にして要求のリストをフィルタすることはできません。</p> <p>このステータスを持つ要求は撤回できません。</p>
 却下済み	SOD 例外 - 拒否済み	<p>この要求に対して役割分担の例外が拒否されたことを示します。</p> <p>このステータスでは要求の撤回は許可されません。</p>
 却下済み	却下済み	<p>要求が拒否されたことを示します。</p> <p>このステータスでは要求の撤回は許可されません。</p>
 完了: プロビジョニング済み	プロビジョニング済み	<p>要求が承認され (承認が必要な場合)、役割の割り当てが付与されたことを示します。</p> <p>このステータスでは要求の撤回は許可されません。</p>
 完了: プロビジョニング済み	クリーンアップ	<p>要求が処理され、役割サービスドライバが要求用に作成された内部オブジェクトを削除しているプロセスにあることを示します。</p> <p>このステータスでは要求の撤回は許可されません。</p>
 終了	キャンセル	<p>ユーザアクションにより、役割サービスドライバが要求をキャンセルしていることを示します。</p> <p>このステータスでは要求の撤回は許可されません。</p>

ステータス概要アイコン	詳細ステータス	説明
 終了	キャンセル済み	<p>要求がユーザアクションによってキャンセルされたことを示します。</p> <p>このステータスでは要求の撤回は許可されません。</p>
 終了	プロビジョニングエラー	<p>役割の割り当てのプロビジョニング (付与) 中またはデプロビジョニング (取り消し) 中にエラーが発生したことを示します。</p> <p>プロビジョニングエラーの正確なエラーメッセージは、トレースまたは監査ログ (いずれかがアクティブな場合) に書き込まれます。プロビジョニングエラーが発生した場合、トレースまたは監査ログをチェックし、エラーメッセージが修復が必要な深刻なメッセージを示していないかを確認します。</p> <p>このステータスでは要求の撤回は許可されません。</p>

注: 役割サービスドライバが存在するサーバ上のシステムクロックが、ユーザアプリケーションが実行されているサーバ上のシステムクロックと同期されていない場合、要求ステータスは [要求ステータスの表示] ページと [役割の割り当て] ページでは異なって表示される可能性があります。たとえば、承認が必要でない役割の割り当てを要求する場合、[要求ステータスの表示] ページでは「プロビジョニング済み」というステータスが表示されますが、[役割の割り当て] ページでは「保留中のアクティベーション」と表示されます。1分程度待機すると、[役割の割り当て] ページ上のステータスが「プロビジョニング済み」に変更されます。ユーザアプリケーション全体でステータスが確実に正しく表示されるようにするには、システムクロックが適切に同期されるようにチェックしてください。

- ◆ [要求日] カラムには、要求が行われた日付が表示されます。
- ◆ [初期要求の説明] カラムには、要求が行われた際に要求者が提供した説明が表示されます。

2 要求リストを以下のようにフィルタできます。

- 2a** 特定の文字列で始まる割り当てのみを表示する場合、[役割名] ボックスに入力する内容については、[30 ページの「データのフィルタ」](#)を参照してください。
- 2b** 特定のユーザに該当する要求のみを表示するには、[オブジェクトセクタ] ツールまたは [履歴の表示] ツールを使用してユーザを選択します。自分の要求を表示するには、ユーザリストから自分自身を選択する必要があります。[オブジェクトセクタ] ツールおよび [履歴の表示] ツールの使用方法の詳細については、[28 ページの「\[オブジェクトセクタ\] ボタンを使用した検索」](#)を参照してください。

注: ログインしたユーザが役割モジュール管理者または役割マネージャでない場合、ユーザコントロールは利用できません。

- 2c** 特別なステータス概要を持つ役割要求を表示するには、[ステータス] ドロップダウンリストからステータスを選択します。

ステータス	説明
すべて	すべての要求を含みます。
稼働中	開始され現在処理中の要求を含みます。
保留中の承認	役割分担の例外または役割割り当て自体のために承認待ちである要求を含みます。
承認済み	承認済みの要求、および役割分担の例外が検出され承認された要求を含みます。
完了	承認され、受信者(ユーザ、グループ、テナ)に役割が割り当てられている要求を含みます。
却下済み	承認済みの要求、および役割分担の例外が検出され却下された要求を含みます。
終了	ユーザが要求をキャンセルしたか、処理中にエラーが発生したために、完了前に終了した要求を含みます。

- 2d** 自分が要求者である要求のみを表示するには、[要求者] ボックスを選択します。

注: 現在のユーザが役割モジュール管理者または役割マネージャである場合、[要求者] コントロールは利用できません。

- 2e** 自分が受信者である要求のみを表示するには、[受信者] ボックスを選択します。

注: ログインしたユーザが役割モジュール管理者または役割マネージャである場合、[受信者] コントロールは利用できません。

- 2f** 表示するよう指定したフィルタ基準を適用するには、[フィルタ] をクリックします。
- 2g** 現在指定しているフィルタ基準をクリアするには、[リセット] をクリックします。
- 3** ページごとに表示される要求の最大数を設定するには、[ページ当たりの最大行数] ドロップダウンリストから数を選択します。
- 4** 要求のリストをソートするには、ソート対象のデータを含むカラムヘッダをクリックします。

複数の役割の割り当てが共通要求 ID を共有する場合、関連する要求をいっしょに表示するために初期要求の説明でデータをソートする必要があります。共通要求 ID とは、同時に要求された一連の役割の割り当てを相互に関連付ける内部 ID([要求の詳細] グループボックスにのみ表示される) です。一連の役割の割り当てが共通要求 ID を共有する状況を次に示します。

- ◆ 単一の要求が複数の役割を単一のユーザに割り当てます。
- ◆ 単一の要求が単一の役割を複数のユーザに割り当てます。これは、要求者が役割をグループまたはコンテナに割り当ててる場合に発生する場合があります。

一連の役割の割り当てが共通要求 ID を共有する場合、ユーザは割り当てごとに個別に撤回できます。さらに、役割の割り当てごとに個別に承認または却下できます。

5 特定の要求の詳細を表示するには、[ステータス] カラムにあるステータスをクリックし、[要求の詳細] グループボックスが表示されるまで下にスクロールします。

要求の詳細			
ステータス:	 保留中のアクティベーション	要求アクション:	役割をユーザに追加
役割:	医者	受信者:	chip nano
要求者:	main	要求日:	2008/01/16
有効開始日:	2008/01/28	有効期限:	
初期要求の説明:	trenw	共通要求ID:	b49f6a6b3a843318439c84cdeb9c269

[ステータス] フィールドには、ステータス概要アイコンおよびアイコンの説明とともに要求のステータスが表示されます。アイコン(および関連テキスト)は、ステータスを簡単に確認できる仕組みを提供します。次の表では、ステータスコードがどのようにステータスアイコンにマップされるかを示します。

ステータスアイコン	関連するステータスコード
実行しています：処理しています	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 新規要求 ◆ SoD 承認開始 - 保留中 ◆ SoD 承認開始 - 中断 ◆ 承認開始 - 保留中 ◆ 承認開始 - 中断
保留中の承認	<ul style="list-style-type: none"> ◆ SOD 例外 - 承認保留中 ◆ 承認保留中
承認済み	<ul style="list-style-type: none"> ◆ SOD 例外 - 承認済み ◆ 承認済み ◆ 保留中のアクティベーション ◆ プロビジョニング
保留中のアクティベーション	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 保留中のアクティベーション
却下済み	<ul style="list-style-type: none"> ◆ SOD 例外 - 拒否済み ◆ 却下済み
完了：プロビジョニング済み	<ul style="list-style-type: none"> ◆ プロビジョニング済み ◆ クリーンアップ
終了	<ul style="list-style-type: none"> ◆ キャンセル ◆ キャンセル済み ◆ プロビジョニングエラー

6 要求を撤回するには、[要求の撤回] をクリックします。

[要求の撤回] ボタンは、要求が完了または終了した場合には無効になります。

自分の要求が、一連の関連する要求と共通要求 ID を共有する場合は、役割の割り当てごとに個別に撤回できます。

役割の管理

この項では、アクションの [役割の管理] カテゴリの使用方法について説明します。次の節から構成されています。

- ◆ 231 ページのセクション 17.1 「役割カタログの参照」
- ◆ 232 ページのセクション 17.2 「役割の管理」
- ◆ 237 ページのセクション 17.3 「役割関係の管理」
- ◆ 239 ページのセクション 17.4 「役割分担制約の管理」
- ◆ 243 ページのセクション 17.5 「役割サブシステムの環境設定」

17.1 役割カタログの参照

役割カタログを参照する方法：

- 1 [役割の管理] アクションのリストにある [役割カタログの参照] をクリックします。ユーザアプリケーションには、役割カタログ内の役割の現在のリストが表示されます。



以下では、割り当てリスト表のカラムについて説明します。

- ◆ [役割名] カラムでは、カタログ内の各役割名が表示されます。
- ◆ [レベル] カラムは、カタログ内部での役割のレベルを示します。デフォルトでは、カタログは次の名前の3つのレベルをサポートします。

レベル	説明
ビジネス役割	役割階層内における最上位レベルです。
IT 役割	役割階層内における中間レベルです。
許可役割	役割階層内における最下位レベルです。

- ◆ [カテゴリ] カラムには、役割に関連するカテゴリがリストされます。カテゴリを使用すると、ビジネス上、役割カタログ内で役割を整理できます。役割がカテゴリに関連付けられると、カタログを参照する際にこのカテゴリをフィルタとして使用できます。
- ◆ [アクション] カラムを使用すると他のページに素早くアクセスできます。
 -  をクリックすると、[役割関係の管理] ページに移動します。
 -  をクリックすると、[役割の割り当て] ページに移動します。
 -  をクリックすると、[役割の管理] ページに移動します。
 -  をクリックすると、対応する行の役割が削除されます。

2 役割のリストを以下のようにフィルタできます。

- 2a 特定の文字列で始まる割り当てのみを表示する場合、[役割名] ボックスに入力する内容については、30 ページの「データのフィルタ」を参照してください。
 - 2b 階層内での特定のレベルにある役割を表示するには、[レベル] ボックス内で目的のレベルを選択します。
 - 2c 特定のカテゴリに関連付けられている役割を表示するには、[カテゴリ] ボックス内で目的のカテゴリを選択します。
 - 2d 表示するよう指定したフィルタ基準を適用するには、[フィルタ] をクリックします。
 - 2e 現在指定しているフィルタ基準をクリアするには、[リセット] をクリックします。
- 3 ページごとに表示される割り当ての最大数を設定するには、[ページ当たりの最大行数] ドロップダウンリストから数を選択します。
- 4 特定の役割の詳細を表示するには、[役割名] カラムの中で役割名をクリックします。[役割の管理] ページが表示されます。ここでは、役割の詳細を表示したり、変更したりできます。

17.2 役割の管理

Identity Manager ユーザインタフェースの [役割] タブにある [役割の管理] アクションでは、新規の役割の作成や、既存の役割の変更または削除ができます。

- ◆ 233 ページのセクション 17.2.1 「新規役割の作成」
- ◆ 234 ページのセクション 17.2.2 「既存の役割の変更または削除」
- ◆ 235 ページのセクション 17.2.3 「役割のプロパティ」

注: このアクションを使用して新規のシステム役割を作成したり、既存のシステム役割を削除したりすることはできません。これを使用してシステム役割を変更することはできません。

このページで表示できる内容および実行できる内容は、表 17-1 で説明するようにセキュリティの役割に依存します。

表 17-1 セキュリティの役割の機能

セキュリティの役割	機能
役割モジュール管理者	<p>役割モジュール管理者は次のことを実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ すべてのコンテナ内で役割を新規作成します。 ◆ 既存の役割を変更します。 ◆ 既存の役割(システム役割を除く)をすべて削除します。
役割マネージャ	<p>役割マネージャは次のことを実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ すべてのコンテナ内で新規役割を作成します(参照権限を持たないコンテナに対しても)。必要な権限はすべて役割作成時にユーザに付与されます。 ◆ 参照権限を持つ役割のみを変更します。 ◆ 参照権限を持つ役割のみを削除します。 <p>ユーザインタフェースは、役割マネージャがブラウザ権限を持っているレベルおよびコンテナのみを表示します。マネージャが特定のレベルに対するブラウザ権限を持っていないが、子コンテナに対する権限を持っている場合は、そのレベルが表示されます。マネージャが子コンテナに対するブラウザ権限を持っていて、親コンテナへの権限を持っていない場合は、親コンテナは表示されますが選択することはできません。</p> <p>役割マネージャが新しい役割を作成しようとするときに、ユーザインタフェースはマネージャが選択したレベルおよびコンテナに対する権限を持っているかどうかを確認します。ユーザが必要な権限を持っていない場合は、[新規] ボタンが使用不可になり、エラーメッセージが表示されます。</p>

17.2.1 新規役割の作成

- 1 [役割の管理] アクションのリストにある [役割の管理] をクリックします。
- 2 [新規] をクリックします。

ユーザアプリケーションでは、[役割の管理] ページの [新しい役割の詳細] セクションに [役割名] を入力するように要求されます。このセクションにある各フィールドの詳細については、235 ページの表 17-2§ 「役割の詳細」 を参照してください。

The screenshot shows a web form titled 'New Role' with the following fields and options:

- Role Name:** A text input field with a search icon.
- Role Description:** A text input field with a search icon.
- Role Level:** A dropdown menu currently showing 'Service User'.
- Role Container:** A dropdown menu with a search icon.
- Role Profile:** A dropdown menu currently showing 'System User'.
- Buttons:** 'Save' and 'Cancel' buttons are visible at the bottom.

- 3 [承認の詳細] へ移動し、236 ページの表 17-3§ 「承認の詳細」 で説明するようにフィールドへの入力を完了します。
- 4 [保存] をクリックし、変更を永続的にします。

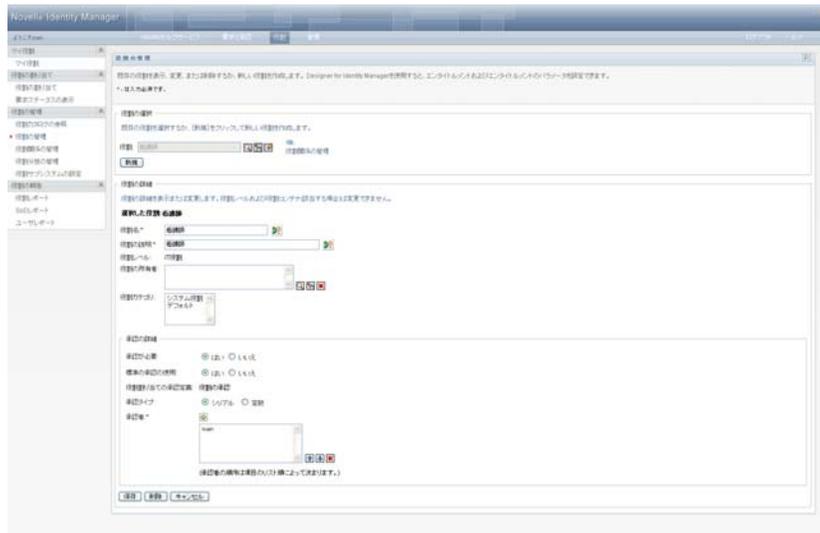
17.2.2 既存の役割の変更または削除

- 1 [役割の管理] アクションのリストにある [役割の管理] をクリックします。



- 2 詳細を変更する役割を検索するには、[オブジェクトセレクタ] ツールまたは[履歴表示] ツールを使用して、制約を選択します。[オブジェクトセレクタ] ツールおよび[履歴の表示] ツールの使用方法の詳細については、27 ページの「一般的なユーザアクション」を参照してください。
- 3 目的の役割をリストから選択すると、検索ページが閉じ、選択した役割の [役割の詳細] および [承認の詳細] が表示されます。

[役割の管理] ページには、[役割の詳細] セクションで現在選択されている役割の名前が表示されます。



ヒント: [役割関係の管理] リンクを使用すると、[役割関係の管理] ページに簡単にアクセスできます。役割を選択している場合は、選択した役割の内容が表示され、編集できます。

- 4 現在選択している役割を削除するには、[削除] をクリックします。
変更可能な役割の詳細に関する詳細については、235 ページの表 17-2§ 「役割の詳細」を参照してください。
変更可能な承認の詳細に関する詳細については、236 ページの表 17-3§ 「承認の詳細」を参照してください。
- 5 変更が完了したら、[保存] をクリックします。

17.2.3 役割のプロパティ

- 235 ページの「役割の詳細のプロパティ」
- 236 ページの「承認の詳細のプロパティ」

役割の詳細のプロパティ

表 17-2 役割の詳細

フィールド	説明
役割名	<p>ユーザアプリケーション内で役割名が表示される際に使用されるテキストです。役割を作成するときには、[役割名] に次の文字を使用することはできません。</p> <p>< > , ; \ " + # = / & *</p> <p>この名前は、ユーザアプリケーションでサポートするいずれの言語にも翻訳できます。詳細については、27 ページの表 1-1§ 「一般的なボタン」を参照してください。</p>
[役割の説明]	<p>ユーザアプリケーション内で役割の説明が表示される際に使用されるテキストです。役割名と同様、ユーザアプリケーションでサポートするいずれの言語にも翻訳できます。詳細については、27 ページの表 1-1§ 「一般的なボタン」を参照してください。</p>
[役割レベル]	<p>(役割を変更する際には、読み込み専用。) ドロップダウンリストから役割レベルを選択します。</p> <p>役割レベルは、Designer for Identity Manager Role Configuration エディタを使用して定義されます。役割レベルの詳細については、197 ページのセクション 14.1 「[役割] タブについて」を参照してください。</p>
[役割コンテナ]	<p>(役割を変更する際には、読み込み専用。) ドライバ内の役割オブジェクト用の場所です。役割コンテナは役割レベルの下に存在します。ユーザアプリケーションでは、選択した役割レベルの下に存在する役割コンテナのみが表示されます。役割は、役割レベルの中に直接、または役割レベル内部のコンテナの中に作成できます。役割コンテナの指定はオプションです。</p>
[役割の所有者]	<p>役割定義の所有者に指名されたユーザのことです。役割カタログに対してレポートを生成する際には、役割所有者に基づいてこれらのレポートをフィルタできます。役割所有者には、役割定義への変更を管理する権限が自動的に与えられません。</p>
[役割カテゴリ]	<p>役割を編成するために役割をカテゴリ化できます。カテゴリは、役割のリストをフィルタするのに使用されます。カテゴリは複数選択が可能です。</p>

承認の詳細のプロパティ

表 17-3 承認の詳細

フィールド	説明
承認が必要	<p>要求時に役割に承認が必要な場合で、承認プロセスにおいて標準的な役割割り当ての承認定義を実行させたい場合は、[はい] を選択します。</p> <p>要求時に承認が必要でない場合は、[いいえ] を選択します。</p>
標準承認の使用	<p>役割サブシステム内で指定されている標準的な役割割り当ての承認定義をこの役割が使用する場合は、[はい] を選択します。承認定義名は、以下の [役割割り当ての承認定義] の中で読み込み専用で表示されます。</p> <p>承認タイプ ([シリアル] または [定数]) および有効な承認者を選択する必要があります。</p> <p>[いいえ] を選択すると、カスタムの役割割り当ての承認定義の名前を入力するように要求されます。</p>
役割割り当ての承認定義	<p>役割が要求される際に実行されるプロビジョニング要求定義名です。[標準の承認の使用] の値が [はい] の場合は、値は役割サブシステムの環境設定から生成されます。値が [いいえ] の場合は、使用するカスタムのプロビジョニング要求定義を選択する必要があります。</p>
承認タイプ	<p>[承認者] リスト内のすべてのユーザが役割を承認するようにしたい場合は、[シリアル] を選択します。承認者はリスト内の順序に従って順次処理されます。</p> <p>[承認者] リスト内の一定の割合のユーザが役割を承認するようにしたい場合は、[定数] を選択します。承認は、指定した割合のユーザに達すると完了します。</p> <p>たとえば、リスト内の 4 人に 1 人のユーザが条件を承認するようにするには、[定数] および 25 パーセントを指定します。代わりに、4 人すべての承認者が並行して承認する必要がある場合は、100 パーセントと指定できます。値は、1 ~ 100 の間の整数である必要があります。</p> <hr/> <p>ヒント: [シリアル] および [定数] フィールドには、その動作を説明するホバーテキストが用意されています。</p>
承認者	<p>役割承認タスクを 1 人以上のユーザに割り当てる必要がある場合は、[ユーザ] を選択します。役割承認タスクをグループに割り当てる必要がある場合は、[グループ] を選択します。役割承認タスクを役割に割り当てる必要がある場合は、[役割] を選択します。</p> <p>特定のユーザ、グループ、または役割を探すには、[オブジェクトセレクタ] または [履歴] ボタンを使用します。リスト内の承認者の順序を変更したり、承認者を削除したりする方法については、27 ページのセクション 1.4.4 「一般的なユーザアクション」 を参照してください。</p>

17.3 役割関係の管理

Identity Manager ユーザインタフェースの [役割] タブにある [役割関係の管理] アクションでは、上位または下位の役割格納階層において役割同士が関連付けられる方法を定義できます。この階層では、下位レベルの役割に含まれる権限またはリソースを上位レベルの役割にグループ化することで、権限の割り当てが容易になります。許可される関係は次のとおりです。

- ◆ 最上位レベルの役割 (ビジネス役割) は、下位レベルの役割を含むことができます。最上位レベルの役割は、他の役割に含めることができません。最上位レベルの役割を選択すると、[役割関係] ページでは新規下位レベル役割関係のみ追加できます。
- ◆ 中間レベルの役割 (IT 役割) は、下位レベルの役割を含むことができ、上位レベルの役割に含めることができます。[役割関係] ページでは、新規下位レベル役割または新規上位レベル役割のいずれかを追加できます。
- ◆ 最下位レベルの役割 (許可役割) は、上位レベルの役割に含めることができますが、他の最下位レベルの役割を含むことはできません。[役割関係] ページでは、新規上位レベル役割のみを追加できます。

17.3.1 役割関係の作成および削除

- 1 アクションの [役割管理] グループの中で [役割関係の管理] をクリックします。



ヒント: [役割の詳細の編集] リンクを使用すると、[役割の管理] ページに簡単にアクセスできます。役割を選択している場合は、選択した役割の内容が表示され、編集できます。

- 2 関係を作成または削除する役割を探すには、[27 ページのセクション 1.4.4 「一般的なユーザアクション」](#) で説明されているように、[オブジェクトセレクタ] ツールまたは [履歴表示] ツールを使用します。
- 3 (監査およびログ記録) 役割を選択します。

ここでの例では、役割は Nurse (West Campus) です。この役割は、役割階層の中で最上位レベルにあるので、ユーザインタフェースによって [選択した役割の包含元] セクションにメッセージが表示されます。



選択した役割のレベルに応じて、次のボタンの1つまたは両方が表示されます。

- ◆ 新規上位レベル関係
- ◆ 新規下位レベル関係

4 関係を追加するには、ボタンのうち1つをクリックし、239 ページの図表 17-4 で説明するように、[新規下位レベル関係の詳細] または [新規上位レベル関係の詳細] に入力します。

5 以下のように、上位および下位レベル関係のリストをフィルタできます。

- 5a 特定の文字列で始まる関係のみを表示するには、30 ページの「データのフィルタ」を参照して [役割名] フィールドに何を入力するかを確認してください。
- 5b 特定のレベルの役割を表示するには、[レベル] リストボックスからそれを選択します。
- 5c 特定のカテゴリの役割を表示するには、[カテゴリ] リストボックスからそれを選択します。
- 5d 表示するよう指定したフィルタ基準を適用するには、[フィルタ] をクリックします。
- 5e 現在指定しているフィルタ基準をクリアするには、[リセット] をクリックします。

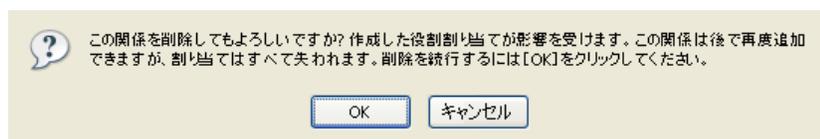
6 役割関係を追加する要求を作成するには、[送信] をクリックします。

[要求ステータスの表示] に移動して要求のステータスを確認できます。ステータスが [プロビジョニング済み] の場合は、役割関係が追加されています。

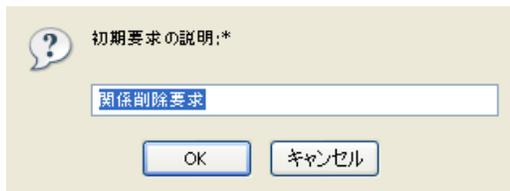
7 関係を削除する方法：

7a 削除する関係へ移動し、 をクリックします。

本当に削除するか確認を求められます。



- 7b [OK] をクリックして削除を続行するか、[キャンセル] をクリックして [役割関係の管理] ページに戻ります。[初期要求の説明] を入力するように要求されます。



デフォルトのテキストは、[関係削除要求] ですが、必要に応じて変更できます。このテキストは、[要求ステータスの表示] ページに表示されます。

- 7c 削除要求を送信するには、[OK] をクリックします。この要求のステータスは、[要求ステータスの表示] ページで確認できます。[プロビジョニング済み] というステータスは、関係が削除されたことを意味します。

17.3.2 役割関係プロパティの管理

表 17-4 役割関係プロパティ

フィールド	説明
[初期要求の説明]	この値は、[要求ステータスの表示] に表示されます。 このオプションを使用して、1つのユーザ対話によって作成された、同じ共通要求 ID を共有している複数の要求をグループ化できます。
[選択した役割に役割を追加]	[新規下位レベル関係] をクリックすると利用できます。 [オブジェクトセクタ] または [履歴] ボタンを使用して、選択した役割に追加する下位レベルの役割を参照します。詳細については、28 ページの「[オブジェクトセクタ] ボタンを使用した検索」を参照してください。
[選択した役割を役割に追加]	[新規上位レベル関係] をクリックすると利用できます。 [オブジェクトセクタ] または [履歴] ボタンを使用して、現在の役割に追加する上位レベルの役割を参照します。詳細については、28 ページの「[オブジェクトセクタ] ボタンを使用した検索」を参照してください。

17.4 役割分担制約の管理

Identity Manager ユーザインタフェースの [役割] タブにある [役割分担の管理] アクションを使用すると、次のことが実行できます。

- ◆ 役割分担 (SoD) 制約 (または規則) を定義します。
- ◆ 制約に対する例外の要求をどのように処理するかを定義します。

SoD 制約とは、同レベルの 2 つの役割を相互排他的にする規則を表します。ユーザが 1 つの役割に含まれる場合は、その制約上例外が許可されていない限り、2 つ目の役割には属することができません。制約への例外を常に許可するか、承認フローを通じてのみ許可されるかを定義できます。

- ◆ 240 ページのセクション 17.4.1 「新規役割分担制約の作成」
- ◆ 240 ページのセクション 17.4.2 「既存の SoD 制約の変更」
- ◆ 241 ページのセクション 17.4.3 「SoD 制約プロパティリファレンス」

ページへのアクセス [役割分担の管理] ページへは、役割管理者またはセキュリティ責任者がアクセスできます。セキュリティ責任者には、識別ボールド内の SoDDef コンテナへの参照権限が必要ですが、役割への参照権限は必要ありません。

17.4.1 新規役割分担制約の作成

- 1 [役割の管理] アクションのリストにある [役割分担の管理] をクリックします。
- 2 [新規] をクリックします。



- 3 [新規役割分担制約の詳細] へ移動します。フィールドへの入力を完了させる方法については、242 ページの 図表 17-5 を参照してください。
- 4 [承認の詳細] セクションへ移動します。フィールドへの入力を完了させる方法については、242 ページの 図表 17-6 を参照してください。
- 5 [保存] をクリックし、変更を永続的にします。

17.4.2 既存の SoD 制約の変更

- 1 アクションの [役割管理] グループの中で [役割分担の管理] をクリックします。



- 2 既存の SoD 制約を表示または変更するには、[オブジェクトセレクタ] ツールまたは [履歴表示] ツールを使用して制約を選択します。[オブジェクトセレクタ] ツールおよび [履歴の表示] ツールの使用方法の詳細については、28 ページの「[オブジェクトセレクタ] ボタンを使用した検索」を参照してください。
- 3 一覧の中から目的の SoD を選択します。検索ページが閉じ、選択した SoD に対する [役割分担制約の詳細] および [承認の詳細] が表示されます。



- 4 フィールドへの入力については、242 ページの表 17-5§ 「役割分担制約の詳細」 および 242 ページの表 17-6§ 「承認の詳細」 を参照してください。
- 5 [保存] をクリックし、変更を永続的にします。

17.4.3 SoD 制約プロパティリファレンス

- ◆ 242 ページの表 17-5§ 「役割分担制約の詳細」
- ◆ 242 ページの表 17-6§ 「承認の詳細」

表 17-5 役割分担制約の詳細

フィールド	説明
[SoD 制約名]	<p>制約の名前です。名前はレポートに、ユーザが制約例外を要求したときに表示されます。制約を作成するときには、[SoD 制約名]には次の文字を使用することはできません。</p> <p>< > , ; \ " + # = / & *</p> <p> をクリックして、サポートされている任意の言語でこの名前をローカライズできます。</p> <p>この名前は、Designer for Identity Manager 内の SoD エディタにも供給できます。</p>
[SoD 制約の説明]	<p>制約の説明です。</p> <p> をクリックして、サポートされている任意の言語でこの名前をローカライズできます。</p> <p>この名前は、Designer for Identity Manager 内の SoD エディタに供給できます。</p>
[競合する役割]	<p>制約を定義する対象となる役割の名前です。役割とは、1 つ以上のターゲットシステムまたはアプリケーションに関連する権限を定義します。</p> <p>このフィールドは、変更作業中は読み込み専用です。</p>
[競合する役割]	<p>競合している役割の名前です。利用可能な役割の中から既存の役割を参照するには、[参照] をクリックします。</p> <p>このフィールドは、変更作業中は読み込み専用です。</p>

注：競合している 2 つの役割を指定することが重要です。競合している役割を指定する順序は重要ではありません。

表 17-6 承認の詳細

フィールド	説明
承認が必要	<p>ユーザが SoD 制約への例外を要求するとワークフローが起動されるようにするには、[はい] を選択します。</p> <hr/> <p>注：SoD 例外がグループまたはコンテナのメンバーシップによる默示的な割り当ての結果発生した場合、[はい] を選択しても承認ワークフローは開始されません。SoD 例外は常に承認され、その状態がログに記録されます。</p> <hr/> <p>ユーザが SoD 制約に対する例外を要求でき、承認が必要でない場合は [いいえ] を選択します。この場合、例外は常に承認されます。</p>

フィールド	説明
SoD 承認定義	ユーザが SoD 制約の例外を要求する際に実行されるプロビジョニング要求定義の読み込み専用の名前を表示します。値は、役割設定オブジェクトから生成されます。これは、[承認が必要] が [はい] の場合のみ実行されます。
承認タイプ	前に表示されたプロビジョニング要求定義の処理タイプを表示する読み込み専用のフィールドです。この値は、役割設定オブジェクトから生成されます。
デフォルトの承認者の使用	<p>役割サブシステムで承認者が指定されている場合は、[はい] を選択します。</p> <p>SoD 承認タスクを 1 人以上のユーザに割り当てる必要がある場合は、[ユーザ] を選択します。SoD 承認タスクをグループに割り当てる必要がある場合は、[グループ] を選択します。SoD 承認タスクを役割に割り当てる必要がある場合は、[役割] を選択します。</p> <p>特定のユーザ、グループ、または役割を参照するには、27 ページのセクション 1.4.4 「一般的なユーザアクション」 で説明されているように、[オブジェクトセレクタ] または [履歴] ボタンを使用します。</p> <p>リスト内の承認者の順序を変更する、または承認者を削除するには、27 ページのセクション 1.4.4 「一般的なユーザアクション」 で説明されているボタンを使用します。</p>

17.5 役割サブシステムの環境設定

Identity Manager ユーザインタフェースの [役割] タブにある [Configuring Role Subsystem (役割サブシステムの環境設定)] アクションを使用すると、役割サブシステムの管理上の環境設定を指定することができます。

役割サブシステムの管理上の環境設定を定義する方法：

- 1 アクションの [役割管理] グループの中で [役割サブシステムの設定] をクリックします。



2 [役割割り当て削除猶予期間] を指定します (秒数で指定)。

この値は、役割カタログから役割の割り当てが削除されるまでの期間を秒数で指定します (デフォルトは 0)。猶予期間がゼロということは、役割の割り当てから誰かが削除されると、削除は即時実行され後続のエントリメントの撤回が即時開始されることを意味します。後から再度追加する可能性のあるアカウントの削除を遅らせるために猶予期間を使用します (たとえば、コンテナ間で人を移動する場合など)。エントリメントを使用すると、アカウントを削除するのではなく無効にできます (無効化がデフォルト)。

3 SoD 例外の要求が行われた際に実行するプロビジョニング要求定義を選択します。ユーザアプリケーションドライバごとに 1 つ定義を指定できます。

3a プロビジョニング要求定義を探すには、27 ページのセクション 1.4.4 「一般的なユーザアクション」で説明されているように、[オブジェクトセレクト] または [履歴] ボタンを使用します。

4 [デフォルトの SoD 承認タイプ] の [シリアル] または [定数] を選択します。

フィールド	説明
シリアル	[承認者] リスト内のすべてのユーザに役割を承認させたい場合は、[シリアル] を選択します。承認者はリスト内の順序に従って順次処理されます。
定数	[承認者] リスト内の一定の割合のユーザが役割を承認するようにしたい場合は、[定数] を選択します。承認は、指定した割合のユーザに達すると完了します。 たとえば、リスト内の 4 人に 1 人のユーザが条件を承認するようにするには、[定数] および 25 パーセントを指定します。代わりに、4 人すべての承認者が並行して承認する必要がある場合は、100 パーセントと指定できます。値は、1 ~ 100 の間の整数である必要があります。

5 [デフォルト SoD 承認者] を変更します。

フィールド	説明
[デフォルト SoD 承認者]	役割承認タスクを 1 人以上のユーザに割り当てる必要がある場合は、[ユーザ] を選択します。役割承認タスクをグループに割り当てる必要がある場合は、[グループ] を選択します。承認する必要があるのは、グループメンバーのうち 1 人のみです。役割承認タスクを役割に割り当てる必要がある場合は、[役割] を選択します。グループと同様に、承認する必要があるのは、役割のメンバーのうち 1 人のみです。 特定のユーザ、グループ、または役割を参照するには、[オブジェクトセレクト] または [履歴] ボタンを使用します。リスト内の承認者の順序を変更する、または承認者を削除するには、27 ページのセクション 1.4.4 「一般的なユーザアクション」を参照してください。

6 [保存] をクリックし、変更を永続的にします。

役割レポートの作成および表示

この項では、役割レポートとそれらの作成および表示方法について説明します。各レポートは、そのレポートが生成された時点での役割カタログの現在の状態に関するデータを表示する読み取り専用の PDF 形式となります。単一のレポートは一定期間でのデータの変更を反映していません。役割の情報をコンプライアンス目的で追跡するには、監査ログを使用してください。

この項のトピックは次のとおりです。

- ◆ [245 ページのセクション 18.1 「役割の報告のアクションについて」](#)
- ◆ [245 ページのセクション 18.2 「役割レポート」](#)
- ◆ [249 ページのセクション 18.3 「SoD レポート」](#)
- ◆ [251 ページのセクション 18.4 「ユーザレポート」](#)

18.1 役割の報告のアクションについて

[役割] タブを使用して、役割の現状を説明するレポートを作成および表示できます。これらのレポートは、役割または役割分担を監視、追加、変更、および削除するのに役立ちます。

役割レポートを作成および表示するには、役割管理者または役割監査担当者である必要があります。ユーザアプリケーション管理者は、デフォルトで役割管理者の権限を持っています。

18.2 役割レポート

次の 2 種類のレポートが利用可能です。

- ◆ 役割リストレポート
- ◆ 役割割り当てレポート

18.2.1 役割リストレポート

役割リストレポートには次の内容が表示されます。

- ◆ 役割レベルによってグループ化されたすべての役割
- ◆ 各役割のビジネス名
- ◆ コンテナおよび各役割の説明
- ◆ オプションで、Quorum パーセンテージ、含まれる役割、含む役割、役割が間接的に割り当てられているグループおよびコンテナ、および各役割に必要なエンタイトルメント

役割リストレポートの作成および表示方法：

- 1 ユーザアプリケーションを開き、[役割] > [役割レポート] を選択します。

- 2 [レポートの選択] ドロップダウンメニューから [役割リストレポート] を選択し、[選択] をクリックします。[役割レポート] ページでは、レポートに含めるパラメータを選択するように求められます。

- 3 [各役割の管理に関する詳細を表示しません] を選択して、次の情報が利用可能で該当する場合に表示します。
- ◆ 定数の割合
 - ◆ 含まれる役割
 - ◆ 含む側の役割
 - ◆ この役割が間接的に割り当てられているグループ
 - ◆ この役割が間接的に割り当てられているコンテナ
 - ◆ 役割に結合しているエンタイトルメント
- 4 すべての役割または選択した所有者が所有する役割を選択します。[役割所有者の選択] を選択すると、所有者選択ボックスが有効になります。次のアイコンを使用して選択します。



オブジェクト選択ダイアログを開きます。

ユーザを選択するには、[姓] または [名] を選択し、名前を 1 文字以上入力して選択リストを表示します。選択リストから選択します。

ユーザのグループを選択するには、グループの [説明] リストから選択するか、[説明] ボックスに文字を入力し、さらに短いグループのリストを取得します。選択リストから選択します。

ユーザのコンテナを選択するには、ディレクトリツリーからコンテナを選択します。



履歴選択ダイアログを開きます。オブジェクトの [説明] リストから選択するか、[説明] ボックスに文字を入力して検索をフィルタして、さらに短いオブジェクトのリストを取得します。



現在の選択を選択なしにリセットします。

- 5 すべてのセキュリティレベルの役割を表示するか、表示する1つ以上のレベルを選択するかを選択します。レベルは、選択プルダウンボックスから選択します。複数のレベルを選択するには、<Shift> キーまたは <Ctrl> キーを押したままクリックします。
- 6 すべてのカテゴリの役割を表示するか、表示する1つ以上のカテゴリを選択するかを選択します。カテゴリは、選択プルダウンボックスから選択します。複数のカテゴリを選択するには、<Shift> キーまたは <Ctrl> キーを押したままクリックします。
- 7  18-1 にあるサンプルと同様の PDF レポートを作成および表示するには、[レポートの実行] をクリックします。

図 18-1 役割リストレポートのサンプル

Novell		レポート日:	2008/01/17 17:12
役割リストレポート			
ビジネス役割 (合計: 1)			
役割名:	医者 (ビジネス役割)		
コンテナ	医者.Level30.RoleDef		
説明	医者		
IT役割 (合計: 6)			
役割名:	看護師 (IT役割)		
コンテナ	看護師.Level20.RoleDef		
説明	看護師		
役割名:	薬剤師 (IT役割)		
コンテナ	薬剤師.Level20.RoleDef		
説明	薬剤師		
役割名:	セキュリティ責任者 (IT役割)		
コンテナ	セキュリティ責任者.Level20.RoleDef		
説明	セキュリティ責任者		
役割名:	監査担当者 (IT役割)		
コンテナ	監査担当者.Level20.RoleDef		
説明	役割監査担当者		
役割名:	役割マネージャ (IT役割)		
コンテナ	役割マネージャ.Level20.RoleDef		
説明	役割マネージャ		
役割名:	役割モジュール管理者 (IT役割)		
コンテナ	役割モジュール管理者.Level20.RoleDef		
説明	役割モジュール管理者		
許可役割 (合計: 3)			
役割名:	薬の投与 (許可役割)		
コンテナ	薬の投与.Level10.RoleDef		

- 8 レポートを保存するには、Adobe Reader のウィンドウで、[ファイル] > [コピーを保存] を選択します。ファイルを保存するディレクトリを指定し、レポート用のファイル名を指定します。

18.2.2 役割割り当てレポート

役割割り当てレポートには次の内容が表示されます。

- ◆ 役割レベルによってグループ化された役割
- ◆ 役割ごとのビジネス名、コンテナ、カテゴリ、および説明
- ◆ 役割に割り当てられているユーザおよび割り当てを承認した人物の名前

役割割り当てレポートの作成および表示方法:

- 1 ユーザアプリケーションを開き、[役割] > [役割レポート] を選択します。
- 2 [レポートの選択] ドロップダウンメニューから [役割割り当てレポート] を選択し、[選択] をクリックします。[役割レポート] ページでは、レポートに含めるパラメータを選択するように求められます。

- 3 すべての役割割り当てを表示するか、選択した役割の割り当てを表示するかを選択します。[役割の選択] を選択すると、選択ボックスが有効になり、246 ページのステップ 4 で説明されている選択アイコンが表示されます。
- 4 すべての役割所有者が所有する役割を表示するか、選択された役割所有者が所有する役割を表示するかを選択します。[役割所有者の選択] を選択すると、選択ボックスが有効になり、246 ページのステップ 4 で説明されている選択アイコンが表示されます。
- 5 すべての役割レベルの役割を表示するか、1 つ以上の役割レベルを選択するかを選択します。レベルは、選択プルダウンボックスから選択します。複数のレベルを選択するには、<Shift> キーまたは <Ctrl> キーを押したまま各レベルをクリックします。
- 6 すべての役割カテゴリの役割を表示するか、1 つ以上の役割カテゴリを選択するかを選択します。カテゴリは、選択プルダウンボックスから選択します。複数のカテゴリを選択するには、<Shift> キーまたは <Ctrl> キーを押したまま各カテゴリをクリックします。
- 7 割り当てられた役割のみを含むようにレポートをフィルタするには、[割り当てを持つ役割のみを表示します] をクリックします。
- 8 1 つの役割ではなく、すべての役割の割り当てを表示するように選択する場合は、[ソート順序とグループ化] の中から名前またはカテゴリで役割をグループ化するように選択します。
- 9  18-2 にあるサンプルと同様の PDF レポートを作成および表示するには、[レポートの実行] をクリックします。

図 18-2 役割割り当てレポートのサンプル

Novell		レポート日:	2008/01/17 16:55
役割割り当てレポート			
IT役割 (合計:2)			
役割名:	看護師 (IT役割)		
	看護師_Level20.RoleDefs		
	看護師		
この役割への割り当て		承認者	
Abby Spencer (ユーザ)			
役割名:	役割モジュール管理者 (IT役割)		
	.Level20.RoleDefs		

- 10 レポートを保存するには、Adobe Reader のウィンドウで、[ファイル] > [コピーを保存] を選択します。ファイルを保存するディレクトリを指定し、レポート用のファイル名を指定します。

18.3 SoD レポート

次の 2 つのレポートにより役割分担の現状が説明されます。

- ◆ SoD 制約レポート
- ◆ SoD 違反および例外レポート

18.3.1 SoD 制約レポート

SoD 制約レポートには次の内容が表示されます。

- ◆ 現在定義されている役割分担制約の名前ごとのリスト
- ◆ 役割分担の説明
- ◆ 競合している役割のリスト
- ◆ 役割分担違反に対する例外を承認する権限を持つ人のリスト

SoD 制約レポートの作成および表示方法：

- 1 ユーザアプリケーションを開き、[役割] > [SoD レポート] を選択します。
- 2 [レポートの選択] ドロップダウンメニューから [SoD 制約レポート] を選択し、[選択] をクリックします。[役割レポート] ページでは、レポートに含めるパラメータを選択するように求められます。

- 3 すべての SoD 制約をリストするか、SoD 制約を 1 つ選択するかを選択します。[SoD 制約の選択] を選択すると、選択ボックスが有効になります。246 ページのステップ 4 で選択ボックスのアイコンの説明を参照してください。
- 4 すべての役割をリストするか、役割を 1 つ選択するかを選択します。[役割の選択] を選択すると、選択ボックスが有効になります。246 ページのステップ 4 で選択ボックスのアイコンの説明を参照してください。
- 5 にあるものと同様の PDF レポートを作成および表示するには、[レポートの実行  18-3] をクリックします。

図 18-3 SoD 制約レポートのサンプル

Novell		レポート日:	2008/01/18 9:06
SoD制約レポート			
SoD制約名:	医者-看護師		
SoD制約の説明	医者-看護師		
競合する役割	null		
承認者	main admin		
SoD制約名:	看護師-薬剤師		
SoD制約の説明	看護師-薬剤師		
競合する役割	看護師-薬剤師		
承認者	llavoy primus, test User2, test user1		

- 6 レポートを保存するには、Adobe Reader のウィンドウで、[ファイル] > [コピーを保存] を選択します。ファイルを保存するディレクトリを指定し、レポート用のファイル名を指定します。

18.3.2 SoD 違反および例外レポート

SoD 違反および例外レポートには以下の内容が表示されます。

- ◆ 役割分担制約ごとの名前、説明、および競合している役割
- ◆ 承認された例外および未承認の違反の両方を含む、制約違反のユーザ。ユーザは、競合している役割を付与したグループまたはコンテナのメンバーであることによって違反している場合があります。
- ◆ 承認済みの例外。これらは、役割分担に対して例外として承認された違反です。
- ◆ 例外を承認または拒否した者の名前および承認または拒否の日付

SoD 違反および例外レポートの作成および表示方法：

- 1 ユーザアプリケーションを開き、[役割] > [SoD レポート] を選択します。
- 2 [レポートの選択] ドロップダウンメニューから [SoD 違反および例外レポート] を選択し、[選択] をクリックします。[役割レポート] ページでは、レポートに含めるパラメータを選択するように求められます。

- 3 すべての SoD 制約の中で目立つ違反または例外を表示するには、[すべての SoD 制約] を選択します。または、[SoD 制約の選択] を選択して、単一の SoD 制約の違反に関するレポートに焦点を当てます。
- 4 次に表示されるサンプルと同様の PDF レポートを作成および表示するには、[レポートの実行] をクリックします。

Novell		レポート日: 2008/01/17 14:20
SoD違反および例外レポート		
SoD制約名:	看護師-薬剤師	
SoD制約の説明:	看護師-薬剤師	
適合する役割:	看護師-薬剤師	
違反しているすべてのユーザーのリスト		

- 5 レポートを保存するには、Adobe Reader のウィンドウで、[ファイル] > [コピーを保存] を選択します。ファイルを保存するディレクトリを指定し、レポート用のファイル名を指定します。

18.4 ユーザレポート

次の 2 種類のユーザレポートが利用可能です。

- ◆ ユーザ役割レポート
- ◆ ユーザエンタイトルメントレポート

18.4.1 ユーザ役割レポート

ユーザ役割レポートには次の内容が表示されます。

- ◆ 選択されたユーザ、ユーザのグループ、またはユーザのコンテナ
- ◆ 各ユーザがメンバーシップを持っている役割
- ◆ 役割内のメンバーシップが有効になった、あるいは有効になる日付
- ◆ 役割のメンバーシップの有効期限
- ◆ オプションで、役割内のメンバーシップのソース

ユーザ役割レポートを作成および表示する方法:

- 1 ユーザアプリケーションを開き、[役割] > [ユーザレポート] を選択します。

- 2 [レポートの選択] ドロップダウンメニューから [ユーザ役割レポート] を選択し、[選択] をクリックします。

- 3 [ユーザ] ペインで、役割を表示するユーザ、グループ、またはコンテナを選択します。246 ページのステップ 4 で選択ボックスの機能の説明を参照してください。
- 4 [レポートの詳細] ペインで、次の中からレポートする詳細のタイプを 1 つ以上選択します。

詳細	意味
[直接割り当てられた役割のみを表示します。]	ユーザ役割レポートは、選択されたユーザに直接割り当てられた役割がある場合は、それを表示します。レポートには、グループまたはコンテナのメンバーシップから継承された役割は表示されません。
直接割り当てられた役割の承認情報を含めます。	ユーザ役割レポートは、各ユーザに直接割り当てられたそれぞれの役割を誰が承認したかを表示します。
役割が割り当てられているユーザのみを表示します。	ユーザ役割レポートは、役割が割り当てられている選択されたユーザを表示します。役割が直接的または間接的に割り当てられていないユーザはレポートには表示されません。

- 5 [ソート順序とグループ化] ペインで、姓または名でユーザをソートするように選択します。
- 6 [ソート順序とグループ化] ペインで、レベルまたは名前でも各ユーザの役割をソートするように選択します。
- 7 次に表示されるサンプルと同様のレポートを作成および表示するには、[レポートの実行] をクリックします。

ユーザ役割レポート			
ユーザ: 役割 看護師	Abby Spencer ソース 直接割り当て	有効開始日 08/01/16 17:02	有効期限
ユーザ: 役割 看護師	linvcy primus ソース 直接割り当て	有効開始日 08/01/18 8:21	有効期限
ユーザ: 役割 役割モジュール管理者	main_admin ソース 直接割り当て	有効開始日 08/01/07 10:45	有効期限
ユーザ: 役割 業の投与	test user1 ソース 直接割り当て	有効開始日 08/01/16 12:26	有効期限

- 8 レポートを保存するには、Adobe Reader のウィンドウで、[ファイル] > [コピーを保存] を選択します。ファイルを保存するディレクトリを指定し、レポート用のファイル名を指定します。

18.4.2 ユーザエンタイトルメントレポート

ユーザエンタイトルメントレポートには次の内容が表示されます。

- ◆ 識別名ごとのすべてのエンタイトルメント
- ◆ 各エンタイトルメントを保持するユーザ
- ◆ ユーザのエンタイトルメントが有効になる日付
- ◆ ユーザのエンタイトルメントが期限切れになる日付
- ◆ エンタイトルメントを許可する、ユーザが保持する役割

ユーザエンタイトルメントレポートを作成および表示する方法：

- 1 ユーザアプリケーションを開き、[役割] > [ユーザレポート] を選択します。
- 2 [レポートの選択] ドロップダウンメニューから [ユーザエンタイトルメントレポート] を選択し、[選択] をクリックします。



- 3 [ユーザ選択] ペインで、個別のユーザ、グループ、またはコンテナの中からユーザの種類を選択します。選択アイコンの説明は、246 ページのステップ 4 を参照してください。

- 4 [ソート順序とグループ化] ペインで、次の中から1つ選択します。
- ◆ [各ユーザのエンタイトルメント詳細を一覧する]
 - ◆ [各エンタイトルメントのユーザ詳細を一覧する]
- 5  18-4 および  18-5 にあるものと同様の PDF レポートを作成および表示するには、[レポートの実行] を選択します。

図 18-4 ユーザエンタイトルメントレポート: 各ユーザのエンタイトルメント詳細のサンプル

Novell レポート日: 11月16日(金) 15:35:58 EST

ユーザエンタイトルメントレポート

ユーザ	エンタイトルメント	ソース(役割内のメンバーシップ)	有効開始日	有効期限
ユーザ: Bill Bender	エンタイトルメント cn=MedSecureAccess, cn=HajenDriver, cn=TestDrivers, o=Novell	医者	11/16/2007	12/29/2007
ユーザ: Kate Smith	エンタイトルメント cn=MedSecureAccess, cn=HajenDriver, cn=TestDrivers, o=Novell	医者	11/16/2007	12/30/2007
ユーザ: Chip Nano	エンタイトルメント cn=MedSecureAccess, cn=HajenDriver, cn=TestDrivers, o=Novell	医者	11/16/2007	11/25/2007

図 18-5 ユーザエンタイトルメントレポート: 各エンタイトルメントのユーザ詳細のサンプル

Novell レポート日: 11月16日(金) 15:36:25 EST

ユーザエンタイトルメントレポート

エンタイトルメント	ユーザ	ソース(役割内のメンバーシップ)	有効開始日	有効期限
cn=MedSecureAccess, cn=HajenDriver, cn=TestDrivers, o=Novell	Bill Bender	医者	11/16/2007	12/29/2007
	Kate Smith	医者	11/16/2007	12/30/2007
	Chip Nano	医者	11/16/2007	11/25/2007

- 6 レポートを保存するには、Adobe Reader のウィンドウで、[ファイル] > [コピーを保存] を選択します。ファイルを保存するディレクトリを指定し、レポート用のファイル名を指定します。

[整合性] タブの使用



次の各項では、Identity Manager ユーザアプリケーションの [整合性] タブの使用方法について説明します。

- ◆ 257 ページの第 19 章「[整合性] タブの概要」
- ◆ 271 ページの第 20 章「検証要求の発行」

[整合性] タブの概要

この項では、[整合性] タブの概要について説明します。この節の内容は次のとおりです。

- ◆ 257 ページのセクション 19.1 「[整合性] タブについて」
- ◆ 260 ページのセクション 19.2 「タブへのアクセス」
- ◆ 260 ページのセクション 19.3 「[Identity セルフサービス] タブの機能」
- ◆ 261 ページのセクション 19.4 「実行できる整合性のアクション」
- ◆ 262 ページのセクション 19.5 「検証要求ページの凡例の理解」
- ◆ 263 ページのセクション 19.6 「一般的な整合性のアクション」

Identity Manager ユーザインタフェースの使用に関する全般的な説明については、17 ページの第 1 章「はじめに」を参照してください。

19.1 [整合性] タブについて

[整合性] タブでは、整合性ベースのアクションを実行するための簡単な方法を提供します。

[整合性] タブを使用すると、検証プロセスを介してこれらのプロセスの状態をチェックできます。[整合性] タブを使用して、次のことができます。

- ◆ 検証プロセスを開始して、ユーザプロファイルに正確な情報が含まれていることをユーザが確認できるようにします。
- ◆ 検証プロセスを開始して、役割分担 (SoD) 制約セットの違反および承認例外を確認します。
- ◆ 検証プロセスを開始して、役割セットの割り当てを確認します。
- ◆ 検証プロセスを開始して、ユーザセットの割り当てを確認します。
- ◆ 検証要求の状態を表示して各プロセスの結果を分析します。

整合性および代理モード

代理モードは、[要求と承認] タブでのみ有効で、[整合性] タブではサポートされていません。[要求と承認] タブで代理モードを起動し、[整合性] タブに切り替えた場合、代理モードは両方のタブでオフになります。

19.1.1 整合性および検証について

整合性は、組織が関連するビジネスの法規に従うことを確実にするプロセスです。整合性の主要な要素の 1 つは検証です。検証は、従業員が完全に組織のポリシーを自覚し、それらのポリシーに準拠する手順を実行することを確認するための方法を組織に提供します。従業員または管理者がデータの正確性を定期的に検証することを要求することにより、管理側はユーザプロファイル、役割割り当て、および承認済み役割分担 (SoD) 例外などの個人情報に最新のものがコンプライアンスに従っていることを確認します。

検証要求とプロセス

組織内の個人が企業データの正確性を確認できるようにするために、ユーザは**検証要求**を行います。この要求は、1つまたは複数のワークフロープロセスを開始します。ワークフロープロセスは、**検証者**にデータの正確性を検証する機会を提供します。それぞれの検証者に対して別のワークフロープロセスが開始されます。検証者は、[要求と承認] タブの [マイタスク] リスト内のワークフロータスクを割り当てられます。ワークフロープロセスを完了するには、検証者はタスクを開き、データを確認して、内容が正しいか間違っているかを検証します。

Roles Based Provisioning Module は、次の4つのタイプの検証をサポートします。

- ◆ ユーザプロフィール
- ◆ SoD 違反
- ◆ 役割の割り当て
- ◆ ユーザ割り当て

ユーザプロフィール検証プロセスの場合、各ユーザは自身のプロフィールの検証者になります。ユーザは他のユーザの検証者になることはできません。SoD 違反、役割の割り当て、およびユーザ割り当ての場合、検証者は任意のユーザ、グループ、または役割になります。検証要求の開始者は、グループまたは役割の各メンバーまたは1人のメンバーが検証を行なうかどうかを指定します。ユーザ検証プロセスの場合、各メンバーは選択したグループまたは役割を検証する必要があります。

検証要求を発行するプロセスを簡略かするため、Roles Based Provisioning Module では、それぞれの検証タイプに対してデフォルトの要求定義セットをインストールします。

- ◆ ユーザプロフィール - デフォルト
- ◆ SoD 違反 - デフォルト
- ◆ 役割割り当て - デフォルト
- ◆ ユーザ割り当て - デフォルト

これらの要求定義を自身の要求の作成のベースとして使用することができます。新しい要求に対する詳細を提供すると、これらの詳細を将来に使用するために保存することができます。

検証フォーム

それぞれのワークフローには**検証フォーム**が関連付けられています。検証者はフォームを確認してデータの正確性を肯定する必要があります。フォームは、整合性モジュール管理者または検証マネージャによって定義されます。

それぞれの検証フォームは、要求された**検証質問**とオプションの**調査質問**セットを含みます。検証質問は、データ全体に対して肯定または否定する、はいまたはいいえで答える質問です。調査質問は、追加のデータを収集するため、または質問を限定するために設定できます。

ユーザプロフィール検証フォームには、検証者が確認する必要がある値を含む**ユーザ属性**セットも含まれます。SoD 違反、役割割り当て、またはユーザ割り当てプロセス用の検証フォームは、**検証レポート**を含みます。

検証レポート

SoD 違反、役割割り当て、またはユーザ割り当てプロセス用の検証レポートは、検証者が確認すべき詳細情報を提供します。レポートは、すべてのユーザが同じ情報を確認することを確実にするために検証プロセスが開始されたときに生成されます。レポートは、検証プロセスに指定されているレポートの言語設定によって複数の言語で生成される場合があります。

検証要求ステータス

検証要求が開始されると、ライフサイクルをとおして簡単に追跡できます。ユーザアプリケーションは、要求の状態を全体として、また、要求に関連付けられている個別のワークフロープロセスの詳細な状態を見るための便利な方法を提供します。要求のハイレベルなステータスは、要求が実行中、完了、開始、またはエラーのいずれであるかを参照する方法を提供します。詳細なステータスは、複数のワークフロープロセスに関する情報と各ワークフローの状態に関する情報を提供します。また、検証質問に対する回答のいくつかは肯定で、いくつかは否定であることを示す**検証結果**も表示されます。検証結果は、どの検証者が割り当てられたワークフロータスクに対してアクションを行っていないかを示します。

整合性セキュリティ

[整合性] タブは、一連のシステム役割を使用して、整合性機能へのアクセスを保護しています。[整合性] タブにある各メニューアクションは、1つ以上のシステム役割にマップされています。ユーザが整合性に定義されているセキュリティ役割の1つのメンバーではない場合、[整合性] タブは利用できません。

整合性のシステム役割は、インストール時にシステムによって自動的に定義されます。これらの役割には次のものが含まれます。

- ◆ 整合性モジュール管理者
- ◆ 検証マネージャ

整合性モジュール管理者は、インストール時に指定されます。インストール後、役割モジュール管理者は、整合性モジュール管理者および検証マネージャ役割に追加のユーザを割り当てることができます。追加の役割割り当てを行なうには、役割モジュール管理者は、ユーザアプリケーションの [役割] > [役割の割り当て] ページを使用します。

システム役割については、次で詳細を説明します。

表 19-1 システム役割

役割	説明
整合性モジュール管理者	検証マネージャが実行可能なものを含む、[整合性] タブのすべての機能をメンバーが実行することを許可するシステム役割です。
	注： Roles Based Provisioning Module のリリース 3.6.1 で、整合性モジュール管理者の能力は検証マネージャに与えられているものと同じです。将来のリリースでは、整合性モジュール管理者は [整合性] タブに新しい機能が追加されることに伴って追加の能力を与えられる可能性があります。

役割	説明
検証マネージャ	<p>メンバーがすべての検証機能を実行できるようにするシステム役割です。実行できる機能は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ユーザプロフィール検証プロセスの要求 ◆ SoD 違反検証プロセスの要求 ◆ 役割割り当て検証プロセスの要求 ◆ ユーザ割り当て検証プロセスの要求 ◆ 送信されたすべての検証要求の状態の表示
	<p>注: 任意のユーザを検証プロセスの検証者として定義できます。検証者は、検証マネージャまたは整合性モジュール管理者役割 . に属している必要はありません。</p>

[整合性] タブは、一覧表示されているシステム役割のいずれかのメンバーシップを持たない認証ユーザによるアクセスを許可しません。

19.2 タブへのアクセス

[整合性] タブにアクセスする

- 1 ユーザアプリケーションで [整合性] をクリックします。

デフォルトで、[整合性] タブは [ユーザプロフィール検証要求プロセス] ページを表示します。



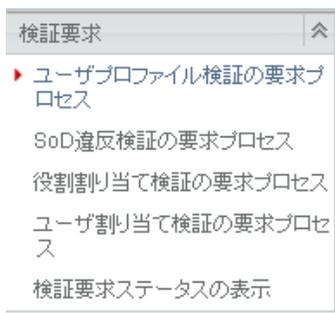
ユーザインタフェースの別のタブを開いた後、このタブに戻るには、[整合性] タブをクリックします。

19.3 [Identity セルフサービス] タブの機能

この項では、[整合性] タブのデフォルトの機能について説明します (組織向けにカスタマイズされている場合、タブの外観が異なって見える可能性があります。システム管理者に相談してください)。

[整合性] タブの左側には、実行可能なアクションのメニューが表示されます。アクションは、[検証要求] カテゴリに一覧表示されます。

図 19-1 [整合性] タブのメニュー



[検証要求] アクションは、整合性モジュール管理者または検証マネージャの場合にのみ表示されます。

アクションをクリックすると、対応するページが右部に表示されます。通常、ページには、そのアクションに関する詳細情報が表示されるパネルがあります。たとえば次のように、データの入力や項目の選択が可能なフィールドが表示されます。

図 19-2 アクションを表示するページ



[整合性] タブで操作するほとんどのページには、右上隅にボタンがあります。このボタンをクリックすると、[整合性] ページの凡例が表示されます。



[整合性] ページの凡例の詳細については、[262 ページのセクション 19.5 「検証要求ページの凡例の理解」](#)を参照してください。

19.4 実行できる整合性のアクション

次の表は、[整合性] タブでデフォルトで実行可能なアクションの概要を示しています。

表 19-2 整合性のアクション

カテゴリ	アクション	説明
検証要求	ユーザプロフィール検証プロセスの要求	検証プロセスの要求を送信して、ユーザプロフィール情報を確認します。 詳細については、271 ページのセクション 20.2「ユーザプロフィール検証プロセスの要求」を参照してください。
	SoD 違反検証プロセスの要求	検証プロセスの要求を送信して、SoD 制約セットの違反および例外を確認します。 詳細については、273 ページのセクション 20.3「SoD 違反検証プロセスの要求」を参照してください。
	役割割り当て検証プロセスの要求	検証プロセスの要求を送信して、選択した役割の割り当てを確認します。 詳細については、275 ページのセクション 20.4「役割割り当て検証プロセスの要求」を参照してください。
	ユーザ割り当て検証プロセスの要求	検証プロセスの要求を送信して、選択したユーザの割り当てを確認します。 詳細については、277 ページのセクション 20.5「ユーザ割り当て検証プロセスの要求」を参照してください。
	検証要求ステータスの表示	検証要求のステータスを表示できます。また、要求に対して開始された各ワークフローの詳細ステータスを表示するオプションも提供し、またオプションでワークフローを撤回することもできます。 詳細については、279 ページのセクション 20.6「検証要求のステータスの確認」を参照してください。

19.5 検証要求ページの凡例の理解

[整合性] タブで操作するほとんどのページには、右上隅にボタンがあります。このボタンをクリックすると、[整合性] ページの凡例が表示されます。凡例を表示するには、 9-2 に示すように、[凡例] ボタンをクリックします。

図 19-3 [凡例] ボタン



凡例には、[整合性] タブで使用されているアイコンの簡単な説明が表示されます。次の図は凡例を示しています。

図 19-4 整合性の凡例



凡例内のアイコンの詳細内容を次の表に示します。

表 19-3 凡例のアイコン

アイコン	説明
初期化しています	<p>検証要求が開始されたことを示します。</p> <p>[検証要求ステータスの表示] ページに表示されます。[検証要求ステータスの表示] ページで要求を開始する詳細を表示することはできないことに注意してください。</p>
稼働中	<p>検証要求が処理中であることを示します。</p> <p>[検証要求ステータスの表示] ページに表示されます。</p>
完了	<p>検証要求が完了したことを示します。</p> <p>[検証要求ステータスの表示] ページに表示されます。</p>
エラー	<p>処理中にエラーが発生したことを示します。</p> <p>[検証要求ステータスの表示] ページに表示されます。</p>
はい	<p>検証者が検証プロセスの情報が正しいと確認したことを示します。</p> <p>[検証要求ステータスの表示] ページに表示されます。</p>
いいえ	<p>検証者が検証プロセスの情報が正しいと確認したことを示します。</p> <p>[検証要求ステータスの表示] ページに表示されます。</p>
終了	<p>ユーザがワークフローを撤回したか、処理中にエラーが発生したために、検証要求のワークフローが完了前に終了したことを示します。</p> <p>[検証要求ステータスの表示] ページに表示されます。</p>

19.6 一般的な整合性のアクション

[整合性] タブは、データへのアクセスおよびデータの表示といった一般的なツールに対して、一貫したユーザインタフェースを備えています。この項では、一般的なユーザインタフェースの要素と、次の項目について説明します。

- ◆ 264 ページのセクション 19.6.1 「要求のラベルおよび説明の指定」

- ◆ 264 ページのセクション 19.6.2 「検証者の定義」
- ◆ 265 ページのセクション 19.6.3 「締切の指定」
- ◆ 266 ページのセクション 19.6.4 「検証フォームの定義」
- ◆ 267 ページのセクション 19.6.5 「検証要求の送信」
- ◆ 268 ページのセクション 19.6.6 「要求の詳細の保存」
- ◆ 269 ページのセクション 19.6.7 「保存された要求の使用」

19.6.1 要求のラベルおよび説明の指定

すべての検証要求タイプに対して表示ラベルおよび説明を定義する必要があります。[整合性] タブは、これを行なうための一貫したインタフェースを提供します。

表示ラベルおよび要求の説明を表示する

- 1 [整合性] タブの左ナビゲーションメニューで、[検証要求] の下にあるアクションから実行するものを選択します。
- 2 [表示ラベル] フィールドにラベルを入力します。
[表示ラベル] が [マイタスク] リストに表示され、保存された要求の一覧、および検証プロセスの名前としてその他のディスプレイが一覧表示されます。
ラベルのローカライズされたテキストを表示するには、[言語の追加] ボタンをクリックします。次に、ローカライズされたテキストを目的の言語の右に入力して [OK] をクリックします。
- 3 [要求の説明] フィールドに説明を入力します。
[検証要求ステータスの表示] ページで要求ステータスを確認するとき、要求の詳細に要求の説明が表示されます。
説明のローカライズされたテキストを表示するには、[言語の追加] ボタンをクリックします。次に、ローカライズされたテキストを目的の言語の右に入力して [OK] をクリックします。

19.6.2 検証者の定義

[SoD 違反検証プロセスの要求]、[役割割り当て検証プロセスの要求]、および [ユーザ割り当て検証プロセスの要求] アクションは、検証者の定義に一貫したインタフェースを提供します。

SoD、役割割り当て、またはユーザ割り当て検証プロセスに対して検証者を定義する

- 1 [整合性] タブの左ナビゲーションメニューで、[検証要求] の下にあるアクションから実行するものを選択します。
- 2 [検証者] フィールドで、どのユーザ、グループ、および役割を検証プロセスの検証者にするかを指定します。
 - 2a リストに 1 人または複数のユーザを追加するには、ドロップダウンリストで [ユーザ] を選択します。

検証プロセスでデータを検証するユーザを選択します。グループと役割を選択する際、プロセスを完了するためにすべてのメンバーがデータを検証する必要があるのか、各グループでメンバー1人がデータを検証する必要があるのかを選択します。

検証者*

- 選択したグループおよび役割のすべてのメンバーがデータを検証する必要があります。
- 選択したグループおよび役割の1人のメンバーがデータを検証する必要があります。

[オブジェクトセレクタ] を使用してユーザを選択します。[オブジェクトセレクタ] で、各項目のチェックボックスをクリックし、[選択] をクリックすることによって複数のユーザを含めることができます。

[オブジェクトセレクタ] の使用方法の詳細については、[27 ページのセクション 1.4.4 「一般的なユーザアクション」](#) を参照してください。

- 2b** リストに1つまたは複数のグループを追加するには、ドロップダウンリストで [グループ] を選択します。
- [オブジェクトセレクタ] を使用してグループを選択します。[オブジェクトセレクタ] で、各項目のチェックボックスをクリックし、[選択] をクリックすることによって複数のユーザを含めることができます。
- 2c** リストに1つまたは複数の役割を追加するには、ドロップダウンリストで [役割] を選択します。
- [オブジェクトセレクタ] を使用して役割を選択します。[オブジェクトセレクタ] で、各項目のチェックボックスをクリックし、[選択] をクリックすることによって複数の役割を含めることができます。
- 2d** 項目を削除するには、項目を選択して [削除] ボタンをクリックします。複数の項目を選択してから [削除] ボタンをクリックすることができます。
- 2e** グループおよび役割検証者の場合、すべてのメンバーがデータを検証するか、または各グループおよび役割内の1人のメンバーが検証を行なうかを次のいずれかのボタンを選択することによって指定します。
- ◆ [選択したグループおよび役割のすべてのメンバーがデータを検証する必要がある]
 - ◆ [選択した各グループおよび役割の1人のメンバーがデータを検証する必要がある]

ユーザプロファイル検証プロセスの場合、選択したグループまたは役割のすべてのメンバーが検証する必要があります。

19.6.3 締切の指定

各検証プロセスには関連付けられている締切があります。締切はプロセスの実行継続時間を示します。

締切は、検証プロセスを起動する必要がありますが、保存された要求に対しては必要ありません。

検証プロセスに締切を指定する

- 1 [整合性] タブの左ナビゲーションメニューで、[検証要求] の下にあるアクションから実行するものを選択します。
- 2 [締切] フィールドで、検証プロセスの実行継続時間を示します。プロセスの継続時間を週、日、または時間単位で指定する場合は、[期間] フィールドに数字を入力して、単位として [週]、[日]、または [時] を選択します。有効期限を定義する場合は、[有効期限の指定] を選択し、カレンダーコントロールを使用して日時を選択します。プロセスを無期限に実行するには、[無制限] を選択します。
[締切] フィールドで指定した値は、保存された要求に対する詳細と一緒に保存されません。

19.6.4 検証フォームの定義

すべての検証タイプに対して検証フォームを定義する必要があります。[整合性] タブは、これを行なうための一貫したインタフェースを提供します。

検証プロセスにフォームを定義する

- 1 [整合性] タブの左ナビゲーションメニューで、[検証要求] の下にあるアクションから実行するものを選択します。
- 2 検証フォームの詳細を次のように定義します。
 - 2a [編集] ボタンをクリックします。

- 2b 検証質問を [検証質問] フィールドに入力します。

検証質問は、すべての検証プロセスで必須の質問です。この質問は、検証者にデータの肯定または否定を行なう機械を提供します。この質問は、簡単な、はいまたはいいえで回答する質問でなければなりません。検証プロセスを開始するときに検証質問を定義する必要があります。また、各検証者はこの質問に回答して応答を完了する必要があります。

検証質問のローカライズされたテキストを表示するには、[言語の追加] ボタンをクリックします。次に、ローカライズされたテキストを目的の言語の右に入力して [OK] をクリックします。

- 2c ユーザプロファイル検証プロセスでは、確認したいユーザ属性を示す必要があります。[ユーザ属性] フィールドで、含める各属性を選択します。

選択する属性の一覧は、ディレクトリ抽象化レイヤ内で参照可能とマークされている、バイナリまたは計算済みのものを除くすべての属性を含みます。

- 2d** [調査質問] フィールドで、オプションで検証者が検証プロセスの実行中に回答できる1つまたは複数の質問を含めることができます。検証プロセスは調査質問を含める必要はありません。ただし、含まれている場合は、オプションで検証者によって回答されます。

調査質問の一覧を定義および構成するには、次の手順に従ってください。

- 2d1** [項目の追加] ボタンをクリックして調査質問を追加します。



質問のローカライズされたテキストを目的の言語の右に入力して [OK] をクリックします。

- 2d2** 質問のリスト内で上に移動するには、質問を選択して [上へ移動] ボタンをクリックします。

- 2d3** 質問のリスト内で下に移動するには、質問を選択して [下へ移動] ボタンをクリックします。

- 2d4** 質問を削除するには、質問を選択して [削除] ボタンをクリックします。

- 2d5** 既存の質問に対するローカライズされたテキストを編集するには、質問を選択して [言語の追加] ボタンをクリックします。次に、ローカライズされたテキストを目的の言語の右に入力して [OK] をクリックします。

- 2e** フォームへの変更が完了したら、[表示] ボタンをクリックします。

[表示] または [編集] ボタンをクリックすることによって、表示専用および編集可能表示を切り替えることができます。

19.6.5 検証要求の送信

検証要求の詳細を定義した後に、要求を送信してプロセスを開始する必要があります。要求を送信すると、要求の確認番号が表示されます。

次のフィールドは、要求を起動するために必要です。

表 19-4 要求を起動するために必要なフィールド

検証タイプ	必須フィールド
ユーザプロファイル	表示ラベル、要求の説明、ユーザ、締切、検証質問
SoD 違反	表示ラベル、要求の説明、SoD 制約、検証者、締切、レポートロケール、検証質問
役割割り当て	表示ラベル、要求の説明、割り当ての確認、検証者、締切、レポートロケール、検証質問

検証タイプ	必須フィールド
ユーザ割り当て	表示ラベル、要求の説明、割り当てられている役割の確認、検証者、締切、レポートロケール、検証質問

検証要求を送信する

- 1 [整合性] タブの左ナビゲーションメニューで、[検証要求] の下にあるアクションから実行するものを選択します。
- 2 [送信] をクリックして検証プロセスを開始します。

要求の **確認番号** がページの上部に表示されます。この番号を記録して、[検証要求ステータスの表示] ページで要求の進捗状況を簡単に追跡できるようにします。この番号を記録しない場合、表示ラベルを使用して要求を追跡することができます。

19.6.6 要求の詳細の保存

検証要求の詳細を定義しているときに、後から使用するために詳細を保存するためのオプションが提供されています。たとえば、指定したパラメータおよびフォーム値を将来の要求で再び使用するために保存したい場合があります。

[保存された要求を使用する] をクリックすると、保存した要求に指定した名前が、保存された要求の一覧に表示ラベルと一緒に表示されます。

次のフィールドは、保存された要求で必要です。

表 19-5 保存された要求に必要なフィールド

検証タイプ	必須フィールド
ユーザプロフィール	表示ラベル、要求の説明、検証質問
SoD 違反	表示ラベル、要求の説明、SoD 制約、レポートロケール、検証質問
役割割り当て	表示ラベル、要求の説明、役割、レポートロケール、検証質問
ユーザ割り当て	表示ラベル、要求の説明、レポートロケール、検証質問

要求の詳細を保存する

- 1 [整合性] タブの左ナビゲーションメニューで、[検証要求] の下にあるアクションから実行するものを選択します。
- 2 [要求の詳細を保存] をクリックします。

保存したプロセス要求を識別するために使用する名前を入力して [OK] をクリックします。



次の文字は、保存された要求の名前で使用することはできません。<>,;\"+#=#/|&
*

名前の初めまたは終わりにあるスペースは自動的に削除されます。

プロセス要求がすでに存在する場合は、既存の定義を上書きするように促すメッセージが表示されます。

19.6.7 保存された要求の使用

検証要求を行なうときに、以前に保存した要求からの詳細を新しい要求のベースとして使用するオプションを利用できます。選択可能な保存された要求は、要求している検証プロセスのタイプによって異なります。たとえば、ユーザプロファイル検証要求を作成している場合(下記参照)、ユーザプロファイル検証プロセスに適用される保存された要求のみが表示されます。

保存された要求を使用する

- 1 [整合性] タブの左ナビゲーションメニューで、[検証要求] の下にあるアクションから実行するものを選択します。
- 2 [保存された要求を使用する] をクリックします。

保存された要求を選択できるポップアップウィンドウが表示されます。



- 2a** 要求を選択するには、表示ラベルまたは要求の名前をクリックします。要求の名前は保存された要求定義の一般名 (CN) です。
- 2b** 保存された要求を削除するには、表示ラベルの左にあるチェックボックスをクリックして、[削除] をクリックします。複数の保存された要求を1回のクリックで削除することができます。

製品と一緒にインストールされたデフォルトの要求定義は削除することができません。したがって、デフォルトの要求定義にはチェックボックスは表示されません。

[削除] ボタンをクリックすると、保存された要求を削除する前に確認メッセージが表示されます。

検証要求の発行

20

この項では、検証要求を行う方法について説明します。主なトピックは次のとおりです。

- ◆ [271 ページのセクション 20.1 「検証要求アクションについて」](#)
- ◆ [271 ページのセクション 20.2 「ユーザプロフィール検証プロセスの要求」](#)
- ◆ [273 ページのセクション 20.3 「SoD 違反検証プロセスの要求」](#)
- ◆ [275 ページのセクション 20.4 「役割割り当て検証プロセスの要求」](#)
- ◆ [277 ページのセクション 20.5 「ユーザ割り当て検証プロセスの要求」](#)
- ◆ [279 ページのセクション 20.6 「検証要求のステータスの確認」](#)

20.1 検証要求アクションについて

Identity Manager ユーザアプリケーションの [整合性] タブには、[検証要求] というアクショングループがあります。[検証要求] アクションでは、検証プロセスを要求したり、要求のステータスを確認したりできます。

20.2 ユーザプロフィール検証プロセスの要求

[ユーザプロフィール検証プロセスの要求] アクションでは、1つまたは複数のユーザプロフィールを確認するための検証プロセスを開始できます。また、検証要求に関連付けられている詳細 (パラメータおよびフォーム値など) を後からの要求のための事前入力フォームとして保存するオプションも提供します。

ユーザプロフィール検証プロセスを開始する

- 1 [検証要求] アクションの一覧の [ユーザプロフィール検証プロセスの要求] をクリックします。

検証プロセスに関する詳細を指定できるページが表示されます。

- 2 この要求のベースとして、以前に保存した要求から詳細を使用する場合は、[保存された要求を使用する] をクリックします。詳細については、[269 ページのセクション 19.6.7 「保存された要求の使用」](#) を参照してください。

- 3 要求の表示ラベルおよび説明を指定します。詳細については、[264 ページのセクション 19.6.1 「要求のラベルおよび説明の指定」](#)を参照してください。
- 4 [ユーザ] ボックスで、プロフィールを検証するユーザを選択します。
 - 4a 明示的に 1 人または複数のユーザを含めるには、ドロップダウンリストで [ユーザ] を選択します。

検証プロセスでプロフィールが検証されるユーザを選択します。各ユーザや、選択されたグループ、コンテナ、および役割のすべてのメンバーは、プロセスを完了するためにデータを検証する必要があります。



[オブジェクトセレクタ] を使用してユーザを選択します。[オブジェクトセレクタ] で、各項目のチェックボックスをクリックし、[選択] をクリックすることによって複数のユーザを含めることができます。

[オブジェクトセレクタ] の使用方法の詳細については、[27 ページのセクション 1.4.4 「一般的なユーザアクション」](#)を参照してください。

- 4b 1 つまたは複数のグループにユーザを含めるには、ドロップダウンリストで [グループ] を選択します。

[オブジェクトセレクタ] を使用してグループを選択します。[オブジェクトセレクタ] で、各項目のチェックボックスをクリックし、[選択] をクリックすることによって複数のグループを含めることができます。
- 4c 1 つまたは複数の役割にユーザを含めるには、ドロップダウンリストで [役割] を選択します。

[オブジェクトセレクタ] を使用して役割を選択します。[オブジェクトセレクタ] で、各項目のチェックボックスをクリックし、[選択] をクリックすることによって複数の役割を含めることができます。
- 4d コンテナにユーザを含めるには、ドロップダウンリストで [コンテナ] を選択します。

[オブジェクトセレクタ] を使用して、目的のコンテナにドリルダウンし、コンテナをクリックして選択します。

ユーザ割り当てレポートに選択したサブコンテナ内のすべてのユーザを含める場合、選択した項目の一覧の下にある [サブコンテナのすべてのユーザを含める] チェックボックスをクリックします。

検証プロセスを起動するには、少なくとも 1 人のユーザ、1 つのグループ、役割、またはコンテナを選択する必要があります。ただし、要求を保存するためにユーザ、グループ、役割、またはコンテナを選択する必要はありません。
- 5 [検証者] フィールドで、テキストが読み込み専用になっていることに注意してください。ユーザプロフィール検証プロセスでは、検証者は [ユーザ] フィールドで選択されたユーザと、[ユーザ] フィールドで追加した任意のグループ、役割、およびコンテナのすべてのメンバーです。これは、各ユーザは自身のプロフィールの検証者でなければならず、他のユーザは他のユーザの検証者になることはできないためです。
- 6 検証プロセスに締切を指定します。詳細については、[265 ページのセクション 19.6.3 「締切の指定」](#)を参照してください。
- 7 検証フォームの詳細を定義します。詳細については、[266 ページのセクション 19.6.4 「検証フォームの定義」](#)を参照してください。

- 8 要求を送信します。詳細については、[267 ページのセクション 19.6.5 「検証要求の送信」](#)を参照してください。
- 9 オプションで、[\[要求詳細の保存\]](#) をクリックして、後から使用するために検証プロセス要求に関連付けられている詳細 (パラメータおよびフォーム値など) を保存します。詳細については、[268 ページのセクション 19.6.6 「要求の詳細の保存」](#)を参照してください。

20.3 SoD 違反検証プロセスの要求

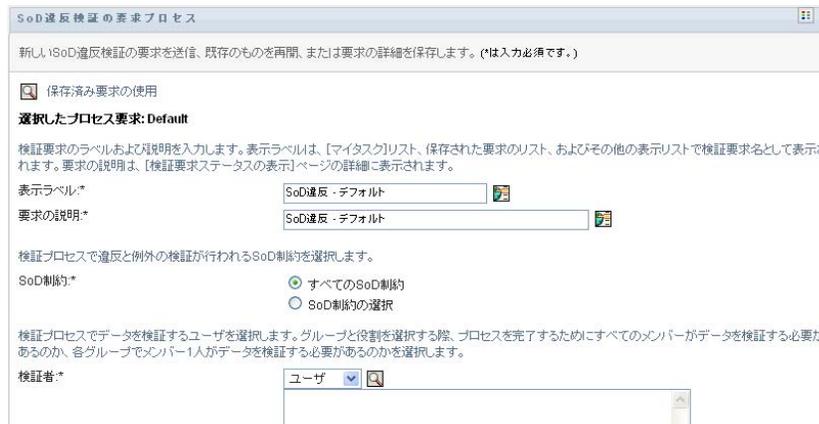
[SoD 違反検証プロセスの要求] アクションでは、1 つまたは複数の SoD 制約の違反および例外を確認するための検証プロセスを開始できます。また、検証要求に関連付けられている詳細 (パラメータおよびフォーム値など) を後からの要求のための事前入力フォームとして保存するオプションも提供します。

SoD 検証プロセスを開始すると、検証者がレビューするためのローカライズされたレポートのセットが生成されます。

検証者はレポートをレビューするために、選択した制約への権限を持っている必要はありません。SoD 検証プロセスに選択された検証者が SoD 制約を参照する権限を持っていない場合でも、制約に対する違反および例外を表示したレポートを参照できます。

SoD 違反検証プロセスを開始する

- 1 [\[検証要求\]](#) アクションの一覧の [\[SoD 違反検証プロセスの要求\]](#) をクリックします。検証プロセスに関する詳細を指定できるページが表示されます。



- 2 この要求のベースとして、以前に保存した要求から詳細を使用する場合は、[\[保存された要求を使用する\]](#) をクリックします。詳細については、[269 ページのセクション 19.6.7 「保存された要求の使用」](#)を参照してください。
- 3 要求の表示ラベルおよび説明を指定します。詳細については、[264 ページのセクション 19.6.1 「要求のラベルおよび説明の指定」](#)を参照してください。
- 4 次のように違反および例外を確認する SoD 制約を選択します。
 - 4a すべての既存の制約を含めるには、[\[すべての SoD 制約\]](#) ボタンを選択します。

検証プロセスで違反と例外の検証が行われるSoD制約を選択します。

SoD制約*

- すべてのSoD制約
 SoD制約の選択

4b 制約を個別に選択するには、[SoD 制約の選択] ボタンを選択します。

[オブジェクトセレクト] を使用して各制約を選択します。[オブジェクトセレクト] で、各項目のチェックボックスをクリックし、[選択] をクリックすることによって複数の制約を含めることができます。

[オブジェクトセレクト] ツールおよび [履歴の表示] ツールの使用方法の詳細については、[27 ページのセクション 1.4.4 「一般的なユーザアクション」](#) を参照してください。

検証プロセスを起動するには、少なくとも 1 つの SoD 制約を選択する必要があります。ただし、要求を保存するために SoD 制約を選択する必要はありません。

5 [検証者] フィールドで、どのユーザ、グループ、および役割を検証プロセスの検証者にするかを指定します。詳細については、[264 ページのセクション 19.6.2 「検証者の定義」](#) を参照してください。

検証プロセスを起動するには、少なくとも 1 人のユーザ、1 つのグループ、または役割を選択する必要があります。ただし、要求を保存するために検証者を選択する必要はありません。

6 検証プロセスに締切を指定します。詳細については、[265 ページのセクション 19.6.3 「締切の指定」](#) を参照してください。

7 [レポート言語] フィールドで、[言語の追加] ボタンをクリックして、検証プロセスで生成されたレポートに対してどの言語ロケールを使用するかを指定します。[デフォルトロケール] ドロップダウンリストで、デフォルトロケールを選択します。次に、含める言語を選択して、[OK] をクリックします。

SoD 検証プロセスを開始すると、検証者がレビューするためのローカライズされたレポートのセットが生成されます。これらのレポートは、1 つまたは複数の言語で同じデータを提供します。レポートはすべての検証者が同じデータセットを確認したことを確実にするために要求が送信されたときに生成されます。検証プロセスに対して生成され、保存されるレポート言語のセットを指定することができます。検証者がレビュー用の検証タスクを選択すると、検証者の希望のロケール (またはユーザが希望のロケールを持っていない場合は、ブラウザロケール) と一致するローカライズされたレポートが表示されます。そのロケールに対してレポートが存在しない場合、デフォルトロケールを使用したレポートが表示されます。

8 検証フォームの詳細を定義します。詳細については、[266 ページのセクション 19.6.4 「検証フォームの定義」](#) を参照してください。

9 要求を送信します。詳細については、[267 ページのセクション 19.6.5 「検証要求の送信」](#) を参照してください。

10 オプションで、[要求詳細の保存] をクリックして、後から使用するために検証プロセス要求に関連付けられている詳細 (パラメータおよびフォーム値など) を保存します。詳細については、[268 ページのセクション 19.6.6 「要求の詳細の保存」](#) を参照してください。

20.4 役割割り当て検証プロセスの要求

[役割割り当て検証プロセスの要求] アクションでは、選択した役割の割り当ての正確性を確認するための検証プロセスを開始できます。また、検証要求に関連付けられている詳細(パラメータおよびフォーム値など)を後からの要求のための事前入力フォームとして保存するオプションも提供します。

役割割り当て検証プロセスを開始すると、検証者がレビューするためのローカライズされたレポートのセットが生成されます。

検証者はレポートをレビューするために、選択した役割への権限を持っている必要はありません。役割割り当て検証プロセスに選択された検証者が特定の役割を参照する権限を持っていない場合でも、役割割り当てを表示したレポートを参照できます。

役割割り当て検証プロセスに対して生成されたレポートは、選択した役割に割り当てられたユーザを表示します。割り当てを持つ役割のみがレポートに含まれます。

役割割り当て検証プロセスを開始する

- 1 [検証要求] アクションの一覧の [役割割り当て検証プロセスの要求] をクリックします。

検証プロセスに関する詳細を指定できるページが表示されます。

- 2 この要求のベースとして、以前に保存した要求から詳細を使用する場合は、[保存された要求を使用する] をクリックします。詳細については、[269 ページのセクション 19.6.7 「保存された要求の使用」](#) を参照してください。
- 3 要求の表示ラベルおよび説明を指定します。詳細については、[264 ページのセクション 19.6.1 「要求のラベルおよび説明の指定」](#) を参照してください。
- 4 [割り当ての確認] ボックスで、次のように割り当てを確認する役割を選択します。
 - 4a すべての既存の役割を含めるには、[すべての役割] ボタンを選択します。

検証プロセス中に検証される割り当てを持つ役割を選択します。

割り当ての検証*

- すべての役割
- 役割の選択

4b 役割を個別に選択するには、[**役割の選択**] ボタンを選択します。

[**オブジェクトセクタ**] または [**履歴の表示**] ツールを使用して、各役割を選択します。[**オブジェクトセクタ**] で、各項目のチェックボックスをクリックし、[**選択**] をクリックすることによって複数の役割を含めることができます。

[**オブジェクトセクタ**] ツールおよび [**履歴の表示**] ツールの使用方法の詳細については、[27 ページのセクション 1.4.4 「一般的なユーザアクション」](#) を参照してください。

検証プロセスを起動するには、少なくとも 1 つの役割を選択する必要があります。ただし、要求を保存するために役割を選択する必要はありません。

- 5** [**検証者**] フィールドで、どのユーザ、グループ、および役割を検証プロセスの検証者にするかを指定します。詳細については、[264 ページのセクション 19.6.2 「検証者の定義」](#) を参照してください。

検証プロセスを起動するには、少なくとも 1 人のユーザ、1 つのグループ、または役割を選択する必要があります。ただし、要求を保存するために検証者を選択する必要はありません。

- 6** 検証プロセスに締切を指定します。詳細については、[265 ページのセクション 19.6.3 「締切の指定」](#) を参照してください。

- 7** [**レポート言語**] フィールドで、[**言語の追加**] ボタンをクリックして、検証プロセスで生成されたレポートに対してどの言語を使用するかを指定します。[**デフォルトロケール**] ドロップダウンリストで、デフォルトロケールを選択します。次に、含める言語を選択して、[**OK**] をクリックします。

役割割り当て検証プロセスを開始すると、検証者がレビューするためのローカライズされたレポートのセットが生成されます。これらのレポートは、1 つまたは複数の言語で同じデータを提供します。レポートはすべての検証者が同じデータセットを確認したことを確実にするために要求が送信されたときに生成されます。検証プロセスに対して生成され、保存されるレポート言語のセットを指定することができます。検証者がレビュー用の検証タスクを選択すると、検証者の希望のロケール (またはユーザが希望のロケールを持っていない場合は、ブラウザロケール) と一致するローカライズされたレポートが表示されます。そのロケールに対してレポートが存在しない場合、デフォルトロケールを使用したレポートが表示されます。

- 8** 検証フォームの詳細を定義します。詳細については、[266 ページのセクション 19.6.4 「検証フォームの定義」](#) を参照してください。

- 9** 要求を送信します。詳細については、[267 ページのセクション 19.6.5 「検証要求の送信」](#) を参照してください。

- 10** オプションで、[**要求詳細の保存**] をクリックして、後から使用するために検証プロセス要求に関連付けられている詳細 (パラメータおよびフォーム値など) を保存します。詳細については、[268 ページのセクション 19.6.6 「要求の詳細の保存」](#) を参照してください。

20.5 ユーザ割り当て検証プロセスの要求

[**ユーザ割り当て検証プロセスの要求**] アクションでは、選択したユーザの割り当ての正確性を確認するための検証プロセスを開始できます。また、検証要求に関連付けられている詳細 (パラメータおよびフォーム値など) を後からの要求のための事前入力フォームとして保存するオプションも提供します。

ユーザ割り当て検証プロセスを開始すると、検証者がレビューするためのローカライズされたレポートのセットが生成されます。

検証者はレポートをレビューするために、選択したユーザに関連付けられている役割への権限を持っている必要はありません。ユーザ割り当て検証プロセスに選択された検証者が特定の役割を参照する権限を持っていない場合でも、ユーザ割り当てを表示したレポートを参照できます。

レポートは、選択したユーザの役割割り当てを表示します。コンテナ、グループ、または役割を選択した場合、レポートは選択したコンテナ、グループ、または役割内のユーザに対する役割割り当てを表示します。

役割割り当て検証プロセスを開始する

- 1 [**検証要求**] アクションの一覧の [**ユーザ割り当て検証プロセスの要求**] をクリックします。

検証プロセスに関する詳細を指定できるページが表示されます。

ユーザ割り当て検証の要求プロセス

新しいユーザの割り当て検証の要求を送信、既存のものを再開、または要求の詳細を保存します。(必須入力項目)

保存済み要求の使用

選択したプロセス要求: Default

検証要求のラベルおよび説明を入力します。表示ラベルは、[マイタスク]リスト、保存された要求のリスト、およびその他の表示リストで検証要求名として表示されます。要求の説明は、[検証要求ステータスの表示]ページの詳細に表示されます。

表示ラベル* ユーザ割り当て - デフォルト

要求の説明* ユーザ割り当て - デフォルト

検証プロセスで役割割り当てが検証されるユーザを選択します。各ユーザに関連付けられた役割割り当てや、選択されたグループ、コンテナ、および役割を含むレポートが生成されます。

割り当てられた役割の検証* ユーザ

検証プロセスでデータを検証するユーザを選択します。グループと役割を選択する際、プロセスを完了するためにすべてのメンバーがデータを検証する必要があるのか、各グループでメンバー1人がデータを検証する必要があるのかを選択します。

検証者* ユーザ

- 2 この要求のベースとして、以前に保存した要求から詳細を使用する場合は、[**保存された要求を使用する**] をクリックします。詳細については、[269 ページのセクション 19.6.7「保存された要求の使用」](#)を参照してください。
- 3 要求の表示ラベルおよび説明を指定します。詳細については、[264 ページのセクション 19.6.1「要求のラベルおよび説明の指定」](#)を参照してください。
- 4 [**割り当てられている役割の確認**] ボックスで、割り当てを検証するユーザを選択します。
 - 4a 明示的に 1 人または複数のユーザを含めるには、ドロップダウンリストで [**ユーザ**] を選択します。

検証プロセスで役割割り当てが検証されるユーザを選択します。各ユーザに関連付けられた役割割り当てや、選択されたグループ、コンテナ、および役割を含むレポートが生成されます。

割り当てられた役割の検証*



検証プロセスでデータを検証するユーザを選択します。グループと役割を選択する際、プロセスを完了するためにすべてのメンバーがデータを検証する必要があるのか、各グループでメンバー1人がデータを検証する必要があるのかを選択します。

[オブジェクトセレクタ] を使用してユーザを選択します。[オブジェクトセレクタ] で、各項目のチェックボックスをクリックし、[選択] をクリックすることによって複数のユーザを含めることができます。

[オブジェクトセレクタ] の使用方法の詳細については、[27 ページのセクション 1.4.4 「一般的なユーザアクション」](#) を参照してください。

- 4b** 1 つまたは複数のグループにユーザを含めるには、ドロップダウンリストで [グループ] を選択します。

[オブジェクトセレクタ] を使用してグループを選択します。[オブジェクトセレクタ] で、各項目のチェックボックスをクリックし、[選択] をクリックすることによって複数のユーザを含めることができます。

- 4c** 1 つまたは複数の役割にユーザを含めるには、ドロップダウンリストで [役割] を選択します。

[オブジェクトセレクタ] を使用して役割を選択します。[オブジェクトセレクタ] で、各項目のチェックボックスをクリックし、[選択] をクリックすることによって複数の役割を含めることができます。

- 4d** コンテナにユーザを含めるには、ドロップダウンリストで [コンテナ] を選択します。

[オブジェクトセレクタ] を使用して、目的のコンテナにドリルダウンし、コンテナをクリックして選択します。

ユーザ割り当てレポートに選択したサブコンテナ内のすべてのユーザを含める場合、選択した項目の一覧の下にある [サブコンテナのすべてのユーザを含める] チェックボックスをクリックします。

検証プロセスを起動するには、少なくとも 1 人のユーザ、1 つのグループ、役割、またはコンテナを選択する必要があります。ただし、要求を保存するためにユーザ、グループ、役割、またはコンテナを選択する必要はありません。

- 5** [検証者] フィールドで、どのユーザ、グループ、および役割を検証プロセスの検証者にするかを指定します。詳細については、[264 ページのセクション 19.6.2 「検証者の定義」](#) を参照してください。

検証プロセスを起動するには、少なくとも 1 人のユーザ、1 つのグループ、または役割を選択する必要があります。ただし、要求を保存するために検証者を選択する必要はありません。

- 6** 検証プロセスに締切を指定します。詳細については、[265 ページのセクション 19.6.3 「締切の指定」](#) を参照してください。

- 7** [レポート言語] フィールドで、[言語の追加] ボタンをクリックして、検証プロセスで生成されたレポートに対してどの言語を使用するかを指定します。[デフォルトロケール] ドロップダウンリストで、デフォルトロケールを選択します。次に、含める言語を選択して、[OK] をクリックします。

ユーザ割り当て検証プロセスを開始すると、検証者がレビューするためのローカライズされたレポートのセットが生成されます。これらのレポートは、1つまたは複数の言語で同じデータを提供します。レポートはすべての検証者が同じデータセットを確認したことを確実にするために要求が送信されたときに生成されます。検証プロセスに対して生成され、保存されるレポート言語のセットを指定することができます。検証者がレビュー用の検証タスクを選択すると、検証者の希望のロケール(またはユーザが希望のロケールを持っていない場合は、ブラウザロケール)と一致するローカライズされたレポートが表示されます。そのロケールに対してレポートが存在しない場合、デフォルトロケールを使用したレポートが表示されます。

- 8 検証フォームの詳細を定義します。詳細については、[266 ページのセクション 19.6.4 「検証フォームの定義」](#)を参照してください。
- 9 要求を送信します。詳細については、[267 ページのセクション 19.6.5 「検証要求の送信」](#)を参照してください。
- 10 オプションで、[\[要求詳細の保存\]](#) をクリックして、後から使用するために検証プロセス要求に関連付けられている詳細(パラメータおよびフォーム値など)を保存します。詳細については、[268 ページのセクション 19.6.6 「要求の詳細の保存」](#)を参照してください。

20.6 検証要求のステータスの確認

[[検証要求ステータスの表示](#)] アクションでは、検証要求のステータスを参照できます。また、要求に対して開始された各ワークフロープロセスの詳細ステータスを表示するオプションも提供し、またオプションで1つまたは複数の実行中プロセスを撤回することもできます。

[[検証要求ステータスの表示](#)] アクションは、起動中、稼働中、完了、またはエラーを含むすべての検証要求を表示します。

整合性モジュール管理者および検証マネージャが [[検証要求ステータスの表示](#)] ページで参照可能な項目に制限はありません。これらの役割の両方で、すべての検証要求に関するステータス情報へのアクセスが許可されます。

検証要求を表示する

- 1 [[検証要求](#)] アクションの一覧にある [[検証要求ステータスの表示](#)] をクリックします。
すべての検証要求の現在のステータスが表示されます。

表示ラベル	要求者	検証タイプ	ステータス	要求日	締切
ユーザプロフィール - デフォルト	main administrator	ユーザプロフィール	移動中	2008/06/16	
ユーザプロフィール - デフォルト	main administrator	ユーザプロフィール	移動中	2008/06/16	
ユーザ割り当て - デフォルト	main administrator	ユーザ割り当て	移動中	2008/06/13	
ユーザプロフィール - デフォルト	main administrator	ユーザプロフィール	移動中	2008/06/13	2008/06/20
ユーザプロフィール - デフォルト	main administrator	ユーザプロフィール	完了	2008/06/13	
役割割り当て - デフォルト	main administrator	役割割り当て	移動中	2008/06/13	
ユーザプロフィール - デフォルト	main administrator	ユーザプロフィール	完了	2008/06/13	
役割割り当て - デフォルト	main administrator	役割割り当て	完了	2008/06/13	
役割割り当て - デフォルト	main administrator	役割割り当て	完了	2008/06/13	
役割割り当て - デフォルト	main administrator	役割割り当て	完了	2008/06/13	
SoD違反 - デフォルト	main administrator	SoD違反	完了	2008/06/12	

以下では、検証要求のカラムについて説明します。

- ◆ [表示ラベル] カラムでは、要求に指定した検証プロセスの名前が表示されます。プロセス表示名をクリックすることによって要求に対する詳細ステータス情報を参照できます。
- ◆ [要求者] カラムでは、要求を行なったユーザを特定します。
- ◆ [検証タイプ] カラムは、検証プロセスのタイプを示します。このタイプは、次のようにプロセスが証明しようとしている情報の種類を決定します。

検証タイプ	説明
ユーザプロフィール	このプロセスがユーザプロフィール情報の正確性を確実にしようとしていることを示します。このタイプのプロセスを開始するには、整合性モジュール管理者または検証マネージャは [ユーザプロフィール検証プロセスの要求] アクションを使用する必要があります。
SoD 違反	このプロセスが役割分担違反および例外の正確性を確実にしようとしていることを示します。このタイプのプロセスを開始するには、整合性モジュール管理者または検証マネージャは [SoD 違反検証プロセスの要求] アクションを使用する必要があります。
役割割り当て	このプロセスが、選択した各役割が正しいユーザ割り当てを持っていることを確認することによって、ユーザがリソース、情報、またはシステムに対して正しいアクセス権を持っていることを確実にしようとしていることを示します。このタイプのプロセスを開始するには、整合性モジュール管理者または検証マネージャは [役割割り当て検証プロセスの要求] アクションを使用する必要があります。

検証タイプ	説明
ユーザ割り当て	このプロセスが、選択した各ユーザが正しい役割割り当てを持っていることを確認することによって、ユーザがリソース、情報、またはシステムに対して正しいアクセス権を持っていることを確実にしようとしていることを示します。このタイプのプロセスを開始するには、整合性モジュール管理者または検証マネージャは「ユーザ割り当て検証プロセスの要求」アクションを使用する必要があります。

- ◆ [ステータス] カラムには、要求のステータスおよびステータスのビジュアルインジケータを示すアイコンが表示されます。[ステータス] ドロップダウンリストからステータスを選択し、特定のステータスを持つ要求を検索するときには、[フィルタ] をクリックして結果を絞り込みます。

ステータス	説明
初期化中	開始されたばかりの新規要求であることを示します。
稼働中	要求が処理中であることを示します。
完了	すべての検証者が応答した（または個々のプロセスが整合性モジュール管理者または検証マネージャによって撤回された）こと、および要求の処理が完了したことを示します。
エラー	処理中にエラーが発生したことを示します。 エラーの正確なエラーメッセージは、トレースまたは監査ログ（いずれかがアクティブな場合）に書き込まれます。エラーが発生した場合、トレースまたは監査ログをチェックし、エラーメッセージが修復が必要な深刻なメッセージを示していないかを確認します。

- ◆ [要求日] カラムには、要求が行われた日付が表示されます。
- ◆ [締切] カラムは、この要求に関連付けられているすべてのプロセスが完了していなければならない日付を示します。カラムが空白の場合、要求に締切はありません。

2 要求リストを以下のようにフィルタできます。

- 2a 特定の文字列で始まる要求のみを表示する場合、[表示ラベル] ボックスに入力する内容については、30 ページの「データのフィルタ」を参照してください。
- 2b 特定のタイプを持つ要求のみを表示するには、[検証タイプ] ドロップダウンリストでタイプを選択します。
- 2c 特別なステータスを持つ役割要求を表示するには、[ステータス] ドロップダウンリストからステータスを選択します。

ステータス	説明
すべて	すべての要求を含みます。
初期化中	開始されたばかりの要求を含みます。

ステータス	説明
稼働中	開始され現在処理中の要求を含みます。
完了	すべての検証者が応答した (または個々のプロセスが整合性モジュール管理者または検証マネージャによって撤回された) 要求を含み、処理が完了したことを示します。
エラー	結果がエラーになった要求を含みます。

- 2d 表示するよう指定したフィルタ基準を適用するには、[フィルタ] をクリックします。
- 2e 現在指定しているフィルタ基準をクリアするには、[リセット] をクリックします。
- 3 要求が最初に送信されたときに生成された確認番号によって検索するには、[確認番号] フィールドに番号を入力し、[検索] をクリックします。
- 4 ページごとに表示される要求の最大数を設定するには、[ページ当たりの最大行数] ドロップダウンリストから数を選択します。
- 5 要求のリストをソートするには、ソート対象のデータを含むカラムヘッダをクリックします。
- 6 特定の要求の詳細を表示するには、[表示ラベル] カラムにある名前をクリックし、[要求の詳細] グループボックスが表示されるまで下にスクロールします。

注: ステータスが初期化中の場合、[表示ラベル] はクリックできません。これは、初期化中の要求の詳細を参照することができないためです。

要求の詳細

選択したプロセス要求: 役割割り当て - デフォルト
 プロセス要求の説明: 役割割り当て - デフォルト
 確認番号: 0e2538ce2f534f728b530b7a03ec8a97

ステータス: ✔ 完了 完了日: 2008/06/13 14:27:45
 要求日: 2008/06/13 14:27:06 要求者: main administrator

関連プロセスの数: 1
 実行中のプロセス: 0 完了したプロセス: 1 終了したプロセス: 0

検証結果
✔ 「はい」の応答: 0 ✘ 「いいえ」の応答: 0 処置されたアクションなし: 1

検証フォーム詳細の表示

フィルタ基準: 検証結果: プロセスステータス:

選択: すべて OR なし ページ当たりの最大行数:

検証者	完了日	プロセスステータス	検証結果
<input type="checkbox"/> main administrator		稼働中	処置されたアクションなし

選択: すべて OR なし

概要にすでに表示されている情報を表示するのに加えて、[要求詳細] グループボックスは、要求に関連しているすべてのプロセスのステータス情報を表示します。

- ◆ [関連プロセスの数] セクションは、プロセスの合計数ご、稼働中、完了、および終了プロセスの数を示します。
- ◆ [検証結果] セクションは、検証者が応答した方法に関するデータを示します。

データ	説明
‘はい’ 応答	<p>検証質問に肯定の回答を指定した検証者の合計数を示します。</p> <hr/> <p>注：肯定の回答のデフォルトテキストは、[はい] です。ただし、このテキストは変更できます。このテキストを変更した場合、フィールドラベルも変更されます。</p>
‘いいえ’ 応答	<p>検証質問に否定の回答を指定した検証者の合計数を示します。</p> <hr/> <p>注：否定の回答のデフォルトテキストは、[いいえ] です。ただし、このテキストは変更できます。このテキストを変更した場合、フィールドラベルも変更されます。</p>
アクションなし	<p>検証プロセスにまだ回答していない検証者の合計数を示します。アクションなしの合計は、何も応答しない各検証者およびタイムアウトしたために完了したプロセス、または整合性モジュール管理者または検証マネージャによって撤回されたプロセスも含まれます。</p>

6a 特定の検証フォームの詳細を表示するには、[検証フォームの詳細の表示] をクリックします。

要求の詳細

選択したプロセス要求: 役割割り当て - デフォルト
 プロセス要求の説明: 役割割り当て - デフォルト
 確認番号: 8e2538ce2f534728b530b7a03ec8a97

ステータス: ✔ 完了 完了日: 2008/06/13 14:27:45
 要求日: 2008/06/13 14:27:06 要求者: main administrator

関連プロセスの数: 1
 実行中のプロセス: 0 完了したプロセス: 1 終了したプロセス: 0

検証結果
✔ 「はい」の応答: 0 ✘ 「いいえ」の応答: 0 処置されたアクションなし: 1

[検証フォームの詳細の表示](#)

フィルタ基準: 検証結果: プロセスステータス:
ページ当たりの最大行数 25

選択: すべて OR なし

検証者	完了日	プロセスステータス	検証結果
<input type="checkbox"/> main administrator		🔄 移動中	処置されたアクションなし

選択: すべて OR なし

検証プロセスのフォーム詳細は、検証者がレビューを予期している情報を表示します。フォーム詳細は、検証タイプがユーザプロフィール、SoD 違反、または役割割り当てのいずれかによって異なります。

フォームの詳細を非表示するには、詳細グループボックスの上部にある [検証フォームの詳細] をクリックします。

[検証フォームの詳細](#)
 レポート:

検証者がワークフロータスクを引き受けるときにレビューする必要があるフォーム詳細に関する情報は、126 ページのセクション 10.2.3 「タスクの引き受け」を参照してください。

6b プロセスリストを以下のようにフィルタできます。

6b1 特定の結果を持つプロセスのみを表示するには、[検証結果] ドロップダウンリストで結果を選択します。

結果	説明
すべて	すべてのプロセスを含みます。
はい	検証者が肯定の応答をしたプロセスのみを含みます。
いいえ	検証者が否定の応答をしたプロセスのみを含みます。
不明	アクションが行なわれなかったプロセスのみを含みます。不明フィルタは、検証者が何も応答しなかったプロセスおよびタイムアウトしたために完了したプロセス、または整合性モジュール管理者または検証マネージャによって撤回されたプロセスも含みます。

6b2 特定のステータスを持つプロセスを表示するには、[プロセスステータス] ドロップダウンリストからステータスを選択します。

ステータス	説明
すべて	すべてのプロセスを含みます。
稼働中	開始され現在処理中のプロセスを含みます。
終了	撤回または終了されたプロセスを含みます。
完了	検証者が応答したまたはタイムアウトしたために完了したプロセスを含みます。

6b3 表示するよう指定したフィルタ基準を適用するには、[フィルタ] をクリックします。

6b4 現在指定しているフィルタ基準をクリアするには、[リセット] をクリックします。

6c ページごとに表示されるプロセスの最大数を設定するには、[ページ当たりの最大行数] ドロップダウンリストから数を選択します。

6d 特定の検証者のステータスを確認するには、その検証者の [プロセスステータス] カラムを参照します。

[プロセスステータス] フィールドには、プロセスのステータスおよびステータスアイコンが表示されます。アイコンは、ステータスを簡単に確認できる仕組みを提供します。次の表は、ステータスコードを示しています。

ステータス	説明
稼働中	プロセスが開始され現在処理中です。
終了	[検証要求ステータスの表示] ページでプロセスが撤回されたか、または iManager 内で終了されました。
完了	すべての検証者が応答し、検証者に割り当てられたそれぞれのワークフロープロセスに対する処理が完了しました。 完了ステータスは、検証者が応答したプロセス、とタイムアウトしたために完了したプロセスを含みます。

- 6e** 1つまたは複数のプロセスを撤回するには、検証者を選択して、[選択したプロセスの撤回] をクリックします。すべてのプロセスを撤回する場合は、[すべて] をクリックします。選択を消去するには、[なし] をクリックします。
- [選択したプロセスの撤回] チェックボックスは、プロセスが完了または終了した場合には無効になります。[選択したプロセスの撤回] ボタンは、高レベルな要求ステータスが完了またはエラーの場合には表示されません。